別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾃﾝﾘﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　天理大学							
フリガナ 大学の名称	ﾃﾝﾘﾀﾞｲｶﾞｸ 天理大学							
大学本部の位置	奈良県天理市杣之内町1050番地							
大学の目的	本大学は、教育基本法および学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	国際学部英米語学科は、現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。また、今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて英米語圏の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	国際学部 英米語学科	4	60	－	240	学士 （英語）	令和６年４月 第１年次	奈良県天理市杣之内町 1050番地
	計		60	－	240			
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人間学部（廃止） 宗教学科　（△40） 人間関係学科臨床心理専攻　（△30） 人間関係学科生涯教育専攻　（△20） 人間関係学科社会福祉専攻　（△30） ※令和６年４月学生募集停止 文学部（廃止） 国文学国語学科　（△40） 歴史文化学科　（△50） ※令和６年４月学生募集停止 国際学部 外国語学科英米語専攻（廃止）　（△70） 外国語学科中国語専攻（廃止）　（△30） 外国語学科韓国・朝鮮語専攻（廃止）　（△30） 外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻（廃止）　（△35） 地域文化学科（廃止）　（△195） ※令和６年４月学生募集停止 国際学部 外国語学科〔定員減〕　（△105）（令和６年４月） ※英米語専攻(70)、中国語専攻(30)、韓国・朝鮮語専攻(30)、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻(35)の入学定員合計165名を60名に変更 体育学部 体育学科〔定員増〕　（　40） 人文学部　（令和５年７月届出） 宗教学科　(20) 国文学国語学科　(40) 歴史文化学科　(50) 心理学科　(40) 社会教育学科　(40) 社会福祉学科　(50)							

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	国際学部韓国・朝鮮語学科　(40)　（令和５年７月届出） 国際学部中国語学科　(40)　（令和５年７月届出） 国際学部国際文化学科　(50)　（令和５年７月届出） 国際学部日本学科　(40)　（令和５年７月届出）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	国際学部英米語学科	169　科目	71　科目	23　科目	265　科目	124　単位	

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	国際学部英米語学科	3 (3)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	117 (101)	
		国際学部韓国･朝鮮語学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	124 (109)	令和５年７月届出済み（予定）
		国際学部中国語学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	125 (108)	令和５年７月届出済み（予定）
		国際学部国際文化学科	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	125 (108)	令和５年７月届出済み（予定）
		国際学部日本学科	4 (5)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	118 (100)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部宗教学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	101 (86)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部国文学国語学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	114 (97)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部歴史文化学科	5 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	119 (96)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部心理学科	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	119 (95)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部社会教育学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	107 (93)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部社会福祉学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	112 (94)	令和５年７月届出済み（予定）
		人文学部	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	令和５年７月届出済み（予定）
		計	51 (54)	18 (18)	9 (10)	0 (0)	78 (82)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	国際学部外国語学科	7 (7)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	128 (90)	
		国際学部	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		体育学部体育学科	10 (10)	11 (11)	3 (3)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	110 (110)	
		医療学部看護学科	10 (10)	5 (5)	8 (8)	8 (6)	31 (29)	0 (3)	121 (121)	
		医療学部臨床検査学科	7 (7)	3 (3)	4 (3)	3 (3)	17 (16)	0 (1)	141 (141)	
		附属おやさと研究所	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		計	37 (37)	24 (25)	17 (16)	12 (10)	90 (88)	0 (4)	－ (－)	
		合計	88 (91)	42 (43)	26 (26)	12 (10)	168 (170)	0 (4)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	101 (101)	49 (49)	150 (150)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	25 (25)	4 (4)	29 (29)
	その他の職員	10 (10)	3 (3)	13 (13)
	計	136 (136)	56 (56)	192 (192)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	148,332.61㎡	0 ㎡	0 ㎡	148,332.61㎡	
	運動場用地	163,322.48㎡	0 ㎡	0 ㎡	163,322.48㎡	
	小計	311,655.09㎡	0 ㎡	0 ㎡	311,655.09㎡	
	その他	27,034.99㎡	0 ㎡	0 ㎡	27,034.99㎡	
	合計	338,690.08㎡	0 ㎡	0 ㎡	338,690.08㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	81,584.21㎡ (81,584.21㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	81,584.21㎡ (81,584.21㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	60 室	44 室	22 室	11 室 (補助職員 0人)	5 室 (補助職員 0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	国際学部英米語学科	8 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	国際学部英米語学科	665,080〔134,290〕 (640,270〔133,330〕)	7,910〔2,200〕 (7,850〔2,180〕)	28,250〔27,010〕 (28,240〔27,000〕)	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	665,080〔134,290〕 (640,270〔133,330〕)	7,910〔2,200〕 (7,850〔2,180〕)	28,250〔27,010〕 (28,240〔27,000〕)	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	14,348.40㎡	349	154,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	16,377.25㎡	武道館（柔剣道場）	弓道場	大学全体
		空手道場	トレーニングルーム	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		390千円	390千円	390千円	390千円	－ 千円	－ 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む
	共同研究費等		1,206千円	1,206千円	1,206千円	1,206千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	2,929千円	2,929千円	2,929千円	2,929千円	2,929千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	2,014千円	2,014千円	2,014千円	2,014千円	2,014千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,080千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金、私立大学等経常費補助金、手数料、資産運用収入、雑収入　等

既設大学等の状況	大学の名称	天理大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次 人	人		倍		
	人間学部						0.81		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	宗教学科	4	40	－	160	学士 （宗教学）	0.58	平成 ４年度	
	人間関係学科	4	80	－	320	学士 （臨床心理） 学士 （生涯教育） 学士 （社会福祉）	0.93	平成 ４年度	
	文学部						0.75		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	国文学国語学科	4	40	－	160	学士 （国文学）	0.78	昭和 24年度	
	歴史文化学科	4	50	－	200	学士 （歴史文化）	0.72	平成 ４年度	

既設大学等の状況	国際学部						0.69		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	外国語学科	4	165	－	660	学士 （韓国・朝鮮語） 学士 （中国語） 学士 （英語） 学士 （スペイン語またはブラジルポルトガル語）	0.68	平成 22年度		
	地域文化学科	4	195	－	780	学士 （地域文化）	0.70	平成 22年度		
	体育学部						1.09		奈良県天理市 田井庄町80	
	体育学科	4	200	－	800	学士 （体育学）	1.09	昭和 30年度		
	医療学部						1.03		奈良県天理市 別所町80-1	
	看護学科	4	70	－	280	学士 （看護学）	1.13	令和 ５年度		
	臨床検査学科	4	30	－	120	学士 （臨床検査学）	0.77	令和 ５年度		
	宗教文化研究科						0.00		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	宗教文化研究専攻	2	6	－	12	修士 （宗教文化研究）	0.00	平成 29年度		
	臨床人間学研究科						0.81		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	臨床心理学専攻	2	8	－	16	修士 （臨床心理学）	0.81	平成 16年度		
	体育学研究科						0.66		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
	体育学専攻	2	12	－	24	修士 （体育学）	0.66	平成 27年度		
附属施設の概要	名称：天理大学附属天理図書館 目的：天理大学における教育研究に資するため、図書及びその他の資料を収集、整理、保存 所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地 設置年月：大正14年８月 規模等：延面積　11,482㎡　蔵書数　150万冊 名称：天理大学附属おやさと研究所 目的：天理教及び世界諸民族の宗教・文化を研究調査する 所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地 設置年月：昭和17年12月 名称：天理大学附属天理参考館 目的：民俗学・民族学・考古学に関する学術研究資料を総合的に収集、整理、保存 所在地：奈良県天理市守目堂町250番地 設置年月：昭和５年４月 規模等：延面積　13,556㎡　収蔵資料　30万点									

組　織　の　移　行　表

令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和６年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
天理大学				天理大学				
人間学部								
宗教学科	40	－	160		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
人間関係学科								
臨床心理専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
生涯教育専攻	20	－	80		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
社会福祉専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
計	120	－	480	計	0		0	
文学部								
国文学国語学科	40	－	160		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
歴史文化学科	50	－	200		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
計	90	－	360	計	0	－	0	
				人文学部				
				宗教学科	20	－	80	学部の設置（届出）
				国文学国語学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				歴史文化学科	50	－	200	学部の設置（届出）
				心理学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				社会教育学科	40	－	160	学部の設置（届出）
				社会福祉学科	50	－	200	学部の設置（届出）
				計	240	－	960	
国際学部				国際学部				
外国語学科				外国語学科				
英米語専攻	70	－	280		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
中国語専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
韓国・朝鮮語専攻	30	－	120		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻	35	－	140		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
					60	－	240	学則の変更
地域文化学科	195	－	780		0	－	0	令和６年４月学生募集停止
				韓国・朝鮮語学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
				中国語学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
				英米語学科	60	－	240	学部の学科の設置（届出）
				国際文化学科	50	－	200	学部の学科の設置（届出）
				日本学科	40	－	160	学部の学科の設置（届出）
計	360	－	1,440	計	290	－	1,160	
体育学部				体育学部				
体育学科	200	－	800	体育学科	240	－	960	定員変更（40）
計	200	－	800	計	240	－	960	
医療学部				医療学部				
看護学科	70	－	280	看護学科	70	－	280	
臨床検査学科	30	－	120	臨床検査学科	30	－	120	
計	100	－	400	計	100	－	400	
合計	870	－	3,480	合計	870	－	3,480	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部英米語学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説１	1･2･3･4前	2			○								兼10	
		天理教概説２	1･2･3･4後	2			○								兼10	
		天理教学１	2･3･4前		2		○								兼3	
		天理教学２	2･3･4後		2		○								兼3	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5	
		韓国・朝鮮語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		中国語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		中国語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		教養アカデミック英語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		教養アカデミック英語２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		実践アカデミック英語１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		実践アカデミック英語２	1･2･3･4前		1			○							兼2	
		アカデミック英語上級	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（中国語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（英語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（タイ語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ドイツ語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（フランス語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ロシア語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（スペイン語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（ポルトガル語）	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		多文化理解と言語（日本語）	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康スポーツ科学１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
		健康スポーツ科学２	1･2･3･4後		2		○								兼6	
		国際社会におけるスポーツの役割	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		保健医療の仕組みと健康づくり	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
		国際協力入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
		国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
		国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
		国際ボランティア論	2･3･4後		2		○								兼1	
		天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義３	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		天理異文化伝道	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計（43科目）	－	6	69	0	－			0	0	0	0	0	兼43	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1･2･3前後		2		○								兼3	
		キャリアデザイン１	2･3･4前		2		○								兼1	
		キャリアデザイン２	2･3･4後		2		○								兼1	
		インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
		インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
		海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
		海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
		小計（7科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール１	1前	2				○			1	1				
		基礎ゼミナール２	1後		2			○		1		1				
		データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
		データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○								兼1	
		データリテラシー	2･3･4前後		2		○								兼1	
		コンピュータ入門	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		情報処理	2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかるレポート作成	1･2･3･4前後		2		○								兼4	
		基礎からわかる近代史	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる現代社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる数学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		基礎からわかる生物・化学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		小計（12科目）	－	2	22	0	－			1	1	1	0	0	兼11	
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		統計学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		統計学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		経済学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		社会学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		民法１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		民法２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		行政法１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		行政法２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		哲学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学１	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		ジェンダー・セクシャリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		宗教と芸能	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		労働と社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
		世界の文学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		世界の文学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		宗教と現代社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
		人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	一般教養教育科目群	日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アウトドアスポーツ	1･2･3･4通		1				○						兼1	集中
		レクリエーショナルスポーツ	2･3･4前		1				○						兼2	
		ニュースポーツ	2･3･4前		1				○						兼2	
		小計（42科目）	－	0	81	0	－			0	0	0	0	0	兼32	
	合計（104科目）		－	8	184	0	－			1	1	1	0	0	兼74	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際文化論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	日本と国際社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	グローバル文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	アジア地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	オセアニア地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	ヨーロッパ地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	スラヴ・ユーラシア地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	アフリカ地域文化論	2･3･4前		2		○								兼1	
	アメリカス地域文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	世界の歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	アジアの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	オセアニアの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	スラヴ・ユーラシアの歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	アフリカの歴史と社会	3･4後		2		○								兼1	
	アメリカスの歴史と社会	3･4前		2		○								兼1	
	世界の英語	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	英語音声学１	2･3･4前		2		○				1					
	英語音声学２	2･3･4後		2		○				1					
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	College English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	College English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Business Communication	1･2･3･4前		1			○				1				
	TOEFL Academic English	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4後		2		○			1						
	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4通		1		○								兼2	共同 集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼2	共同 集中
	小計（44科目）	－	0	82	0	－			2	1	1	0	0	兼18	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英米語学科専攻科目	英語Ａ（Reading）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Writing）	1前	1				○			2				兼1	
	英語Ａ（Grammar）	1前	1				○			1				兼2	
	英語Ａ（Oral Communication１）	1前	1				○		1					兼2	
	英語Ａ（Oral Communication２）	1前	1				○				1			兼1	
	英語Ａ（Integrated English）	1前	1				○		1	1				兼1	
	英語Ｂ（Reading）	1後	1				○			1				兼2	
	英語Ｂ（Writing）	1後	1				○			2				兼1	
	英語Ｂ（Grammar）	1後	1				○							兼3	
	英語Ｂ（Oral Communication １）	1後	1				○		1		1			兼1	
	英語Ｂ（Oral Communication ２）	1後	1				○				1			兼1	
	英語Ｂ（Integrated English）	1後	1				○		1		1			兼1	
	英語Ｃ（Reading）	2前	1				○			1				兼2	
	英語Ｃ（Writing）	2前	1				○			1				兼2	
	英語Ｃ（Oral Communication １）	2前	1				○		1	1				兼1	
	英語Ｃ（Oral Communication ２）	2前	1				○		1					兼2	
	英語Ｃ（Presentation）	2前	1				○		1	2					
	英語Ｃ（Integrated English）	2前	1				○			1	1			兼1	
	英語Ｄ（Reading）	2後	1				○			1				兼2	
	英語Ｄ（Writing）	2後	1				○			1				兼2	
	英語Ｄ（Oral Communication １）	2後	1				○		1	1				兼1	
	英語Ｄ（Oral Communication ２）	2後	1				○		1					兼1	
	英語Ｄ（Presentation）	2後	1				○			2					
	英語Ｄ（Integrated English）	2後	1				○			1	1			兼1	
	英語Ｅ（Writing）	3前	1				○		1					兼2	
	英語Ｅ（Presentation）	3前	1				○		1		1				
	英語Ｅ（Integrated English）	3前	1				○							兼2	
	英語Ｆ（Writing）	3後	1				○		1					兼1	
	英語Ｆ（Presentation）	3後	1				○		1					兼1	
	英語Ｆ（Integrated English）	3後	1				○							兼1	
	観光英語	1･2･3･4前		1			○		1						
	ビジネス英語	2･3･4前		1			○							兼1	
	英米文学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	伝道英語１	2･3･4前		1			○		1						
	伝道英語２	2･3･4後		1			○		1						
	英米語概論１	2･3･4前		2		○				1					
	英米語概論２	2･3･4前		2		○				1					
	英米語概論３	2･3･4前後		2		○			1	1					
	英米語概論４	2･3･4前後		2		○								兼2	
	英米語概論５	2･3･4前後		2		○			1					兼1	
	Content Based English １	2･3･4後		2		○				1					
	Content Based English ２	2･3･4後		2		○								兼1	
	Content Based English ３	3･4前		2		○			1						
	Content Based English ４	3･4後		2		○								兼1	
	Content Based English ５	3･4前		2		○			1						
	英語科指導法１	2後		2		○			1						
	英語科指導法２	3前		2		○			1						
	英語科指導法３	3前		2		○				1					
	英語科指導法４	3後		2		○				1					
	ガイド英語	3･4前		1			○							兼1	
	時事英語	3･4後		1			○				1				
	通訳	3･4前		1			○							兼1	
	翻訳	3･4後		1			○							兼1	
	英米語演習１	3前	2				○		2	2					
	英米語演習２	3後	2				○		2	2					
	英米語演習３	4前	2				○		1	1	1			兼1	
	英米語演習４	4後	2				○		1	1	1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英米語学科専攻科目	英米語海外語学実習	2休	4					○		1				兼1	集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（60科目）	―	42	44	0	―			3	3	1	0	0	兼13	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語音声学	2後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		第二言語習得論	3前			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（13科目）	－	0	0	26	－			0	0	0	0	0	兼2	
	社会科学部門	図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論	4前			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼3	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		矯正保護支援実践論	2･3･4後			2	○								兼2	オムニバス
		犯罪被害者支援論	2･3･4後			2	○								兼1	
		小計（18科目）	－	0	0	35	－			0	0	0	0	0	兼13	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育史	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼2	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼3	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼5	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼3	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4通			2	○								兼1	集中
		小計（22科目）	－	0	0	41	－			0	0	0	0	0	兼12	
	合計（57科目）		－	0	0	106	－			0	0	0	0	0	兼28	
合計（265科目）			－	50	310	106	－			3	3	1	0	0	兼117	

学位又は称号	学士（英語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群２単位以上、基礎リテラシー科目群６単位以上、一般教養教育科目群２単位以上 計22単位以上 国際学部共通科目　６単位以上 英米学科専攻科目：必修科目42単位　選択科目は選択必修科目の必要単位を含め12単位以上　計54単位以上 国際学部共通科目、英米語学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、英米語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部宗教学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○			1	1	1				
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	1	1	0	0		
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1	1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	1	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼1	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼1	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼1	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼1	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（75科目）			－	8	129	0	－			1	1	1	0	0	兼56	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○				1					
	人間論３	2･3･4前		2		○								兼1	
	人間論４	2･3･4前		2		○								兼1	
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	1	0	0	0	兼7	
宗教学科専攻科目	天理教学概論１	1前	2			○			1						
	天理教学概論２	1後	2			○			1						
	天理教教祖伝概説１	1前	2			○								兼1	
	天理教教祖伝概説２	1後	2			○								兼1	
	宗教史概説１	1前	2			○			1						
	宗教史概説２	1後	2			○								兼1	
	宗教学概論１	2前	2			○			1						
	宗教学概論２	2後	2			○			1						
	天理教原典学１概説	2前		2		○								兼1	
	天理教原典学２概説	2前		2		○								兼1	
	天理教原典学３概説	2後		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義１	3･4前		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義２	3･4前		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義３	3･4後		2		○								兼1	
	天理教学特殊講義４	3･4後		2		○					1				
	天理教史特殊講義１	3･4前		2		○								兼1	
	天理教史特殊講義２	3･4後		2		○			1						
	天理教史特殊講義３	3･4後		2		○								兼1	
	宗教学特殊講義１	3･4前		2		○				1					
	宗教学特殊講義２	3･4後		2		○								兼1	
	宗教学特殊講義３	3･4前		2		○			1						
	宗教学特殊講義４	3･4前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義１	2前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義２	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義３	2前		2		○			1						
	宗教史特殊講義４	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義５	2前		2		○								兼1	
	宗教史特殊講義６	2後		2		○								兼1	
	宗教科指導法１	3前		2		○			1						
	宗教科指導法２	3後		2		○			1						
	宗教科指導法３	3前		2		○			1						
	宗教科指導法４	3後		2		○				1					
	宗教研究基礎演習	1後	2				○			1	1				
	宗教研究演習１	3前	2				○		1	1	1				
	宗教研究演習２	3後	2				○		1	1	1				
	宗教課題演習１	4前	2				○		1	1	1				
	宗教課題演習２	4後	2				○		1	1	1				
	卒業論文	4通	4						1						
	小計（38科目）	－	30	48	0	－			3	1	1	0	0	兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○		1					集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○		1					集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○		1					
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○		1					
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	1	0	0	0		
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4前			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	1	0	0	0	兼25	
合計（180科目）			－	38	191	112	－			3	1	1	0	0	兼90	

学位又は称号	学士（宗教学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 宗教学科専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目36単位以上　計66単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、宗教学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間関係学科臨床心理専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○							兼2	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1					兼3	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1					兼3	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○			1						
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	0	0	0	兼40	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			2	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論３	2･3･4前		2		○			1						
	人間論４	2･3･4前		2		○			1						
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	臨床心理学概論	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	社会福祉概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	社会福祉概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	天理教社会福祉論	1･2･3･4前		2		○			1						
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			4	0	0	0	0	兼1	
臨床心理専攻科目	公認心理師の職責	1・2休		2		○								兼1	集中
	心理学研究法	2後		4			○							兼1	
	心理学統計法	2後		2		○								兼1	
	多変量解析法	4前		2		○								兼1	
	心理学実験法	2前		4			○							兼1	
	知覚・認知心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	学習・言語心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	感情・人格心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	神経・生理心理学	2･3･4休		2		○								兼1	集中
	社会・集団・家族心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	発達心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	障害者・障害児心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	心理的アセスメント１	2前		4			○							兼1	
	心理的アセスメント２	2後		4			○							兼1	
	心理学的支援法	3･4後		2		○			1						
	健康・医療心理学	2･3･4休		2		○								兼1	集中
	福祉心理学	3･4前		2		○								兼1	
	教育・学校心理学	3･4後		2		○								兼1	
	司法・犯罪心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
	産業・組織心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	2･3･4後		2		○								兼1	
	精神疾患とその治療１	2･3･4前		2		○								兼1	
	精神疾患とその治療２	2･3･4後		2		○								兼1	
	関係行政論	3･4通		2		○								兼2	オムニバス 集中
	精神分析学	3･4前	2			○			1						
	ユング心理学	3･4後	2			○			1						
	投影法演習	3･4後		4			○		1						
	心理演習	3･4後		2			○		2						
	心理実習	4通		2				○	5						集中
	臨床心理学入門演習	1後	2				○		1						
	臨床心理学課題演習	3前	2				○		2						
	臨床心理学研究演習１	4前	2				○		5						
	臨床心理学研究演習２	4後	2				○		5						
	卒業課題研究	4通	4						1						
	小計（34科目）	－	16	64	0	－			5	0	0	0	0	兼14	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（189科目）			－	24	233	112	－			10	0	0	0	0	兼107	

学位又は称号	学士（臨床心理）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 人間関係学科共通科目：８単位以上 臨床心理専攻専攻科目：必修科目16単位、選択必修科目32単位以上　計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間関係学科生涯教育専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1					兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1					兼3	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1					兼3	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○			1						
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○	1					兼2	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	0	0	0	兼40	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			3	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部共通科目	人間論１	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	人間論３	2･3･4前		2		○			1						
	人間論４	2･3･4前		2		○			1						
	現代家族論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	矯正保護支援実践論	2･3･4後		2		○								兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	臨床心理学概論	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	教育学概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	社会福祉概論１	1･2･3･4前		2		○			1						
	社会福祉概論２	1･2･3･4後		2		○			1						
	天理教社会福祉論	1･2･3･4前		2		○			1						
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			4	0	0	0	0	兼1	
生涯教育専攻科目	生涯教育基礎演習１	1前	2				○		1	1	1				
	生涯教育基礎演習２	1後	2				○		1	1	1				
	生涯教育演習１	2前	2				○		1		1				
	生涯教育演習２	2後	2				○		1		1				
	社会教育演習１	3前	2				○		1		1				
	社会教育演習２	3後	2				○		1		1				
	生涯教育課題研究１	4前	2				○		1	1	1				
	生涯教育課題研究２	4後	2				○		1	1	1				
	生涯学習概論１	1前	2			○			1						
	生涯学習概論２	1後	2			○			1						
	生涯学習支援論１	2前		2		○				1					
	生涯学習支援論２	2後		2		○			1						
	社会教育経営論１	3前		2		○				1					
	社会教育経営論２	3後		2		○			1						
	社会教育特講１	2･3･4前		2		○			1						
	社会教育特講２	2･3･4後		2		○				1					
	社会教育特講３	2･3･4後		2		○					1				
	社会教育特講４	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論１	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論２	2･3･4前		2		○									隔年
	生涯教育特論３	2･3･4前		2		○					1				
	生涯教育特論４	2･3･4後		2		○									隔年
	生涯教育特論５	2･3･4前		2		○			1						
	生涯教育特論６	2･3･4後		2		○									隔年
	生涯教育特論７	2･3･4後		2		○				1					
	生涯教育特論８	2･3･4後		2		○									隔年
	教育史	2･3･4前		2		○								兼1	
	博物館学概論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館情報・メディア論	2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
	図書館情報学概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	生涯教育基礎実習	2後	2					○	1	1	1				
	社会教育実習	3通		2				○	1	1	1				
	生涯教育実習１	1･2･3･4前		1				○		1					
	生涯教育実習２	1･2･3･4前		1				○							隔年
	生涯教育実習３	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習４	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習５	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	生涯教育実習６	1･2･3･4休		1				○		1					集中
	野外教育実習	1･2･3･4休		1				○						兼1	集中
	卒業論文	4通	8						1						
	小計（41科目）	－	30	51	0	－			2	1	1	0	0	兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（196科目）			－	38	220	112	－			8	1	1	0	0	兼98	

学位又は称号	学士（生涯教育）	学位又は学科の分野	文学関係／教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 人間学部共通科目：４単位以上 人間関係学科共通科目：８単位以上 生涯教育専攻専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目18単位以上　計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部国文学国語学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1	1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	1	0	0	0	兼72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ１	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ３	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ４	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ５	1･2･3･4前		2		○				1					
	小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	1	0	0	0	兼4	
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習１	1前		2			○		1						
	国文学基礎演習２	1前		2			○		1						
	国文学概論１	1前	2			○			1						
	国文学概論２	1後	2			○			1						
	上代文学講読１	1･2前		2			○				1				
	上代文学講読２	1･2後		2			○				1				
	中古文学講読１	1･2前		2			○		1						
	中古文学講読２	1･2後		2			○		1						
	中世文学講読１	1･2前		2			○							兼1	
	中世文学講読２	1･2後		2			○							兼1	
	近世文学講読１	1･2前		2			○							兼1	
	近世文学講読２	1･2後		2			○							兼1	
	近代文学講読１	1･2前		2			○		1						
	近代文学講読２	1･2後		2			○		1						
	上代文学特論１	2前		2		○					1				
	上代文学特論２	2後		2		○					1				
	中古文学特論１	2前		2		○			1						
	中古文学特論２	2後		2		○			1						
	中世文学特論１	2前		2		○								兼1	
	中世文学特論２	2後		2		○								兼1	
	近世文学特論１	2前		2		○								兼1	
	近世文学特論２	2後		2		○								兼1	
	近代文学特論１	2前		2		○			1						
	近代文学特論２	2後		2		○			1						
	国文学演習（上代）１	3前		2			○				1				
	国文学演習（上代）２	3後		2			○				1				
	国文学演習（中古）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（中古）２	3後		2			○		1						
	国文学演習（中世）１	3前		2			○								隔年
	国文学演習（中世）２	3後		2			○								隔年
	国文学演習（近世）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（近世）２	3後		2			○		1						
	国文学演習（近代）１	3前		2			○		1						
	国文学演習（近代）２	3後		2			○		1						
	古典文学史１	2･3前		2		○								兼1	
	古典文学史２	2･3後		2		○								兼1	
	近代文学史１	2･3前		2		○			1						
	近代文学史２	2･3後		2		○			1						
	国語学基礎演習１	1前		2			○			1					
	国語学基礎演習２	1前		2			○			1					
	国語学概論１	1前	2			○								兼1	
	国語学概論２	1後	2			○								兼1	
	国語学特論（言語構造）１	2前		2		○								兼1	
	国語学特論（言語構造）２	2後		2		○								兼1	
	国語学特論（言語運用）１	2前		2		○								兼1	
	国語学特論（言語運用）２	2後		2		○								兼1	
	国語学特論（言語実態）１	2前		2		○				1					
	国語学特論（言語実態）２	2後		2		○				1					
	国語学演習（言語構造）１	3前		2			○							兼1	
	国語学演習（言語構造）２	3後		2			○							兼1	
	国語学演習（言語運用）１	3前		2			○							兼1	
	国語学演習（言語運用）２	3後		2			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国文学国語学科専攻科目	国語学演習（言語実態）１	3前		2			○			1					
	国語学演習（言語実態）２	3後		2			○			1					
	漢文学基礎演習１	1後		2			○				1				
	漢文学基礎演習２	1後		2			○				1				
	漢文学特論１	2前		2		○					1				
	漢文学特論２	2後		2		○					1				
	古典文法１	3前		2			○							兼1	
	古典文法２	3後		2			○							兼1	
	国語表現法１	2前		2			○		1						
	国語表現法２	2後		2			○		1						
	書道（書写を中心とする）	2前		1				○						兼1	
	国語科指導法１	3前		2		○				1					
	国語科指導法２	3後		2		○				1					
	国語科指導法３	3前		2		○								兼1	
	国語科指導法４	3後		2		○			1						
	卒業論文演習	4通	4				○		3	1	1				
	卒業論文	4通	6						1						
	小計（69科目）	－	18	125	0	－			3	1	1	0	0	兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼25	
合計（215科目）			－	26	276	112	－			3	1	1	0	0	兼101	

学位又は称号	学士（国文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 国文学国語学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目38単位以上　計56単位以上 文学共通科目、国文学国語学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、国文学国語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部歴史文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		1		1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	1	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼3	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼3	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼3	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○				1					
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	1	0	0	0	兼10	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○			1					兼1	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○			1						
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			2	0	0	0	0	兼39	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			2	1	1	0	0	兼69	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ１	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	大和の文化遺産を学ぶ３	1･2･3･4後		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ４	1･2･3･4前		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ５	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	小計（5科目）	－	0	10	0	－			2	0	0	0	0	兼3	
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論	1前	2			○			1						
	考古学概論	1前	2			○			1						
	民俗学概論	1前	2			○					1				
	日本史要説	1後		2		○			1						
	東洋史要説	1後		2		○			1						
	西洋史要説	1後		2		○								兼1	
	日本考古学要説	1後		2		○			1						
	日本民俗学要説	1後		2		○					1				
	古文書入門	1後		2		○			1						
	美術史	1･2･3前		2		○								兼1	
	地誌	1･2･3前		2		○								兼1	
	人文地理学概論	1･2前		2		○								兼1	
	自然地理学概論	1･2前		2		○								兼1	
	政治学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	法学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会学通論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会学通論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	経済学通論	2･3･4後		2		○								兼1	
	博物館資料論	3･4前		2		○			1						
	博物館資料保存論	3･4前		2		○			1						
	社会科指導法１	3前		2		○								兼1	
	社会科指導法２	3前		2		○								兼1	
	社会・地理歴史科指導法１	3後		2		○								兼1	
	社会・地理歴史科指導法２	3後		2		○								兼1	
	歴史文化基礎演習	1後	2				○		2						共同
	卒業論文演習	4通	4				○		6	1	1			兼1	
	卒業論文	4通	6						2						
	小計（27科目）	－	18	42	0	－			7	1	1	0	0	兼9	
歴史学研究コース科目	歴史学研究入門１	2前		2			○		2						
	歴史学研究入門２	2後		2			○		1	1					
	文化交流史の研究１	2･3･4前		2		○			1						
	文化交流史の研究２	2･3･4後		2		○								兼1	
	日本古代史の研究	2･3･4前		2		○								兼1	
	日本中世史の研究	2･3･4前		2		○			1						
	日本近世史の研究	2･3･4後		2		○			1						
	日本近代史の研究	2･3･4前		2		○				1					
	東アジア史の研究	2･3･4後		2		○			1						
	国際政治史の研究	2･3･4前		2		○								兼1	
	古文書学	2･3･4後		2		○			1						
	日本古代史料の講読１	2･3前		2			○							兼1	
	日本古代史料の講読２	2･3後		2			○							兼1	
	日本中世史料の講読１	2･3前		2			○		1						
	日本中世史料の講読２	2･3後		2			○		1						
	日本近世史料の講読１	2･3前		2			○		1						
	日本近世史料の講読２	2･3後		2			○		1						
	日本近代史料の講読１	2･3前		2			○			1					
	日本近代史料の講読２	2･3後		2			○			1					
	東洋近世史料の講読１	2･3前		2			○								隔年
	東洋近世史料の講読２	2･3後		2			○								隔年
	東洋近世史料の講読３	2･3前		2			○		1						
	東洋近世史料の講読４	2･3後		2			○		1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
歴史文化学科専攻科目	歴史学研究コース科目	西洋近代史料の講読１	2･3前		2			○								隔年
		西洋近代史料の講読２	2･3後		2			○								隔年
		西洋近代史料の講読３	2･3前		2			○							兼1	
		西洋近代史料の講読４	2･3後		2			○							兼1	
		日本近世史料実習１	2前		1				○	1						
		日本近世史料実習２	2後		1				○		1					
		日本近世史料実習３	3前		1				○		1					
		日本近世史料実習４	3後		1				○		1					
		日本古代中世史演習１	3前		2			○		1						
		日本古代中世史演習２	3後		2			○								隔年
		日本近世史演習１	3前		2			○		1						
		日本近世史演習２	3後		2			○		1						
		日本近代史演習１	3前		2			○			1					
		日本近代史演習２	3後		2			○			1					
		東洋近世史演習１	3前		2			○		1						
		東洋近世史演習２	3後		2			○		1						
		西洋近代史演習１	3前		2			○							兼1	
		西洋近代史演習２	3後		2			○							兼1	
		小計（41科目）	－	0	78	0		－		3	1	0	0	0	兼5	
	考古学・民俗学研究コース科目	文化財行政学	2･3前		2		○			1						
		民俗学と現代社会	2･3前		2		○					1				
		文化遺産の保存と活用	2･3後		2		○			1						
		旧石器・縄文時代の考古学	2･3後		2		○								兼1	
		弥生時代の考古学	2･3前		2		○			1						
		古墳時代の考古学	2･3後		2		○									隔年
		飛鳥・奈良時代の考古学	2･3前		2		○			1						
		中近世の考古学	2･3休		2		○								兼1	集中
		生活文化史	2･3前		2		○								兼1	
		生と死の民俗学	2･3後		2		○			1						
		民話と伝承	2･3後		2		○								兼1	
		宗教民俗学	2･3前		2		○			1						
		東アジア考古学	2･3前		2		○			1						
		西アジア考古学	2･3前		2		○			1						
		文化人類学	2･3休		2		○									隔年
		考古学・民俗学特講１	2･3後		2		○								兼1	
		考古学・民俗学特講２	2･3後		2		○								兼1	
		考古学・民俗学特講３	2･3後		2		○					1				
		考古学・民俗学特講４	2･3前		2		○			1						
		考古学・民俗学特講５	2･3後		2		○			1						
		考古学実習１	2･3前		1				○	2						共同
		考古学実習２	2･3後		1				○	2						共同
		考古学実習３	2･3休		1				○	2						共同 集中
		民俗学実習１	2･3前		1				○	1		1				共同
		民俗学実習２	2･3後		1				○	1		1				共同
		民俗学実習３	2･3休		1				○	1		1				共同 集中
		考古学・民俗学研究入門１	2前		2			○		1						
		考古学・民俗学研究入門２	2後		2			○		1		1				
		考古学・民俗学課題研究１	3前		2			○		3						
		考古学・民俗学課題研究２	3後		2			○		2		1				
		小計（30科目）	－	0	54	0		－		4	0	1	0	0	兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○			1						
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○			1						
		博物館実習１	3前			2			○	2						共同
		博物館実習２	4通			1			○	1					兼3	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			2	0	0	0	0	兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			2	0	0	0	0	兼23	
合計（244科目）			－	26	325	112	－			7	1	1	0	0	兼105	

学位又は称号	学士（歴史文化）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【歴史学研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目30単位以上　計48単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間） 【考古学・民俗学研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 文学部共通科目：４単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目35単位以上　計53単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科英米語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			2	1			兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	2	1	0	0	兼1	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（77科目）			－	4	141	0	－			0	2	1	0	0	兼66	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	
	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（63科目）	－	4	95	0	－			2	3	0	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英米語専攻専攻科目	英語Ａ（Reading）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Usage）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Listening）	1前	1				○							兼3	
	英語Ａ（Presentation）	1前	1				○				1			兼2	
	英語Ａ（Vocabulary Building）	1前	1				○		1		1			兼1	
	英語Ｂ（Reading）	1後	1				○							兼2	
	英語Ｂ（Usage）	1後	1				○		1					兼2	
	英語Ｂ（Listening）	1後	1				○				1			兼1	
	英語Ｂ（Speaking）	1後	1				○			2				兼1	
	英語Ｂ（Presentation）	1後	1				○		1	1	1				
	英語Ｃ（Reading）	2前	1				○							兼3	
	英語Ｃ（Usage）	2前	1				○		1					兼2	
	英語Ｃ（Writing）	2前	1				○			1				兼2	
	英語Ｃ（Listening）	2前	1				○			2				兼1	
	英語Ｃ（Speaking）	2前	1				○				1			兼1	
	英語Ｄ（Reading）	2後	1				○				1			兼2	
	英語Ｄ（Usage）	2後	1				○		1					兼2	
	英語Ｄ（Writing）	2後	1				○							兼2	
	英語Ｄ（Listening）	2後	1				○			1				兼2	
	英語Ｄ（Speaking）	2後	1				○			1				兼1	
	英語Ｅ（Reading）	3前	1				○			1				兼2	
	英語Ｅ（Rapid Reading）	3前	1				○			2				兼1	
	英語Ｅ（Writing）	3前	1				○			1				兼2	
	英語Ｅ（Speaking）	3前	1				○							兼2	
	英語Ｅ（Presentation）	3前	1				○							兼2	
	英語Ｆ（Rapid Reading）	3後	1				○							兼2	
	英語Ｆ（Journalism English）	3後	1				○			1				兼1	
	英語Ｆ（Writing）	3後	1				○			1				兼1	
	英語Ｆ（Presentation）	3後	1				○		1					兼1	
	英語Ｆ（Content Based English）	3後	1				○				1			兼1	
	英語Ｇ（Content Based English １）	4前	1				○			2				兼1	
	英語Ｇ（Content Based English ２）	4前	1				○			2				兼1	
	英語Ｈ（Content Based English １）	4後	1				○		1	1				兼1	
	英語Ｈ（Content Based English ２）	4後	1				○							兼2	
	英米文学概論	2･3･4前		2		○								兼1	
	英文ジャーナリズム事情	2･3･4休		2		○									隔年
	英米政治経済論	2･3･4前		2		○									隔年
	伝道英語１	2･3･4前		1			○		1						
	伝道英語２	2･3･4後		1			○		1						
	論文作成法	3･4後		2			○			1					
	英語科指導法１	3前		2		○			1						
	英語科指導法２	3後		2		○			1						
	英語科指導法３	3前		2		○				1					
	英語科指導法４	3後		2		○				1					
	英米語入門（英語学）	2･3･4前後		2		○				1				兼1	
	英米語入門（英米史）	2･3･4後		2		○				1					
	英米語入門（英米社会）	2･3･4前後		2		○			1	1					
	英米語入門（英米文学）	2･3･4後		2		○								兼1	
	英米語入門（英語教育）	2･3･4前後		2		○			1	1					
	英米語演習１	3前	2				○		2	2					
	英米語演習２	3後	2				○		2	2					
	英米語演習３	4前	2				○		1	2				兼2	
	英米語演習４	4後	2				○		1	2				兼2	
	英米語海外語学実習	2･3･4休		4				○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（56科目）	－	42	38	0	－			3	4	1	0	0	兼15	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（256科目）			－	50	274	112	－			3	4	1	0	0	兼118	

学位又は称号	学士（英語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目６単位以上、教養科目６単位以上　計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 英米語専攻専攻科目：必修科目46単位、選択必修科目８単位以上　計54単位以上 国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科中国語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○			1					兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
中国語専攻専攻科目	中国語Ａ(文法)	1前	2				○			1					
	中国語Ａ(発音)	1前	2				○		1						
	中国語Ａ(リスニング)	1前	2				○		1						
	中国語Ｂ(文法)	1後	2				○			1					
	中国語Ｂ(発音)	1後	2				○		1						
	中国語Ｂ(リスニング)	1後	2				○		1						
	中国語Ｃ(文法)	2前	2				○		1						
	中国語Ｃ(会話)	2前	2				○							兼1	
	中国語Ｄ(読解)	2後	2				○			1					
	中国語Ｄ(会話)	2後	2				○							兼1	
	中国語Ｅ(通訳)	3前	2				○							兼1	
	中国語Ｅ(読解)	3前	2				○		1						
	中国語Ｆ(通訳)	3後	2				○							兼1	
	中国語Ｆ(読解)	3後	2				○		1						
	伝道中国語１	2前		1			○							兼1	
	伝道中国語２	2後		1			○							兼1	
	広東語Ａ	2前		1			○							兼1	
	広東語Ｂ	2後		1			○							兼1	
	台湾語Ａ	2前		1			○							兼1	
	台湾語Ｂ	2後		1			○							兼1	
	ビジネス中国語	3前		1			○							兼1	
	ネイティブ中国語１	3前		1			○							兼1	
	ネイティブ中国語２	3後		1			○		1						
	実践中国語Ａ	2前		1			○			1					
	実践中国語Ｂ	2後		1			○		1						
	スピーチ中国語Ａ	2前		1			○		1						
	スピーチ中国語Ｂ	2後		1			○		1						
	中国語学概論１	2前		2		○								兼1	
	中国語学概論２	2後		2		○								兼1	
	中国文学概論１	2前		2		○								兼1	
	中国文学概論２	2後		2		○								兼1	
	中国史１	2前		2		○								兼1	
	中国史２	2後		2		○								兼1	
	中国文化史１	2前		2		○								兼1	
	中国文化史２	2後		2		○								兼1	
	台湾社会文化論１	2前		2		○								兼1	
	台湾社会文化論２	2後		2		○								兼1	
	近現代中国と国際政治１	2前		2		○				1					
	近現代中国と国際政治２	2後		2		○				1					
	中国語科指導法１	3前		2		○			1						
	中国語科指導法２	3後		2		○			1						
	中国語演習１	3前	2				○		1						
	中国語演習２	3後	2				○		1						
	中国語演習３	4前	2				○		2	1					
	中国語演習４	4後	2				○		2	1					
	中国語海外語学実習	2･3･4休	4					○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（48科目）	－	40	47	0	－			3	1	0	0	0	兼9	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（257科目）			－	52	288	112	－			5	5	1	0	0	兼120	

学位又は称号	学士（中国語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 中国語専攻専攻科目：必修科目40単位、選択必修科目16単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目　計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科韓国・朝鮮語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○		1						
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
韓国・朝鮮語専攻専攻科目	韓国・朝鮮語Ａ(文法)	1前	3				○		1	1					
	韓国・朝鮮語Ａ(会話)	1前	2				○		2					兼2	
	韓国・朝鮮語Ａ(発音)	1前	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｂ(文法)	1後	3				○		1	1					
	韓国・朝鮮語Ｂ(会話)	1後	2				○		2					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｂ(講読)	1後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｃ(文法)	2前	1				○			1					
	韓国・朝鮮語Ｃ(会話)	2前	1				○		1					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｃ(講読)	2前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｃ(作文)	2前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｄ(文法)	2後	1				○			1					
	韓国・朝鮮語Ｄ(会話)	2後	1				○		1					兼1	
	韓国・朝鮮語Ｄ(講読)	2後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｄ(作文)	2後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(会話)	3前	1				○			1				兼1	
	韓国・朝鮮語Ｅ(講読)	3前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(作文)	3前	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｅ(表現)	3前	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｆ(会話)	3後	1				○							兼2	
	韓国・朝鮮語Ｆ(講読)	3後	1				○		1						
	韓国・朝鮮語Ｆ(作文)	3後	1				○							兼1	
	韓国・朝鮮語Ｆ(表現)	3後	1				○							兼2	
	実践韓国・朝鮮語Ａ	2･3･4前		1			○							兼1	
	実践韓国・朝鮮語Ｂ	2･3･4後		1			○							兼1	
	映像で学ぶ韓国・朝鮮語	2･3･4前		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語古典講読	2･3･4後		1			○		1						
	通訳翻訳韓国・朝鮮語Ａ	3･4前		1			○		1						
	通訳翻訳韓国・朝鮮語Ｂ	3･4後		1			○		1						
	応用韓国・朝鮮語Ａ	3･4前		1			○							兼1	
	応用韓国・朝鮮語Ｂ	3･4後		1			○							兼1	
	伝道韓国・朝鮮語１	3･4前		1			○							兼1	
	伝道韓国・朝鮮語２	3･4後		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語学概論１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮語学概論２	2･3･4後		2		○				1					
	韓国・朝鮮文学概論１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮文学概論２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮史１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮史２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮社会文化論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮社会文化論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮文化交流史１	2･3･4前		2		○			1						
	韓国・朝鮮文化交流史２	2･3･4後		2		○			1						
	韓国・朝鮮事情１	3･4前		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮事情２	3･4後		2		○								兼1	
	韓国・朝鮮語科指導法１	3前		2		○				1					
	韓国・朝鮮語科指導法２	3後		2		○			1						
	韓国・朝鮮入門	1前	2			○			1						
	韓国・朝鮮語演習１	3前	2				○		2	1					
	韓国・朝鮮語演習２	3後	2				○		2	1					
	韓国・朝鮮語演習３	4前	2				○		3						
	韓国・朝鮮語演習４	4後	2				○		3						
	韓国・朝鮮語海外語学実習	2･3･4休	4					○	2						集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（54科目）	－	42	44	0	－			3	1	0	0	0	兼5	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（263科目）			－	54	285	112	－			5	5	1	0	0	兼117	

学位又は称号	学士（韓国・朝鮮語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 韓国・朝鮮語専攻専攻科目：必修科目42単位、選択必修科目10単位以上　計52単位以上 国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○			1				兼2	
			英語Ａ２	1後	1				○			1				兼2	
			英語Ｂ１	1前	1				○		1					兼2	
			英語Ｂ２	1後	1				○		1					兼2	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	兼3	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			0	0	0	0	0	兼41	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○								兼2	
	国際文化論	1前後	2			○								兼3	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○			1						
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○			1						
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○								兼3	
	国際法	2･3･4前後		2		○				1					
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○				1				兼1	
	音声学２	2･3･4後		2		○				1				兼1	
	英語学概論	2･3･4後		2		○				1					
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar A	1･2･3･4前		1			○		1						
	English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Reading A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing A	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar A	1･2･3･4前		1			○			1					
	College English Grammar B	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○		1						
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○			1					
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○		1						
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○			1						
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○				1				
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○		1						
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○			1					
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○			1					
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			2	4	1	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目	スペイン語Ａ（文法）	1前		2			○		1					兼1	
	スペイン語Ａ（会話）	1前		2			○			1				兼1	
	スペイン語Ａ（視聴覚）	1前		2			○							兼2	
	スペイン語Ｂ（文法）	1後		2			○		1					兼1	
	スペイン語Ｂ（会話）	1後		2			○			1				兼1	
	スペイン語Ｂ（視聴覚）	1後		2			○							兼2	
	スペイン語Ｃ（文法）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｃ（会話）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｃ（視聴覚）	2前		1			○			1					
	スペイン語Ｃ（表現）	2前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（文法）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（会話）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｄ（視聴覚）	2後		1			○			1					
	スペイン語Ｄ（表現）	2後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（文法）	3前		1			○		1						
	スペイン語Ｅ(会話)	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（視聴覚）	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｅ（表現）	3前		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（文法）	3後		1			○		1						
	スペイン語Ｆ（会話）	3後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（視聴覚）	3後		1			○							兼1	
	スペイン語Ｆ（表現）	3後		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ａ（文法）	1前		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ａ（会話）	1前		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ａ（視聴覚）	1前		2			○		1					兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｂ（文法）	1後		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｂ（会話）	1後		2			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｂ（視聴覚）	1後		2			○		1					兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｃ（文法）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（会話）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（視聴覚）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｃ（講読）	2前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（文法）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（会話）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（視聴覚）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｄ（講読）	2後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（文法）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（会話）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｅ（視聴覚）	3前		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｅ（講読）	3前		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（文法）	3後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（会話）	3後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語Ｆ（視聴覚）	3後		1			○							兼1	
	ブラジルポルトガル語Ｆ（講読）	3後		1			○		1						
	実践スペイン語	2･3･4後		1			○							兼1	
	伝道スペイン語１	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道スペイン語２	2･3･4後		1			○		1						
	翻訳・通訳スペイン語１	3･4前		1			○							兼1	
	翻訳・通訳スペイン語２	3･4後		1			○		1						
	スペイン語応用会話	3･4後		1			○			1					
	総合スペイン語	3･4後		1			○							兼1	
	実践ブラジルポルトガル語	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道ブラジルポルトガル語１	2･3･4前		1			○							兼1	
	伝道ブラジルポルトガル語２	2･3･4後		1			○							兼1	
	翻訳・通訳ブラジルポルトガル語１	3･4前		1			○		1						
	翻訳・通訳ブラジルポルトガル語２	3･4後		1			○		1						
	ブラジルポルトガル語応用会話	3･4前		1			○		1						
	総合ブラジルポルトガル語	3･4後		1			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目	イベロアメリカ語学概論１	2･3･4前		2		○				1					
	イベロアメリカ語学概論２	2･3･4前		2		○								兼1	
	イベロアメリカ文学概論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	イベロアメリカ文学概論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	イベロアメリカ社会文化概論１	2･3･4後		2		○				1					
	イベロアメリカ社会文化概論２	2･3･4後		2		○			1						
	スペイン語圏史	2･3･4前		2		○			1						
	ポルトガル語圏史	2･3･4前		2		○			1						
	スペイン語圏入門	1前	2			○			1						
	ブラジルポルトガル語圏入門	1前	2			○			1						
	イベロアメリカ演習１	3前	2				○		1	1					
	イベロアメリカ演習２	3後	2				○		1	1					
	イベロアメリカ演習３	4前	2				○		2	1					
	イベロアメリカ演習４	4後	2				○		2	1					
	イベロアメリカ海外語学実習	2･3休		4				○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2					1						
	卒業論文	4通		4					1						
	小計（75科目）	－	12	96	0	－			3	1	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○								兼1	
		日本語教育入門	1後			2	○								兼1	
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論２	2後			2	○								兼1	
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○							兼1	
		日本語教育評価法	4後			2		○							兼1	
		日本語教育実習	4通			2			○						兼1	集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			0	0	0	0	0	兼26	
合計（284科目）			－	24	337	112	－			5	5	1	0	0	兼122	

学位又は称号	学士（スペイン語またはブラジルポルトガル語）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目：必修科目12単位、選択必修科目44単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目　計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部地域文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合教育科目	天理教科目		天理教学Ａ１	1･2･3･4前		2		○								兼8	
			天理教学Ａ２	1･2･3･4後		2		○								兼8	
			天理教学Ｂ１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			天理教学Ｂ２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			天理教学Ｃ１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理教学Ｃ２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	建学の精神科目		建学の精神と現代社会	2･3･4前	2			○								兼3	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	基礎教育科目	基礎ゼミ	基礎ゼミナール	1前	2				○		5	3				兼2	
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			5	3	0	0	0	兼2	
		英語	英語Ａ１	1前	1				○							兼6	
			英語Ａ２	1後	1				○							兼6	
			英語Ｂ１	1前	1				○							兼6	
			英語Ｂ２	1後	1				○							兼6	
			小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		健康スポーツ	健康スポーツ科学１	1前		2		○								兼10	
			健康スポーツ科学２	1後		2		○								兼6	
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
		リメディアル科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4	
			基礎からわかる近代史	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる現代世界	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる数学	1前後		2		○								兼1	
			基礎からわかる生物・化学	1後		2		○								兼1	
			コンピュータ入門	1前後		2		○								兼3	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	教養科目	キャリア科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
			キャリアデザイン１	2前		2		○								兼1	
			キャリアデザイン２	2前		2		○			1						
			キャリアデザイン３	2後		2		○								兼1	
			インターンシップ１	1･2･3通		1				○						兼1	集中
			インターンシップ２	1･2･3通		2				○						兼1	集中
			海外インターンシップ１	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			海外インターンシップ２	2･3･4通		2				○						兼1	集中
			小計（8科目）	－	0	14	0	－			1	0	0	0	0	兼7	
		一般科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
			データサイエンス・AI応用	2･3･4前後		2		○									隔年
			データリテラシー	2･3･4前後		2		○									隔年
			生活の中の科学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			地球環境論	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			科学と現代	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			数学と論理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報処理	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			統計学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			地理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			地理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			経済学概論１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			経済学概論２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			政治学	1･2･3･4前後		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	教養科目	一般科目	民法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			民法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政法１	2･3･4前		2		○								兼1	
			行政法２	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			哲学概論Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			倫理学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			心理学１	1･2･3･4前		2		○								兼2	
			心理学２	1･2･3･4後		2		○								兼2	
			ジェンダー・セクシュアリティ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			近現代の遺産と未来	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			オリンピックと国際社会	1･2･3･4前後		2		○								兼2	
			宗教と芸能	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			労働と社会	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			障害学	1･2･3･4休		2		○								兼2	集中
			世界の文学	1･2･3･4前後		2		○					1			兼1	
			カルチュラルスタディーズ	1･2･3･4前後		2		○			1						
			人権と差別１	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			人権と差別２	1･2･3･4後		2		○								兼3	
			日本事情１	1･2･3･4前		2		○					1				
			日本事情２	1･2･3･4後		2		○					1				
			日本手話Ａ	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			日本手話Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康スポーツ１	2･3･4前		1				○						兼2	
			健康スポーツ２	2･3･4後		1				○						兼2	
			生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2･3･4通		1				○						兼1	集中
			森に生きるＡ	1･2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＢ	2･3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きるＣ	3･4休		1				○						兼3	共同 集中
			森に生きる（オーストラリアコース）	1･2･3･4休		1				○							共同 集中 隔年
			天理大学特別講義１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義２	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			天理大学特別講義３	1･2･3･4後		2		○									隔年
			天理大学特別講義４	1･2･3･4前		2		○									隔年
			小計（53科目）	－	0	99	0	－			1	0	2	0	0	兼38	
	合計（81科目）			－	8	141	0	－			6	3	2	0	0	兼74	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	日本文化概論	1前後	2			○			1					兼1	
	国際文化論	1前後	2			○			2					兼1	
	世界の英語	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	異文化コミュニケーション２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	日本と国際社会	1･2･3･4前後		2		○			1						
	文化人類学概論	2･3･4前後		2		○			2	1					
	国際法	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際政治学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国際経済論	3･4前		2		○								兼1	
	音声学１	2･3･4前		2		○								兼2	
	音声学２	2･3･4後		2		○								兼2	
	英語学概論	2･3･4後		2		○								兼1	
	社会言語学１	2･3･4前		2		○								兼1	
	社会言語学２	2･3･4後		2		○								兼1	
	言語学概論１	3･4前		2		○								兼1	
	言語学概論２	3･4後		2		○								兼1	
	English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Reading Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Reading Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	English Writing Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	English Writing Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Communicative English（基礎）	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	Communicative English（発展）	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	College English Grammar Ａ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	College English Grammar Ｂ	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｃ１	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ１	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	実践英語Ｅ１	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｆ１	1･2･3･4前		1			○								隔年
	実践英語Ｃ２	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	実践英語Ｄ２	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ａ３	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	実践英語Ｂ３	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Public Speaking（基礎）	1･2･3･4前		1			○								隔年
	Media English	1･2･3･4後		1			○								隔年
	翻訳	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	通訳	1･2･3･4後		1			○								隔年
	旅行英語	1･2･3･4前後		1			○							兼1	
	Public Speaking（発展）	1･2･3･4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3･4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese History	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	Japanese Religions	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	Introduction to Japanese Philosophy	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to Understanding Social Issues	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Introduction to the Study of Religion	1･2･3･4後		1			○							兼1	
	Peace and Security Studies	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	World History : Golden Age/Dark Age	1･2･3･4前		1			○							兼1	
	国際協力入門１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
	国際協力入門２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
	国際ボランティア論１	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際ボランティア論２	2･3･4後		2		○								兼1	
	国際協力実習	1･2･3･4休		2				○						兼1	集中
	国際協力演習１	1･2･3･4前		2			○							兼1	
	国際協力演習２	1･2･3･4後		2			○							兼1	
	天理異文化伝道	2･3･4前後		2		○			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部共通科目	観光地理学	2･3･4前後		2		○								兼1	
	観光デザイン論	2･3･4前後		2		○			1						
	観光業界論	2･3･4前後		2		○								兼1	
	世界遺産論	2･3･4前後		2		○			1						
	ホスピタリティー観光研究１	2･3･4前後		2		○								兼1	
	ホスピタリティー観光研究２	2･3･4前後		2		○								兼1	
	国内旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	海外旅行実務	2･3･4前後		2			○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2･3･4休		1		○								兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2･3･4休		1				○						兼3	集中
	小計（68科目）	－	4	100	0	－			8	1	0	0	0	兼27	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域研究方法論	2前後	2			○			3					兼1	
	東アジア地域研究入門	1前後		2		○			2						
	東南アジア・オセアニア地域研究入門	1前後		2		○			2	1					
	ヨーロッパ地域研究入門	1前後		2		○			1						
	アフリカ地域研究入門	1前後		2		○				1					
	ラテンアメリカ地域研究入門	1前後		2		○								兼1	
	北アメリカ地域研究入門	1前後		2		○								兼1	
	日本研究入門	1前後		2		○					1				
	ナラロジー研究入門	1前後		2		○			1						
	世界の地理	1前後		2		○								兼1	
	世界の歴史	1前後		2		○			1						
	世界の情勢	1前後		2		○			1						
	世界の観光	1前後		2		○			1						
	世界のスポーツ文化	1前後		2		○									隔年
	世界史のなかの日本	1後		2		○			1						
	世界の文化交流と日本	1後		2		○								兼1	
	多文化共生論	2前後		2		○				2					
	スポーツ文化概論	2前		2		○									隔年
	スポーツ文化特論	3後		2		○									隔年
	アラブ文化概論	3前後		2		○									隔年
	異文化実習	1･2･3･4休		4				○		1					集中
	異文化体験活動１	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動２	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動３	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	異文化体験活動４	1･2･3･4休		1				○	1						集中
	生活文化演習１	3前		2			○		3	2					
	生活文化演習２	3後		2			○		3	2					
	生活文化演習３	4前		2			○		2	2				兼1	
	生活文化演習４	4後		2			○		2	2				兼1	
	表現文化演習１	3前		2			○		1	2	1			兼1	
	表現文化演習２	3後		2			○		1	2	1			兼1	
	表現文化演習３	4前		2			○		3	2	1				
	表現文化演習４	4後		2			○		3	2	1				
	社会文化演習１	3前		2			○		6	1	1				
	社会文化演習２	3後		2			○		6	1	1				
	社会文化演習３	4前		2			○		6	1	1			兼1	
	社会文化演習４	4後		2			○		6	1	1			兼1	
	ナラロジー演習１	3前		2			○								隔年
	ナラロジー演習２	3後		2			○								隔年
	ナラロジー演習３	4前		2			○		1						
	ナラロジー演習４	4後		2			○		1						
	卒業論文	4通	4						4						
	卒業課題研究	4通		2					1						
	小計（43科目）	－	6	80	0	－			15	5	3	0	0	兼7	
アジア・オセアニア研究コース科目	アジア生活文化概論	2後		2		○			1						
	アジア表現文化概論	2前		2		○			1						
	アジア社会文化概論	2前後		2		○			2						
	アジア地域文化概論	2前後		2		○			1	1					
	オセアニア地域文化概論	2後		2		○								兼1	
	アジア・オセアニアと日本	2前後		2		○			1						
	アジア地域関係史	2前後		2		○			1						
	アジア生活文化特論	3･4前		2		○			1						
	アジア表現文化特論	3･4前		2		○			1						
	アジア社会文化特論	3･4後		2		○			2						
	アジア地域文化特論	3･4後		2		○				1					
	オセアニア地域文化特論	3･4前		2		○								兼1	
	アジア・オセアニア多文化共生論	3･4前後		2		○				1					
	アジア・オセアニア現代事情	3･4前後		2		○			1					兼1	
	小計（14科目）	－	0	28	0	－			4	1	0	0	0	兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	ヨーロッパ・アフリカ研究コース科目	ヨーロッパ生活文化概論	2前後		2		○					1				
		ヨーロッパ表現文化概論	2前後		2		○			1		1				
		ヨーロッパ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
		スラヴ地域文化概論	2前後		2		○			1						
		アフリカ地域文化概論	2前後		2		○				1					
		ヨーロッパ・アフリカと日本	2前		2		○			1						
		ヨーロッパ・アフリカ関係史	2前後		2		○			1						
		ヨーロッパ生活文化特論	3･4前後		2		○			2						
		ヨーロッパ表現文化特論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ社会文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		スラヴ地域文化特論	3･4前後		2		○			1						
		アフリカ地域文化特論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ多文化共生論	3･4前後		2		○				1					
		ヨーロッパ・アフリカ現代事情	3･4前後		2		○				1					
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	3	1	0	0	兼2	
	アメリカス研究コース科目	ラテンアメリカ生活文化概論	2前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ表現文化概論	2前後		2		○								兼1	
		ラテンアメリカ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
		北アメリカ地域文化概論	2前後		2		○								兼1	
		アメリカス研究概論	2前後		2		○								兼1	
		アメリカスと日本	2前後		2		○								兼1	
		大西洋地域関係史	2前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ生活文化特論	3･4前後		2		○			1						
		ラテンアメリカ表現文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		ラテンアメリカ社会文化特論	3･4前後		2		○			1						
		北アメリカ地域文化特論	3･4前後		2		○								兼1	
		アメリカス研究特論	3･4前後		2		○								兼1	
		アメリカス多文化共生論	3･4前後		2		○			1						
		アメリカス現代事情	3･4前後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	0	0	0	0	兼6	
	日本研究コース科目	日本生活文化概論	2前		2		○			1						
		日本表現文化概論	2後		2		○								兼1	
		日本社会文化概論	2前		2		○					1				
		ナラロジー概論	2後		2		○									隔年
		日本コミュニケーション文化概論	2前		2		○			1						
		日本精神文化概論	2後		2		○			1						
		日本多文化共生概論	2前		2		○			1						
		日本生活文化特論	3･4後		2		○			1						
		日本表現文化特論	3･4前		2		○								兼1	
		日本社会文化特論	3･4後		2		○					1				
		ナラロジー特論	3･4前		2		○			1						
		日本情報文化特論	3･4後		2		○									隔年
		日本環境文化特論	3･4前		2		○					1				
		日本経営文化特論	3･4後		2		○					1				
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			2	0	1	0	0	兼2	
	地域言語科目	韓国・朝鮮語レベルＡ１	1前		2			○		1					兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＢ１	1後		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		韓国・朝鮮語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		韓国・朝鮮語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		韓国・朝鮮語演習	2後		2			○							兼1	
		中国語レベルＡ１	1前		2			○							兼1	
		中国語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		中国語レベルＢ１	1後		2			○							兼1	
		中国語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域言語科目	中国語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		中国語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		中国語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		中国語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		中国語演習	2後		2			○							兼1	
		タイ語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		タイ語レベルＡ２	1前		2			○		1						
		タイ語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		タイ語レベルＢ２	1後		2			○		1						
		タイ語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		タイ語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		タイ語レベルＤ１	2後		1			○		1						
		タイ語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		タイ語演習	2後		2			○			1					
		インドネシア語レベルＡ１	1前		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＢ１	1後		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		インドネシア語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		インドネシア語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		インドネシア語演習	2後		2			○		1						
		ドイツ語レベルＡ１	1前		2			○				1				
		ドイツ語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		ドイツ語レベルＢ１	1後		2			○				1				
		ドイツ語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		ドイツ語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		ドイツ語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ドイツ語演習	2後		2			○			1				兼1	
		フランス語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		フランス語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		フランス語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		フランス語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		フランス語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		フランス語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		フランス語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		フランス語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		フランス語演習	2後		2			○							兼1	
		ロシア語レベルＡ１	1前		2			○			1					
		ロシア語レベルＡ２	1前		2			○							兼2	
		ロシア語レベルＢ１	1後		2			○			1					
		ロシア語レベルＢ２	1後		2			○							兼2	
		ロシア語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		ロシア語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ロシア語演習	2後		2			○			1					
		スペイン語レベルＡ１	1前		2			○		1	1				兼2	
		スペイン語レベルＡ２	1前		2			○			1				兼3	
		スペイン語レベルＢ１	1後		2			○		1	1				兼2	
		スペイン語レベルＢ２	1後		2			○			1				兼3	
		スペイン語レベルＣ１	2前		1			○							兼1	
		スペイン語レベルＣ２	2前		1			○		1						
		スペイン語レベルＤ１	2後		1			○							兼1	
		スペイン語レベルＤ２	2後		1			○		1						
		スペイン語演習	2後		2			○			1				兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学科専攻科目	地域言語科目	ブラジルポルトガル語レベルＡ１	1前		2			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＡ２	1前		2			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＢ１	1後		2			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＢ２	1後		2			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＣ１	2前		1			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＣ２	2前		1			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語レベルＤ１	2後		1			○		1						
		ブラジルポルトガル語レベルＤ２	2後		1			○							兼1	
		ブラジルポルトガル語演習	2後		2			○		1						
		入門日本語Ａ（会話）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（文法Ａ）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ａ（文法Ｂ）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ａ（作文）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（講読）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（表記）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（総合）	1前		1			○							兼1	
		入門日本語Ａ（表現）	1前		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（会話）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（文法Ａ）	1後		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（文法Ｂ）	1後		1			○				1				
		入門日本語Ｂ（作文）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（講読）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（表記）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（総合）	1後		1			○							兼1	
		入門日本語Ｂ（表現）	1後		1			○				1				
		基礎日本語Ａ（会話）	1･2前後		1			○		1					兼2	
		基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ａ（作文）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（講読）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（表記）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（総合）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ａ（表現）	1･2前後		1			○				1			兼1	
		基礎日本語Ｂ（会話）	1･2前後		1			○		1					兼2	
		基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1･2前後		1			○		1					兼1	
		基礎日本語Ｂ（作文）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（講読）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（表記）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（総合）	1･2前後		1			○							兼2	
		基礎日本語Ｂ（表現）	1･2前後		1			○				1			兼1	
		発展日本語Ａ（実践）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（会話）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（作文）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（講読）	1･2･3前		1			○							兼1	
		発展日本語Ａ（ビジネス）	1･2･3前		1			○				1				
		発展日本語Ｂ（実践）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（会話）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（作文）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（講読）	1･2･3後		1			○							兼1	
		発展日本語Ｂ（ビジネス）	1･2･3後		1			○				1				
		小計（123科目）	－	0	168	0		－		7	4	3	0	0	兼32	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目	天理教学部門	伝道実習１（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習２（理論を含む）	1･2･3･4休			1			○						兼1	集中
		伝道実習３（理論を含む）	2･3･4前			1			○						兼1	
		伝道実習４（理論を含む）	2･3･4後			1			○						兼1	
		小計（4科目）	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼1	
	人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○			1						
		日本語教育入門	1後			2	○			1						
		日本語語彙論	2前			2	○								兼1	
		日本語文法論１	2前			2	○			1						
		日本語文法論２	2後			2	○			1						
		日本語語用論	3後			2	○								兼1	
		言語の対照研究	3前			2	○								兼1	
		日本語教授法１	3前			2		○							兼1	
		日本語教授法２	3後			2		○							兼1	
		日本語指導法	4前			2		○		1						
		日本語教育評価法	4後			2		○				1				
		日本語教育実習	4通			2			○	1						集中
		小計（12科目）	－	0	0	24	－			1	0	1	0	0	兼2	
	社会科学部門	図書館マネージメント論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報システム論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報サービス概論	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		情報サービス論	3･4前			2	○								兼1	
		児童・YAサービス論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報サービス演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報サービス演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2･3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織論	3･4前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習１	3･4後			2		○							兼1	
		情報資源組織演習２	3･4後			2		○							兼1	
		図書館情報学基礎特論	2･3･4後			2	○								兼1	
		図書館情報資源特論	3･4前			2	○								兼1	
		図書館とメディアの歴史	2･3･4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ａ	4前			2	○								兼1	
		図書館情報学特論Ｂ	4後			2	○									隔年
		博物館展示論	3･4後			2	○								兼1	
		博物館経営総論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館実習１	3前			2			○						兼2	共同
		博物館実習２	4通			1			○						兼4	共同 集中
		矯正概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		更生保護概論	1･2･3･4前			2	○								兼1	
		矯正保護教育（施設参観を含む）	3･4後			2	○								兼1	
		小計（23科目）	－	0	0	45	－			0	0	0	0	0	兼10	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○								兼1	
		教育原理	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育課程論	3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育心理学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		学校教育社会学	2･3･4前後			2	○								兼1	
		道徳の理論及び指導法	3･4前後			2	○								兼1	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○								兼2	
		教育相談の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前後			2	○								兼1	
		教育実習講義	3後			1	○								兼3	
		介護等体験	3通			1			○						兼4	集中
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼4	
		教育実習１	4通			2			○						兼1	集中
		教育実習２	4通			2			○						兼1	集中
		人権教育論１	2･3･4前			2	○								兼3	
		人権教育論２	2･3･4後			2	○								兼3	
		特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○								兼1	
		学校教育支援	2･3･4通			1			○						兼4	集中
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前			2	○								兼1	
		教育史特論	2･3･4前			2	○								兼1	
		臨床教育学特論	2･3･4休			2	○								兼1	集中
		小計（21科目）	－	0	0	39	－			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（60科目）		－	0	0	112	－			1	0	1	0	0	兼24	
合計（431科目）			－	18	601	112	－			14	5	3	0	0	兼145	

学位又は称号	学士（地域文化）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【アジア・オセアニア研究コース、ヨーロッパ・アフリカ研究コース、アメリカス研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目６単位以上　計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目６単位、選択必修科目50単位以上　計56単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間） 【日本研究コース】 総合教育科目：天理教科目４単位以上、建学の精神科目２単位、基礎教育科目６単位以上、教養科目６単位以上　計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目４単位、計８単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目６単位、選択必修科目52単位以上　計58単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目　計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目　計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	15　週
	１時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部英米語学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説１	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を目指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説２	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学１	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学２	天理教学１で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		韓国・朝鮮語１	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
		韓国・朝鮮語２	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語１で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	中国語１	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
		中国語２	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語１」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
		教養アカデミック英語１	この科目では「英語１」と「英語２」で培った英語の基礎力を土台に、 英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
		教養アカデミック英語２	この科目では「教養アカデミック英語１」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（１パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
		実践アカデミック英語１	この科目は「アカデミック英語２」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、 多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	
		実践アカデミック英語２	この科目は「アカデミック英語１」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習(Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあたかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一歩でも近づいてみることとしたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約３分の１を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちもタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約８万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は２つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。 2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
		多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		日本事情１	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	
		日本事情２	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に拠りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶筌」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学１	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学２	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、 厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、 ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、 健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康つくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人たちとの交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト天理SDGs森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何ができるか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習（PBL）を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs（持続可能な開発目標）」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発（SDGs）」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	
		国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナ感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習１	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習２	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばれなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどういう意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に着けることができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義１	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は 2012 年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを 15 回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義２	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義３	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義４	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン１	いわゆる就活で必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	キャリア教育科目群	キャリアデザイン２	いわゆる就活で必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ１	インターンシップ１では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として１週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ２	インターンシップ２では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として２週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ１	海外インターンシップ１では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として１週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ２	海外インターンシップ２では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として２週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール１	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という４つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール２	基礎ゼミナール１の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるするために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の３つのことを習得することを目標とした学修を行う。 (1) 社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることでこれらの技術についての理解を深める。 (2) データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。 (3) データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修しする。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。 EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	
		情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現近代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げるながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。	
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	
		科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
		数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによってのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
		統計学１	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
		統計学２	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
		経営学１	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	経営学２	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
		地理学１	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
		地理学２	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいからみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	
		日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関係する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
		法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に着けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
		経済学１	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
		経済学２	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
		政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会学的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
		民法１	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
		民法２	民法１に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
		行政法１	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
		行政法２	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組があるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
		哲学概論１	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
		哲学概論２	哲学概論１で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしながら、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
		倫理学１	倫理学という学問的な切り口から人間的現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探求する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	倫理学２	倫理学１が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学２は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
		心理学１	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
		心理学２	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	
		ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実に起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
		近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティーの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティーへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
		宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
		労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
		障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかねばならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史的変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	世界の文学１	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
		世界の文学２	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テクストそのものを読み込む内在批評と同時に、テクストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
		カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	
		宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
		人権と差別１	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとっても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
		人権と差別２	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
		日本手話Ａ	聾者の言語である“手話”を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
		日本手話Ｂ	「日本手話Ａ」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを目指す。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。 日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
		レクリエーショナルスポーツ	レクリエーショナルスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーショナルスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
		ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーショナルスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	日本文化概論	グローバルな視点から、日本の地理、生活様式、歳時風俗、社会制度、思想、伝統文化、大衆文化等を他地域のそれらと比較しつつ、日本文化の多様性や独自性について考え、日本文化とは何なのかを議論するためのヒントを提供する。前半では学術的な視点から日本の社会文化とその歴史に関するキータームを分析し、日本文化を学修する上で必要な基礎知識を修得する。さらに、後半では日本現代思想の代表的な名著を紹介し、現代のグローバル社会に纏わる諸問題に日本の哲学者がどのような答えを出したのかを確認する。国際的な視座から日本を見つめ直し、日本的な視座から世界を俯瞰できるようになる。	
	国際文化論	21世紀の国際社会を考える上で海洋問題は外せない課題である。地球の表面積の７割を占める海と人間との関係は多様である。この授業は①食文化、②海洋資源利用、③自然災害と人為的な環境変化の３つの視点から海洋文化を学習する。魚食文化について、具体的な素材をもとに理解し説明できる。海洋資源利用の歴史について、海獣や鯨を素材に理解し説明できる。自然災害と人為的な海の環境破壊や保全の取り組みについて、理解し説明できる。海の未来を守るために、問題解決のための基礎力を身につけ、解決への行動力を養うことを目的とする。	
	日本と国際社会	グローバル化の中の日本と国際社会の関係、国際社会の中の日本の立ち位置について学ぶ。日本と国際社会の関係を個別の外国と日本との関係だけで見るのではなく、グローバル化の中の日本を意識し、国際社会の中の日本が直面する現状と課題を考察する。国際連合、ASEAN、ODA、難民、地球温暖化、人間の安全保障などのテーマで講義をおこなうほか、理解度確認作業として、ほぼ毎回講義内容に即した関連する映像資料の視聴後、その内容と感想をまとめ、提出させる。さらに報道番組、新聞・雑誌記事、参考文献等を活用して準備学修をさせることで知識の定着をはかる。	
	グローバル文化論	「多様性」は未来のことではない。「多様性」は既に存在している。他人を差別してはいけない、暴力は問題解決の手段ではない、ということは周知のことである。しかし、差別も戦争もなくならない。この授業では、どのような場合に人間や文化の多様性が無視（不可視化）されてきたのかという史実に加え、それに「正当性」を与えたいわば「野蛮」の言説についても学習する。その歴史を学ぶことで未来の多様性共存の態度を養い、将来のブローバル文化構築を展望する。	
	アジア地域文化論	この授業では、韓国の首都ソウル市と地方都市の地域文化をとりあげ、社会学的視点から、国家政策ならびに地方自治体が地域文化に与える影響を学ぶ。1）ソウル市の都市形成を概観し、伝統地域や文化地区、オリンピック開催と貧困地区、水辺地区、近年のスマートシティの動向に焦点をあてる。2）地方都市の文化として、スローシティや庭園博覧会、海女文化、戦争と都市再生、伝統文化、日韓交流に着目し、地方都市の多様性について考える。	
	オセアニア地域文化論	日本人にとって最も身近な外国であるハワイの歴史・文化・社会について、主にハワイ人に焦点をあてて学ぶ。西洋人と接触する以前のハワイの伝統文化について概観し、接触後にハワイの文化がどのように変容していったのか、白人入植者が経済的・政治的に影響力を持つにしたがってハワイ王国の経済がどのように変化していったのか、その結果、ハワイ王国がどのようにして米国に併合されるに至ったのかについて理解する。この授業では、ハワイやハワイ人についての知識を得るだけでなく、様々な文化が出会うハワイを知ることで「文化」そのものについても考えていく。	
	ヨーロッパ地域文化論	この授業では、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ地域において、文化が異文化との接触・交流をとおして生まれ、変容してきた実情を学ぶ。具体的には、宗教（古代ケルトの多神教、キリスト教、イスラーム教）、食文化（チーズ、ヨーグルト、パン、ソーセージ、ビール）、音楽（キリスト教の教会音楽、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン）、スポーツ文化（古代オリンピック､英国で成立した近代スポーツ、スポーツクラブ）などを取り上げる。グローバル化に伴い、ヨーロッパには経済移民や難民が多数暮らしており、彼らによってもたらされる文化の変容についても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	スラヴ・ユーラシア地域文化論	この授業でのスラヴ・ユーラシア地域とは、旧ソ連の国々や地域、さらには旧東欧諸国のことを指している。この地域はヨーロッパ地域のみならず、カフカース地域、中央アジア地域を含んでいる。それゆえこの地域では、文化も非常に多様であり、相互に影響を与えながら豊かな文化を育んできた。特に旧ソ連地域は多様で複雑である。個々の文化を守る動きと共に、そこでは地域をまとめる共通の文化や価値観が存在したのではないかと考える。ただし、それは人為的につくられたものであったかもしれない。そして、ソ連解体前後から国の体制はもちろん文化面においても大きな変動を受けている。実際にどのような変化が文化面で見られるのかについて学ぶ。	
	アフリカ地域文化論	アフリカ大陸に対して、大自然というイメージを持つ人は多いが、そこに暮らす人々について知る人は少ない。高校までの学校教育においてアフリカに関する情報は非常に限られたものとなっているためである。この授業では、豊富な自然を活用しながら文化を成り立たせている人々について学ぶ。熱帯雨林、サバンナ、砂漠、高山など自然環境の違いとともに、これらに依存して暮らしている人々の環境利用と生活形態、民俗知識について知り、多様な環境で育まれてきた文化の多様性について知る。	
	アメリカス地域文化論	アメリカス世界の文化の基層にはメソアメリカ文明、アンデス文明に代表される古代文明が存在する。この授業では、近年飛躍的に研究が進展した古代マヤ文明に焦点をあて、最新の研究成果を活用しながら、その概要を学習する。古代文明とはいえ、我々と同じ人間が形成したものである。古代マヤの人々がどのような社会を構築してどのような生活をしていたのかについて想像力を働かせて考える。とりわけ、狩猟採集段階（余剰のほとんどない社会）に巨大な祭祀センターが出現したのはなぜだろうか。マヤの限らず、古代文明に存在した「神聖」王権について考えてみたい。	
	世界の歴史と社会	本授業では、気候変動や環境変化、自然災害やパンデミック、人口の増減や移動、国境や海洋をめぐる軋轢、植民地支配や先住民問題、地域紛争と世界大戦など、国や地域の枠組みではとらえきれない歴史事象を、グローバルな視点で学んでいく。世界の歴史と社会に関する重要な事象について自分の言葉で語り、国や地域をこえた地球市民として視野と発想力・思考力を身につけ、21世紀の人類の課題解決のために考え、語り、行動できるようになることを目指す。	
	アジアの歴史と社会	前近代中国では国家機構が唯一最大の権威ある組織であり、軍事・司法・民生から文化に至るまで国家が直接統制していた。強力な国家機構による統制は、中国が周囲の国々に対して圧倒的優位に立つ基盤をなしたが、内外の状況が悪化すると急速に力を失い秩序を維持できなくなるという弱点があった。この授業では、明・清時代の中国における国家と社会の関係について学び、アジアの伝統的社会のあり方をその成り立ちに遡って理解できるようにする。	
	オセアニアの歴史と社会	本講義では、オセアニア（太平洋地域）の歴史と文化について、主に文化人類学の視点より概観する。太平洋の島々の伝統的な社会や文化について知り、異なる文化が出会った時に何が起こるのか考える。オセアニア社会の歴史的変遷をたどりつつ、今日的なテーマやトピックについても注意を払いながら、オセアニアの歴史と社会についての理解を深める。オセアニアの中でもポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの島嶼部に焦点を当てて学んでいく。	
	ヨーロッパの歴史と社会	この授業では、主に英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏を中心とするヨーロッパにおける美術、文学、音楽、映画などの芸術作品や、ファッション、食べ物・飲み物、建築物といった衣食住に関わるモノに着目する。さまざまな作品や生活に密着したモノを手がかりにして、それらが創作・消費された時代がどのような社会だったのかを読み解いていく。この作業をとおして、先史時代、古代、中世、近世、近代、現代へと至るヨーロッパの歴史の大きな流れを学ぶ。	
	スラヴ・ユーラシアの歴史と社会	この授業でのスラヴ・ユーラシア地域とは、旧ソ連の国々や地域、さらには旧東欧諸国のことを指している。この地域はヨーロッパ地域のみならず、カフカース地域、中央アジア地域を含んでいる。授業では、①1985年にソ連でゴルバチョフが始めたペレストロイカについて、②ソ連解体のプロセスについて、③ペレストロイカと東欧革命の相互関係について、④ソ連解体後のスラヴ・ユーラシアの社会について、④現在のスラヴ・ユーラシアの社会について、⑤今後のスラヴ・ユーラシア社会について多角的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	アフリカの歴史と社会	近年、日本社会においてアフリカの政治経済的重要性は上昇しつつあるものの、高校までの学校教育においてアフリカに関する情報は非常に限られたものとなっている。本授業においては、紛争、病気、環境破壊、自然保護による住民の生活・文化の圧迫など現代アフリカが抱える問題について学ぶ。これらの問題を歴史的な背景から掘り下げる。とくに、政治や経済、国際協力や開発、文化という視点から、それぞれの地域において重要となる問題解決のための視点を養う。	
	アメリカスの歴史と社会	ラテンアメリカ史を学ぶ。ラテンアメリカは地球の陸地面積の約７分の１を占め、その人口は地球人口の約１割におよぶ。にもかかわらす、高校世界史の教科書のなかでラテンアメリカをあつかう頁数はきわめて少ない。例えば、古代文明に関しては中・高校の歴史の授業では四大文明（メソポタミア・エジプト・インダス・黄河）に限定されている。授業ではそれにメソアメリカ文明（アステカ・マヤ）とインカ文明を加え六大文明として捉えるべきことを理解する。さらに、1492年にスペインで起こった一連の出来事を近代の幕開けととらえ、現代がその延長線上にあることを理解する。そして、アメリカス世界の非人道的な植民地支配をきちんと理解したうえで批判精神をもてるようにする。	
	世界の英語	英語はアメリカ合衆国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドで使われているだけでなく、インド、シンガポール、マレーシア、東アフリカの国々、フィリピン、香港など多数の国で公の場面で使われているし、エリート層の間での共通語の役割を果たしている。このようにグローバルなことばとして欠かせないものになっている英語ということばの変種（地域的変種を中心に、人種的変種、社会階層的変種、性別的変種、年齢的変種、使用領域的変種など）と国際性を概観する。	
	異文化コミュニケーション１	本講義では、異文化コミュニケーション論の入門として、様々なコミュニケーションモデルの概観、文化の定義、さらに文化背景に基づく規範、価値観、世界観、知覚がどのように個人の言語、非言語コミュニケーション行動に影響を与えるのかについて考察する。具体的には、コミュニケーションモデル、文化の特徴、価値観、知覚、ステレオタイプ、偏見、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、異文化適応などのテーマについて、実際に行われた国際比較調査結果を紹介しながら検討する。	
	異文化コミュニケーション２	本講義は、「異文化コミュニケーション論１」の内容をさらに掘り下げ、より理論的観点から様々なコミュニケーションレベルの異文化コミュニケーションを探求する。具体的には、高コンテキストと低コンテキスト、集団主義と個人主義、権力格差、帰属理論、社会交換理論、自己開示、自己呈示、対人葛藤、対人コンピタンス、異文化間ビジネス交渉、組織内コミュニケーションなどの理論に基づく異文化コミュニケーションに関する研究論文、事例報告を概観すると同時に、研究の方法論についても検討する。	
	英語音声学１	この授業では、英語音声を中心にして、音声学の基礎を学ぶことを目的とする。まず英語音声の理論的基盤を理解し、次いで、日英の音節構造の違い、超文節的要素（アクセント、ピッチ、リズム、プロミネンスなど）が果たす役割を学習する。その上で、英語の音素（子音、母音）と異音が正しく発音できること、また英語の韻律にそった英文音読ができることをめざす。また、様々な発音記号の理論的背景を理解し、複数の記号で英語が表記できるように指導する。	
	英語音声学２	この授業では、「音声学１」で学習した内容をもとに、英語科教職をめざす学生に必要な知識と指導技術の習得を目的とする。学習内容としては、英語音声変遷の歴史的経緯、一般的な英音と米音を含む世界中の英語変種（地域的、社会階層的）の音声的特徴などについて理解し、教室での英語音声の指導法（個別音と韻律の指導法 、explicit と implicit な指導法、アクティビティと教材の開発など）について学習し、最後に受講生による模擬授業と自らが選んだテーマをもとにしたリサーチの発表を行う。	
	英語学概論	この講義では英語という言語を様々な分野から考察し、英語の教師に必要な英語学の知識を身に付けてもらう。具体的には、つぎの２つのことを目的とする。１．綴り字と発音、音声学と音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などの項目を取り上げ、英語を共時的に学ぶ。２．英語の歴史、発音と綴り字の変化、語形と統語法の変化などの項目を取り上げ、英語を通時的に学ぶ。講義では映画や演説などの言語資料も使用し、分析、観察を行うことで講義内容の理解度をより深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	社会言語学１	基本的に、単一言語の国に住む日本語を母語とするものにとって、言葉と社会やその文化との関係はあまり気にせず過ごせてきたのではないか。しかし近年政治、経済、文化に関して自分の国のことだけを知ればよいという状況ではなくなってきている。そこで問題となってくるのは、大学レベルの外国語の学習と同時に、異文化の理解と異文化間コミュニケーションの可能性についてである。全世界からの移民を抱える多文化社会であり多言語社会からできているアメリカやその他多くの国や共同体についての言葉と文化、言葉と社会との関係の「社会言語学」からのアプローチは有益なものである。研究対象として、たとえば方言と標準語、社会方言、多言語社会の抱える問題などにも言及したい。	
	社会言語学２	本講座は、「社会言語学１」の概念を基本に発展させ、社会言語学の理論、特に言語とコンテキストについて学んでいく。次に社会言語学がどのように外の世界に利用されるかについてみることにする。また、資料的に重複するところもあるが、「異文化コミュニケーション」および「女ことばと男ことば」について「社会言語学１」よりもさらに具体的な例について考えることとする。理論の背景には常に「スピーチ・アコモデーション」という概念に基づいて行われる。最後に言語と文化との関係を考える際によく話題に取り上げられる「言語決定論」について議論してみたい。	
	言語学概論１	この科目では言語の音、構造、意味、運用、習得について学ぶ。「言語学概論２」と合わせて受講することにより、 言語学の基本をカバーできるように構成されている。「言語学概論１」では人間が脳内に持つ文法（形態論、統語論、意味論）とそのアプローチを中心に学ぶ。テキストに書かれている内容を中心に講義した後で、 内容の理解を深めるために具体例を挙げて説明し、（テキストにある練習問題やその他の問題を使った）課題発表を行う。	
	言語学概論２	この科目では「言語学概論１」に引き続き、言語の音、 構造、 意味、 運用、 習得について学ぶ。「言語学概論１」と合わせて受講することにより言語学の基本をカバーできるように構成されている。「言語学概論２」では人間が脳内に持つ文法とかかわりの深い諸分野（機能文法・語用論・応用言語学・母語獲得・第二言語習得論など）を学ぶ。テキストに書かれている内容を中心に講義した後で、内容の理解を深めるために具体例を挙げて説明し、課題（テキストにある練習問題）について発表を行う。	
	College English Grammar A	この科目はCollege English Grammar Ｂを履修するための基礎科目として位置づけられ、 英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝わる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、 複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、 College English Grammar Ｂでパラグラフレベルの英文が書けるようになるための素地を固める。	
	College English Grammar B	この科目はCollege English Grammar Ａの応用科目として位置づけられる。この科目ではCollege English Grammar Ａで培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（１パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、 読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、 トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	Business Communication	グローバル化により英語は事実上世界標準のビジネス言語になっており、外資系のみならず国内企業においても日常的に英語が使用されている。この授業では、ビジネスで使用されている英語表現に慣れるため、TOEICを教材として使用する。TOEICは国際コミュニケーション能力を測定する試験で、その問題には多様なビジネスシーンで使用されるさまざまな英語表現が溢れているので、まさにビジネス・コミュニケーションを身につけるには格好の教材となる。TOEIC教材を学習することで得点アップにもつなげる。	
	TOEFL Academic English	この科目は、北米の大学に留学する場合に要求されるTOEFLのスコアアップを目的とする。留学を希望する学生はTOEFLで各大学が定める基準点を超えるためにはそれに特化したトレーニングが必要である。特にTOEFLのReadingは難解であるため、TOEFLのReading教材を使用して速読の訓練を行う。また、Readingが困難である一因は学生の語彙力不足であるため、TOEFLの読解問題に対応できるようにVocabulary Buildingを重視した授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	Japanese Culture and Society	本授業では、社会義務、集団意識、関係性、ジェンダーによる役割、家族、子育て及びコミュニケーションをテーマとして取り上げ、それらの現状と課題を明らかにする。受講生は現代日本に関する課題文献を読み、毎週の授業においてディスカッションに臨む。これら課題文献の他にも、文書、記事などの紙媒体によるものや、映画やオンライン上から得られる確実な情報も、現代日本の文化と社会を理解し考察するためのてがかりとして考察の対象とする。	
	Japanese History	本授業では、日本の歴史について、政治史、経済史、社会史という伝統的テーマに軸足を置きながら、関連するさまざまなトピックをとりあげ論じる。本授業は最初に歴史学の研究方法について論じ、その後、古代から近代にいたるまでの日本史を広く概説する。受講生は授業前に課題資料を読み、授業では、講義後のディスカッションにも積極的に参加できるようにする。現代の日本を理解するには、歴史を知ることは不可欠である。今日の日本が形成されてきた歴史的経緯を概説することが本授業の目的である。	
	Japanese Religions	本授業では、「『日本の宗教』の枠組を決める境界線は何か、そしてその境界線が研究者によって、長年にわたり、どのように描かれ、また描き直されてきたのか」という基本的な問いについて考察する。この問いが示唆するのは、「日本の宗教」とは創造されたもので、それは観察する研究者によってつくられた方法論的問題に過ぎないかもしれないことであり、そして「宗教」を理解する鍵は研究者が知的に構築するために用いた「ツール」にあるかもしれない、ということである。	
	観光地理学	観光は、観光関連産業による雇用創出や税収増加など、観光地に経済的なプラス効果をもたらす一方、交通の混雑やゴミの投棄など、マイナスの問題も生んでいる。本授業では、観光と旅の違い、観光という概念が生まれた経緯、世界と日本の主要な観光地の特性について理解したうえで、観光地における人々の観光行動と、それが地域の生活や文化にもたらす影響などについて、具体的な事例を通して学ぶとともに、観光資源を活かした地域振興についても考える。	
	観光デザイン論	空港での入国審査の常套句である「渡航の目的はなんですか。お仕事、それとも観光」を糸口にして観光を「遊びのための渡航」すなわち、外務省危険情報の言うところの「不要・不急の渡航」であることを理解する。つまり、観光とは消費行動であり、観光商品とは予期される観光体験が商品化されたものであることを理解する。そして、遊びのための渡航が成立するめには「世界の可視化」が前提となることを理解する。また、観光消費は一種の記号的コミュニケーション過程である。つまり、観光商品の売り手が意味を込めた（エンコード）記号から観光客がその意味を正しく取り出して（デコード）消費している。このような観光消費のメカニズムを理解したうえで、観光パンフレットを記号的に分析する練習をする。	
	観光業界論	日本政府は2008年に観光庁を新設し、「観光立国」を目指している。本授業では、観光産業の構成と特徴、観光政策と観光行政について考察をするとともに、ニューツーリズムと呼ばれる動きについて学ぶ。また、旅行業界、航空業界、宿泊業界等、観光業界にどのような職種があり、どのような業務があるのか、業界のトレンドを知り、今後どのように変化していくかを考える。観光マーケティングの基礎とマネジメントの基本を学びながら、コロナ禍以後のインバウンド等、日本の観光業界が取り組むべき課題とその方法などについて学ぶ。	
	世界遺産論	世界遺産についての基本的事項を理解し、説明できる。自分が世界遺産にふさわしいと思う所を登録要件を満たす形で推薦できる。位置・特徴・魅力・価値などを自分の言葉で具体的に解説できる世界遺産がある。交通手段・経費・食事・土産など具体的な情報を押さえた世界遺産ツアーを企画できる。世界遺産に関する知識や自分の考えを発信する力を鍛錬する。プレゼンテーション（発表）を通じて、世界遺産に関する知識や自分の考えを発信する力を鍛錬する。世界遺産ツアーの企画とガイドや世界遺産候補地の取り組みを学習・体験することで、相即戦力につながる創造力や実践力を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際学部共通科目	ホスピタリティー観光研究1	海外旅行におけるホスピタリティー（おもてなし）には、様々な国や地域の事情、様々な業界の仕事が複雑に絡み合っている。本授業では、旅行会社、ホテル業者、手配会社、バス会社、航空会社等における観光関係業務について理解をしたうえで、世界の観光現場でどのようなホスピタリティーが行われているのかを学ぶ。添乗員の基本から旅行会社の業務内容等、旅行企画の作成発表、商品企画のプレゼンテーションやグループデスカッションを随時行う。	
	ホスピタリティー観光研究2	海外旅行におけるホスピタリティー（おもてなし）には、様々な国や地域の事情、様々な業界の仕事が複雑に絡み合っている。本授業では、世界各地の観光事情、観光業界の基礎知識、専門用語を学び、商品企画、営業、添乗実務など、旅行会社の具体的な業務内容について理解をしたうえで、世界の観光現場でどのようなホスピタリティーが行われているのかを学ぶ。旅行企画の作成発表、商品企画のプレゼンテーションやグループデスカッションを随時行う。	
	国内旅行実務	ツアーの企画や販売、航空券やJR券の販売、添乗業務などを行う旅行会社には、「旅行業務取扱管理者」を1名置くことが義務づけられている。 旅行会社、宿泊施設、航空会社、バス会社などの観光関連産業を目指すために必要となる旅行に関する法律を理解し、「国内旅行業務取扱管理者」の資格を取得できる力を身につける。 国内旅行実務にとって不可欠な各運輸機関の制度ならびに運賃・料金の算出方、宿泊施設の仕組み、さらに各種法律と約款、国内旅行の歴史や今後の動向などについて学ぶ。	
	海外旅行実務	旅行業界全般のビジネスについて理解したうえで、海外旅行に関する基礎知識を身につける。海外旅行実務にとって不可欠な国際航空の制度と国際航空運賃の算出方、鉄道・ホテル等の海外旅行の素材、海外旅行に特有の渡航手続きと出入国手続き、さらに海外旅行商品の具体的なあり方と課題等について学ぶ。 海外旅行に関する法律「旅券法」「出入国関連法」などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の資格を取得できる力を身につける。	
	国際スポーツ協力論	国際スポーツ交流実習の事前準備として、ドイツのスポーツや文化などの知識や現地での活動に必要なドイツ語を学ぶ。また、ドイツでの実習に対応できるよう、生活マナーや経済状況の理解など、国際交流に必要な基本的な知識と態度を身につける。グループ毎にドイツのスポーツ・教育・経済・食文化・日本との国際交流について調査した内容を発表し、知識の共有を図る。また、現地で試みたいスポーツ・文化交流を集約し、プログラムの作成を行う。	共同
	国際スポーツ交流実習	本学の協定校（ドイツのマールブルク大学とケルン体育大学を予定）での実習を通して、スポーツによる国際交流を図るとともに、異文化理解を深める。現地の人々のスポーツへのかかわり方を知り、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。より現地の人々にとけ込むためには、語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部（午前中）でドイツ語の学習も行う。また、サッカーのプロリーグの試合観戦も組み入れられており、日本が学んだスポーツ組織の運営を見聞することが可能である。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英語Ａ（Reading）	この授業は、高校等で既習の文法や語彙を再確認しながら、精読を主とした英文読解の基本を学ぶものである。教材は難度を調整したもの（英検２級程度）を用いて、下記の2点を目標とする。1.基本的な文法をおさえた上で、文と文のつながりが理解できる。2.一定の長さのパラグラフを読み、その内容と要点を正確に理解する。授業では、これらの目標のために英文を正確に読み取るための基本的なスキルを身につけるトレーニングを行う。辞書の使い方も再確認しながらさまざまな英文を読み、受講生の状況に応じて、毎回予習や課題などを課し、学習成果をチェックしながら授業を進めていく。語彙力の増強も合わせて目指したい。	
	英語Ａ（Writing）	英語で文章を書く能力を養うための入門となる授業である。英語を用いた文章作成の際に注意すべき事項のうち、基礎レベルのものを身につけるために実践中心のトレーニングをおこなう。たんなる和文英訳ではなく、自分の言いたいことを英語で発想し、英語らしい表現で書くことを学ぶ。その際、英英辞典を活用して自分の書きたい内容にとって同義語・類義語のうちどれを選択することが最適かについても検討する。それによって、文章力とともに語彙力を伸ばすこともめざす。	
	英語Ａ（Grammar）	英語でコミュニケーションをするための約束事を身につけさせることによって、受信能力（英語の読解力と聴解力）と発信能力（受信した内容を再整理し、それに対して自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力）が求められるさまざまな状況に対応できる実用的な英語力の養成を図る。特にこの授業と次学期の「英語B（Grammar）」では、英語の語、句、節、文についての約束事を身につけるためのさまざまな学習活動を行う。単に文法知識の習得に終わらず、英語を通してことばの持つ不思議さ、面白さにも関心を持たせたい。なお、英検・TOEFL・TOEICなどの実用英語検定試験への対策も考慮した指導を行う。	
	英語Ａ（Oral Communication１）	この授業は、英語リスニングの初級に相当する。大量のインプットなしでは、スピーキングとライティングといった英語のアウトプットは達成できない。従って、「英語Ａ～Ｄ（Oral Communication１）」では、大量の英語リスニングを実践する。本コースは、英語の聞き取り能力の基礎を築くことを目的とする。英語では、音の脱落、連結、同化のような現象が頻繁に起こるため、聞き取りが困難になることが多い。ここでは、音声変化パターンを学習し、句や文レベルでの聴覚像を形成するための訓練を行う。	
	英語Ａ（Oral Communication２）	この授業は、英語スピーキングの初級に相当する。これまで身につけたスキルを踏まえて、社会生活の様々な場面でコミュニケーションをはかることができる力を養成する。音読・暗唱・構文練習は、プレコミュニケーション活動としては効果的であるが、本来のコミュニケーションではない。従って、「英語Ａ～Ｄ（Oral Communication２）」では、メッセージ伝達を中心としたコミュニケーション活動を主に行う。本コースでは、ロールプレー・ペアワーク・ゲームなどを通じて、買い物・電話・学校生活などの特定の場面で、聞き手の発話を理解し、自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な個々の発音や、句や文単位での音の同化や連結の練習も平行して実践する。	
	英語Ａ（Integrated English）	実際のコミュニケーションでは、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4技能を単独で用いることはまれで、ほとんどの場合、どれかを組み合わせて使う。この授業では、4技能を統合的に用いることにより、初歩的かつ実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。取り扱う内容は比較的に取り組みやすい日常的な話題から社会的な話題まで広範囲に及び、様々な文献資料を読むことで最新の情報や人々の考えを理解する。そのうえで、発信する技能統合型の活動も行う。	
	英語Ｂ（Reading）	この授業では、「英語Ａ（Reading）」で習得した文法や語彙の力を活用し、より難度の高い教材（英検準１級程度）を用いて英文読解の力をつける。物語やエッセイ、評論など多様な英文を用いて、一定量の長さの文章をより速く、より深く理解するトレーニングを行う中で、パラグラフリーディングなどリーディングのためのスキルを身につけることを目指す。受講生の状況に応じて、毎回予習や課題などを課し、学習成果をチェックしながら授業を進めていく。学術的な語彙力の増強も合わせて行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英語Ｂ（Writing）	英語で文章を書く能力を養うための入門となる授業である。「英語Ａ（Writing）」に引き続き、英語を用いた文章作成の際に注意すべき事項のうち、基礎レベルのものを身につけるために実践中心のトレーニングをおこなう。たんなる和文英訳ではなく、自分の言いたいことを英語で発想し、英語らしい表現で書くことを学ぶ。その際、英英辞典を活用して自分の書きたい内容にとって同義語・類義語のうちどれを選択することが最適かについても検討する。それによって、文章力とともに語彙力を伸ばすこともめざす。	
	英語Ｂ（Grammar）	英語でコミュニケーションをするための約束事を身につけさせることによって、受信能力（英語の読解力と聴解力）と発信能力（受信した内容を再整理し、それに対して自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力）が求められるさまざまな状況に対応できる実用的な英語力の向上を図る。特に前学期の「英語Ａ（Grammar）」とこの授業では、英語の語、句、節、文についての約束事を身につけるためのさまざまな学習活動を行う。単に文法知識の習得に終わらず、英語を通してことばの持つ不思議さ、面白さにも関心を持たせたい。なお、英検・TOEFL・TOEICなどの実用英語検定試験への対策も考慮した指導を行う。	
	英語Ｂ（Oral Communication １）	この授業は、英語リスニングの中級クラスに相当する。音声教材をよく聞き、モデルに近い音で繰り返し発音してみることにより、英語の聴覚像を身につけることを目指す。自然な英語に慣れるため、英語圏の映画・ドラマ・ニュース・インタビューなども教材として用いる。耳から聞こえてくる音声を即座に声に出して繰り返すというシャドーイングを徹底的に行う。日常生活において大量の英語リスニングを心がけることがリスニング能力を向上させる切り札であるので、課外でのリスニングアサインメントも定期的に課す。	
	英語Ｂ（Oral Communication ２）	この授業は、英語スピーキングの初級に相当する。これまで身につけたスキルを踏まえて、社会生活の様々な場面でコミュニケーションをはかることができる力を養成する。音読・暗唱・構文練習は、プレコミュニケーション活動としては効果的であるが、本来のコミュニケーションではない。従って、「英語Ａ～Ｄ（Oral Communication２）」では、メッセージ伝達を中心としたコミュニケーション活動を主に行う。本コースでは、ロールプレー・ペアワーク・ゲームなどを通じて、買い物・電話・学校生活などの特定の場面で、聞き手の発話を理解し、自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な個々の発音や、句や文単位での音の同化や連結の練習も平行して実践する。	
	英語Ｂ（Integrated English）	この授業では、英語Ａ（Integrated English）に引き続き、4技能を統合的に用いることにより、実践的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。同科目の英語Aと同様、基本的に英語が教室内のコミュニケーションで使用される言語となる。取り扱う内容も日常的な話題から社会的な話題に及び、最新の情報、情勢を的確に把握する力を強化していく。理解力だけでなく、調べ上げた内容を適切に伝える発信力の向上を意識した活動も随時取り入れていく。	
	英語Ｃ（Reading）	この授業では、「英語Ｂ(Reading)」までに習得した文法や語彙を活用し、よりAuthenticな英語の文章をより速く、より深く読みこなす力を養成することを目指す。筆者の中心メッセージを押さえることに主眼をおいたリーディングスキルを身につけることを目指したトレーニングを行う。教材は小説、エッセイ、評論、記事などを用いて、数ページごとの把握を素早く行い、日本語訳や要約ができるようにする。英文内容の正確な理解のために、英語圏の文化や社会的背景についても教授する。受講生の状況に応じて、毎回予習や課題などを課し、学習成果をチェックしながら授業を進めていく。	
	英語Ｃ（Writing）	この授業では、「英語Ｂ（Writing）」までに習得した英文を作る力を活用し、一定量のまとまった正確な英語の文章を書く力を養う。「英語Ｄ～Ｆ（Writing）」のエッセイライティングにつながるパラグラフライティングの練習である。授業の活動は、和文英訳ではなく、自分の言いたいことを英語の発想で英語らしい表現を活用して表す、実践中心のトレーニングとなる。目標は以下の2点とする。1. 伝えたいことが明確に伝わるよう、語や表現の選択に気を配り、短い文章を作成できる。2. 書いた後に基本的な文法事項の点検ができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英語Ｃ（Oral Communication １）	この授業は、「英語Ａ（Oral Communication １）」「英語Ｂ（Oral Communication １)」で積み重ねてきたリスニング訓練を応用し、英語国民が日常的に接しているマスコミで使われる英語のリスニングにチャレンジすることを目的とする。映画やミュージカルを題材にして、シャドーイング・ディクテーション・聴解・要約などを行うことにより、自然で早い英語を聞きとれるようになる訓練を行う。このほか、英語圏で放送されたニュース・スピーチ・インタビューなども、授業や課外アサインメントで取り上げる。	
	英語Ｃ（Oral Communication ２）	この授業は、英語スピーキングの中級クラスに相当する。「英語Ｂ（Oral Communication ２）」で身につけたコミュニケーションスキルを媒体に、社会生活で遭遇する色々な場面にも即興的に対応できる会話能力を養成することを目指す。授業では、「英語Ｂ（Oral Communication ２）」と同様に、ロールプレー・ペアワーク・ゲームなどを通じて、大量のアウトプットを行う。また、つなぎの言葉の使用、会話の進行のコントロールなどのコミュニケーション・ストラテジーを用いる練習も行う。	
	英語Ｃ（Presentation）	英語によるプレゼンテーションの初級クラス（４段階の中の第１段階）に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、英語の各種アナウンスメント・ショートスピーチなどの発表や寸劇・ミュージカルなどの英語の演技を通して自己表現力を向上させる手法を学ぶ。	
	英語Ｃ（Integrated English）	英語Ａ、Ｂ（Integrated English)での学習内容をもとに、文化・社会・環境問題や世界各地の時事問題を英語で学ぶスタイルをさらに増やしていく。テキスト、論文、英字新聞などの読み物を通して、多種多様な社会問題に触れ、国内外の時事・文化・社会についての知識を身に付けることで世界を見るその視野を広げていく。「読む、書く、聞く、話す」の4技能をベースにするが、英語Ｃ(Integrated English)では特に発信力（自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力）に重点をおいている。	
	英語Ｄ（Reading）	この授業では、「英語Ｃ（Reading）」までに習得した文法や語彙を活用し、より高度なAuthenticな英語の文章をより速く、より深く読みこなす力を養成するトレーニングを行う。自らの英語での発信（プレゼンテーション、論文執筆等）にもつながる能動的な英文読解ができる力を身につけることを目指す。教材は小説、エッセイ、評論、記事、学術論文等多様な素材を用いる。英文内容の正確な理解のために、英語圏の文化や社会的背景についても教授する。受講生の状況に応じて、毎回予習や課題などを課し、学習成果をチェックしながら授業を進めていく。	
	英語Ｄ（Writing）	「英語Ｃ（Writing）」で習得した英語表現力を基に、パラグラフ・ライティングの基本を学ぶ。英文の基本的単位であるパラグラフを組み立てる作業をする。そのために、模範となる英文を多量に読むという予習を課す。英文による表現や語彙を学ぶことにより、日常的なテーマに対する自分の考えを、初級レベルの英語でありながら、パラグラフ・ライティングの仕組みに基づいて論理的に表現できるようにすることを目指す。毎回、予習や課題などを課し、学習成果をテストでチェックしながら授業を進める。	
	英語Ｄ（Oral Communication １）	この授業は、英語リスニングの総仕上げとして、これまで学んできたことをもとに、「英語Ｃ（Oral Communication １）」に引き続いて、英語圏のマスコミで使われる英語のリスニングにチャレンジすることを目的とする。BBC・CNN・ABCなどのイギリスやアメリカのラジオ・テレビ番組で放送されているニュース・スピーチ・インタビューなどを教材として用いる。シャドーイング・ディクテーション・選択的リスニング・聴解・要約などを励行することにより、ナチュラルスピードの英語を聞きとれるようになる訓練を行う。また、聞き取った内容について、自分の意見を英語で述べる練習も行う。課外でのリスニングアサインメントも定期的に課す。	
	英語Ｄ（Oral Communication ２）	この授業は、様々な社会問題、英語圏および自国の文化などについて自分の考えを論理立てて相手に的確に伝える力の基礎を築くことを目的とする。そのような高度なスピーキング力を養うためには、源泉となるインプットが不可欠である。従って、授業ではまず、新聞・雑誌・ドラマ・ニュースなどのリーディングやリスニングを行う。テキストの内容確認を行った後、そのトピックについて、クラス全体、またはグループやペアでディスカッションし、考えを深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英語Ｄ（Presentation）	英語によるプレゼンテーションの中級クラス（４段階の中の第２段階）に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、有名人の各種英語スピーチの一部を暗記して実践するとともに、身振り・手振り・顔の表情・体の動き・声の要素などのデリバリー能力の理論と実践を学ぶ。	
	英語Ｄ（Integrated English）	英語Ｃ(Integrated English)での学びをもとに、さらに発展したsocial issuesを英語で学んでいく。同科目の英語Ｄでは自ら調べた情報を活用して、自分の考えや意見を論理的にまとめる力を磨いていく。また、各社会問題についてパートナーまたは教員との質疑応答やディスカッションに積極的に参加することで、リスニング、スピーキング力を身に付けていく。こういった活動をすることで受信能力（英語の読解力と聴解力）と発信能力（自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力）をバランスよく養成する。	
	英語Ｅ（Writing）	「英語Ｄ（Writing）」の授業で習得したパラグラフ・ライティングについての力をふまえて、さらに時事問題、社会問題に関する自分の考えを表現できるようにすることを目指す。模範となる英文を多量に読ませる予習を課す。英文による表現や語彙を学ぶことにより、時事問題や社会問題に関する自分の考えをパラグラフ・ライティングの仕組みに基づいて論理的に表現できるようにすることを目指す。毎回、予習や課題などを課し、学習成果をテストでチェックしながら授業を進める。	
	英語Ｅ（Presentation）	英語によるプレゼンテーションの中級クラス（４段階の中の第３段階）に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、さまざまなトピックに基づいて英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、「英語Ｄ（Presentation）」で学んだデリバリー能力を駆使して作成した各スピーチをクラス内で発表する。	
	英語Ｅ（Integrated English）	上級レベルの英字新聞や映像資料を通して、様々な社会問題への理解を深め、幅広い知識を身に付ける。難易度の高い英文に挑戦することになるが、4技能を融合的に運用する力を身に付けることも念頭に置いて授業を進めていく。多くの文献資料を参照しつつ、英語での情報収集力・整理力を身につけ、自らの考えや価値判断を交えることができるようにしていく。そのために、ディスカッションの機会を増やし、同科目の英語Fに向けての円滑な移行を図っていく。	
	英語Ｆ（Writing）	「英語Ｄ（Writing）」と「英語Ｅ（Writing）」で学んだパラグラフ・ライティングの技能を活用し、英語の文章を構成するトレーニングを行う。たとえば、トピックの選び方、論じる範囲の限定、データの収集、アウトラインの作成法などを学び、複数のパラグラフを論理的に構成してひとつの文章を書く訓練を実施する。そのために、うまく書かれた英語の文章の構成を分析的に学ぶことから始め、特定のテーマについて実際にいくつかのパラグラフからなる文章を作成してみる。	
	英語Ｆ（Presentation）	英語によるプレゼンテーションの上級クラス（４段階の中の第４段階）に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から、英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、informative speech、 ceremonial speech、 persuasive speechなどの英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、デリバリー能力を駆使して作成した各スピーチをクラス内で発表する。	
	英語Ｆ（Integrated English）	同科目の英語Ｅの学びをもとに、特定の社会問題に関する情報を活用し、批評的思考も加えたうえで、自らの意見や考えを論理的に伝えることができるようにする。その際、ライティングに必要な論述形式（prewriting、 organizing、 writing with a topic sentence and supporting details、 evaluating、 rewriting)を使っていくつかのパラグラフを書くことができるような訓練を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	観光英語	この授業では、観光業に関心を持つ学生のニーズを満たすため、航空業、ホテル業などを含めた旅行業に関連する基礎的な英語を通して、特にリスニング、スピーキングのコミュニケーション能力向上を目標とする。ビデオ、音声教材などを利用して、旅行英語に特有の語彙、イディオム、基本表現を習得すると同時に、観光業で求められる一般常識の獲得をめざす。具体的には、海外旅行で想定される様々な場面でのコミュニケーション・パターンを修得するとともに、観光業で使用される基本的な語彙、英語表現を使いこなせるようになることを目標とする。	
	ビジネス英語	グローバル化の影響で、外資系企業のみならず日本企業のなかにも英語を社内公用語として使用する企業が増えている。この授業では、履歴書の書き方、面接、電話の対応、クライエントとの商談、商品のプレゼンテーションなど、英米圏のオフィスで日常業務遂行のために使用されている英語表現や語彙の修得をめざす。具体的には、オフィスやビジネスシーンにおける多様なコミュニケーション・パターンを習得し、オフィスで使用される基本的な語彙、英語表現を使いこなせるようになることを目標とする。	
	英米文学概論	主な英米文学作品を文学史に沿って学び、作品の醍醐味を学ぶとともに、基礎的な形式や題材、用語、時代背景、代表的な批評理論についても合わせて学び、英米文学を内在・外在批評を通して総合的に理解する。授業は講義中心だが適宜教科書及び講義内容に沿った知識の整理、確認を行う。到達目標は①代表的な英語文学作品についての知識をその時代背景とともに身に付けることができる。②作品の鑑賞方法、作品批評の方法論について理解する。③これらを通して文学作品の表現の中に表された人の「心」を理解することができる。	
	伝道英語１	天理教の基本教理を理解し、英語でそれを適切に表現する方法を学ぶ。中山みき天理教教祖の90年間の生涯を歴史的背景に抽象的教理理解を目指す。現代英語圏社会で天理教のメッセージがどのような意味を持つのか、何を示唆するのか、実際にどのように伝えられているのかを検討する。更に天理教の神概念、世界観、教祖論、身体論、などの基礎宗教学かつ中立的な枠組みを活用しながら、布教現場を言及し、非天理教用語の活用をどのような効果があるのかも試みる。	
	伝道英語２	天理教の英語用語に精通することによって天理教教義を英語で正しく理解する読解能力と天理教教義を英語で案内・説明・解説する能力、そしてテーマに基づいて英語で教理を書く能力を養成する。『天理教教典』の英語版のテキストを活用して天理教独特の英語表現を学ぶと共に、天理教の各種テーマに基づいて英語でディスカッションしたり発表したりする実践的なクラスを展開する。また、読解と発表で培った語彙を生かして天理教教義を英語で作文する力を養う。	
	英米語概論１	３・４年次の「英米語演習」等で行う英米社会および国際社会についての専門的な研究への導入となる科目である。国際社会の形成過程においては、近代ではイギリスが、また現代ではアメリカが指導的役割を担ってきたということを前提に、英語圏の視点から見た「国際社会」の特徴について学修する。同時に、その「国際社会」はこれまで戦争や貧困、環境破壊といったさまざまな問題を生み出してきたことをふまえ、英語圏以外の視点から見た「国際社会」のありようにも目を配り、現代「国際社会」の限界や問題点についても検討する。	
	英米語概論２	３年次の「英米語演習１」「英米語演習２」と４年次の「英米語演習３」「英米語演習４」で行う英語学への入門となる科目である。この科目では、英語学の基礎的な知識を身につけつつ、特に英語音声学に重点を置いた内容となる。例えば、教室で習う英文法は規範的な内容であるが、英語という言語が実際に使用される場面では、テキストでは習わないような現象が起こっている。つまり、記述文法の観点からの考察も取り入れた授業となる。また、様々な文献資料を読み、その内容を理解することも求められる。	
	英米語概論３	この授業は3、4年次の「英米語演習（英語教育）１-4」を中心として行う英語教育学の専門的な研究への入門となるものとして位置づけられた科目である。テキスト批評、英語文献講読等のゼミでの学習方法に加え、現在の英語教育を取り巻く社会状況の理解、英語学習法や英語教授法等、英語教育学の基本的な知識の習得を目指す。授業は視聴覚教材等を活用し、講義とディスカッションで行う。また、現職教員の声を聞いたり、学校現場で用いられる教科書の比較など体験的な活動も行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英米語概論４	演習に向けてアメリカ合衆国の歴史的事実を再構築するため該当する資料を読み、分析力を養いながら解釈する方法を学ぶ。1920年代から1960年代の間のアメリカ文化史に注目し、とりわけ21世紀の「アメリカらしさ」の源を遡り、歴史と現在を考慮しながら未来へのアメリカを語る。このような目的を達成するために、各自授業で紹介する課題のもとに一人(もしくは一グループ)5分程度の口頭説明、またはレスポンス・ペーパーに記録し、知識の蓄積を行う。	
	英米語概論５	多文化・多民族国家アメリカを解剖するためにアメリカ合衆国の大統領制およびその政治形態、アメリカの経済史および地域経済の特徴、移民の歴史的経過と移民問題の現状および課題、女性問題、家庭問題、教育問題などを含む社会問題を幅広く学ぶ。具体的には、多文化・多民族国家アメリカを多角的に理解できるように幅広く文献を読む力を養うこと、多文化・多民族国家アメリカの理解を促進する英語の資料を収集し、読破する力を養うことの2点を授業の到達目標とする。	
	Content Based English １	Content Based English １は、2・3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。内容は国際関係論を想定しており、米国大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to International Relationsのレベルを想定している。２年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、担当教員が国際関係論に含まれる各トピックを英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテーキングし、ディスカッションに参加できる能力を養成する。	
	Content Based English ２	Content Based English ２は、2・3・4年次の選択科目として開講し、英語母語話者がすべてを英語で展開する講義授業である。内容は米国の文化あるいは歴史を想定しており、米国大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○のレベルを想定している。また、この講義は、3年次に交換留学あるいは認定留学を予定する学生向けの講義としても位置付けている。２年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、担当教員が各トピックを多角的に英語で講義する。受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテーキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	
	Content Based English ３	Content Based English３～５は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテーキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	
	Content Based English ４	Content Based English３～５は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテーキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	
	Content Based English ５	Content Based English３～５は、3・4年次の選択科目として開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この科目は英語母語話者の教員が担当し、米国大学の1～2年次が主に受講するIntroduction to ○○に相当する授業レベルを想定している。2年次の秋学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義し、受講学生は英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテーキングし、ディスカッションに参加する能力を養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英語科指導法１	「英語科指導法１、２」は、英語科教員免許の取得を希望する受講生を対象に実施する。「英語科指導法１」では、英語科教員を目指す者への心構えを身につけさせ、また教員免許取得に必要な予備知識を与えることを目的とする。具体的には、「英語科教員をめざす理由」「英語科教員に求められる英語学力」の確認に始まり、英語教授法の歴史と各教授法の概要を学び、さらに過去と現在の日本社会と英語教育の関係、および「学習指導要領」の内容について学習する。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論を行う。	
	英語科指導法２	この授業は、「英語科指導法１」の継続科目として実施する。ここでは、英語科教員に求められる知識のうち、言語習得理論（「言語生得説」「インプット仮説」「動機づけ」「意識化と明示的知識の役割」など）の基礎を学習し、続いて各教授法（「文法訳読法」「直接法」「Cognitive Approach」「Audio-lingual Method」「Communicative Approach」）を用いた授業展開、各言語領域の指導方法、指導案の作成などについて学習する。また、実際の授業を視聴覚教材などで学習したのち、受講生一人ひとりによる模擬授業を実施する。	
	英語科指導法３	「英語科指導法３、４」は、「英語科指導法１、２」の発展科目として実施する。「英語科指導法３」では、まず英語科教員に求められる知識と技術のうち、より実践的で、より教室での指導に関係する項目について学習する。クラスルーム研究のうち、特にInput/Output関連研究、イマージョン教育、学習方略研究などについて学ぶ。後半では、発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、個々の言語領域の指導法とテクニックについて学習し、メディア・音声機器の使用、補助資料・小テストなどの作成を体験する。	
	英語科指導法４	「英語科指導法４」では、受講生にそれぞれの言語領域をテーマにした模擬授業を体験させることを主な目的とする。「英語科指導法３」で学んだ具体的な言語領域の指導法をもとに、実際の教科書を用いた英語４技能の指導方法と、発音・文法・語彙の指導方法の習得をめざす。その上で、いっそう受講生による模擬授業を実施する。また教育実習の事前指導として、実習生の心得と予備知識、学校の組織と教員の任務などに関する講義、中・高英語科教員を招いての講話、実習前現場訪問による授業参観などを行う。	
	ガイド英語	旅行業界のインバウンドのニーズに対応するため、日本の観光地の紹介を始め、日本の様々な文化側面を紹介するために必要な語彙と英語表現を学修する。特に、観光資源豊富な奈良という立地的優位性を活かし、奈良の観光名所に特に焦点を当てた授業を行う。具体的には、外国人がしばしば質問する日本的事象を英語で説明できるようになるとともに、本学の所在地である奈良の社寺仏閣や史跡、および隣接する京都や大阪の観光名所を外国人に英語でガイドできるようになることを目標とする。	
	時事英語	英語通訳の理論と実践の入門講座。英語会話などの初歩的な通訳訓練からスピーチなどメモを取りながら行う通訳に至るまで、幅広い分野の逐次通訳をこなすために必要な理論と実践能力の養成を目指す。この授業では、現代社会や時事問題に関するスピーチやインタビューを英語から日本語、日本語から英語に訳す逐次通訳に焦点を絞る。英語通訳に必要なフォローアップ、リスニング、要約、メモの取り方、話し方、日常の訓練法などを具体的に学び、即通訳実践に応用する。	
	通訳	英語通訳の理論と実践の入門講座。英語会話などの初歩的な通訳訓練からスピーチなどメモを取りながら行う通訳に至るまで、幅広い分野の逐次通訳をこなすために必要な理論と実践能力の養成を目指す。この授業では、現代社会や時事問題に関するスピーチやインタビューを英語から日本語、日本語から英語に訳す逐次通訳に焦点を絞る。英語通訳に必要なフォローアップ、リスニング、要約、メモの取り方、話し方、日常の訓練法などを具体的に学び、即通訳実践に応用する。	
	翻訳	この授業では、英語で書かれたテキストを日本語に翻訳するための基礎練習を行う。「英語を日本語にする」という一般の授業でも行われているレベルから、「英語で表現されたことを異言語である日本語で表現しなおす」という翻訳というレベルに高めることを目標とする。そのため、英語と日本語の文の構造の違いを認識するための単文訳で基礎を学び、その後まとまったテキストの翻訳に挑戦する。最終目標は、英日・日英翻訳において、原文の意味・雰囲気に忠実で、かつ訳出言語の発想法に沿った翻訳をする理論や技術を理解、運用できるようになることである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英米語学科専攻科目	英米語演習１	２年次まで受講した語学科目、概論科目、Content Based English科目を通じて得られた英語力やさまざまな知識をふまえて、英語学、英米史、英米社会、英米文学、英語教育などのうちで関心のある分野のテーマを少人数の演習形式で専門的に深く研究する。次年度の「英米語演習３」と「英米語演習４」での研究や「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。毎回担当者を決めて、担当者がその授業で使われる和文・英文の文献を要約し、関連する事項を調べた内容を加えて発表する。その後、それに基づき、クラスディスカッションを行う。	
	英米語演習２	「英米語演習１」での学習内容をふまえて、英語学、英米史、英米社会、英米文学、英語教育などのうちで関心のある分野のテーマを少人数の演習形式で専門的に深く研究する。次年度の「英米語演習３」と「英米語演習４」での研究や「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。毎回担当者を決めて、担当者がその授業で使われる和文・英文の文献を要約し、関連する事項を調べた内容を加えて発表する。その後、それに基づき、クラスディスカッションを行う。	
	英米語演習３	３年次の「英米語演習１、２」で行った基礎研究を土台にして、英語学、英米史、英米社会、英米文学、英語教育などの分野から各自が選んだ関心のあるテーマについて、ひとりひとりの研究の深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための代案の提示を目指す。卒業課題研究・卒業論文を執筆するためのリサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方などを学び、論文執筆に着手する。	
	英米語演習４	本コースは、英米語演習の総仕上げである。「英米語演習３」までの内容をふまえて、英語学、英米史、英米社会、英米文学、英語教育などの分野から各自が選んだ関心のあるテーマについて、ひとりひとりの研究のさらなる深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための代案の提示を目指す。英米語演習３で学習した、リサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方に従って、論文を執筆・推敲し、完成させる。	
	英米語海外語学実習	この実習の目的は、実際に英語圏へ出かけトータルな英語の環境下で生きた英語に触れると共に、異なる価値観をもつ多様な人々とのコミュニケーションを通じて異文化体験をすることにある。実習は、スカジット・バレー・カレッジ とマレー州立大学のそれぞれのESLプログラムの３週間集中語学授業とアクティビティであり、言語（英語）と文化とコミュニケーションをトータルに学ぶ。英語のオーラルコミュニケーション能力の養成に加え、アメリカの自然や地理、歴史、文化を学び、後の英語学習と将来のキャリアの可能性を世界に広げることを期待する。また、現地での実習が効果的な成果をあげられるよう、前後には準備と振り返りの研修を行う。	
	卒業課題研究	この「卒業課題研究」は選択必修科目であるので「卒業論文」を執筆しない学生はこの科目を履修する。「卒業論文」のようにオーソドックスな論文執筆ではない代わりに、研究レポートや、それに準ずるプロジェクトを文書としてまとめる。「卒業論文」が４単位配当であるのに対して「卒業課題研究」は２単位配当で、要求される執筆分量が卒業論文の半分になる。履修学生は３～４年次で履修する「英米語演習」の担当教員の指導を受けながら各自のテーマを研究する。	
	卒業論文	英米語学科の「卒業論文」は選択必修科目である。英語または日本語のどちらの言語で「卒業論文」を執筆してもよい。「卒業論文」を執筆する学生は、３年次の「専攻演習」を受講するときから担当教員の指導を受けて論文のテーマを決定し、文献資料を収集すると共に収集した文献資料を精読する。また４年次生になると卒論執筆のための作業が本格化するが、主査となる「英米語演習」の担当教員から、授業内外で指導を受けながら「卒業論文」を執筆する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	天理教学部門	伝道実習１	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月１回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
		伝道実習２	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよろこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
		伝道実習３	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
		伝道実習４	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の２回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
	人文科学部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
		日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
		日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
		日本語文法論１	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、た形、ない形などのような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語文法論２	「日本語文法論１」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
		日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
		言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推理し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法項現象について解説する。そのうえで、履修生が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
		日本語教授法１	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
		日本語教授法２	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
		第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か？」「インプットとアウトプットのどちらが大事か？」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか？」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
		日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級Ｉ』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
		日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
	社会科学部門	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1)コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。	
		情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに応答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。	
		児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのＹＡサービスについても、この授業で取り上げる。	
		情報サービス演習１	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
		情報サービス演習２	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用の方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
		図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」にとどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
		情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	社会科学部門	情報資源組織演習１	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
		情報資源組織演習２	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
		図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
		図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとっての取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総合目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
		博物館実習１	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
		博物館実習２	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を実地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中５日分の実習を集中講義で行う。	共同
		矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
		更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

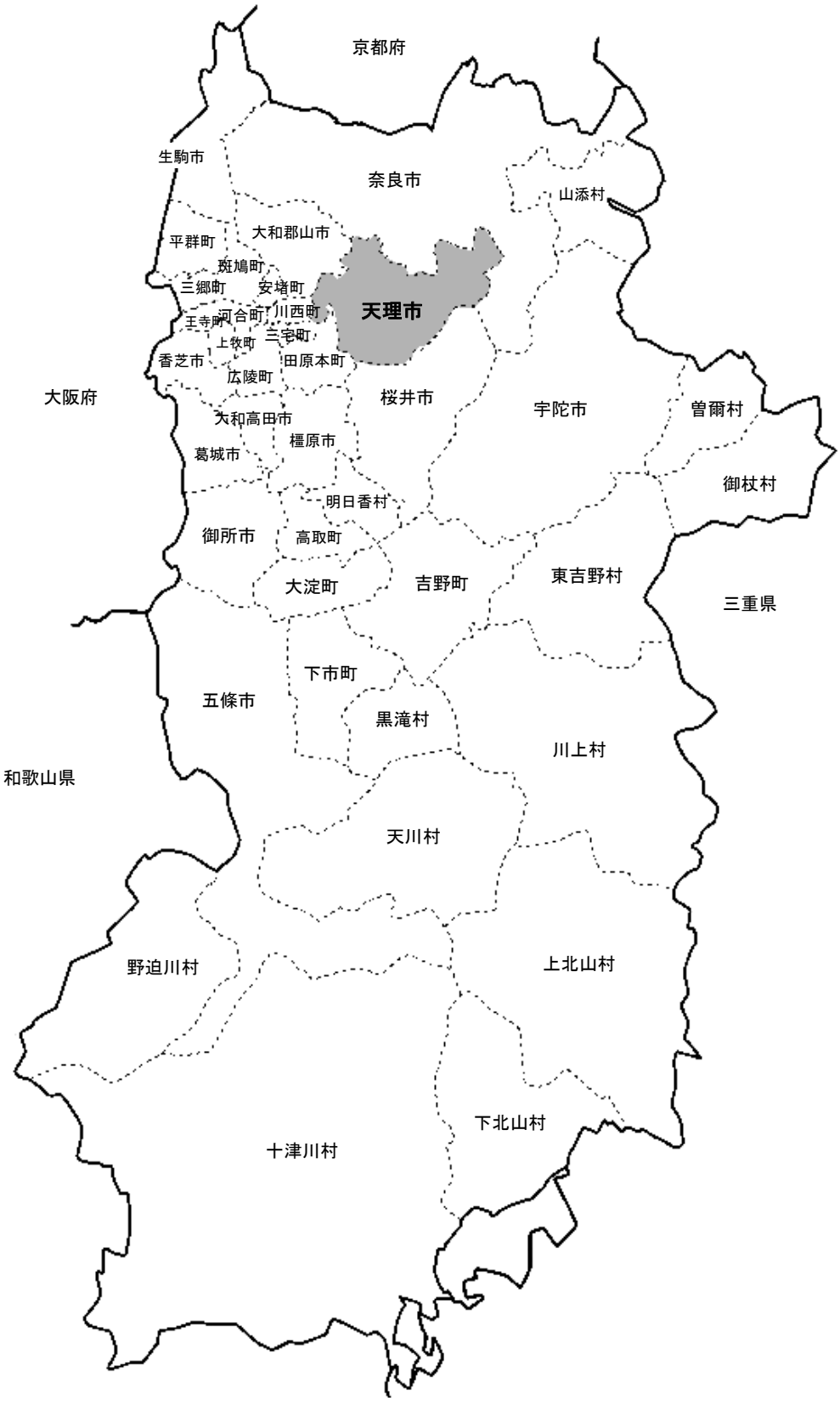
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を実現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
		矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教誨師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （119 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （122 山本道次/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
		犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
	教職に関する専門教育科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
		教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えるとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
		教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
		教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷(明治以前から昭和初期までの学校教育課程)ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原理について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
		学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識･理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようにあるべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
		道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT)を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	
		教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
		教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
		介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通して、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことによって、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

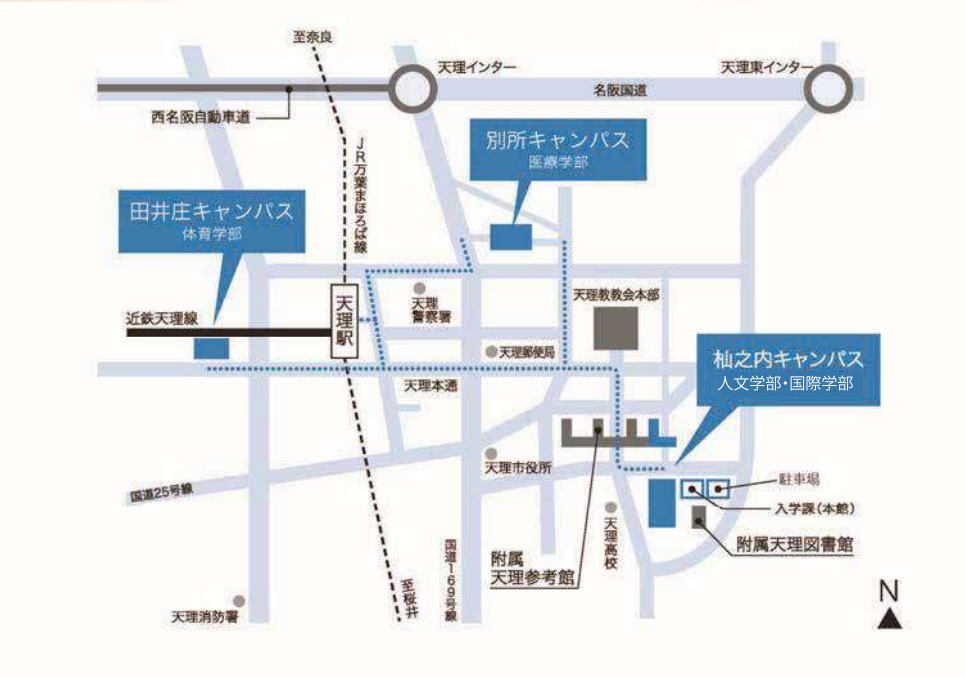
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
		教育実習１	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間）出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習１のみの登録で可としている）	
		教育実習２	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間）出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習１と合わせて教育実習２も登録することとしている）	
		人権教育論１	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なのかということについて学んでいく。	
		人権教育論２	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」「性をめぐる課題」「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
		特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
		学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウエビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師‐子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

（1）都道府県内における位置関係の図面



（2）最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



大学へのアクセス＜天理駅から＞

杣之内キャンパスへは
- ・通学バス（天理大学行）で約8分
- ・徒歩の場合　東へ約2km（約20分）

田井庄キャンパスへは
- ・徒歩　西へ約700m（約5分）

別所キャンパスへは
- ・徒歩　東へ約1.2km（約15分）
- ・バス利用で約10分

＜大阪から＞（所要時間約1時間）

近鉄奈良線「難波」駅より奈良行き（快速急行・急行）に乗車約35分、「大和西大寺」駅で下車。天理行き（急行）に乗車約20分、「天理」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行きに乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

＜京都から＞（所要時間約1時間）

近鉄京都駅「京都」駅より天理行き（急行）に乗車約60分、「天理」駅で下車。「京都」駅より橿原神宮前行き（急行）に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

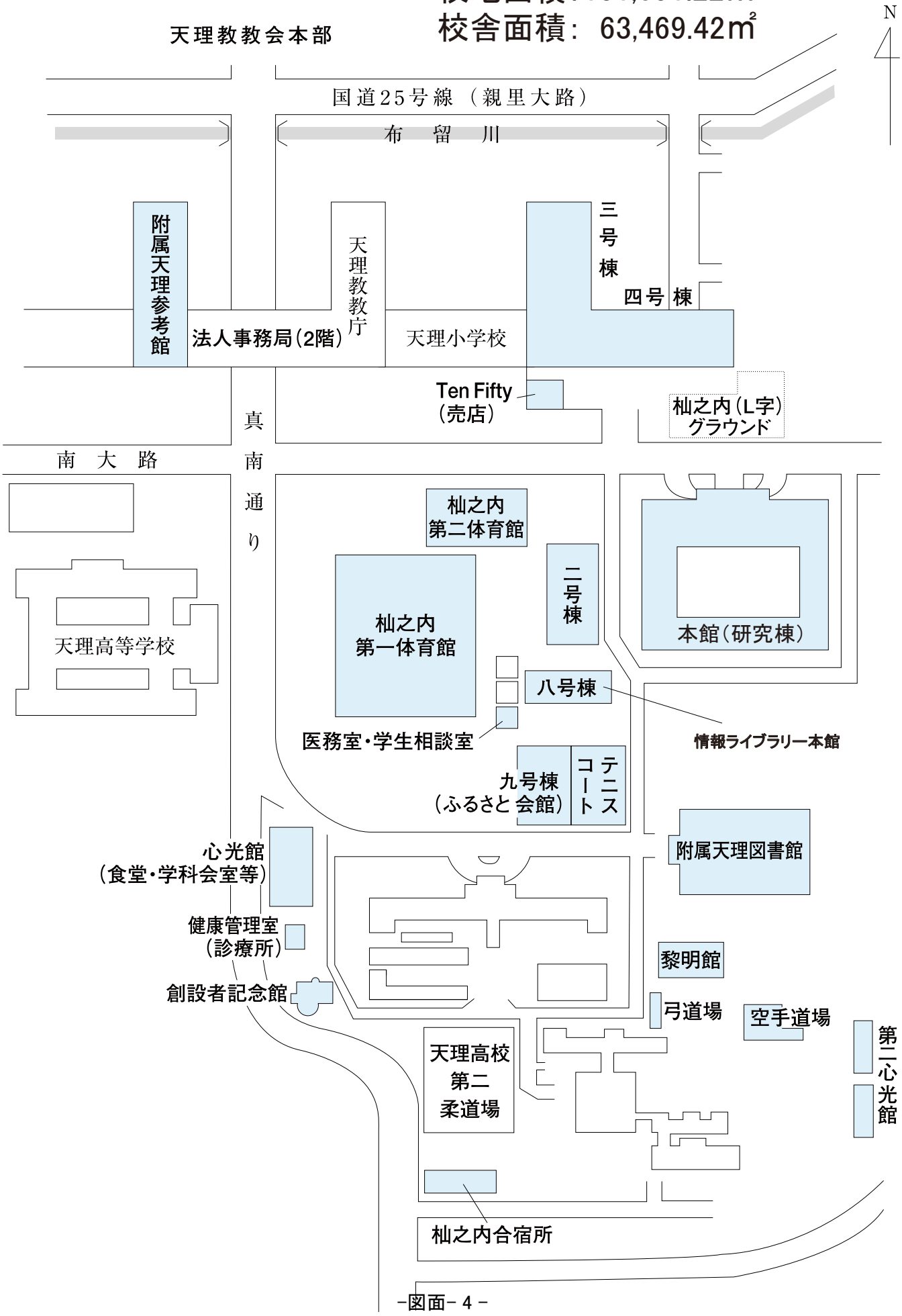
＜神戸から＞（所要時間約1時間半）

阪神なんば線「三宮」駅より奈良行き（快速急行）に乗車約70分、近鉄奈良線「大和西大寺」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行き（急行）に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

（３）校舎、運動場等の配置図

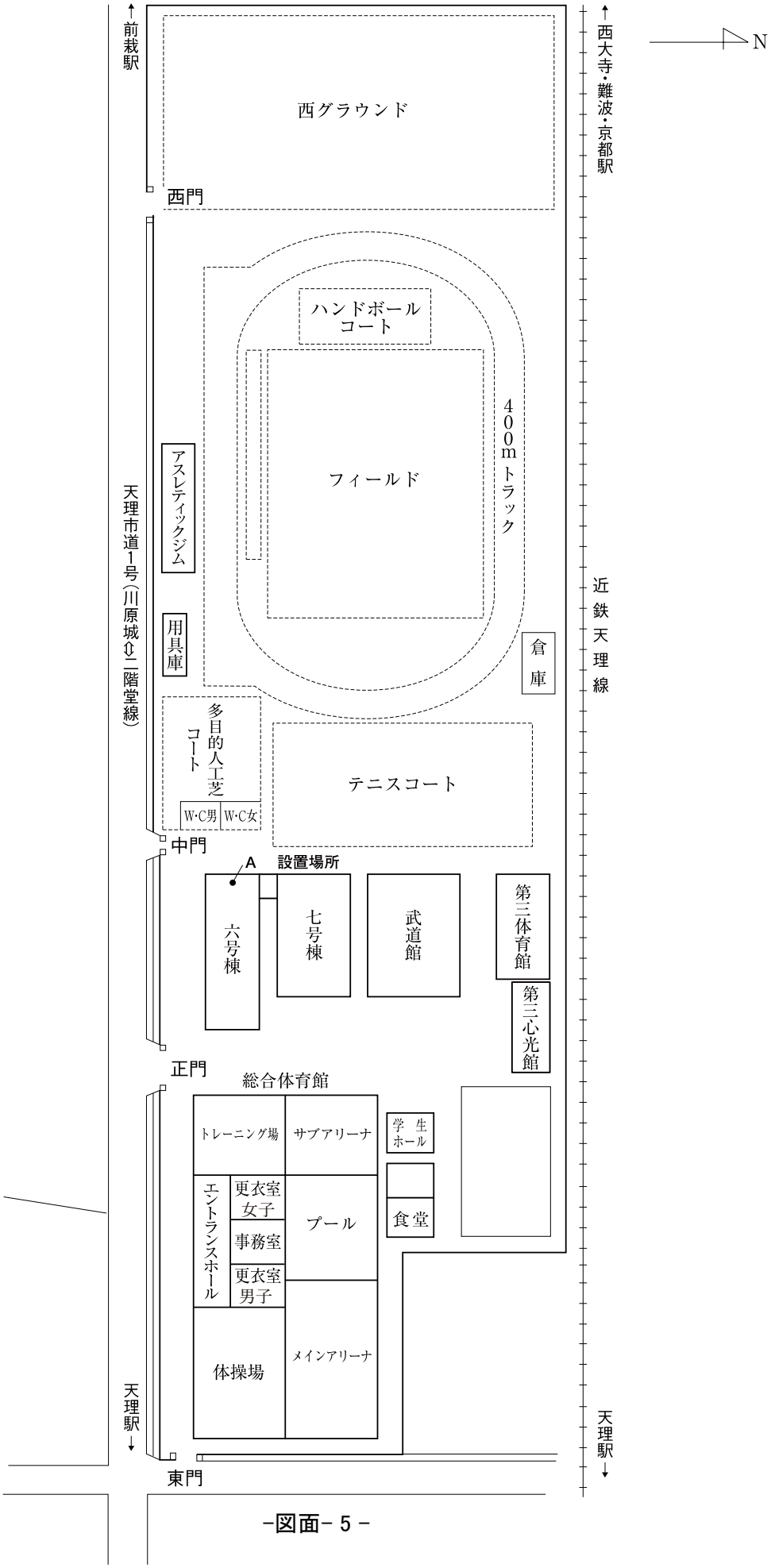
（３）校舎、運動場等の配置図
　　杣之内キャンパス

校地面積：151,091.22㎡
校舎面積：　63,469.42㎡

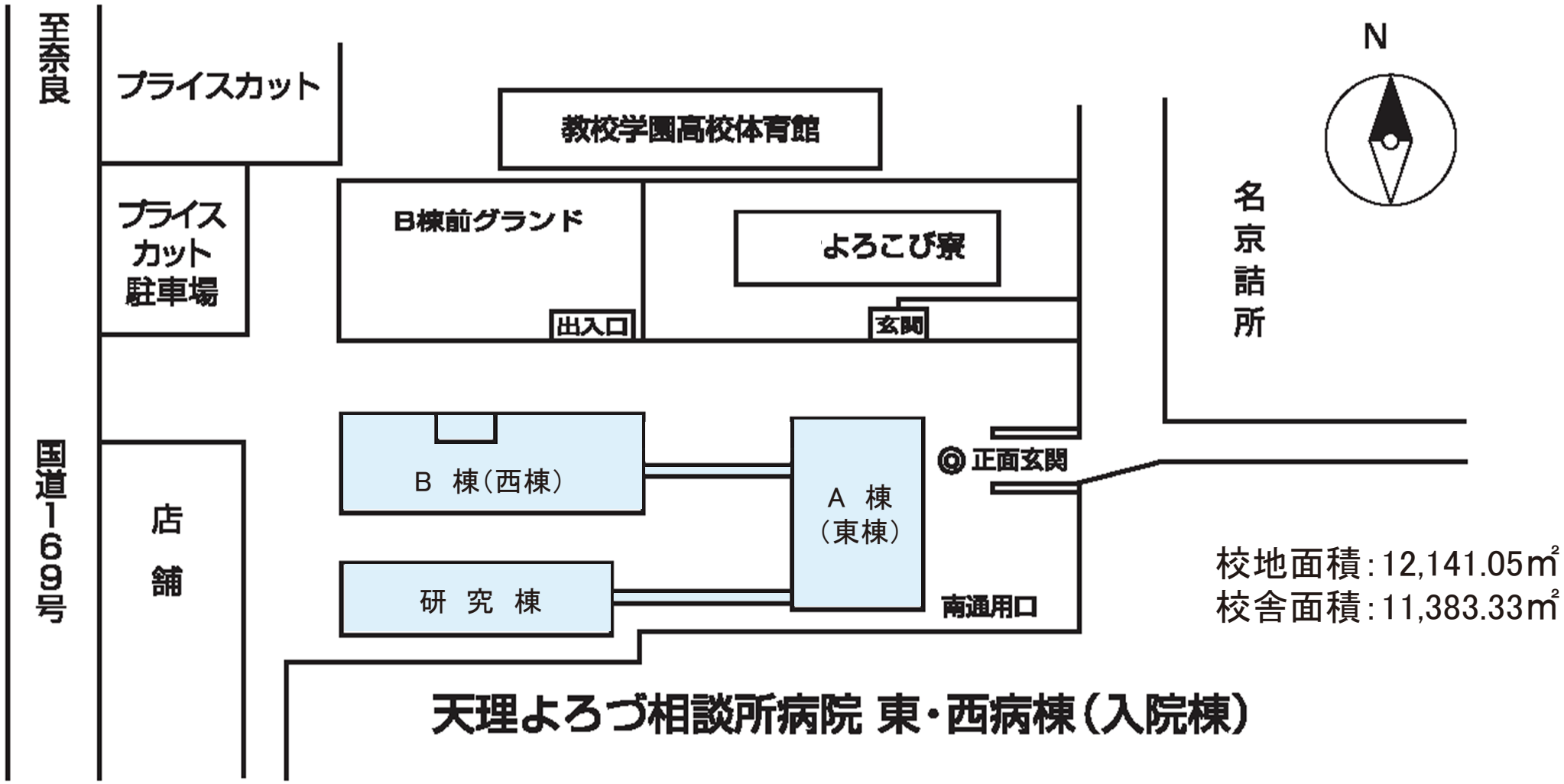


（３）校舎、運動場等の配置図
田井庄キャンパス

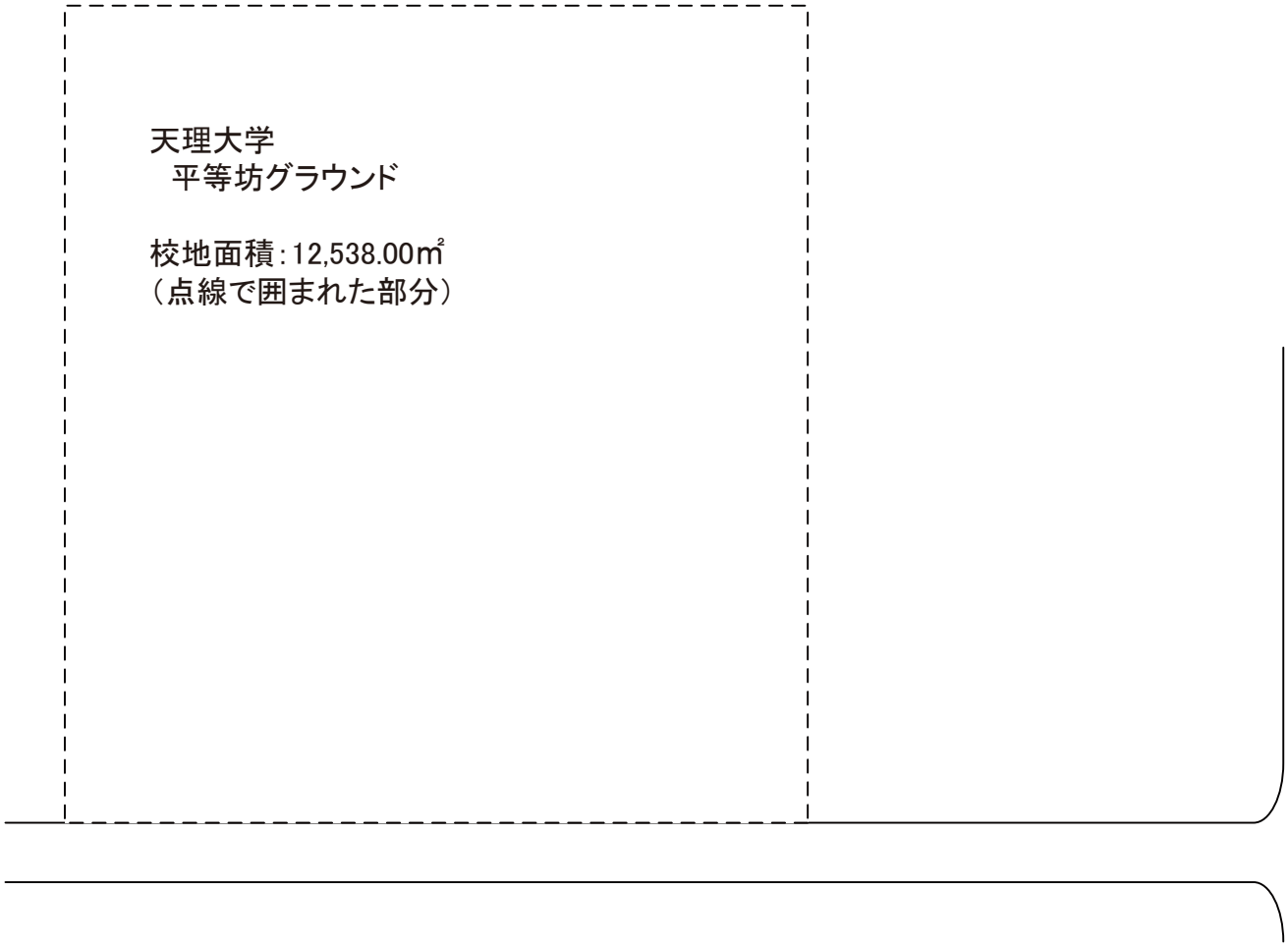
校地面積：54,273.99㎡
校舎面積：5,973.74㎡



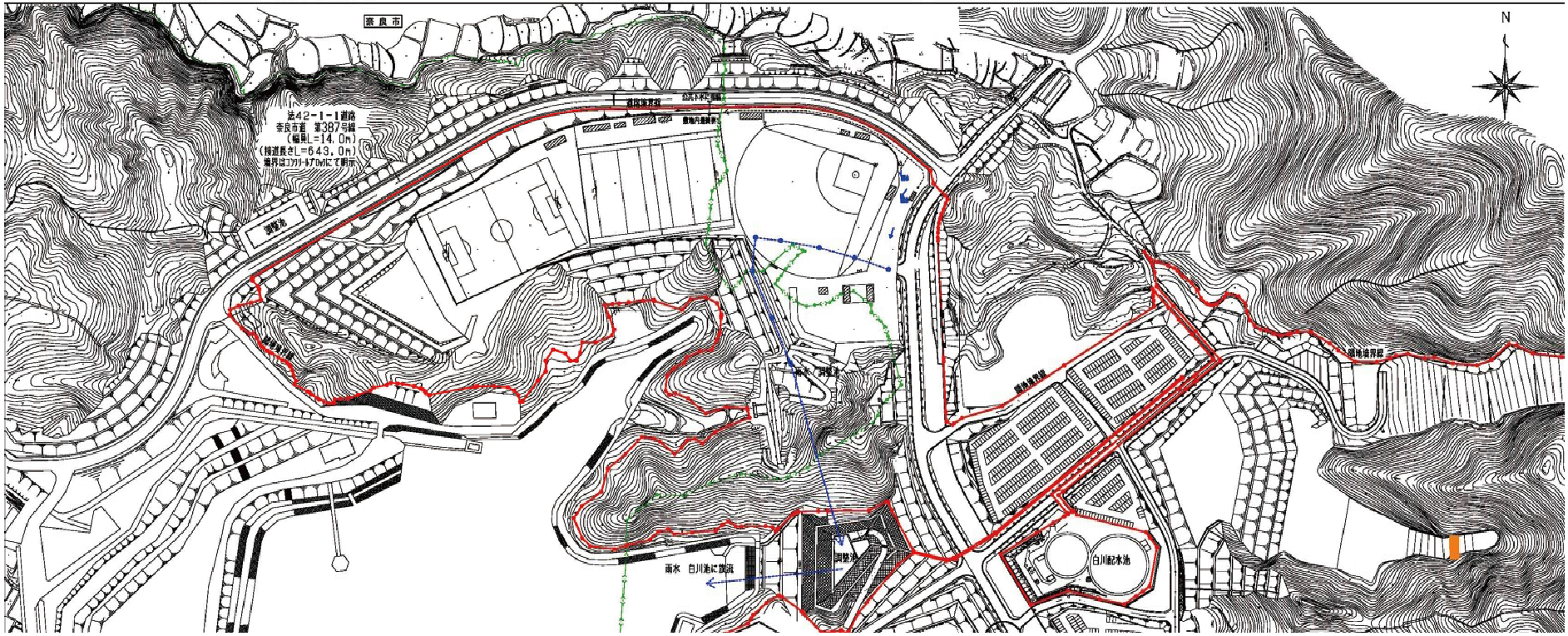
（３）校舎、運動場等の配置図
別所キャンパス



（３）校舎、運動場等の配置図
平等坊グラウンド



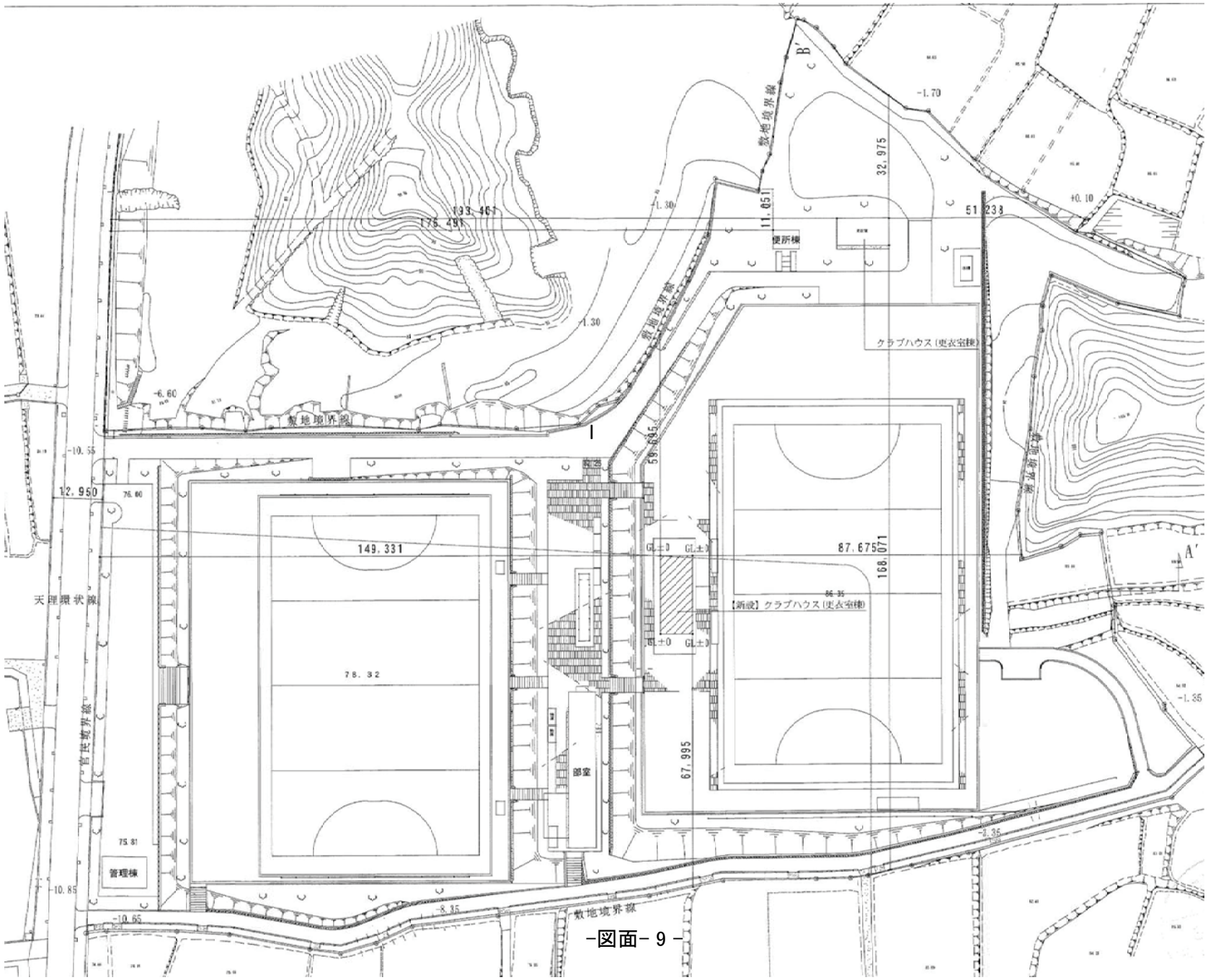
（３）校舎、運動場等の配置図
白川グラウンド



校地面積：60,638.00㎡

（３）校舎、運登場等の配置図
親里ホッケー場

校地面積：24,300.00㎡



天理大学学則（案）

令和６年４月改正

第　１　章　　総　　則

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。

第１条の２　本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う。

２　前項の点検評価項目及び実施体制に関する規程は、別に定める。

第１条の３　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を行う。

第２条　本大学に、人文学部・国際学部・体育学部及び医療学部を置く。

２　人文学部に、次の学科を置く。

(1) 宗　教　学　科
(2) 国文学国語学科
(3) 歴史文化学科
(4) 心理学科
(5) 社会教育学科
(6) 社会福祉学科

３　国際学部に、次の学科を置く。

(1) 韓国・朝鮮語学科
(2) 中国語学科
(3) 英米語学科
(4) 外国語学科
(5) 国際文化学科
(6) 日本学科

４　体育学部に、次の学科を置く。

体育学科

５　医療学部に、次の学科を置く。

(1) 看護学科
(2) 臨床検査学科

第２条の２　各学部、学科の教育研究上の目的は、別表第１のとおりとする。

第２条の３　本大学に、大学院を置く。

２　大学院に関する規程は、別に定める。

第３条　本大学の収容定員は、次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
人文学部	宗 教 学 科	２０名	８０名
	国文学国語学科	４０名	１６０名
	歴史文化学科	５０名	２００名
	心理学科	４０名	１６０名
	社会教育学科	４０名	１６０名
	社会福祉学科	５０名	２００名
国際学部	韓国・朝鮮語学科	４０名	１６０名
	中国語学科	４０名	１６０名
	英米語学科	６０名	２４０名

	外国語学科	６０名	２４０名
	国際文化学科	５０名	２００名
	日本学科	４０名	１６０名
体育学部	体育学科	２４０名	９６０名
医療学部	看護学科	７０名	２８０名
	臨床検査学科	３０名	１２０名

第４条　本大学各学部の修業年限は、４年とする。
第５条　本大学に全学教育推進機構を置く。
第５条の２　本大学に国際交流センターを置く。
２　本大学に情報ライブラリーを置く。

第　２　章　　職員組織

第６条　本大学に学長を置く。
２　学長は、校務を掌り所属職員を統督する。
３　学長は、学内の諸会議体の審議結果を参酌した上で、法律が定める事項及び理事会から委任された教育・研究に関する事項を決定し実行する責任を負う。
第７条　本大学に副学長を置くことができる。
２　副学長は、学長を助け、命を受けて校務を掌る。
第８条　本大学に学部長を置く。
２　学部長は、当該学部の教授会を代表し、学部の運営にあたる。
第９条　本大学の学科及び課程にそれぞれ主任を置き、主任は学科及び課程の事務を処理する。
第 10 条　本大学に教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。
２　本大学に必要に応じ、特任教授、特任准教授、特任講師を置く。
３　教員及び事務職員に関する規程は、別に定める。
第 11 条　事務組織は、事務職員によることを原則とするが、その事務の性質上、教員がこれを兼務することがある。
第 12 条　本大学各学部及び附属おやさと研究所に教授会を置く。
２　教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く）をもって組織する。
３　各学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項
(2) 学部学生の学位授与に関する事項
(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
４　各教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　各学部教授会及び附属おやさと研究所教授会に関する規程は、別に定める。
第 13 条　本大学に、全学協議会を置く。
２　全学協議会は、次の構成員をもって組織する。
(1) 学長

(2) 副学長
(3) 各学部長
(4) 各大学院研究科長
(5) 附属天理図書館長、附属おやさと研究所長及び附属天理参考館長
(6) 各学部より選出された　教授　各１名
(7) 事務局長
(8) 事務部門の長のうち学長の指名する者２名

３　全学協議会は、全学的な教育研究及び運営に関わる次の事項について審議する。
(1) 学生の入学及び卒業の方針に関する事項
(2) 学位授与の方針に関する事項
(3) 大学の研究組織、施設の設置・廃止及び制度、機構の整備・改変に関する事項
(4) 学則その他重要な規程の制定及び改廃に関する事項
(5) 名誉教授に関する事項
(6) 大学の教育研究上の目的を達成するための予算、人事等の基本計画に関する事項
(7) 教育課程編成の基本方針に関する事項
(8) 教育内容及び授業方法の改善に関する事項
(9) 学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項
(10) 大学の自己点検・評価に関する事項
(11) その他大学の教育研究及び運営に関する重要事項

４　全学協議会に関する規程は、別に定める。

第　３　章　　学年・学期及び休業日

第 14 条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終る。

第 15 条　学年を次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月３０日まで
秋学期　１０月１日から翌年３月３１日まで

第 16 条　休業日は、次のとおりとする。
(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和２３年法律第１７８号)に規定する休日
(2) 天理教祭日　　４月１８日　１０月２６日　１月２６日
(3) 創立記念日　　４月２３日

２　夏期休業、冬期休業、春期休業については、学長が全学協議会の議を経て定めることができる。

３　学長は、必要があると認めたときは、前２項に掲げる休業日を変更することができるほか、臨時に休業日を置くことができる。

４　学長は、必要があると認めたときは、休業日であっても授業を実施することができる。

第　４　章　　教 育 課 程

第 17 条　本大学の授業科目の区分は、総合教育科目及び専門教育科目とする。

第 18 条　本大学の授業科目及び単位は別表第２に定めるとおりとし、天理大学履修規則によって履修しなければならない。

第 18 条の２　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、３５週にわたることを原則とする。

第19条　授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間とし、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、１５時間から３０時間の授業をもって１単位とする。

(2) 実験・実習及び実技については、３０時間から４５時間の授業をもって１単位とする。

(3) １の授業科目について、講義、演習、実験・実習及び実技のうち２以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮した時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の１単位の計算基礎となる授業時間については、教授会及び全学協議会の議を経て、学長がこれを決定する。

第20条　授業科目を履修し試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第21条　授業科目の試験の成績は、Ａ＋・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆの５種の評語をもって表わし、Ａ＋・Ａ・Ｂ・Ｃを合格とする。

第22条　本大学が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、６０単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、本大学の協定又は認定する外国の大学又は短期大学に留学する場合及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第22条の２　本大学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第23条　本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第２２条第１項及び第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第24条　本大学を卒業し、教育職員免許法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、下表に示す教育職員免許状を取得することができる。

学部名	学科名	免許状の種類	
		種類	免許教科
人文学部	宗教学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	宗教
	国文学国語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語

	歴史文化学科	中学校教諭一種免許状	社　　会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
国 際 学 部	韓国・朝鮮語学科	高等学校教諭一種免許状	韓国・朝鮮語
	中国語学科	高等学校教諭一種免許状	中 国 語
	英米語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英　　語
	外国語学科	高等学校教諭一種免許状	スペイン語
	国際文化学科	中学校教諭一種免許状	社　　会
		高等学校教諭一種免許状	公　　民
体 育 学 部	体育学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育

第 25 条　本大学を卒業し、図書館法及び同施行規則に定める図書館に関する科目、単位を修得した者は、図書館司書となる資格を取得することができる。

第 26 条　教育職員免許状を取得した者で、学校図書館司書教諭講習規程に定める科目、単位を修得した者は、学校図書館司書教諭となる資格を取得することができる。

第 27 条　本大学を卒業し、博物館法及び同施行規則に定める博物館に関する科目、単位を修得した者は、博物館学芸員となる資格を取得することができる。

第 28 条　社会教育法及び社会教育主事講習等規程に定める社会教育に関する科目、単位を修得した者は、社会教育主事となる資格及び社会教育士の称号を取得することができる。

第 29 条　人文学部社会福祉学科を卒業し、社会福祉士及び介護福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、社会福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 30 条　人文学部社会福祉学科を卒業し、精神保健福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を取得した者は、精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 31 条　医療学部看護学科を卒業し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める科目、単位を取得した者は、看護師国家試験受験資格を取得することができる。

第 32 条　医療学部臨床検査学科を卒業し、臨床検査技師等に関する法律に規定する学校として指定を受けた科目、単位を取得した者は、臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができる。

第　5　章　　入学・留学・休学及び退学

第 33 条　入学期は、学年の始めとする。

第 34 条　第１年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 高等学校を卒業した者（中等教育学校の後期課程を含む）

(2) 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）

(3) 外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5) 文部科学大臣の指定した者
(6) 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者
(7) その他本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者

第 35 条　入学志願者に対しては、別に定めるところによって、選考を行なう。

第 36 条　入学志願者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、別に定める検定料を納入しなければならない。

第 37 条　入学試験に合格した者で、指定の期日までに所定の誓約書（本人及び保証人の署名捺印を要す）等を提出し、入学金・授業料・教育設備充実費・その他を納入した者は、入学を許可する。

２　前項の保証人は、父母（父母なき者はこれに代わる親族等）とする。

第 38 条　別に定めるところによって選考のうえ、編入学を認めることがある。

第 39 条　本大学在学中は、他学科に転ずることはできない。

第 40 条　学生が、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学するときは、別に定めるところにより願い出なければならない。

第 40 条の２　外国の大学に籍を置く外国人学生の受入れ及びその取扱いについては、別に定める。

第 41 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により２ヵ月以上欠席するときは、本人及び保証人連署のうえ、学部長に願い出てその許可を得て休学することができる。ただし、疾病の場合は医師の診断書を添付しなければならない。

２　前項の事由のある場合において、特に必要があると認めた者には、休学を命ずることができる。

３　休学期間は当該年度以内とし、特別の事由がある場合は、別に定めるところによってその期間延長を認めることができる。ただし、通算４年を超えることができない。

第 42 条　学生は、８年を超えて在学することはできない。

２　前条の休学期間は、原則として在学年数に通算しない。

第 43 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により退学するときは、本人及び保証人連署のうえ、学長に願い出て、その許可を得なければならない。

第　６　章　　卒業及び学位

第 44 条　４年以上在学し、次の各号に定める単位について、天理大学履修規則に定めるところにより修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、卒業証書を授与し、あわせて学士の学位を授与する。

(1) 人　文　学　部　　１２４単位以上
(2) 国　際　学　部　　１２４単位以上
(3) 体　育　学　部　　１２４単位以上
(4) 医　療　学　部　　１２４単位以上

第 45 条　卒業期は、学年の終りとする。

第 46 条　本大学が授与する学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次の各号に定める

とおりとする。

（1）	人文学部	宗教学科	宗教学
		国文学国語学科	国文学
		歴史文化学科	歴史文化学
		心理学科	心理学
		社会教育学科	社会教育学
		社会福祉学科	社会福祉学
（2）	国際学部	韓国・朝鮮語学科	韓国・朝鮮語
		中国語学科	中国語
		英米語学科	英語
		外国語学科	タイ語
			インドネシア語
			ドイツ語
			フランス語
			ロシア語
			スペイン語
			ブラジルポルトガル語
		国際文化学科	国際文化学
		日本学科	日本学
（3）	体育学部	体育学科	体育学
（4）	医療学部	看護学科	看護学
		臨床検査学科	臨床検査学

第７章　科目等履修生・特別聴講学生及び委託学生

第 47 条　本大学の学生以外の者で一又は複数の授業科目の履修を希望する者（「科目等履修生」という）がある時は、当該授業科目所属の学科（課程を含む）において適当と認められた者につきこれを許可する。ただし、第３４条の各号の一に該当する者に限る。

第 48 条　科目等履修生の願い出は学期始めとし、科目等履修生の就学期間は原則として、当該年度末までとする。

２　年度を超えて引き続き科目等履修生として授業科目の履修を希望する者は、改めて願い出なければならない。

第 49 条　科目等履修生であって所定の科目試験に合格し単位認定を受けた場合は、請求により単位修得証明書を交付する。

第 50 条　科目等履修生のうち、次の各号に該当する者は、希望の授業科目を指定し、所定の手続きを経て許可を受けなければならない。

(1) 教育職員免許法第５条に規定する基礎資格を有し、教育職員免許法及び同施行規則により教育職員免許状を得ようとする者

(2) 学士の学位を有し、図書館法第５条第１項第１号の規定による司書となる資格を得ようとする者

(3) 教育職員免許状を有し、学校図書館司書教諭講習規程第３条及び附則第３項の規定による学校図書館司書教諭となる資格を得ようとする者

(4) 学士の学位を有し、博物館法第５条第１項第１号の規定による学芸員となる資格を得ようとする者

(5) 社会教育法第９条の４第１項第３号の規定による社会教育主事となる資格を得ようとする者

第 50 条の２　他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該大学に在学中の学生で本大学の授業科目の履修を希望する者がある時は、別に定めるところにより、特別聴講学生としてこれを認めることができる。

第 51 条　官庁又は公共団体から、1 年以上を在学期間として受講科目を定めて入学を願い出た場合は、選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

第 52 条　委託学生であって、所定の科目を修めその試験に合格した者には、修了証書を授与する。

第 53 条　科目等履修生、特別聴講学生及び委託学生には、別に定めるものを除くほか本学則を準用する。

第　８　章　　入学金・授業料・教育設備充実費・その他

第 54 条　入学金・授業料・教育設備充実費は別表第３に定めるとおりとし、その納入及びその他については別に定める。

第 55 条　前条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、「大学等における修学の支援に関する法律」による授業料等減免対象者と認定された者については、別に定める。

第 56 条　既に納入した第５４条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は返還しない。ただし、前条に定める授業料等減免対象者と認定された入学者については、減免対象となる入学金・授業料を返還する。

第 57 条　休学を許可された者及び命ぜられた者についての授業料・教育設備充実費・その他は別に定める。

第 58 条　学年の途中において退学する者は、退学の日の属する学期分の授業料・教育設備充実費・その他を納入しなければならない。

第 59 条　正当な理由なく第５４条に定める授業料・教育設備充実費・その他を所定の期日までに納入しない者は除籍する。

第　９　章　　賞　　罰

第 60 条　学生で優秀な研究をした者、又は他の学生の範となるべき行為をした者に対して、学長は、教授会及び全学協議会の意見を徴し、これを褒賞することができる。

第 61 条　学生にその本分に反する行為のあったときは、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が懲戒する。

２　懲戒は、譴責、停学、退学とする。

第 62 条　次の各号の一に該当する者には、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が退学を命ずることがある。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第１０章　　別　　科

第 63 条　本大学に別科（日本語課程、外国語課程）を置く。

２　別科に関する規程は、別に定める。

第 １１ 章　　附 属 施 設

第 64 条　本大学に天理図書館、おやさと研究所及び天理参考館を付設する。
２　附属施設に関する規程は、別に定める。
第 65 条　学寮を設け一部学生を入寮させる。

第 １２ 章　　公 開 講 座

第 66 条　地域社会への研究成果の還元と文化の向上に資するため、本大学に公開講座を開設することができる。

附　則

本学則は、昭和２４年４月１日から施行する。

附　則

朝鮮文学朝鮮語学科は、昭和２５年４月から開設する。

附　則

司書養成課程は、昭和２６年４月から実施する。

附　則

学部学科の変更に伴う学則の改正は、昭和２７年から実施する。

附　則

選科生に関する規程は、昭和２７年４月から実施する。

附　則

体育学部体育学科は、昭和３０年４月から開設する。

附　則

本学則は、昭和３２年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３３年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３５年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和３７年４月から施行する。ただし、第３１条ただし書については、昭和３８年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４０年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４３年１０月から施行する。

附　則

本学則は、昭和４４年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、なお従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４６年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４８年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和４９年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、昭和５０年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５１年４月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５２年４月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和５６年４月から施行する。

附　則

本学則は、昭和５８年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、昭和６２年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、昭和６３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、平成２年度に第１年次に入学した学生を除き従前の例による。

附　則

本学則は、平成３年１２月５日から施行する。

附　則

１　本学則は、平成４年４月１日から施行する。

２　本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。

３　第３条の規定にかかわらず、平成４年度から平成１１年度までの入学定員は、つぎのとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
体育学部	体育学科	２２０名

附　則

本学則は、平成５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した

学生の授業科目の履修及び単位の修得については、平成４年度に第１年次に入学した学生を除き従前の例による。

附　則

本学則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成６年５月１８日から施行する。

附　則

本学則は、平成７年４月１日から施行する。ただし、第１８条別表第１については、平成３年度以前に入学した学生は従前の例による。

附　則

１　本学則は、平成７年１１月１７日から施行する。

２　第３５条の規定にかかわらず、平成３年度以前に入学した文学部宗教学科及び外国語学部各学科の学生については、別に定めるところにより、他学部・学科・専攻に転ずることができる。

附　則

本学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成９年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成９年６月５日から施行する。

附　則

本学則は、平成１０年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

１　本学則は、平成１２年４月１日から施行する。

２　第３条の規定にかかわらず、平成１２年度から平成１５年度までの入学定員及び平成１２年度から平成１８年度までの収容定員は、つぎのとおりとする。

学　　部	学　　科	年　　度	入学定員	収容定員
体育学部	体育学科	１２年度	２１０名	８７０名
		１３年度	２００名	８５０名
		１４年度	１９０名	８２０名
		１５年度	１８０名	７８０名
		１６年度	１７０名	７４０名
		１７年度	１７０名	７１０名
		１８年度	１７０名	６９０名

３　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修および単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１５年５月１４日から施行する。

附　則

本学則は、平成１６年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成１７年４月１日から施行する。ただし、平成１４年度以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、従前の例による。

附　則

本学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２１年度以前入学生にあっては、従前の例による。

附　則

本学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成２８年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

本学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附　則

文学部歴史文化学科の収容定員の変更に係る改正学則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

言語教育研究センターの廃止並びに教育設備充実費の改定に係る改正学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

本学則は、令和２年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

１　本学則は、令和３年４月１日から施行する。

２　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

３　本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

附　則

1　本学則は、令和４年４月１日から施行する。
2　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
3　本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

附　則

本学則は、令和５年４月１日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した医療学部学生の学納金（授業料及び教育設備充実費（令和５年４月１日付で天理医療大学から転籍した学生においては教育充実費を読み替えるものとする。））については、従前の例による。

附　則

1　本学則は、令和６年４月１日から施行する。
2　本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
3　本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

別表第１（第２条の２関係）

学　　部 学　　科	目　　的
人文学部	宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系の成果を教授することにより、他者に献身できる教養と態度を身につけ、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動できるとともに、国内外で「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神の具現化に資する人材を養成することを目的とする。
人文学部 宗教学科	宗教学及び天理教学の枠組みに基づく歴史的、理論的かつ実践的な学習をふまえ、現代世界をとりまく多様な宗教状況を広く学ぶことを通して、ものごとに多面的に対応できる資質と能力を修得させ、同時に、建学の精神にもとづき、国の内外で社会に貢献する実践的意欲をそなえた人材を養成することを目的とする。
人文学部 国文学国語学科	国文学ならびに国語学の知識を基礎から高度な専門領域まで段階的・組織的に修得し、文学作品や言語資料の考察を通して日本の文化を幅広く理解するとともに、国際社会のなかでみずからの知見を主体的に発信できる人材を養成することを目的とする。
人文学部 歴史文化学科	歴史学・考古学・民俗学に立脚しながら、地域に根ざした歴史認識を養い、国際的視野に立った社会や文化の理解をめざす。また、歴史文化に関わる資料の調査・記録能力を修得し、自主的に学び正しく伝える力を身につける。これらの知識や能力を活用し、歴史文化に学びつつ現代社会に貢献する教養ある社会人を育成し、教育や文化財に関わる仕事を通して地域社会に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 心理学科	現代社会に起きているさまざまな心の現象を幅ひろい視点から理解するために必要な心理学の基礎知識と実践のための能力を修得させることを通じて、諸問題の解決に向けた社会活動に実践的に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会教育学科	社会教育の基礎となる知識と技術を修得し、地域社会の持続的な発展に資する多様な学習支援の在り方を実践的に体験・探求していくことで、誰もが主体的に参画できる生涯学習社会の形成に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会福祉学科	社会福祉のプロフェッショナルとして必要な、理念への理解、現場に関する専門的知識、福祉活動をめぐる諸技能等を修得させ、福祉への視点と理解をもつ市民をひろく育成するとともに、社会福祉施設や機関、団体、病院等で活躍できる人材を養成することを目的とする。

学　　部 学　　科	目　　的
国際学部	現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。そのために、国際人に必須の高度な語学力の修得に重点を置く「韓国・朝鮮語学科」「中国語学科」「英米語学科」「外国語学科」と、現代社会の仕組みと国内外の文化の多様性について学際的に学び、その多様性がおりなす共生社会に自ら参加して行動できる力を養う「国際文化学科」、確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本の社会・文化について学び、その学びを社会や地域で活用する力を養う「日本学科」の５学科を設ける。利他の精神を身につけた真の国際人として世界に雄飛し「陽気ぐらし」世界の建設に寄与する人材を養成することを目的とする。
国際学部 韓国・朝鮮語学科	本学創設当初からの長い歴史の中で培われてきた韓国・朝鮮語教育プログラムにもとづき、体系的かつ実践的な韓国・朝鮮語教育を行う。また、韓国・朝鮮語の修得にとどまらず、同時に韓国・朝鮮地域の歴史や文化・社会に関する知識を身につけ、韓国・朝鮮に対する深い理解を得るようにする。さらに、韓国・朝鮮に対する知識を土台に、自国の文化や自分自身を相対化して考える力を涵養し、他者を尊重しつつ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 中国語学科	国際的な視野を有し、国際社会に対応できる人材の育成をはかるための実践的な中国語教育を行う。学習レベルに応じて体系化したカリキュラムにもとづき、高度な中国語運用能力を養成する。さらに実り豊かな留学・海外語学実習を通じて、異文化理解の能力を身につけさせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 英米語学科	今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて英米語圏の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 外国語学科	タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、ブラジルポルトガル語をコース言語とする７言語コースを設け、本学が蓄積してきた外国語の教育・研究資源を活用し、語学力を徹底して鍛えることに主眼を置く。さらに、関連地域の文化や社会についての理解を深めさせ、高度な内容のコミュニケーションを可能にする知識と異文化理解能力を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 国際文化学科	国の内外における多文化共生社会を実現するために、現代社会の仕組みを学際的に理解し、自ら行動し指導・協働することができる人材、公共に資する市民としての「公民」を育成することを目的とする。そのため、ひと・もの・価値（観）が国境を越えて行き来することで生み出される国の内外の文化の多様性について学び、その多様性が織りなす共生社会に自らが参加して行動することのできる人材を養成することを目的とする。

国際学部 日本学科	入学時の語学力に応じた日本語のクラスを通じて身につけた確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本について社会・文化を幅広く学ぶ。また、「日本という国のはじまり」である奈良の地域的特性について深く学び、グローバルな視点から日本や奈良の地理と歴史の理解を深める。既存の知識を単に修得するだけではなく、経営的な視点も加え、社会や地域が伝統文化や新しい文化をどのように導入し、活用していくことができるのかという、今日求められる実学的知識を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。

学　　部 学　　科	目　　的
体育学部 体育学科	「陽気ぐらし」世界の建設に寄与せんとする建学の精神を具現化するために、「他者への献身」の精神を涵養し、身体についての科学的な認識を深めるとともに、国際的な視野に立ってスポーツの意義や可能性を探求することのできる以下のような人材を育成することを目的とする。 ①スポーツにおける高度な競技能力・指導能力を有する人材 ②子ども達への深い理解をもった教育能力の高い教員となる人材 ③スポーツの新たな可能性を追求し、スポーツ文化の創造に寄与できる人材 ④人々の健康の維持・増進に貢献できる人材 ⑤日本の伝統文化である武道を正しく継承し、世界に発信できる人材

学　　部 学　　科	目　　的
医療学部	人に尽くすことを自らのよろこびとするという天理教の理念を基調として、社会人としての豊かな知識を持ち、医療に関わる専門性の高い技術・技能を修得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材を養成することを目的とする。
看護学部 看護学科	看護の対象である個人・家族・地域の人々のそれぞれの成長発達段階と健康段階に応じた看護を実践できる能力、技術、態度を身に着けた医療人の育成をするために、 ①ヒューマニティとアートの統合としての「人に尽くす」看護の探究 ②サイエンスとアートを統合し、あらゆる健康レベル、看護ニーズに応じた看護実践力の育成 ③異なる学科、学年との協働的学習による関連多職種と協働する能力の育成 以上の３つをあげ、幅広い教養、深い専門的素養、科学的な看護学の知識、看護実践能力、ケアの心を兼ね備えた看護師を養成することを目的とする。
看護学部 臨床検査学科	臨床検査学科として探究し教育する学問分野は、形態検査（血液検査、病理検査など）、生物化学分析検査（生化学検査、遺伝子検査、尿・体液検査など）、病因・生体防御検査（免疫検査、微生検査、輸血・移植検査など）等の検体検査、そして患者さんから直接的に生体情報を収集する超音波検査、心電図検査、脳波検査、ＭＲ検査等の生体機能検査がある。また、臨床検査を実践するために必要な情報処理、精度保証、検査情報システム、医用工学等のいわゆる検査総合管理学、そして検査データの判読方法（病態解析）、臨床研究の方法、感染対策・栄養管理等への臨床検査の応用についても学ぶ。卒業後に、医療施設、検査センター、試薬・機器の製造開発メーカー、研究所等でも活躍ができるような基本的知識と技能を身につけた人材を養成することを目的とする。

別表第２（第１８条関係）

（１）総合教育科目

天理スピリット科目群

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理教概説１	2	
天理教概説２	2	
天理教学１		2
天理教学２		2
建学の精神と天理大学のあゆみ	2	
英語１	1	
英語２	1	
韓国・朝鮮語１		1
韓国・朝鮮語２		1
中国語１		1
中国語２		1
教養アカデミック英語１		1
教養アカデミック英語２		1
実践アカデミック英語１		1
実践アカデミック英語２		1
アカデミック英語上級		1
多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）		2
多文化理解と言語（中国語）		2
多文化理解と言語（英語）		2
多文化理解と言語（タイ語）		2
多文化理解と言語（インドネシア語）		2
多文化理解と言語（ドイツ語）		2
多文化理解と言語（フランス語）		2
多文化理解と言語（ロシア語）		2
多文化理解と言語（スペイン語）		2
多文化理解と言語（ポルトガル語）		2
多文化理解と言語（日本語）		2
日本事情１		2
日本事情２		2
健康スポーツ科学１		2
健康スポーツ科学２		2
国際社会におけるスポーツの役割		2
保健医療の仕組みと健康づくり		2
ローカリーアクト天理ＳＤＧｓ　森に生きる入門編		1
ローカリーアクト天理ＳＤＧｓ　森に生きる実践編		1
国際協力入門		2
国際協力実習		2
国際協力演習１		2
国際協力演習２		2
国際ボランティア論		2
天理大学特別講義１		2
天理大学特別講義２		2
天理大学特別講義３		2
天理大学特別講義４		2
天理異文化伝道		2

キャリア教育科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
キャリアプランニング		2
キャリアデザイン１		2
キャリアデザイン２		2
インターンシップ１		1
インターンシップ２		2
海外インターンシップ１		1
海外インターンシップ２		2

基礎リテラシー科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
基礎ゼミナール１	2	
基礎ゼミナール２		2
データサイエンス・ＡＩ入門		2
データサイエンス・ＡＩ応用		2
データリテラシー		2
コンピュター入門		2
情報処理		2
基礎からわかるレポート作成		2
基礎からわかる近代史		2
基礎からわかる現代社会		2
基礎からわかる数学		2
基礎からわかる生物・化学		2

一般教養教育科目群

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
生活の中の科学		2
地球環境論		2
科学と現代		2
数学と論理		2
統計学１		2
統計学２		2
経営学１		2
経営学２		2
地理学１		2
地理学２		2
日本国憲法		2
法学		2
経済学１		2
経済学２		2
政治学		2
社会学		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
民法１		2
民法２		2
行政法１		2
行政法２		2
哲学概論１		2
哲学概論２		2
倫理学１		2
倫理学２		2
心理学１		2
心理学２		2
ジェンダー・セクシャリティ		2
近現代の遺産と未来		2
宗教と芸能		2
労働と社会		2
障害学		2
世界の文学１		2
世界の文学２		2
カルチュラルスタディーズ		2
宗教と現代社会		2
人権と差別１		2
人権と差別２		2
日本手話Ａ		2
日本手話Ｂ		2
アウトドアスポーツ		1
レクリエーショナルスポーツ		1
ニュースポーツ		1

（２）専門教育科目

共通科目

国際学部

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本文化概論		2
国際文化論		2
日本と国際社会		2
グローバル文化論		2
アジア地域文化論		2
オセアニア地域文化論		2
ヨーロッパ地域文化論		2
スラヴ・ユーラシア地域文化論		2
アフリカ地域文化論		2
アメリカス地域文化論		2
世界の歴史と社会		2
アジアの歴史と社会		2
オセアニアの歴史と社会		2
ヨーロッパの歴史と社会		2
スラヴ・ユーラシアの歴史と社会		2
アフリカの歴史と社会		2
アメリカスの歴史と社会		2
世界の英語		2
異文化コミュニケーション１		2
異文化コミュニケーション２		2
英語音声学１		2
英語音声学２		2
英語学概論		2
社会言語学１		2
社会言語学２		2
言語学概論１		2
言語学概論２		2
College English Grammar Ａ		1
College English Grammar Ｂ		1
Business Communication		1
TOEFL Academic English		1
Japanese Culture and Society		2
Japanese History		2
Japanese Religions		2
観光地理学		2
観光デザイン論		2
観光業界論		2
世界遺産論		2
ホスピタリティー観光研究１		2
ホスピタリティー観光研究２		2
国内旅行実務		2
海外旅行実務		2
国際スポーツ協力論		1
国際スポーツ交流実習		1

医療学部

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
臨床心理学	2	
コミュニケーション演習	1	
現代家族論		2
教育学概論１		2
医療英語Ａ		1
医療英語Ｂ		1
体のしくみⅠ	2	
体のしくみⅡ	2	
分子医学の基礎	2	
生化学		2
微生物学		1
疾病の成り立ちと治療Ⅰ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅱ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅲ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅳ	2	
疾病の成り立ちと治療Ⅴ	2	
病理学		1
薬理学・臨床薬理学	2	
栄養学・臨床栄養学	2	
保健医療概論	2	
公衆衛生学	2	
保健医療福祉行政論	2	
現代社会と福祉１	2	
医療安全管理学	2	
情報科学演習	1	

専攻科目
人文学部
宗教学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理教学概論１	2	
天理教学概論２	2	
天理教教祖伝概説１	2	
天理教教祖伝概説２	2	
宗教史概説１	2	
宗教史概説２	2	
宗教研究基礎演習	2	
宗教学概論１	2	
宗教学概論２	2	
現代宗教を読み解くゼミ１	2	
現代宗教を読み解くゼミ２	2	
伝道実習１		1
伝道実習２		1
伝道実習３		1
伝道実習４		1
天理教原典学１概説		2
天理教原典学２概説		2
天理教原典学３概説		2
天理教学特殊講義１		2
天理教学特殊講義２		2
天理教学特殊講義３		2
天理教史特殊講義１		2
天理教史特殊講義２		2
宗教学特殊講義１		2
宗教学特殊講義２		2
宗教学特殊講義３		2
宗教学特殊講義４		2
宗教史特殊講義１		2
宗教史特殊講義２		2
宗教史特殊講義３		2
宗教史特殊講義４		2
宗教史特殊講義５		2
宗教史特殊講義６		2
宗教科指導法１		2
宗教科指導法２		2
宗教科指導法３		2
宗教科指導法４		2
宗教研究演習１	2	
宗教研究演習２	2	
宗教課題演習１	2	
宗教課題演習２	2	
卒業論文	6	

国文学国語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
国文学基礎演習	2	
国文学概論１	2	
国文学概論２	2	
上代文学講読１		2
上代文学講読２		2
中古文学講読１		2
中古文学講読２		2
中世文学講読１		2
中世文学講読２		2
近世文学講読１		2
近世文学講読２		2
近代文学講読１		2
近代文学講読２		2
上代文学特論１		2
上代文学特論２		2
中古文学特論１		2
中古文学特論２		2
中世文学特論１		2
中世文学特論２		2
近世文学特論１		2
近世文学特論２		2
近代文学特論１		2
近代文学特論２		2
古典文学史１		2
古典文学史２		2
近代文学史１		2
近代文学史２		2
国文学演習（上代）１		2
国文学演習（上代）２		2
国文学演習（中古）１		2
国文学演習（中古）２		2
国文学演習（近世）１		2
国文学演習（近世）２		2
国文学演習（近代）１		2
国文学演習（近代）２		2
国語学基礎演習	2	
国語学概論１	2	
国語学概論２	2	
国語学特論（言語構造）１		2
国語学特論（言語構造）２		2
国語学特論（言語運用）１		2
国語学特論（言語運用）２		2
国語学特論（言語実態）１		2
国語学特論（言語実態）２		2
国語史１		2
国語史２		2
国語学演習（言語構造）１		2
国語学演習（言語構造）２		2
国語学演習（言語運用）１		2
国語学演習（言語運用）２		2
国語学演習（言語実態）１		2
国語学演習（言語実態）２		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
漢文学基礎演習	2	
漢文学特論１		2
漢文学特論２		2
実用国語表現		2
音声言語		2
天理図書館資料論（上代・中古）		2
天理図書館資料論（中世・近世）		2
大和の地域文化論（文学）		2
大和の地域文化論（言語）		2
文章表現１		2
文章表現２		2
書道（書写を中心とする）		1
国語科指導法１		2
国語科指導法２		2
国語科指導法３		2
国語科指導法４		2
卒業論文演習	4	
卒業論文	6	

歴史文化学科

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
歴史学概論	2	
考古学概論	2	
民俗学概論	2	
歴史文化基礎演習	2	
日本史要説		2
東洋史要説		2
西洋史要説		2
日本考古学要説		2
日本民俗学要説		2
くずし字入門		2
人文地理学概論		2
自然地理学概論		2
地誌		2
美術史		2
文化財行政学	2	
文化財科学・保存科学		2
大和の文化遺産を学ぶ１		2
大和の文化遺産を学ぶ２		2
大和の文化遺産を学ぶ３		2
博物館学概論		2
博物館経営総論		2
博物館教育論		2
博物館情報・メディア論		2
博物館展示論		2
博物館資料論		2
博物館資料保存論		2
社会科指導法１		2
社会科指導法２		2
社会・地理歴史科指導法１		2
社会・地理歴史科指導法２		2
英語文献講読１		2
英語文献講読２		2
卒業論文	6	

歴史学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
歴史学研究入門１		2
歴史学研究入門２		2
文化交流史の研究１		2
文化交流史の研究２		2
日本古代史の研究		2
日本中世史の研究		2
日本近世史の研究		2
日本近代史の研究		2
東アジア史の研究		2
古文書学		2
日本古代史料の講読１		2
日本古代史料の講読２		2
日本中世史料の講読１		2
日本中世史料の講読２		2
日本近世史料の講読１		2
日本近世史料の講読２		2
日本近代史料の講読１		2
日本近代史料の講読２		2
歴史学史料実習１		1
歴史学史料実習２		1
歴史学史料実習３		1
歴史学史料実習４		1
日本古代中世史演習１		2
日本古代中世史演習２		2
日本古代中世史演習３		2
日本古代中世史演習４		2
日本近世史演習１		2
日本近世史演習２		2
日本近世史演習３		2
日本近世史演習４		2
日本近代史演習１		2
日本近代史演習２		2
日本近代史演習３		2
日本近代史演習４		2

考古学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
考古学研究入門１		2
考古学研究入門２		2
旧石器・縄文時代の考古学		2
弥生時代の考古学		2
古墳時代の考古学		2
飛鳥・奈良時代の考古学		2
中近世の考古学		2
東アジア考古学		2
西アジア考古学		2
遺跡探査学		2
遺跡の保存と活用		2
考古資料の情報化		2
考古学実習１		1
考古学実習２		1
考古学実習３		1
考古学実習４		1
先史考古学演習１		2
先史考古学演習２		2
先史考古学演習３		2
先史考古学演習４		2
原史考古学演習１		2
原史考古学演習２		2
原史考古学演習３		2
原史考古学演習４		2
歴史考古学演習１		2
歴史考古学演習２		2
歴史考古学演習３		2
歴史考古学演習４		2

民俗学コース

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
民俗学研究入門１		2
民俗学研究入門２		2
民俗学と現代社会		2
生活文化史		2
フィールドワークからみる民俗文化		2
民話と伝承		2
宗教民俗学		2
民俗資料論		2
民俗学実習１		1
民俗学実習２		1
民俗学実習３		1
民俗学実習４		1
歴史民俗学演習１		2
歴史民俗学演習２		2
歴史民俗学演習３		2
歴史民俗学演習４		2
現代民俗学演習１		2
現代民俗学演習２		2
現代民俗学演習３		2
現代民俗学演習４		2

心理学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
心理学概論	2	
臨床心理学概論	2	
公認心理師の職責		2
心理学研究法		4
心理学統計法		2
多変量解析法		2
心理学実験法		4
知覚・認知心理学		2
学習・言語心理学		2
感情・人格心理学		2
神経・生理心理学		2
社会・集団・家族心理学		2
発達心理学		2
障害者・障害児心理学		2
心理的アセスメント１		4
心理的アセスメント２		4
心理学的支援法		2
健康・医療心理学		2
福祉心理学		2
教育・学校心理学		2
司法・犯罪心理学		2
産業・組織心理学		2
人体の構造と機能及び疾病		2
精神疾患とその治療１		2
精神疾患とその治療２		2
関係行政論		2
精神分析学		2
ユング心理学		2
投影法演習		4
対人スキル演習		4
臨床心理学課題演習		2
対人社会課題演習		2
心理演習		2
心理実習		2
心理学入門演習	2	
心理学研究演習１	2	
心理学研究演習２	2	
卒業課題研究	4	

社会教育学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
生涯学習概論１	2	
生涯学習概論２	2	
教育学概論１		2
社会教育基礎演習１	2	
社会教育基礎演習２	2	
生涯学習支援演習１	2	
生涯学習支援演習２	2	
生涯学習支援論１	2	
生涯学習支援論２	2	
社会教育経営論１		2
社会教育経営論２		2
社会教育経営論３		2
社会教育経営論４		2
文化スポーツ支援論１		2
文化スポーツ支援論２		2
社会教育特講１		2
社会教育特講２		2
社会教育特講３		2
社会教育特講４		2
生涯学習特論１		2
生涯学習特論２		2
生涯学習特論３		2
生涯学習特論４		2
生涯学習特論５		2
生涯学習特論６		2
生涯学習特論７		2
生涯学習特論８		2
図書館情報学概論		2
図書館サービス概論		2
図書館マネージメント論		2
図書館情報学基礎特論		2
図書館とメディアの歴史		2
文化政策学概論		2
地域産業論		2
地域金融論		2
広報・PR論		2
臨地文化施設実習	1	
野外教育実習		1
プロジェクト実習１		1
プロジェクト実習２		1
プロジェクト実習３		1
プロジェクト実習４		1
プロジェクト実習５		1
プロジェクト実習６		1
地域協働実習		1
社会教育実習１		2
社会教育実習２		2
社会教育演習１（コーディネーター支援）		2
社会教育演習２（コーディネーター支援）		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
社会教育演習１（文化行政）		2
社会教育演習２（地域文化共創）		2
社会教育演習１（文化スポーツ支援）		2
社会教育演習２（文化スポーツ支援）		2
社会教育課題研究１	2	
社会教育課題研究２	2	
卒業課題研究		4
卒業論文		6

社会福祉学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
社会福祉学演習１	2	
社会福祉学演習２	2	
社会福祉学演習３	2	
社会福祉学演習４	2	
社会福祉概論１	2	
社会福祉概論２	2	
人体の構造と機能及び疾病		2
社会学と社会システム		2
社会保障論１		2
社会保障論２		2
社会福祉調査法		2
ソーシャルワーク論１	2	
ソーシャルワーク論２		2
ソーシャルワーク論３		2
ソーシャルワーク論４		2
ソーシャルワーク論５		2
ソーシャルワーク論６		2
地域福祉と包括的支援体制１		2
地域福祉と包括的支援体制２		2
福祉経営論		2
障害者福祉論		2
児童福祉論		2
高齢者福祉論		2
公的扶助論		2
医療福祉論		2
権利擁護を支える法制度		2
刑事司法と福祉		2
ソーシャルワーク演習１		2
ソーシャルワーク演習２		2
ソーシャルワーク演習３		2
ソーシャルワーク演習４		2
ソーシャルワーク演習５		2
ソーシャルワーク実習指導１		2
ソーシャルワーク実習指導２		2
ソーシャルワーク実習指導３		2
ソーシャルワーク実習１		2
ソーシャルワーク実習２		4
地域連携実習		2
天理教社会福祉論	2	
精神医学と精神医療１		2
精神医学と精神医療２		2
現代の精神保健の課題と支援１		2
現代の精神保健の課題と支援２		2
精神保健福祉の原理１		2
精神保健福祉の原理２		2
現代家族論		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門）１		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門）２		2
精神障害リハビリテーション論		2
精神保健福祉制度論		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
精神保健福祉援助演習１		2
精神保健福祉援助演習２		2
精神保健福祉援助演習３		2
精神保健福祉援助実習Ａ		5
精神保健福祉援助実習Ｂ		3
精神保健福祉援助実習指導１		2
精神保健福祉援助実習指導２		2
精神保健福祉援助実習指導３		2
卒業論文	6	

国際学部
韓国・朝鮮語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
韓国・朝鮮語Ａ（文法）	3	
韓国・朝鮮語Ａ（会話）	2	
韓国・朝鮮語Ａ（発音）	1	
韓国・朝鮮語Ｂ（文法）	3	
韓国・朝鮮語Ｂ（会話）	2	
韓国・朝鮮語Ｂ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（文法）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｃ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（文法）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｄ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｅ（表現）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（会話）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（講読）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（作文）	1	
韓国・朝鮮語Ｆ（表現）	1	
韓国・朝鮮語Ｇ（総合）	1	
韓国・朝鮮語Ｈ（総合）	1	
実践韓国・朝鮮語Ａ		1
実践韓国・朝鮮語Ｂ		1
映像で学ぶ韓国・朝鮮語		1
韓国・朝鮮語古典講読		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語Ａ		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語Ｂ		1
応用韓国・朝鮮語Ａ		1
応用韓国・朝鮮語Ｂ		1
伝道韓国・朝鮮語１		1
伝道韓国・朝鮮語２		1
韓国・朝鮮語学概論１		2
韓国・朝鮮語学概論２		2
韓国・朝鮮文学概論１		2
韓国・朝鮮文学概論２		2
韓国・朝鮮史１		2
韓国・朝鮮史２		2
韓国・朝鮮社会文化論１		2
韓国・朝鮮社会文化論２		2
韓国・朝鮮文化交流史１		2
韓国・朝鮮文化交流史２		2
韓国・朝鮮事情１		2
韓国・朝鮮事情２		2
韓国・朝鮮語科指導法１		2
韓国・朝鮮語科指導法２		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
韓国・朝鮮入門	2	
韓国・朝鮮語演習１	2	
韓国・朝鮮語演習２	2	
韓国・朝鮮語演習３	2	
韓国・朝鮮語演習４	2	
韓国・朝鮮語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

中国語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
中国語Ａ（文法）	2	
中国語Ａ（発音）	2	
中国語Ａ（リスニング）	2	
中国語Ｂ（文法）	2	
中国語Ｂ（発音）	2	
中国語Ｂ（リスニング）	2	
中国語Ｃ（文法）	2	
中国語Ｃ（会話１）	1	
中国語Ｃ（会話２）	1	
中国語Ｄ（読解）	2	
中国語Ｄ（会話１）	1	
中国語Ｄ（会話２）	1	
中国語Ｅ（通訳１）	1	
中国語Ｅ（通訳２）	1	
中国語Ｅ（読解）	2	
中国語Ｆ（通訳１）	1	
中国語Ｆ（通訳２）	1	
中国語Ｆ（読解）	2	
中国語Ｇ（総合）	1	
中国語Ｈ（総合）	1	
伝道中国語１		1
伝道中国語２		1
広東語Ａ		1
広東語Ｂ		1
台湾語Ａ		1
台湾語Ｂ		1
ボランティア中国語Ａ		1
ボランティア中国語Ｂ		1
スピーチ中国語Ａ		1
スピーチ中国語Ｂ		1
ビジネス中国語		1
中国語学概論１		2
中国語学概論２		2
中国文学概論１		2
中国文学概論２		2
中国史１		2
中国史２		2
中国文化史１		2
中国文化史２		2
台湾社会文化論１		2
台湾社会文化論２		2
近代中国と国際政治１		2
近代中国と国際政治２		2
中国語科指導法１		2
中国語科指導法２		2
中国語圏研究入門	2	
中国語演習１	2	
中国語演習２	2	
中国語演習３	2	

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
中国語演習４	2	
中国語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

英米語学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
英語Ａ（Reading）	1	
英語Ａ（Writing）	1	
英語Ａ（Grammar）	1	
英語Ａ（Oral Communication１）	1	
英語Ａ（Oral Communication２）	1	
英語Ａ（Integrated English）	1	
英語Ｂ（Reading）	1	
英語Ｂ（Writing）	1	
英語Ｂ（Grammar）	1	
英語Ｂ（Oral Communication１）	1	
英語Ｂ（Oral Communication２）	1	
英語Ｂ（Integrated English）	1	
英語Ｃ（Reading）	1	
英語Ｃ（Writing）	1	
英語Ｃ（Oral Communication１）	1	
英語Ｃ（Oral Communication２）	1	
英語Ｃ（Presentation）	1	
英語Ｃ（Integrated English）	1	
英語Ｄ（Reading）	1	
英語Ｄ（Writing）	1	
英語Ｄ（Oral Communication１）	1	
英語Ｄ（Oral Communication２）	1	
英語Ｄ（Presentation）	1	
英語Ｄ（Integrated English）	1	
英語Ｅ（Writing）	1	
英語Ｅ（Presentation）	1	
英語Ｅ（Integrated English）	1	
英語Ｆ（Writing）	1	
英語Ｆ（Presentation）	1	
英語Ｆ（Integrated English）	1	
観光英語		1
ビジネス英語		1
英米文学概論		2
伝道英語１		1
伝道英語２		1
英米語概論１		2
英米語概論２		2
英米語概論３		2
英米語概論４		2
英米語概論５		2
Content Based English１		2
Content Based English２		2
Content Based English３		2
Content Based English４		2
Content Based English５		2
英語科指導法１		2
英語科指導法２		2
英語科指導法３		2
英語科指導法４		2

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
ガイド英語		1
時事英語		1
通訳		1
翻訳		1
英米語演習１	2	
英米語演習２	2	
英米語演習３	2	
英米語演習４	2	
英米語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

外国語学科

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
外国語演習１	2	
外国語演習２	2	
外国語演習３	2	
外国語演習４	2	
海外語学実習		4
卒業課題研究		2
卒業論文		4

タイ語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
タイ語Ａ（表記）		2
タイ語Ａ（会話）		2
タイ語Ａ（リスニング）		1
タイ語Ａ（文法・表現）		1
タイ語Ｂ（表記）		2
タイ語Ｂ（会話）		2
タイ語Ｂ（リスニング）		1
タイ語Ｂ（文法・表現）		1
タイ語Ｃ（講読１）		1
タイ語Ｃ（講読２）		1
タイ語Ｃ（会話）		1
タイ語Ｃ（作文）		1
タイ語Ｄ（講読１）		1
タイ語Ｄ（講読２）		1
タイ語Ｄ（会話）		1
タイ語Ｄ（作文）		1
タイ語Ｅ（講読１）		1
タイ語Ｅ（講読２）		1
タイ語Ｅ（会話）		1
タイ語Ｅ（作文）		1
タイ語Ｆ（講読１）		1
タイ語Ｆ（講読２）		1
タイ語Ｆ（会話）		1
タイ語Ｆ（作文）		1
タイ語Ｇ（翻訳）		1
タイ語Ｈ（通訳）		1
伝道タイ語１		1
伝道タイ語２		1
タイ語で学ぶ日本文化		1
観光タイ語		1
映像で学ぶタイ語		1
時事タイ語		1
タイ研究入門		2
タイ史		2
タイ社会文化論		2
タイ言語文化論		2
タイと日本		2

インドネシア語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
インドネシア語Ａ（文法）		2
インドネシア語Ａ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ａ（語彙・表現）		2
インドネシア語Ｂ（文法）		2
インドネシア語Ｂ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｂ（語彙・表現）		2
インドネシア語Ｃ（文法・読解）		2
インドネシア語Ｃ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｄ（文法・読解）		2
インドネシア語Ｄ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｅ（総合）		2
インドネシア語Ｅ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｆ（総合）		2
インドネシア語Ｆ（コミュニケーション）		2
インドネシア語Ｇ（総合）		1
インドネシア語Ｈ（コミュニケーション）		1
伝道インドネシア語１		1
伝道インドネシア語２		1
インドネシア語で学ぶ日本文化		1
通訳インドネシア語		1
観光インドネシア語		1
時事インドネシア語		1
インドネシア研究入門		2
インドネシア史		2
インドネシア社会文化論		2
インドネシア言語文化論		2
インドネシアと日本		2

ドイツ語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ドイツ語Ａ（文法・読解）		2
ドイツ語Ａ（コミュニケーション）		2
ドイツ語Ａ（語彙・発音）		1
ドイツ語Ａ（リスニング）		1
ドイツ語Ｂ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｂ（コミュニケーション）		2
ドイツ語Ｂ（語彙・発音）		1
ドイツ語Ｂ（リスニング）		1
ドイツ語Ｃ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｃ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｃ（作文）		1
ドイツ語Ｄ（文法・読解）		2
ドイツ語Ｄ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｄ（作文）		1
ドイツ語Ｅ（文法・読解）		1
ドイツ語Ｅ（総合）		1
ドイツ語Ｅ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｅ（作文）		1
ドイツ語Ｆ（文法・読解）		1
ドイツ語Ｆ（総合）		1
ドイツ語Ｆ（コミュニケーション）		1
ドイツ語Ｆ（作文）		1
ドイツ語Ｇ（総合）		1
ドイツ語Ｈ（総合）		1
伝道ドイツ語１		1
伝道ドイツ語２		1
ドイツ語で学ぶ日本文化		1
観光ドイツ語		1
映像で学ぶドイツ語		1
時事ドイツ語		1
ドイツ語圏研究入門		2
ドイツ語圏史		2
ドイツ社会文化論		2
ドイツ言語文化論		2
ドイツと日本		2

フランス語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
フランス語Ａ（文法・読解）		2
フランス語Ａ（コミュニケーション）		2
フランス語Ａ（語彙・発音）		1
フランス語Ａ（リスニング）		1
フランス語Ｂ（文法・読解）		2
フランス語Ｂ（コミュニケーション）		2
フランス語Ｂ（語彙・発音）		1
フランス語Ｂ（リスニング）		1
フランス語Ｃ（文法・読解）		2
フランス語Ｃ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｃ（作文）		1
フランス語Ｄ（文法・読解）		2
フランス語Ｄ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｄ（作文）		1
フランス語Ｅ（総合）		1
フランス語Ｅ（読解）		1
フランス語Ｅ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｅ（作文）		1
フランス語Ｆ（総合）		1
フランス語Ｆ（読解）		1
フランス語Ｆ（コミュニケーション）		1
フランス語Ｆ（作文）		1
フランス語Ｇ（総合）		1
フランス語Ｈ（総合）		1
伝道フランス語１		1
伝道フランス語２		1
フランス語で学ぶ日本文化		1
観光フランス語		1
通訳フランス語		1
翻訳フランス語		1
フランス語圏研究入門		2
フランス語圏史		2
フランス社会文化論		2
フランス言語文化論		2
フランスと日本		2

ロシア語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ロシア語Ａ（文法）		2
ロシア語Ａ（会話）		2
ロシア語Ａ（リスニング）		1
ロシア語Ａ（語彙・発音）		1
ロシア語Ｂ（文法）		2
ロシア語Ｂ（会話）		2
ロシア語Ｂ（リスニング）		1
ロシア語Ｂ（語彙・発音）		1
ロシア語Ｃ（文法）		1
ロシア語Ｃ（講読）		1
ロシア語Ｃ（会話１）		1
ロシア語Ｃ（会話２）		1
ロシア語Ｄ（文法）		1
ロシア語Ｄ（講読）		1
ロシア語Ｄ（会話１）		1
ロシア語Ｄ（会話２）		1
ロシア語Ｅ（講読）		1
ロシア語Ｅ（翻訳）		1
ロシア語Ｅ（会話）		1
ロシア語Ｅ（作文）		1
ロシア語Ｆ（講読）		1
ロシア語Ｆ（翻訳）		1
ロシア語Ｆ（会話）		1
ロシア語Ｆ（作文）		1
ロシア語Ｇ（総合）		1
ロシア語Ｈ（総合）		1
伝道ロシア語１		1
伝道ロシア語２		1
ロシア語で学ぶ日本文化		1
観光ロシア語		1
映像で学ぶロシア語		1
時事ロシア語		1
ロシア研究入門		2
ロシア史		2
ロシア社会文化論		2
ロシア言語文化論		2
ロシアと日本		2

スペイン語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
スペイン語Ａ（文法）		2
スペイン語Ａ（コミュニケーション・表現）		3
スペイン語Ａ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｂ（文法）		2
スペイン語Ｂ（コミュニケーション・表現）		3
スペイン語Ｂ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｃ（文法）		1
スペイン語Ｃ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｃ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｄ（文法）		1
スペイン語Ｄ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｄ（読解・聴解）		1
スペイン語Ｅ（文法・理解）		2
スペイン語Ｅ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｆ（文法・理解）		2
スペイン語Ｆ（コミュニケーション・表現）		2
スペイン語Ｇ（総合）		1
スペイン語Ｈ（総合）		1
伝道スペイン語１		1
伝道スペイン語２		1
スペイン語で学ぶ日本文化		1
観光スペイン語		1
時事スペイン語		1
映像で学ぶスペイン語		1
翻訳スペイン語		1
通訳スペイン語		1
スペイン語圏研究入門		2
スペイン語圏史１		2
スペイン語圏史２		2
スペイン語学１		2
スペイン語学２		2
スペイン語圏と日本		2
スペイン語圏文学１		2
スペイン語圏社会文化論１		2
スペイン語圏文学２		2
スペイン語圏社会文化論２		2
スペイン語科指導法１		2
スペイン語科指導法２		2

ブラジルポルトガル語コース

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
ブラジルポルトガル語Ａ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ａ（コミュニケーション）		2
ブラジルポルトガル語Ａ（語彙・発音）		1
ブラジルポルトガル語Ａ（リスニング）		1
ブラジルポルトガル語Ｂ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｂ（コミュニケーション）		2
ブラジルポルトガル語Ｂ（語彙・発音）		1
ブラジルポルトガル語Ｂ（リスニング）		1
ブラジルポルトガル語Ｃ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｃ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｃ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｄ（文法・読解）		2
ブラジルポルトガル語Ｄ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｄ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（総合１）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（総合２）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｅ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（総合１）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（総合２）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（コミュニケーション）		1
ブラジルポルトガル語Ｆ（作文）		1
ブラジルポルトガル語Ｇ（総合）		1
ブラジルポルトガル語Ｈ（総合）		1
伝道ブラジルポルトガル語１		1
伝道ブラジルポルトガル語２		1
ブラジルポルトガル語で学ぶ日本文化		1
観光ブラジルポルトガル語		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ通訳		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ翻訳		1
ブラジル研究入門		2
ブラジル史		2
ブラジル社会文化論		2
ブラジル言語文化論		2
ブラジルと日本		2

国際文化学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
やさしい日本語	2	
異文化理解入門ゼミナール１		2
異文化理解入門ゼミナール２		2
多文化共生入門ゼミナール１		2
多文化共生入門ゼミナール２		2
国際事情入門ゼミナール１		2
国際事情入門ゼミナール２		2
歴史文化入門ゼミナール１		2
歴史文化入門ゼミナール２		2
異文化理解ゼミナール１		2
異文化理解ゼミナール２		2
多文化共生ゼミナール１		2
多文化共生ゼミナール２		2
国際事情ゼミナール１		2
国際事情ゼミナール２		2
歴史文化ゼミナール１		2
歴史文化ゼミナール２		2
社会調査法入門		2
社会調査法１		2
社会調査法２		2
社会調査法実践Ａ		2
社会調査法実践Ｂ		2
質的調査研究		2
宗教学		2
社会学概論		2
多文化共生学		2
国際法		2
国際政治学		2
国際関係論		2
国際経済史		2
経済学概論		2
環境政治論		2
地域統合論		2
比較宗教学		2
文化人類学概論		2
ボランティアネットワーク論		2
異文化理解論		2
多文化共生論		2
国際事情論		2
歴史文化論		2
国際文化演習１	2	
国際文化演習２	2	
国際文化演習３	2	
国際文化演習４	2	
社会・公民科指導法１		2
社会・公民科指導法２		2
多文化体験活動１		1
多文化体験活動２		1
卒業論文	4	

日本学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本研究入門	2	
ナラロジー研究入門	2	
文化人類学入門	2	
日本文化入門	2	
言語学入門	2	
フィールドワークの方法	2	
世界史のなかの日本	2	
日本表現文化概論		2
交通地理学概論		2
日本多文化共生概論		2
日本精神文化概論		2
ナラロジー概論		2
日本生活文化概論		2
社会言語学概論		2
日本表現文化特論		2
経営人類学特論		2
日本情報文化特論		2
日本環境文化特論		2
観光地理学特論		2
ナラロジー特論		2
日本生活文化特論		2
入門日本語Ａ（会話）		1
入門日本語Ａ（講読）		1
入門日本語Ａ（文法Ａ）		1
入門日本語Ａ（文法Ｂ）		1
入門日本語Ａ（作文）		1
入門日本語Ａ（表記）		1
入門日本語Ａ（総合）		1
入門日本語Ｂ（会話）		1
入門日本語Ｂ（講読）		1
入門日本語Ｂ（文法Ａ）		1
入門日本語Ｂ（文法Ｂ）		1
入門日本語Ｂ（作文）		1
入門日本語Ｂ（表記）		1
入門日本語Ｂ（総合）		1
基礎日本語Ａ（会話）	1	
基礎日本語Ａ（講読）	1	
基礎日本語Ａ（文法Ａ）	1	
基礎日本語Ａ（文法Ｂ）	1	
基礎日本語Ａ（作文）	1	
基礎日本語Ａ（表記）	1	
基礎日本語Ａ（総合）	1	
基礎日本語Ｂ（会話）	1	
基礎日本語Ｂ（講読）	1	
基礎日本語Ｂ（文法Ａ）	1	
基礎日本語Ｂ（文法Ｂ）	1	
基礎日本語Ｂ（作文）	1	
基礎日本語Ｂ（表記）	1	
基礎日本語Ｂ（総合）	1	

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
ビジネス日本語１		2
ビジネス日本語２		2
日本語実践研究１		2
日本語実践研究２		2
日本研究演習１	2	
日本研究演習２	2	
日本研究演習３	2	
日本研究演習４	2	
日本文化体験実習１		2
日本文化体験実習２		2
卒業課題研究		2
卒業論文		4

体育学部
体育学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
天理スポーツ学	2	
スポーツ学概論	2	
健康学概論	2	
武道学概論	2	
体育・スポーツ原論（体育原理、学校体育史を含む）	2	
スポーツデータサイエンス	2	
スポーツ運動学（運動方法学を含む）		2
解剖学		2
体力学（体力診断の理論と体力測定法を含む）		2
生理学（運動生理学を含む）		2
スポーツ心理学		2
スポーツ経営学		2
保健体育科指導法１		2
保健体育科指導法２		2
アダプテッド・スポーツ論		2
スポーツプログラミング（運動処方論及びメディカルチェックの基礎を含む）		2
学校保健（学校安全を含む）		2
救急看護法		2
健康・スポーツ統計学		2
パフォーマンス分析		2
体育学演習１	2	
体育学演習２	2	
健康運動処方論（実習を含む）		2
体育学特別演習		2
卒業研究	4	
スポーツトレーニング論		2
スポーツバイオメカニクス		2
スポーツコーチ論		2
スポーツカウンセリング		2
スポーツ栄養学		2
スポーツコンディショニング論		2
スポーツマッサージ（テーピングを含む）		2
スポーツ教育学		2
野外教育論		2
保健科教育法		2
学校体育特論		2
保健体育科指導法３		2
保健体育科指導法４		2
スポーツ方法（アダプテッド・スポーツ）		1
スポーツ文化論		2
生涯スポーツ論（スポーツ政策を含む）		2
身体コミュニケーション		2
スポーツマネジメント		2
スポーツ社会学		2
スポーツ人類学		2
スポーツメディア論		2
心身健康論		2
スポーツ医学		2

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
健康栄養学		2
健康運動論		2
健康管理学（小児保健を含む）		2
衛生学（公衆衛生学を含む）		2
発育発達・老化論		2
精神保健		2
柔道論		2
剣道論		2
柔道史		2
剣道史		2
武道思想史		2
武道国際事情		2
柔道特別実習１（柔の形１）		1
柔道特別実習２（柔の形２）		1
柔道特別実習３（投の形１）		1
柔道特別実習４（投の形２）		1
柔道特別実習５（古式の形１）		1
柔道特別実習６（古式の形２）		1
柔道特別実習７（極の形１）		1
柔道特別実習８（極の形２）		1
剣道特別実習１（剣道の基本動作）		1
剣道特別実習２（技と技術の構造）		1
剣道特別実習３（古流剣術の形１）		1
剣道特別実習４（古流剣術の形２）		1
剣道特別実習５（日本剣道形）		1
剣道特別実習６（剣道五行之形）		1
剣道特別実習７（審判法）		1
剣道特別実習８（指導法）		1
スポーツ方法（体つくり運動・集団行動）		1
スポーツ方法（器械運動）		1
スポーツ方法（陸上競技）		1
スポーツ方法（水泳）		1
スポーツ方法（柔道）		1
スポーツ方法（剣道）		1
スポーツ方法（ダンス）		1
スポーツ方法（バスケットボール）		1
スポーツ方法（ハンドボール）		1
スポーツ方法（サッカー）		1
スポーツ方法（ラグビー）		1
スポーツ方法（バレーボール）		1
スポーツ方法（テニス）		1
スポーツ方法（バドミントン）		1
スポーツ方法（卓球）		1
スポーツ方法（ソフトボール）		1
スポーツ方法（ホッケー）		1
スポーツ外国語会話		1
健康・体力づくり運動（トレーニング）		1
健康・体力づくり運動（エアロビック・エクササイズ）		1
健康・体力づくり運動（レクリエーショナルスポーツ）		1
競技力向上・支援活動		1

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
スポーツボランティア（実習を含む）		1
スポーツ特別活動１		1
スポーツ特別活動２		1
スポーツ特別活動３		1
スポーツ特別活動４		1

医療学部
看護学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
看護学概論	2	
看護早期実習	1	
看護過程論	1	
看護方法論Ⅰ	2	
看護援助論	2	
看護方法論Ⅱ	2	
ヘルスアセスメント	2	
看護基礎実習	2	
地域の暮らしと看護	1	
地域・在宅看護学	2	
地域看護方法論	1	
在宅看護方法論	1	
在宅看護学実習	2	
地域共生マネジメント方法論	1	
地域共生マネジメント実習	1	
成人看護学	2	
成人看護援助論	2	
慢性期看護方法論	1	
慢性期（在宅移行）看護学実習	3	
急性期看護方法論	1	
急性期看護学実習	2	
高齢者看護学	2	
高齢者看護方法論	2	
高齢者看護学実習Ⅰ	1	
高齢者看護学実習Ⅱ	2	
小児看護学	2	
小児看護方法論	2	
小児看護学実習	2	
母性看護学	2	
母性看護方法論	2	
母性看護学実習	2	
精神看護学	2	
精神看護方法論	2	
精神看護学実習	2	
地域健康教育方法論	1	
地域健康教育実習	1	
家族看護論		1
ストレスマネジメント論		1
看護学研究方法論	1	
看護学研究	2	
看護管理論	2	
看護統合実習	2	
臨床判断能力の探求	1	
国際看護論	1	
災害看護論	1	
緩和ケア論		1
がん看護論		1
ウィメンズヘルスケア論		1
クリティカルケア論		1

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
グリーフケア論		1
高齢者健康増進看護論		1

臨床検査学科

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
医用工学	2	
医用工学実習	1	
血液検査学Ⅰ	2	
血液検査学Ⅱ	1	
血液検査学実習	1	
病理検査学Ⅰ	2	
病理検査学Ⅱ	1	
病理検査学実習Ⅰ	1	
病理検査学実習Ⅱ	1	
臨床一般検査学	2	
臨床一般検査学実習	1	
医動物検査学	1	
生化学検査学	2	
生化学検査学実習	1	
免疫検査学	2	
免疫検査学実習	1	
遺伝子関連・染色体検査学	1	
遺伝子関連・染色体検査学実習	1	
輸血・移植検査学	2	
輸血・移植検査学実習	2	
微生物検査学Ⅰ	2	
微生物検査学Ⅱ	2	
微生物検査学実習	2	
基礎生理検査学	2	
循環機能検査学	2	
神経感覚機能検査学	2	
超音波検査学	2	
生理検査学実習	2	
臨床検査総合管理学Ⅰ	2	
臨床検査総合管理学Ⅱ	1	
臨床検査総合管理学Ⅲ	1	
臨床検査総合管理学Ⅳ	1	
臨床病態検査学	1	
臨地実習前総合演習	1	
病理検査学臨地実習	1	
血液検査学・輸血移植検査学臨地実習	2	
生化学・免疫検査学臨地実習	1	
微生物検査学臨地実習	1	
生理検査学臨地実習	4	
検査総合管理学臨地実習	2	
専門的臨床検査実習	1	
臨床検査基礎演習	1	
臨床検査学研究Ⅰ	1	
臨床検査学研究Ⅱ	6	
臨床検査学研究Ａ	1	
臨床検査学研究Ｂ		1
臨床検査学総合演習Ａ		1
臨床検査学総合演習Ｂ		1
臨床検査学総合演習Ｃ		1
臨床検査学総合演習Ｄ		1

資格科目

天理教学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
伝道実習１		1
伝道実習２		1
伝道実習３		1
伝道実習４		1

人文科学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
日本語学入門		2
日本語教育入門		2
日本語語彙論		2
日本語文法論１		2
日本語文法論２		2
日本語音声学		2
言語の対照研究		2
日本語教授法１		2
日本語教授法２		2
第二言語習得論		2
日本語指導法		2
日本語教育評価法		2
日本語教育実習		2

社会科学部門

科　　目　　名	単位	
	必修	選択
図書館情報システム論		2
情報サービス論		2
児童・ＹＡサービス論		2
情報サービス演習１		2
情報サービス演習２		2
図書館情報資源概論		2
情報資源組織論		2
情報資源組織演習１		2
情報資源組織演習２		2
図書館情報資源特論		2
図書館情報学特論		2
博物館実習１		2
博物館実習２		1
矯正概論		2
更生保護概論		2
矯正保護教育（施設参観を含む）		2
矯正保護支援実践論		2
犯罪被害者支援論		2

教職に関する専門教育科目

科　　目　　名	単　位	
	必修	選択
教職論		2
教育原理		2
教育史		2
教育課程論		2
学校教育心理学		2
学校教育社会学		2
道徳の理論及び指導法		2
教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）		2
教育相談の理論及び方法		2
生徒指導・進路指導の理論及び方法		2
教育実習講義		1
介護等体験		1
教職実践演習（中・高）		2
教育実習１		2
教育実習２		2
人権教育論１		2
人権教育論２		2
特別な支援の必要な生徒の理解		2
学校教育支援		1
特別活動・総合的な学習の時間の指導法		2
教育史特論		2
臨床教育学特論		2

別表第３（第５４条関係）

科目＼学部		人文学部	国際学部	体育学部	医療学部
入　学　金		100,000	100,000	100,000	100,000
授業料	春学期	380,000	380,000	400,000	545,000
	秋学期	380,000	380,000	400,000	545,000
	年　額	760,000	760,000	800,000	1,090,000
教育設備充実費	春学期分	110,000	110,000	125,000	237,500
	秋学期分	110,000	110,000	125,000	237,500
	年　額	220,000	220,000	250,000	475,000

人文学部、国際学部及び体育学部の教育設備充実費については、２年目以降は５万円増とする。

医療学部の令和５年度以降入学生の教育設備充実費については、２年目以降は10万円増とする。

医療学部令和４年度以前入学生の教育設備充実費は250,000円とする。

過年度在学生

費目	区分＼学部	令和６年度入学生
		年　　額
授業料	人文学部 国際学部 体育学部	360,000円 ＋ （20,000円×年間登録単位数）
	医療学部	----------
教育設備充実費	人文学部 国際学部	270,000円
	体育学部	300,000円
	医療学部	----------

天理大学国際学部教授会規程

第１条　本大学に、天理大学学則（以下「学則」という。）第 12 条の規定により、国際学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

第２条　教授会は、学則第 12 条第２項に規定する国際学部専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く。）をもって組織する。

第３条　教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

ア　教員の教育研究業績の審査に関する事項

イ　学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項

ウ　学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項

エ　全学協議会委員及び各種委員会委員等の選出に関する事項

オ　学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項

カ　学部の自己点検・評価に関する事項

キ　教育内容及び授業方法の改善に関する事項

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項

(2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項

(3) 学部教員の賞罰に関する事項

(4) その他、学部の教育研究に関する事項

第４条　教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

２　学部長事故あるときは、あらかじめ指定する順序により教授がこれに代わる。

第５条　教授会は、定例及び臨時の２種とする。

２　定例教授会は、毎月１回開催する。

３　臨時教授会は、学部長が必要と認めるとき、又は構成員総数の３分の１以上の要求があったときに開催する。

第６条　学長及び副学長が必要と認めるときは、教授会に出席して発言することができ

る。また教授会の招集を学部長に要請することができる。

第７条　教授会は、構成員総数の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第８条　教授会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。

２　可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第９条　教授会の出席者の身上に関する事項を議する場合には、議長は当該者の退席を求めることができる。

第10条　議長は、必要と認めるとき構成員以外の者を会議に出席させ、報告又は意見を求めることができる。

第11条　教授会は、必要と認めるとき専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会は、教授会から付託された事項について審議し、結果を報告するものとする。

第12条　教授会に、幹事及び書記を置く。

２　幹事及び書記は、学部長が指名する。

第13条　議事録は、書記が作成し、学部長が保管する。

第14条　この規程の改廃は、教授会及び全学協議会の議を経るものとする。

附　則

この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

「天理大学国際文化学部教授会規程」は、平成２２年３月３１日をもって廃止する。

附　則

この規程は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

覚　書

１　第３条第１項第１号の卒業に関する事項については、学長、副学長、各学部長及び学則第９条第１項に定める主任並びに学務部長でもって、卒業資格判定会議を組織し、認定するものとする。

２　第３条第１項第３号アの教員の教育研究業績の審査に関する事項については、別に定める「天理大学教員資格審査規程」に基づき審議する。

３　平成２２年４月１日以降は、国際文化学部教授会に関する審議事項については、国際学部教授会で審議することとする。

設置の趣旨等を記載した書類
（国際学部英米語学科）

目 次

１．設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

２．学部・学科の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

３．学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・ 4

４．教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・ 4

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・ 6

６．実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

７．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の
学外実習を実施する場合の具体的計画・・・・・・・・・・・ 10

８．取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

９．入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

10. 教員組織の編制の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・ 15

11. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み・・・・・・ 16

12. 施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

13. 管理運営及び事務組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

14. 自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

15. 情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・ 24

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・ 25

設置の趣旨等を記載した書類

１．設置の趣旨及び必要性

（１）英米語学科を設置する理由

本学における英語教育は、昭和２（1927）年に設立された天理外国語学校英語部を源流とする。その後いくどかの組織改編を経て、平成 22（2010）年設置のヨーロッパ・アメリカ学科英米語コース、現在の外国語学科英米語専攻に至るまで、本学は英語及び英語圏の社会文化に関する専門教育を担う機関として一定の役割を果たしてきた。

英語は事実上の国際共通語であり、その必要性は高いにも関わらず、奈良県内で本格的に英語を学修できる大学は本学のみである。奈良には三つの世界遺産を含む多くの名所旧跡があり、世界中から観光客が訪れるが、地域住民の英語リテラシーは必ずしも十分なものとはいえない。【資料１】【資料２】

100 年近い英語教育の実績を有する本学では、こうした社会的需要に応えるべく、現在の国際学部外国語学科英米語専攻を改編して、国際学部英米語学科を設置する。

（２）英米語学科で養成する人材像

英米語学科は、高度な英語コミュニケーション力を身につけ、英語圏の社会や文化に関する専門的な知識を有し､国際的な視野をもって国際社会及び地域社会で活躍できる人材、多文化共生社会の実現に資する人材を養成する。

（３）英米語学科の３ポリシー

英米語学科では卒業認定･学位授与の方針（ディプロマポリシー）を以下のように定め、これらの知識や能力を備えた学生に学士（英語）を授与する。

① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性）
② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている（英語圏の見識）
③ 英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる（英語で学問探究）
④異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる（英語コミュニケーション力）
⑤あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力）
⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）

ディプロマポリシーで定められた知識や能力を養成するため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、英語力を礎に、専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域について探究することができる科目を体系的に配置する。

１年次と２年次では、英語運用力向上のための基本となる Grammar、Reading、Writing

科目、オーラル・コミュニケーション能力を養成するための科目、プレゼンテーション能力を養成する科目、読む、書く、話す、聞くの４技能を統合的に学修する科目を設定している。３年次と４年次では、２年次までに養成した語学力を生かしつつ、語学・文学・歴史・社会・教育などの領域を選択して英語と日本語で幅広く学ぶ科目、及び卒業後のキャリアに関連した科目群を設け、さらに学修の総まとめとしての卒業論文作成に向けた演習を３年次と４年次に配置したカリキュラムを編成している。

また、語学力の向上、海外生活の経験のために、約３週間の英語圏における語学実習を必修科目として配置する。

このような教育方針の下、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定め、英米語学科が養成しようとする人材像を目指す入学者を受入れる。

①本学の教育理念である「国際性」に関心がある人（国際性）
②英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などに関心がある人（英語圏の見識）
④ 語学、文学、歴史、社会、教育などの領域に関心がある人（英語で学問探究）
④英語でのコミュニケーションに関心がある人（英語コミュニケーション力）
⑤英語を用いて活躍したい人（仕事で通用する英語力）
⑥英語を用いて日本と海外の橋渡しをしたい人（国内外での貢献性）
⑦社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、英語に関心がある人（意欲）

上記の、養成する人材像及び３つのポリシーの整合性を図で表したものは別紙の通り。【資料３】

（４）組織として研究対象とする中心的な学問分野

現在の英米語専攻では、英語圏を対象に、言語学・言語教育学・文学・歴史学・社会学・の五つの学問分野を主な研究対象としてきた。今回設置する英米語学科では、英語が事実上の国際共通語であるという認識に基づき、英米文化にその学問分野を限定するのではなく、教員の専門領域であるコミュニケーション学、政治学、国際関係学なども新たな研究領域に加える。

２．学部・学科の特色

英米語学科は、グローバル社会で活躍するための高度な英語コミュニケーション力、多様な価値観を持つ人々と共生するための広い視野と豊かな教養を身につける教育を行う。

そのため、「話す」、「聞く」のオーラル・コミュニケーション教育をこれまで以上に重視し、「使える英語」力を確固たるものにする。Content Based English 科目群を充実させ、英米圏の大学で 1～2 年次生が学ぶ Introduction to ○○のように、英語で大学レベルの内容を学ぶ科目を配置した。さらに、英語、英語圏の文化、歴史、社会等を国際的な視野か

ら専門的に学ぶための講義科目と、各学問分野に分かれて自ら考究するための演習科目によって、自己の文化、自分自身を相対化して考える力を涵養する。

あわせて、充実した長期・短期の留学制度（海外交流協定校への交換留学、及び認定留学)、学生自身が現地に赴いて実施される海外語学実習、提携大学の学生たちとの間で行われる交流行事等を通じて、英語の運用能力だけでなく、多文化理解と国際交流の感覚や能力を身につけ、国際社会及び地域社会で活躍できる人材、多文化共生社会の実現に資する人材の育成を図る。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

学部の名称は、現行の「国際学部」とし、英語名称は Faculty of International Studies とする。学科の名称は、既設の英米語専攻の設置の趣旨や理念、教育研究を継承することから「英米語学科」とする。英語名称は「Department of British and American Studies」とする。

学位は「学士（英語)」とし、英語名称は、「B.A. in British and American Studies」とする。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

国際学部の教育課程は、教養科目としての「総合教育科目」と専門科目としての「専門教育科目」の大きく２つの科目群から編成する。「総合教育科目」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として「天理スピリット科目群」と、職業教育科目として「キャリア科目群」、大学生としての基本的な学修態度や基礎的な学問分野のリテラシーを修得する科目、データサイエンス能力を習得するための科目などからなる「基礎リテラシー科目群」、及び専門教育科目修得においてその基盤となる周辺領域の科目等を含む「一般教養教育科目群」からなる。

「専門教育科目」は、各学科における専門教育に必要な「専攻科目」を配置する。「専攻科目」は４年間の体系的な科目履修を通して、必要な知識とスキルを修得することが可能になるように配慮し、年次を追って、基礎的科目から各学問分野の基幹科目、基幹科目から発展科目を履修するように、体系的な教育課程の編成している。

（１）総合教育科目

「総合教育科目」は、本学の育成する人間像の基盤となる知識やスキルを修得する科目群であるとともに、専門教育の周辺領域の知識やスキル、及び中央教育審議会答申などで示されている文理融合を目指す科目を含め、「天理スピリット科目群」、「キャリア教育科目群」、「基礎リテラシー科目群」、「一般教養教育科目群」の４つの科目群から編成している。

１）天理スピリット科目群

本学では「宗教性」「国際性」「貢献性」の３つの柱を教育の中心としているが、「天理ス

ピリット科目群」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として配置する。まず、
本学の精神的基盤でもある天理教の歴史と教えを学ぶ「天理教概説１・２」（各２単位）を必修科目とする。そのほかにも自校史教育として、「建学の精神と天理大学の歩み」（２単位)を必修科目とする。また、天理外国語学校として創設された本学の伝統を活かし、基礎外国語科目として「韓国・朝鮮語１・２」（各１単位）もしくは「中国語１・２」（各１単位）を選択必修科目とし、国際学部で語学教育を行う 10 言語を対象に、個別の言語文化圏を当該の言語を通して学ぶ「多文化理解と言語」（２単位）（英語を除く）を必修科目とする。さらに、天理教の教えに関連して、身体的な鍛錬の科目である「健康スポーツ科学１・２」（各２単位）を置き、寄付講座の科目として、地域社会・企業との連携や本学の独自性を活かす「天理大学特別講義１～４」（各２単位）を配置する。

２）キャリア教育科目群

初年次から「将来になりたい姿」を学生自らが考えることができるように「キャリア教育科目群」を配置する。初年次には、キャリアを考えることの意義や社会で貢献することの重要性について学ぶ科目を配置する。2 年次では、各業界で活躍している人々をゲストスピーカーとして招き、社会人としての基礎力についても併せて考える科目を設ける。また、初年次から関心ある業界を経験するため、インターンシップを配置するが、本学の海外の拠点（サテライト・キャンパス）や海外大学協定校の協力も得て、「海外インターンシップ」科目も配置する。

３）基礎リテラシー科目群

「基礎リテラシー科目群」は、初年次教育として全学必修の「基礎ゼミナール１・２」（各２単位）を配置し、データサイエンスに関する技術を段階的に修得するために「データサイエンス・AI 入門」「データサイエンス・AI 応用」「データリテラシー」の３科目（各２単位）を配置する。また、社会人基礎力の学び直しができるように、近代史や数学、生物・化学などのリメディアル科目を配置する。

４）一般教養教育科目群

「一般教養教育科目群」は、リベラルアーツ及びサイエンス科目を中心に本学の独自性を活かせる科目を配置する。「一般教養教育科目群」は、学生が自らの関心にもとづいて選択する科目群であるが、「専門教育科目」との連携を意識し、専門教育において基盤となる科目を修得するように指導する科目群である。

（２）専門教育科目

専門教育科目は「国際学部共通科目」「英米語学科専攻科目」で構成する。「国際学部共通科目」は、現在も国際学部に設置されている授業科目である。

「国際学部共通科目」では、世界各地の言葉や文化に対する知識と教養を身につけ、国際社会および地域社会が抱える複合的な問題を理解し、分析する力を養うための講義科目が配置されている。また「国際スポーツ協力論」「国際スポーツ交流実習」等の国際協力・国際スポーツ関係科目、「観光地理学」「観光デザイン論」「観光業界論」「ホスピタリティ

ー観光研究１・２」等の観光関係科目を配置する。

語学力とコミュニケーション力を養うための選択必修科目としては「世界の英語」「異文化コミュニケーション１・２」、そして選択科目として「Business Communication」や「TOEFL Academic English」を設け、TOEFL スコアの向上や留学試験対策のための科目を配置する。

「英米語学科専攻科目」は、英語の運用能力を身につけるための英語科目と、英米語圏の言語、文学、歴史、社会文化等の領域において専門性の高い知識を身につけるための講義科目や演習科目および卒業論文・卒業課題研究等の科目を体系的に配置する。

英語スキル科目としては、１-２年次を基礎段階、３-４年次を応用段階と位置付けて、「リーディング」「ライティング」「文法」「リスニング」「スピーキング」「プレゼンテーション」「Integrated English」等の必修科目（30 単位）を配置する。また、現地での体験を通して語学力を向上させるとともに、英米語圏の社会や文化への理解を深めるために約３週間の現地における「英米語海外語学実習」を必修科目（２年次配当）として配置する。より高度で専門的な語学力を身につけるために、「観光英語」「ビジネス英語」「ガイド英語」「時事英語」「通訳」「翻訳」等を選択必修科目として履修することができる。

講義科目は、英語圏の社会や歴史、政治、文化等に関する知識を学ぶ「英米語概論１～５」、及び英語で専門的に学ぶ「Content Based English １～５」等を選択必修科目として履修できる。

３年次と４年次に配置された必修科目「英米語演習１～４」（計８単位）では、上記の学修を通じて得た知識とスキルを活かして研究テーマを掲げて研究を深めることによって、課題の発見及び解明や解明方法の探究能力（問題解決能力）を修得する。

４年次では、学修の総まとめとして「卒業論文」（４単位）あるいは「卒業課題研究」（２単位）に取り組むことで、研究の成果を論理的に発表できる表現能力を涵養する。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（１）授業の内容に応じた授業方法

英米語学科の語学科目では、「Reading」「Writing」「Grammar」「Oral Communication 1」などの科目で CALL 教室や PC 演習室を積極的に活用し、インターネットの情報を利用しながら生きた英語を習得させる授業を展開する。また、日本語を母語とする教員と英語を母語とする教員を適所に配置しながらインプット中心の学習からインプットとアウトプットのバランスのとれた英語運用力が養成されるように、「Oral Communication 2」「Integrated English」「Presentation」などの科目を配置した。また、すべての語学科目は到達度別に編成し、効果的に英語学習ができる環境を提供する。

（２）授業方法に適した学生数の設定

本学では少人数教育によるきめ細かな指導により、学習成果の向上を図っている。たとえば、大学や社会で求められる「読む・書く・聞く・話す」能力の獲得を目標とする初年次教育プログラムである総合教育科目「基礎ゼミナール」では、各クラス 20～30 名程度

の演習形式をとり、共通のテキストを用いて、「学習技法（learning skills）」に焦点をあて、その向上をめざす。

総合教育科目・専門教育科目の「語学科目」については、オーラル・コミュニケーションをはじめとする多角的な運用能力を身につけさせる専攻語（会話を含む）については 20 名、講読および文法、CALL 教室使用科目については 40 名の上限を設けて、建学以来培ってきた実践的かつ高度な外国語教育を行う。

総合教育科目「コンピュータ入門」「情報処理」は上限を 44 名とし、講義に加え、実際にパソコンを操作して課題練習をこなしながら技能の習得を図っていく。

総合教育科目全般についても可能な限り過大クラスを回避し、上限を 100 名程度に抑える方策を講じ、きめ細かい指導に向けて充実を図る。

（３）配当年次の設定

基礎的な英語運用能力を向上させるため、30単位の専攻英語スキル科目のうち24単位分を第１セメスターから第４セメスターまでに配置して、集中学習的効果を狙う。残りの６単位分は、３年次の第５セメスターと第６セメスターに配置する。その間の語学教育では、ＣＡＬＬ教室やＰＣ演習室を活用した集中的かつインタラクティブな教育方法を採用すると共に、英語の４技能が効率的に身につくように、従来のインプット・アウトプットの科目に加えて、観光英語・ビジネス英語・ガイド英語・時事英語・通訳・翻訳等の選択科目も配置した。また、第３・第４セメスターには英語圏の言語・文化・社会・歴史・文学を縦断的に学べるように選択科目を配置し、第５セメスターから第８セメスターまで継続して履修する専攻演習へとつなぐ。さらに、専攻演習においてテーマを掘り下げて学習させ、卒業論文作成への道筋をつけさせる。

（４）卒業要件

本大学に４年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計 22 単位以上（天理スピリット科目群 12 単位以上、キャリア科目群２単位以上、基礎リテラシー科目群６単位以上、一般教養教育科目群２単位以上）、国際学部共通科目６単位以上、英米学科専攻科目計 54 単位以上（必修科目 42 単位、選択科目は選択必修科目の必要単位を含め 12 単位以上）、国際学部共通科目、英米語学科専攻科目を併せて計 70 単位以上、総合教育科目、国際学部共通科目、本学科専攻科目、他学部・学科の開放科目を併せて合計 124 単位以上修得すること。

（５）履修モデル

履修指導については「天理大学履修規則」を定めて、『キャンパスライフ（履修の案内）』やＷｅｂに公開されている「シラバス」、および、クラス担任の指導に基づいて行う。

基本となる履修モデルとしてとしてエアライン、ホテル業、鉄道、旅行会社などで活躍人材養成モデルを示しておく。【資料４】

（６）メディアの利用

ＣＡＬＬ教室・ＰＣ演習室・ＰＣ教室を利用して行う科目としては、英語Ａ～英語Fの必修科目のうち、担当教員が扱うトピックによって効果が見込めると思われる科目が該当する。「Reading」」

「Writing」「Grammar」「Oral Communication 1」「Oral Communication 2」「Presentation」「Integrated English」や選択科目の「観光英語」「ビジネス英語」などの科目がそれに該当する。また、学年が進むにつれて、第５セメスターから第８セメスターに提供される専攻演習（選択必修科目）や「ガイド英語」「時事英語」「通訳」「翻訳」（選択科目）などの授業においても、教員と学生のニーズに応じてＣＡＬＬ教室・ＰＣ演習室・ＰＣ教室を利用する。

（７）履修科目の年間登録上限や、他大学における授業科目の履修等

１）履修科目の登録の上限

登録科目の学習成果を確実なものにするために、各学期に 24 単位を超える登録及び年度内合計が 48 単位を超えない登録を原則とする。なお、直前学期のＧＰＡまたは直前学期までの通算ＧＰＡにより上限に追加枠を設ける。

専門教育科目、一部の総合教育科目の登録については、履修前提条件を設定し、履修をするまでに修得すべき科目を学生に示す。

２）他大学における授業履修について

２年次生以上で単位互換協定の単位の修得を目的とする者を対象として、奈良県内大学間単位互換協定に基づく単位互換制度を設けている。県内 7 大学における履修を 1 年間 12 単位まで認めているが、この履修単位数は、本学での各学期に履修登録できる単位数に含まれる。

海外の大学での履修に関しては、本学と留学生交換協定を締結、もしくは本学が留学先として認めた機関での留学については、30 単位まで留学先での修得単位認定を認めている。また、本学入学前に他大学や短期大学において履修した科目の修得単位を、60 単位を超えない範囲（ただし、編入学の場合は制限なし）で本学での履修単位として認めている。

３）留学生の対応

海外からの入学者については、入学前に国際交流センター室職員がサポートをしつつ、出入国在留管理庁に必要書類を提出し、査証取得に向けたサポートを行う。すでに査証を取得している学生については、有効期限が切れることのないように国際交流センター室職員がサポートを行う。入学後の履修指導については、各学科学年のクラス担任が学期はじめにオリエンテーションを行い、日本語のレベルに合わせた履修科目や履修クラスの指導を行う。生活指導については、天理警察署の協力を得て、海外との交通ルールなどの違いを説明し、留学生が事故、事件に巻き込まれないように指導を行う。

６．実習の具体的計画

（１）実習の目的

英米語学科では、中学校教諭一種免許（英語）及び高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できるカリキュラムを配置し、そのなかに必修科目として「教育実習」を開講する。

本学科ではディプロマポリシーに基づき、高度な英語コミュニケーション力と専門性の

高い学問領域（英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育など）の知識を習得した学生が、中学校・高等学校での体験を通して、学校での教育活動を高度に展開できる実践的な知識や能力を身につける機会として教育実習を位置づける。

学生は「教職課程コアカリキュラム」に基づいて大学で学んだ知識や理論を背景に、観察・参加・実践という体験を通して、学習指導、学級運営、生徒指導等、教員の業務・職務についての理解を深める。また、一定の実践的指導力を有する指導教員の下で体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解するとともに、教員に求められる能力や適性を理解し、自らの資質向上を図る契機となすことを目指す。

（２）実習先の確保の状況

実習先については、これまでと同様に、原則として受講生の出身校において実習を行うこととする。なお、学生自身が実習先を確保することが困難な場合は、提携を結んでいる中学校・高校などで実習を行うことができるように、英米語学科の教員及び教務課の教育実習担当職員がサポートを行う。

（３）実習水準の確保の方策

本学では、教職課程が発行している『教育実習ハンドブック』に基づき、オリエンテーションや「教育実習講義」（教職課程履修者は必修）を通じて教育実習に対する心構えや留意点、実習を効果的にするための事前学習などについて学ぶ方策を採っている。

英米語学科においては「英語科指導法１・２・３・4」の授業を通じて、英語科教員に求められる知識と技能を、講義と実践によって身につけ、実習生としての心得や予備知識等についても学ぶ。

さらに課外においても、実習前に研修を数回実施し、英語科指導法で学んだ知識や技術を復習したり、実習の流れを確認したりすることで、実習の水準を確保することができるようにする。

実習終了後、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先の担当教員の所見及び巡回指導者の指導記録に基づき、多面的に成績評価を行うことで、講義で学んだことを実習で実践できたかを点検する。

なお、英語科の教育実習を行うための条件として、英検２級以上の取得を義務づけることで、学習指導に最低限必要となる英語力の保証を図っている。

（４）実習先との連携体制

本学では、学生を通じて教育実習先から内諾を得た後、教務課より正式に実習生受入れに関する文書を送付し、実習依頼を行っている。その後、「英語科指導法」の担当教員及び巡回指導者を通じて実習先と連絡を取り、実習における指導の方針などについて協議する。これら教育実習に係わる担当教職員が連携して、実習先との連絡及び協議を行う。なお、実習中に問題が発生した際は、教職課程の教員、英米語学科の教員及び教務課の教育実習担当職員が、実習校と協議して解決を図る。

（５）実習前の準備状況

感染予防対策・保険加入などの安全確保については、大学が定める方針に従い、適切に対処する。また、守秘義務やSNSの利用に関しては、教職課程が実施するオリエンテーション及び「教育実習講義」を通じて指導を徹底する。英米後学科が教育実習の前に独自で実施する事前研修においても、これらの点について確認する。

（６）事前・事後における指導計画

教育実習にかかる事前・事後指導については、教職課程のオリエンテーション及び「教育実習講義」「教職実践演習」を通じて全学的な指導を行う。

英米語学科においては、「英語科指導法１・２・３・４」の授業を通じて、教員に求められる知識と技術、実習生の心得、事前準備などについて指導するとともに、実習前の事前研修でそれを確認する。また、実習後は事後研修を実施し、実習の振り返りを行う。

（７）教員の配置並びに巡回指導計画

英米語学科の専任教員が巡回指導を行う。巡回指導の担当者は、教員間で指導にかかる負担が公平になるように、学科主任が中心となって、これを決定する。

実習先が遠隔地にある場合は、大学からのサポートを得て、公共交通機関等で移動し、必要に応じて最寄りの施設に宿泊する。実習先と協議のうえ、オンラインでの指導などの方法で実施する場合もある。

なお、巡回指導は、感染予防対策などの安全確保について、大学が定める方針を遵守した上で行う。

（８）実習施設における指導者の配置計画

実習施設は原則として受講生の出身校となるが、それぞれの実習先で一定の実務経験と実践的指導力を有する教員が指導者として配置される。教頭や教科主任など、他の教員も指導に携わることで、指導の質を保証している。

（９）成績評価体制及び単位認定方法

教育実習の成績評価は、教職課程の科目である「教育実習」の担当教員が行う。その際、上記「c.実習水準の確保の方策」に記載したように、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先の担当教員の所見及び巡回指導者の指導記録に基づき、学生が教員に求められる知識と技能を修得しているかを評価する。

７．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

英米語学科では、２年次の春期休暇中に約３週間の「英米語海外語学実習」（必修、４単位。以下、語学実習）を実施する。

学生は語学実習に参加することで、異文化体験をし、自分の英語力を知る、または今までの学修態度を見直す機会にもなる。

（１）実習先の確保の状況

語学実習は、スカジットバレー大学（公立、2405 E. College Way、Mount Vernon, WA 98273、USA）及びマレー州立大学（102 Curris Center, Murray, Kentucky 42071, USA）において実施する。

両校ともに本学とは交流協定を締結しており、スカジットバレー大学は平成 23（2011）年度から、マレー州立大学は令和４（2022）年度から語学実習の受入れ校となっている。また、近年の円安と米国の物価高に対応するため、やはり本学の交流協定校であるエンデランカレッジ（私立、1100 Campus Avenue, McKinley Hill, Fort Bonifacio, Taguig, 1634 Metro Manila, Philippines）と語学実習の受入れについて交渉が進んでいる（令和５（2023）年３月現在）。

（２）実習先との連携体制

スカジットバレー大学、マレー州立大学ともに、語学実習を実施する数ヶ月前から、本学教職員が実習先の担当者と電子メールで意見交換のうえ、実習プログラムの調整を行っている。両校ともに、交換留学生の相互派遣を続けるなど、本学との厚い信頼関係の下、本学から参加を希望する学生を受入れている。

なお､実習の全期間にわたって本学から引率教員が同行し､現地の教職員との協力の下、参加学生に対する万全の支援体制をとっている。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

語学実習は、実習前に本学において実施される授業プログラム（座学）及び語学実習先で実施される語学実習プログラム（座学及び実地体験）の履修状況に基づいて、本科目の担当教員が成績評価を行う。

８．取得可能な資格

英米語学科では、卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能となる。

① 中学校教諭一種免許状（韓国・朝鮮語）　〔国家資格〕
② 高等学校教諭一種免許状（英語）　〔国家資格〕
③ 図書館司書　〔国家資格〕
④ 博物館学芸員　〔国家資格〕

なお、これらの資格取得は、卒業の要件ではない。

９．入学者選抜の概要

（１）アドミッション・ポリシーと入学者選抜

本学科において、下記に示すアドミッション・ポリシーを定めている。

教育目標を達成するために、英米語学科は次のような人材を求めています。
① 本学の教育理念である「国際性」に関心がある人（国際性）
② 英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などに関心がある人（英語圏の見識）
③ 語学、文学、歴史、社会、教育などの領域に関心がある人（英語で学問探求）
④ 英語でのコミュニケーションに関心がある人（英語コミュニケーション力）
⑤ 英語を用いて活躍したい人（仕事で通用する英語力）
⑥ 英語を用いて日本と海外の橋渡しをしたい人（国内外での貢献性）
⑦ 社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、英語に関心がある人（意欲）

入学者選抜の実施においては、アドミッション・ポリシーに沿い、以下の選抜を計画している。

総合型選抜においては、「⑤自己実現への強い意志がある人」を求めるとともに、「④現代社会におけるさまざまな課題に対して、関心を持っている人」ならびに「③多様な他者との相互理解に努め、積極的に社会とかかわる意欲をもつ人」を、面接やプレゼンテーションにより、適正さや学修意欲、地域社会への貢献する意欲を確認し、選抜を行う。

学校推薦型においては、高校時代の調査書を応募基準とし、人物・成績とも優れているということで推薦されている志願者の「知識・技能」を中心に、基礎学力問題や課題小論文によって、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人」ならびに「②国際学部で学ぶ領域への深い関心と一定の知識を備え、知的体系を意欲と主体性を持って学ぶことができる人」を基本に、選抜を行う。

一般選抜においては、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人」を基本に、選抜を行う。

（２）入学者の選抜方法及び募集人員の概要

入学者選抜については、「天理大学入学者選抜規程」に従って実施しており、また、入試委員会、天理スポーツ推進委員会に加え、2020 年度末に学長を本部長とする入学志願者戦略本部会議を設け、志願者募集にあわせて、入試委員会とも緊密に連携しながら、入学者選抜についても検討をしている。入学者選抜の公正かつ円滑な実施をはかり、入学者選抜に関わる者の責務を明確にするために、「天理大学入学選抜実施ガイドライン」を定めている。

また、選抜方法については、学科のアドミッション・ポリシーにもとづき、学校教育法第 30 条第２項が定める学校教育において重視すべき三要素」すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を考慮しつつ、本学が独自に実施する基礎学力試験や科目試験をはじめ、大学入学共通テスト、小論文、面接、出願時の書類（出身学校調査書、学校長推薦書、志願理由書など）の評価などを活用して、公正かつ妥当な方法で合否判定を行う。

本学の建学の精神や教育理念、教育研究の目的に合致し、多様な資質を持った学生を受け入れられるよう、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など、以下の入学者選抜を通して入学者を選抜する。

総合型選抜では、高校時代の学力検査のみでは判定できない自らの強みを自身で推薦・志願し、学科の教育研究の目標にもとづいて選抜する「自己アピール選抜」、天理教の布教師をめざす者を対象とする「伝道者選抜」、本学の卒業生や在学生の親族を対象とする「同窓会選抜」、英語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）を評価する「英語外部試験利用選抜」、スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める「天理アスリート選抜」がある。

学校推薦型選抜では、学科が特定の高等学校を指定して生徒の推薦を依頼する「指定校推薦」、本学と同法人系列校の「天理高等学校選抜」、基礎学力試験（国語・英語・数学・理科）または文章読解型の小論文、書類審査等を加え、受験生の能力・適性・意欲・目的意識を多面的に評価する「公募推薦選抜」がある。

一般選抜では、高等学校学習指導要領に準拠し、学科の教育研究の目的に沿った教科・科目（「国語」「外国語」「地理歴史」「数学」「理科」など）の学力検査を通して入学者を選抜する「一般選抜」、本学独自の試験を実施せず、大学入学共通テストの得点を本学の判定に換算し、教科・科目は学科の特性を考慮して合否を判定する「大学入学共通テスト利用選抜」がある。「一般選抜」「大学入学共通テスト利用選抜」にあっては、成績上位者に奨学金を付与することとし、入学する学生の質の確保にも留意している。

上記以外の入学者選抜として、「外国人留学生選抜」、海外で現地教育を受け、日本に帰国した生徒を対象とする「帰国生徒選抜」、満 23 歳以上で 3 年以上の社会人の経験を有する者を対象とする「社会人選抜」、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所及び国連 UNHCR 協会との協働によって実施される難民高等教育事業「UNHCR 難民高等教育プログラム（Refugee Higher Education Program – RHEP）」のパートナー大学として学生の受け入れを実施する。

本学が実施する入学者選抜の概要と、各選抜での英米語学科の募集定員は以下の通りである（募集定員は括弧内）。

総合型選抜（10 名）

○「自己アピール選抜」（10 名）
総合型選抜では、高校時代の学力検査のみでは判定できない部分を自ら推薦し、各学部学科の教育研究の目的に沿う人物かを選抜

○「伝道者選抜」（若干名）
天理教の布教師をめざす者を対象とする選抜

○「同窓会選抜」（若干名）
本学の卒業生や在学生の親族を対象とする選抜

○「英語外部試験利用選抜」（若干名）
英語の 4 技能を評価する選抜

○「天理アスリート選抜」（若干名）
スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める選抜

学校推薦型選抜（30 名）

○「指定校推薦」（５名）

各学部学科が指定した高等学校の生徒のみが高等学校長の推薦を受けて志願できる選抜

○「天理高等学校選抜」（９名）

本学と同法人が設置する天理高等学校の生徒を対象に学校長の推薦を受けて志願できる選抜

○「公募推薦選抜」（16 名）

各学部学科が規定する基準を満たす生徒が、学校長の推薦を受けて志願し、基礎学力試験（国語・英語・数学・理科）または文章読解型の小論文、書類審査等を加え、受験生の能力・適性・意欲・目的意識を多面的に評価する選抜

一般選抜（20 名）

○「一般選抜」（16 名）

高等学校学習指導要領に準拠し､各学部学科の教研究の目的に沿った教科･科目(「国語」「外国語」「地理歴史」「数学」「理科」など）の学力検査を通して選抜

○「大学入学共通テスト利用選抜」（４名）

本学独自の試験を実施せず、大学入試センターが実施する「大学入学共通テスト」の得点を本学の判定に換算し、教科・科目は学部・学科の特性を考慮して合否を判定する選抜

なお、「一般選抜」「大学入学共通テスト利用選抜」にあっては、成績上位者に奨学金を付与することとし、入学する学生の質の確保にも留意する。

その他

○「外国人留学生選抜」（若干名）

出願時に国内在留もしくは海外に居住する外国人留学生を対象とし、日本学科（設置申請中）以外の学科において、専門教育の修学にあたり適切な能力を有するかを判断する選抜。選抜試験において日本語能力を測定すると共に、面接において学修意欲と日本語能力を確認する。

○「帰国生徒選抜」（若干名）

海外で現地教育を受け、日本に帰国した生徒を対象とする選抜。海外で中等教育までを修めた履修証明の提出を求める。

○「社会人選抜」（若干名）

満 23 歳以上で３年以上の社会人の経験を有する者を対象とする選抜。志願者が、大学等の高等教育機関で修得した単位を本学履修単位として読み替える希望があれば、入学確定後、履修証明書等の提出を受け、入学する学部において審議し、読み替え可能な科目については認定科目として履修したものとして承認する。但し、最

大 60 単位までとする。

○「UNHCR 難民高等教育プログラム」（若干名）
UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所及び国連 UNHCR 協会との協働によって実施される難民高等教育事業「UNHCR 難民高等教育プログラム（Refugee Higher Education Program – RHEP）」による選抜

（３）入学者選抜の実施体制

入学者選抜においては学長を議長とする「入試実施本部」を設置し、実施体制の確認、配布資料の確認など、入学者選抜にかかるすべてを統括し、常に入試実施マニュアルを整備し、チェック体制を強化することにより、入試に係るミスの防止に努めている。また、入学者選抜制度の立案から実施までを所管する学内組織としては入試委員会がある。

入学者選抜の実施にあたっては、入試委員を中心とする「入試実施委員会」を設置し、各選抜実施に万全を期す。なお、大学入学センターと協同で実施する「大学入学共通テスト」については、別途「大学入学共通テスト実施委員会」を組織して実施にあたる。各入学者選抜の実施に関する事務部局として、入学部長を入試事務局長とする入試事務局を編成し、全学の事務職員が選抜事務を担当する。

入学者の合否判定にあたっては、データ処理および採点についてのチェックシステムを導入して万全を期するとともに、各選抜方式に応じて合否判定のための資料を作成する。合否判定は「合否判定大綱」にのっとって慎重に行う。「合否判定大綱」の作成においては、まず入試委員会で判定大綱素案を策定し、学長を議長とする合否判定会議で判定大綱を承認したあと、各学部教授会において判定大綱を確認する。

合否判定においては、上の合否判定大綱に基づいて各学部教授会で合否判定原案を決定し、同原案を全学の合否判定会議で確認のうえ、入学者の合否を最終決定することとしており、公平な合否判定業務を実施する体制を確立している。

10. 教員組織の編制の考え方及び特色

（１）教員組織

英米語学科は、高度な英語コミュニケーション力を身につけ、英語圏の社会や文化に関する専門的な知識を有し、国際的な視野をもって国際社会及び地域社会で活躍できる人材、多文化共生社会の実現に資する人材を養成するために、英語教育学、英語学、そして英語圏に関する人文学的知識を教授できる教員を配置する。

英語力育成のための中心的役割を担うのは、英語学や英語教育学を専門とする教員である。Reading や Grammar 等を英語教育学及び英語学を専門とする教員が担当し、Speaking, Presentation 等のオーラル・コミュニケーション科目や Writing 科目は英語母語話者、あるいは英語母語話者に近い英語運用能力を有する教員が担当する。

主として２年次に配置された英語学、英米史、英米社会、コミュニケーション学、英語教育学等の講義科目は、それぞれの学問分野を専門とする教員が担当する。学生は複数の

講義科目を履修することで、それぞれの学問分野の基礎的知識を身につける。

また、Content Based English は、宗教学、法学、歴史学、文化交渉学を専門とする英語母語話者が担当し、それぞれの学問領域を英語を用いて教育することで、「使える英語力」の養成を目指す。

さらに、ゼミ形式で行われる「英米語演習１」「同２」（３年次配当)、「同３」「同４」（４年次配当）は、英米史、英米社会、コミュニケーション学、英語教育学を専門とする専任教員が担当する。学生は指導教員の下で、それぞれの学問分野における研究方法、研究動向、研究成果等に対する理解を深める。なお、「英米語演習１・２・３・４」の担当教員は、大学教育の集大成である「卒業論文」及び「卒業課題研究」の指導教員として、各学問分野のディシプリンに即したきめ細やかな指導を行う。

本学科専任教員の年齢構成は申請時点で、60 代２名、50 代３名、40 代３名である（教授、准教授及び講師)。定年に関する学内規程に基づき、完成年度の３月 31 日時点において、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成となっている。

（２）附帯事項に対しての対応

「学校法人天理大学就業規則」において大学教員の停年は 60 歳となっているが、停年後も引き続き雇用を希望すれば、満 65 歳に達する日の年度末まで継続雇用すると定めている。

また、別途定めた天理大学再雇用規程においても、満 65 歳の年度末まで専任教員として勤務することができると定めている。同規程では、65 歳を超えて教学上特に必要と認める停年後教員を特別嘱託教授として再雇用すること、特別嘱託教授の期間の限度は満 68 歳の年度末と定めている。

専任教員の高齢化は今後の教員組織においてふさわしい状況とは言い難いが、新学部学科の完成年度（令和９年度末）までの教員採用計画については既に確定をしている。完成年度以降については、引き続き、定年規程の趣旨を踏まえつつ、教育研究の継続性と年齢構成を考慮して、退職者の後任人事を補充していく。

11. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み

本学の研究支援体制については、「天理大学ビジョン 2025」の「確かな教育力の基盤は、優れた研究（力）にあるとの考えから、外部研究資金の獲得を含む、研究支援体制を強化する。さらに、研究プロセスを明示化するとともに、研究成果を積極的に公表し、研究の発信力を高める。」を基本的な考え方としている。その体制及び取組みについては以下の通りである。

（１）研究支援体制

学務部教育研究支援課では、科学研究費をはじめとする外部研究資金の獲得を含む教員の研究活動へのサポートを行っている。科学研究費については、応募時期に合わせ数度の説明会を開催しており、採択率は令和３（2021）年度を除き、ここ数年は全国平均を上回

っている。また、採択後の諸手続きや補助金の使用方法等については、関連するガイドブックを作成し、補助金の獲得にとどまらず補助金使用についてもさまざまな形で支援しており、令和４（2022）年度からは、研究者の利便性を高めるとともに不正防止にも繋がるように、コーポレートカードを導入した。さらに、令和５（2023）年度からは、バイアウト制度の導入も行い、研究者がより一層、研究活動に専念できる体制を整備している。

また、コロナ禍により急速に伸展したオンライン研究会等への対応として、学務部情報システム課の職員がネットワーク環境の整備などの技術的サポートを行っている。

（２）情報ライブラリー

情報ライブラリーには､司書資格を有する専任職員を配置するとともに業者委託を行い、図書館専門スタッフがレファレンス業務を担うことで、学生、教員の研究活動に大いに貢献している。

また、OPAC は、国立情報学研究所が提供する CiNii Books･CiNii Research や IRDB へのリンク、また国立国会図書館の NDL サーチへのリンクを備えており、学外資料へのアクセスや ILL(相互貸借)の促進を通じた教育研究に関する幅広い資料提供に寄与している。また、情報ライブラリー本館は国立国会図書館デジタルコレクションの有料送信サービス対象館となっており、卒業論文や卒業研究のための資料調査など、教育研究のための資料アクセスの機会を広げる効果に繋がっている。さらに、令和３（2021）年度からは韓国国立中央図書館とも契約をし、同館所蔵のデジタル資料の閲覧も可能になったことで、教員や学生の教育研究活動において利便性が向上した。また、学術情報リポジトリ（機関リポジトリ）に搭載する学術情報の拡充とシステムの整備を図ることにより、社会の発展に資するよう教員の研究成果物の発信を積極的に進めている。

（３）研究制度

各教員には、個人研究費に加え、研究旅費が配分されている。また、その他にも研究活動への支援として、天理大学学術・研究・教育活動助成制度や天理大学学術出版助成制度など、資金面で支援を行う制度のほか、天理大学特別研究員制度やバイアウト制度など、教員が研究活動に専念できる環境整備も行っている。

（４）研究倫理体制

「天理大学における公的研究費の管理・監査に関するガイドライン」や「天理大学研究者等の行動規範」､「天理大学における公的研究費の不正使用防止計画」などを制定するとともに､毎年､コンプラインアンス研修を含む研究倫理教育研修会を開催し､全専任教員、大学院生及び担当事務職員に参加を義務づけており、研究者の高い倫理観を醸成し、公正な研究活動を推進する機会としている。また、万が一、研究不正等が疑われる事案が発生した際には､「天理大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」に基づき、迅速かつ公正な対応が行える環境を整えている。

（５）研究活動の公表

本学ホームページにおいて、専任教員の研究活動実績等を公開し、また、採択された科

学研究費の状況を公表している。さらに、年度末に発行している『天理大学学報』において、全専任教員が1年間の研究活動を報告し、『天理大学学報』を学術情報リポジトリ（機関リポジトリ）に搭載することで、広くその内容を公表している。

12. 施設、設備等の整備計画

（1）校地，運動場の整備計画

国際学部は、4年間、杣之内キャンパスで教育を行う。杣之内キャンパスは校地面積151,091.22㎡を有しており、運動場や学科会の活動スペースとしての心光館などを確保している。既に整備をされているので改めて整備をする予定はない。

（2）校舎等施設の整備計画

図面の通り、二～四号棟に教室、PC教室、PC自習室を共用施設として確保している。また、五号棟には、教員の個人研究室、学科学生の専有の共同研究室、共用施設として演習を行うことのできる教室を確保している。ほとんどの教室はマルチメディア対応となっている。学生の4年間の教育、教員の研究活動も支障をきたさないため、改めての整備計画はたてていない。

（3）図書等の資料及び図書館の整備計画

附属天理図書館は約150万冊を所蔵し、和漢洋の貴重書（国宝6点、重要文化財87点、重要美術品66点）、大和を中心とした古文書類も所蔵しており、また、国内外の逐次刊行書としては約1万6000タイトルを所蔵している。附属天理図書館では、閉架式の資料提供だが、新収資料を中心に参考資料など約3万5000冊は開架式で提供している。

情報ライブラリーは約61万冊を所蔵し、本学の学問分野の教育研究に資する蔵書構成を基本としつつも、教養図書館として幅広い分野の基本資料を所蔵している。あわせて、基本資料を中心とした各種データベースを提供している。蔵書は情報ライブラリー本館、分室及び各学科の共同研究室に設置された共同研究室･書庫に排架され管理されているが、原則開架式を採用し、利用者が活用しやすい環境となっている。また、遠隔利用も容易なe-Book、e-Journalなどの導入を進め、学術情報の充実に努めている。

国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備について、附属天理図書館及び情報ライブラリーとも、蔵書目録の作成・提供には国立情報学研究所の「目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）」に参加し、あわせて「相互貸借サービス（NACSIS-ILL）」にも参画している。

図書等の資料及び図書館既に整備され、教育・研究上に問題がないため、新たな整備計画はたてていない。

13. 管理運営及び事務組織

（１）管理運営体制

本学では、学部ごとに独立した教授会が教授、准教授、講師、助教によって組織され、「天理大学学則」第12条および各学部「教授会規程」に基づいて、毎月１回開催され、適切に運営されている。

教授会規程

第３条　教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

ア　教員の教育研究業績の審査に関する事項

イ　学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項

ウ　学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項

エ　全学協議会委員及び各種委員会等の選出に関する事項

オ　学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項

カ　学部の自己点検・評価に関する事項

キ　教育内容および授業方法の改善に関する事項

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項

(2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項

(3) 学部教員の賞罰に関する事項

(4) その他、学部の教育研究に関する事項

この規程の下、学部内の教育、研究、教員人事などの学部に関する審議事項と、学長の選任、教育、研究、学則などの全学に関する審議事項を整理し、学部内の審議事項についての最終判断が可能となり、学部内の意思形成を円滑に図ることができる。

学部長と教授会の関係については、学則第８条で学部長は教授会の代表と位置づけられている。教授会規程では学部長が議長となる。教授会に専門委員会を置くことができる。

また、学部長と学部教授会より選出された教授１名が全学協議会に出席し、学部教授会と全学協議会との連携による教学組織における全学的な意思形成の迅速化を図るようにしている。

（２）事務組織体制

事務組織については、法人事務局に３部、５課・室、大学事務局に７部・室、13課・室を設置している。各部署には、適切な人員を配置して円滑な運営を図っている。

事務組織は、業務内容の多様化に対応し、迅速かつ着実に執行できる大学運営組織となるように改編を行っており、近年の改編は以下のとおりとなっている。

平成 28（2016）年に学生部内の「留学生支援課」を事務局直下の「国際交流センター室」に改編した。平成 29（2017）年にＩＲ体制を強化するため、学長室に「ＩＲ推進課」を新設した。さらに平成 30（2018）年には学長室に「企画課」を新設し、入試広報部内の「広報課」を学長室内の「広報・社会連携課」に改編した。学生の入口と出口を強化するために「入試部」を「入学部」、学生部内の「キャリア支援課」を課から部へ改め「キャリア支援部」として設置した。教務部と教育支援部を合併して「学務部」へと改編した。また、令和５（2023）年には、医療学部の開設に伴い、「別所事務室」を設置した。

業務内容の多様化、専門化に対応するため、外部研修も含めた人材育成に努めている。また、カウンセリングルーム、学生相談室には臨床心理士（公認心理師）、情報ライブラリーには図書館司書の有資格者を配置しており、ＣＡＬＬ教室の運営には専門の職員が常駐している。

学生の厚生補導を行うための部署としては、学生部、国際交流センター室、及びキャリア支援部がその任務に当たっている。学生部は課外活動を含む学生の諸活動のサポート、奨学金や保険のサポート、また障がいのある学生へのサポートなどを行っている。国際交流センター室は、外国人留学生の受け入れ及び学生生活支援、及び学生の海外留学や語学実習、インターンシップ、ボランティアなどのサポートに当たっている。キャリア支援部は、進路支援及び就職の斡旋、進路ガイダンスなどを行っている。

14. 自己点検・評価

天理大学学則第１条の２において「本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため､本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う」と定めている。また、天理大学自己点検評価運営規程を定め、同規程では､「自己点検評価委員会を設置する」とし、自己点検評価委員会を設置している。同委員会は天理大学自己点検評価委員会規程に基づき、自己点検評価の基本方針の策定、自己点検評価の実施、大学認証評価機関による大学評価に関すること等について審議している。

平成 10（1998）年より自己点検評価委員会を立ち上げ、自己点検評価活動を実施しているが、平成 29（2017）年には、点検評価活動の進捗を統括的に管理し、内部質保証システムをより円滑に機能させるため、新たに企画評価会議を設置した。同会議は天理大学企画評価会議規程に基づき、学長が議長を務め、各学部長、各研究科長、事務局長、各事務部長、自己点検評価委員会委員長で構成している。内部質保証の改善案をはじめ、自己点検評価報告書案、自己点検・評価に関する情報公開など、内部質保証に関する事項について協議を行っている。

また、天理大学自己点検評価運営規程において「外部評価委員会を設置する」と定め、天理大学外部評価委員会を平成 30（2018）年に設置した。同委員会は天理大学外部評価委員会規程に基づき、本学の設置目的に理解のある学外有識者で構成し、本学自己点検評価の結果について、検証および評価を求め、教育研究等の向上に資する提言を求めている。

これらの自己点検活動を円滑に稼働させるため、天理大学内部質保証に関する方針を制定している。同方針では、内部質保証の体制として､「学部、学科、専攻、研究科および事

務部署等の各組織は、毎年度自己点検評価を行います。各組織の評価結果は、自己点検評価委員会で審議し取りまとめて、学外の有識者による評価を受け、全学的な企画評価会議に報告します。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成します。改善案は全学協議会で審議し実行されます。実行された事業については、担当部署で自己点検評価を行うことで、ＰＤＣＡサイクルを回し内部質保証の体制を確立します。」と定め、方針に準じて活動を展開している。

なお、先述した同方針の内部質保証の体制に示した学部、学科、専攻、研究科および事務部署等の各組織は、毎年度の自己点検評価の実施については、つぎの通りとなる。各組織は大学基準協会が定める大学基準に基づき設定された「点検・評価項目」について「自己点検・評価のためのチェックシート」を用いて、点検評価を実施し、各組織の評価結果は、自己点検評価委員会で審議し取りまとめて、企画評価会議に報告をする。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成し、改善案は全学的な教育研究、運営にかかわる事項の審議機関である全学協議会で審議する。

認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を令和４（2022）年度に受審し、令和５（2023）年３月に大学基準に適合していると認定された。認定期間は、令和５（2023）年４月１日から令和 12（2030）年３月 31 日までとなった。

自己点検・評価結果の公表については、本学のホームページにおいて、第３期認証評価の「自己点検報告書 2022（令和４）年度」「大学評価（認証評価）結果」、第２期認証評価の「改善報告書」「改善報告書検討結果」等を公開している。

https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html

15. 情報の公表

本学における教育研究活動等の状況に関する情報の公表は、「教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表する」と定める学校教育法第 113 条の趣旨に従い、天理大学公式ホームページを中心に周知している。このホームページは学長室広報・社会連携課が管理・運用を行い、広報・社会連携委員会での審議のもと、情報発信等の一括管理を行っている。

入試関係についても、所管部署である入学部入学課と緊密な連携をとりながら、大学としての一元管理のもと、正確かつ迅速な情報発信を行っている。ホームページ及び従来の新聞広告や交通広告等に加えて SNS 等、時代に即した広報活動を強化し、さらには本学の建学の精神の柱の一つである社会貢献に関する活動を広報展開する等、情報提供体制の強化を図っている。

下記の項目については、以下のとおり公式ホームページに掲載している。

（１）大学の教育研究上の目的及び３つのポリシー
（建学の精神）（教育目標）
http://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞

（教育研究上の目的及び３ポリシー）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_8
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞大学の教育研究上の目的＞

（２）教育研究上の基本組織に関すること
（組織図）
http://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k000000049j.html
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞組織図

（３）教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
（教職員数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html
ホーム＞教員・研究員一覧＞

（各教員・研究者が有する学位及び業績）
http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html
ホーム＞教員・研究員一覧＞教員組織、各教員・研究者が有する学位及び業績

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
（アドミッション・ポリシー）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_10
ホーム＞大学概要＞天理大学について＞天理大学のアドミッション・ポリシー

（学部在籍学生数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞４．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること＞入学定員、収容定員、在学者数

（学位授与数）
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞４．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること＞学位授与数

（進路・就職等の状況）

https://www.tenri-u.ac.jp/career/dv457k0000000fnf.html
ホーム＞大学概要＞進路・資格・就職情報＞進路・資格・就職の支援について＞進路・就職状況

（５）授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/prog/index.html
ホーム＞教育・研究＞天理大学の学び

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞６．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞７．校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

（８）授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
（学費・入学金）
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html
ホーム＞教育情報の公表＞８．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/
ホーム＞天理大学 STORIES 入学情報サイト＞納付金

（学部学費一覧）
https://www.tenri-u.ac.jp/clife/dv457k00000007w1.html
ホーム＞教育情報の公表＞８．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること＞学費について

（学生納付金に関する情報）
https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/
ホーム＞天理大学 STORIES 入学情報サイト＞納付金

（９）大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
（キャリアサポート）
https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.htmll
ホーム＞教育情報の公表＞９．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

（10）その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果等）

（自己点検・評価活動）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html
ホーム＞大学概要＞大学評価＞天理大学の自己点検・評価活動

（自己点検・評価結果）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n99.pdf
ホーム＞大学概要＞大学評価＞2022 年度大学評価＞天理大学自己点検・評価報告書 2021（令和３）年度

（認証評価）
https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n98.pdf
ホーム＞大学概要＞大学評価＞2022 年度大学評価＞天理大学に対する大学評価（認証評価）結果

※上記はまとめて「教育情報の公表」としてもホームページに掲載
http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）実施体制

学務部教育研究支援課で FD 委員会を所管し、委員会での決定事項を受けて、さまざまな形で FD 活動を組織的かつ多面的に実施することによって、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げている。

（２）実施内容

１）オープンクラス

平成 28（2017）年度から、全専任教員を対象としてオープンクラスを実施しており、期間を定めて全専任教員に対し、授業公開及び授業参観を義務づけている。平成 30（2018）年度からは、教育研究支援課で Web システムを利用した事前準備及び期間中の管理等を行っており、参加状況を把握することで、全専任教員が必ず参加する体制を整えている。また、Web システム上で、公開教員と参加教員が相互に意見交換をし、教員同士がさまざまな気づきを得られるようにしている。なお、コロナ禍では、オンライン授業もオープンクラスの対象とし、大学全体で情報を共有しながら、学生の学びの機会を保証すべく、オンライン授業の質の向上を目指した。結果としてオープンクラスは、オンライン、オフラインを問わず、授業改善及び教育の質保証に繋がる機会となった。

２）授業評価アンケート

「学生による授業評価」アンケートを行い、その結果を学長室に伝えている。その結果をもとに、学部長会においてベストティーチャーを選出し、組織的に教員の授業改善へのモチベーションの向上に繋げている。また、「学生による授業評価」アンケートの結果は、大学のホームページにおいて公表することで、外部からの評価も授業改善に繋げられるようにしている。

３）ティーチング･ポートフォリオ

令和３（2021）年度より、教員が自らの授業や指導において取り組んだ教育努力を可視化し、教育改善に役立てるために、ティーチング・ポートフォリオを導入している。ティーチング・ポートフォリオについては、教育研究支援課が、グループウェアを利用した学内での共有に関するサポートを行っている。

４）FD 活動報告書

学内の FD 活動に関する報告書を毎年公表することで、大学としての FD 活動を体系的に整理し、今後の教育内容等の改善を図っている。

５）教員活動報告

年度末に発行する『天理大学学報』にて、全専任教員が１年間の研究活動、教育活動及び社会活動を報告することになっている。各教員の活動を可視化することで、教員同士が相互に情報交換をするとともに、刺激し合える環境を整えている。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内の取組みについて

建学の精神を具現化する教育の柱の一つとして「貢献性」を掲げる本学では、社会における貢献の基盤としてキャリア教育を重視し、総合教育科目の中にキャリア教育科目群 7 科目を置いている。ほとんどの学科でこれらの科目群を必修科目としており、入学年から自分自身のこれまでの活動を振り返るとともに、卒業後の進路に対する意識付けを行っている。

１年次配当の「キャリアプランニング」では、社会人として必要な労働の形態や法律に関する基礎知識を学ぶ。そして、自己を分析し、社会に貢献するために自らに必要な能力が何かを考え、各自の職業意識の醸成へとつなげる。「キャリアデザイン１・２」では、教員・公務員・企業・ＮＧＯ、ＮＰＯなどの各業種から多彩なゲストスピーカーを招き、就職活動への進め方を学ぶことで、「インターンシップ」へとつないでいく。さらに、海外留学を志す学生のために、「海外インターンシップ」を体験するプログラムも用意し、国際的視野に立った人材の育成にも力を入れている。

また、総合教育科目天理スピリット科目群では、林業を体験実習として学ぶ「ローカリ

ーアクト天理 SDGs 森に生きる」や、海外でのボランティアをとおして学ぶ国際参加プロジェクト（「国際協力入門」「国際ボランティア論」「国際協力実習」等）などを用意し、さまざまな視点から現代の世界や社会に貢献できる人材養成をめざしている。

（２）教育課程外の取組みについて

学生が、本学の育成する人間像「揺るぎない信条を基盤に（宗教性）、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち（国際性）、積極的に他者に貢献し（貢献性）、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間」に成長できるよう、教育課程外の取組みとして「キャリアアップ講座」を実施している。これは、現代社会に対応できる能力と資格、及び豊かな人間性を育むために展開するものである。

（３）適切な体制の整備について

適切な体制の整備については、「天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則」を制定している。【資料５】

設置の趣旨等を記載した書類
（国際学部英米語学科）

資料目次

資料１．奈良県訪問外客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

資料２．「英語教育実施状況調査」結果から考える奈良県の英語力・　3

資料３．３つのポリシーの整合性・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

資料４．履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

資料５．天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則・・・・・　6

１．書類の題目
奈良県訪問外客数

２．出典
奈良県
県民情報　県の組織　産業・観光・雇用振興部観光局
ならの観光力向上課/観光プロモーション課/MICE 推進室
観光統計調査　外国人訪問客数

３．引用範囲
https://www.pref.nara.jp/44291.htm

１．書類の題目
「英語教育実施状況調査」結果から考える奈良県の英語力

２．出典
一般財団法人南都経済研究所
調査・研究
研究員の視点（コラム）
事務局長・主席研究員　島田清彦　著

３．引用範囲
https://www.nantoeri.or.jp/research/201806.html
https://www.nantoeri.or.jp/research/pdf/siten/201806.pdf

国際学部英米語学科　アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

英米語学科の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

①本学の教育理念である「国際性」に関心がある人（国際性）
②英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などに関心がある人（英語圏の見識）
③語学、文学、歴史、社会、教育などの領域に関心がある人（英語で学問探究）
④英語でのコミュニケーションに関心がある人（英語コミュニケーション力）
⑤英語を用いて活躍したい人（仕事で通用する英語力）
⑥英語を用いて日本と海外の橋渡しをしたい人（国内外での貢献性）
⑦社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、英語に関心がある人（意欲）

総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜　　**入学試験**

入　学

英米語学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域について探究することができる科目を体系的に配置しています。
1年次と2年次では**英語運用力向上のための基本**となるGrammar、Reading、Writing科目、オーラル・コミュニケーション能力を養成するための科目、プレゼンテーション能力を養成する科目、読む、書く、話す、聞くの**4技能を統合的に学修**する科目を設定しています。3年次と4年次では2年次までに養成した語学力を生かして専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域を選択し**英語と日本語で幅広く学ぶ**科目と、卒業後の**キャリアに関連**した科目群を設け、さらに学修の総まとめとしての**卒業論文**作成に向けた演習を3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。
また、語学力の向上、海外生活の経験のために約3週間の英語圏における語学実習を必修科目として配置しています。

履　修　取　得

総合教育科目
天理スピリット科目群
キャリア教育科目群
基礎リテラシー科目群

国際学部共通科目

資格科目
天理教部門
人文科学部門
社会科学部門
教職に関する専門教育科目

英米語学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー ＼ 学年		1年次	2年次	3年次	4年次	
DP1	①本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性）	英語A（Integrated English） 英語B（Integrated English）	伝道英語1 伝道英語2 英米語概論1 英米語概論3 英米語概論5 英米語海外語学実習 英語C（Integrated English） 英語D（Integrated English）	英語E（Integrated English） 英語F（Integrated English）		卒業課題研究／卒業論文
DP2	②英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている（英語圏の見識）		英米文学概論 英米語概論2 英米語概論4	英米語演習1[英語学] 英米語演習1[英米史] 英米語演習1[英米社会] 英米語演習1[英米教育] 英米語演習2[英語学] 英米語演習2[英米史] 英米語演習2[英米社会] 英米語演習2[英語教育]	英米語演習3[英語学] 英米語演習3[英米史] 英米語演習3[英米社会] 英米語演習3[英語教育] 英米語演習4[英語学] 英米語演習4[英米史] 英米語演習4[英米社会] 英米語演習4[英語教育]	
DP3	③英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる（英語で学問探究）	英語B（Grammar）	英米語概論3 英米語概論5 英語C（Reading）	英語F（Integrated English）	卒業課題研究 卒業論文	
DP4	④異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる（英語コミュニケーション力）	英語A（Reading） 英語A（Grammar） 英語A（Oral Communication 1） 英語A（Oral Communication 2） 英語A（Integrated English） 英語B（Reading） 英語B（Oral Communication 1） 英語B（Oral Communication 2） 英語B（Integrated English）	英語C（Presentation） 英語D（Presentation） 英語C（Integrated English） Content Based English1 英米語海外語学実習	ガイド英語 通訳 時事英語 翻訳		
DP5	⑤あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力）	英語A（Writing） 英語B（Writing） 観光英語	英語C（Writing） 英語C（Oral Communication 1） 英語C（Oral Communication 2） 英語D（Reading） 英語D（Writing） 英語D（Oral Communication 1） 英語D（Oral Communication 2） Content Based English2 ビジネス英語 英語科指導法1	Content Based English3 英語科指導法3 英語科指導法2 英語科指導法4		
DP6	⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）		伝道英語1 伝道英語2 英米語概論1	英語E（Writing） 英語E（Presentation） Content Based English5 ガイド英語 通訳 英語F（Writing） 英語F（Presentation） Content Based English4 翻訳		

学士（英語）取　得

履修モデル

エアライン、ホテル業、鉄道、旅行会社などで活躍人材養成（英米語）

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	**天理教概説1**	**2**	**天理教概説2**	**2**	**建学の精神と天理大学のあゆみ**	**2**										
		中国語又は韓国・朝鮮語1	*1*	*中国語又は韓国・朝鮮語2*	*1*												
		多文化理解と言語（各言語）	*2*														
		健康スポーツ科学1	*2*	*健康スポーツ科学2*	*2*												
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2								
	基礎リテラシー科目群	**基礎ゼミナール1**	**2**	**基礎ゼミナール2**	**2**												
		データサイエンス・AI入門	**2**														
	一般教養科目群	統計学1	2	統計学2	2												
国際学部共通科目		日本文化概論	2	国際文化論	2	英語音声学1	2	英語音声学2	2	言語学概論1	2	言語学概論2	2				
		日本と国際社会	2	世界の英語	2												
英米語専攻科目		**英語A（Reading）**	**1**	**英語A（Writing）**	**1**	**英語C（Reading）**	**1**	**英語C（Writing）**	**1**	**英語E（Writing）**	**1**	**英語E（Presentation）**	**1**	**英米語演習3**	**2**	**英米語演習4**	**2**
		英語A（Grammar）	**1**			**英語C（Oral Communication1）**	**1**	**英語C（Oral Communication2）**	**1**	**英語E（Integrated English）**	**1**			**卒業論文**	**4**		
		英語A（Oral Communication1）	**1**	**英語A（Oral Communication2）**	**1**	**英語C（Presentation）**	**1**	**英語C（Integrated English）**	**1**	**英語F（Writing）**	**1**	**英語F（Presentation）**	**1**				
		英語A（Integrated English）	**1**			**英語D（Reading）**	**1**	**英語D（Writing）**	**1**	**英語F（Integrated English）**	**1**						
		英語B（Reading）	**1**	**英語B（Writing）**	**1**	**英語D（Oral Communication1）**	**1**	**英語D（Oral Communication2）**	**1**	Content Based English 3	2	Content Based English 4	2				
		英語B（Grammar）	**1**			**英語D（Presentation）**	**1**	**英語D（Integrated English）**	**1**	Content Based English 5	2						
		英語B（Oral Communication1）	**1**	**英語B（Oral Communication2）**	**1**	**英米語海外語学実習**	**4**			英語科指導法2	2	英語科指導法3	2				
		英語B（Integrated English）	**1**			英米文学概論	2			英語科指導法4	2						
						英米語概論1	2	英米語概論2	2	ガイド英語	1	時事英語	1				
						英米語概論3	2	英米語概論4	2	**英米語演習1**	**2**	**英米語演習2**	**2**				
						英米語概論5	2										
						Content Based English 1	2	Content Based English 2	2								
						英語科指導法1	2										
他学部・他学科開放科目																	
資格科目（含卒業要件）																	
単位数（累計）		44（44）				44（88）				28（116）				8（124）			

資格科目																	

赤 ゴシックは必修科目
斜体は選択必修科目
青 明朝体は推奨科目

天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則

（趣旨）

第１条　本大学キャリア支援課が開講する就職支援・資格取得講座（以下「講座」という）に関する事項は、本規則の定めるところによる。

（受講対象）

第２条　本講座の受講生は、本大学学生・大学院生及び卒業生に限るものとする。

（受講申込手続き）

第３条　本講座の受講を希望する者は、所定期間内に別表に定める講座受講料を納入の上、受講申込書に必要事項を記入してキャリア支援課へ提出するものとする。

２．一旦納入された講座受講料は返還しない。ただし講座申込者数が開講予定者数に達しない場合、および第４条第２項についてはこの限りでない。

（受講申込講座の変更及び取消し）

第４条　受講申込手続の完了した講座については、変更及び取消しを認めない。

２．前項の規定にかかわらず、疾病など、その事情をキャリア支援課がやむを得ないものと判断した場合は、講座の変更及び取消しを認めることがある。

（講座の開講期間）

第５条　本講座の開講期間は、講座募集要項に記載するものとする。

（受講生証）

第６条　本講座受講生には、「受講生証」を交付する。

２．受講生は、受講の際には常に受講生証を携帯し、担当講師または教職員が提示を求めたときは、提示しなければならない。

３．受講生証の提示がない場合には、当該講座を受講することができない。

（不正受講の禁止）

第７条　受講生は、受講申込手続きの完了した講座以外の講座を、受講することはできない。

２．受講生が申込以外の講座を受講したことが判明した場合は、当該受講生が申込手続きを完了している講座についても、受講を取り消すことがある。

（規則の改廃）

第８条　本規則の改廃は、進路・キャリア教育支援委員会の議を経るものとする。

附　則

１　この規程は、平成 15 年５月 28 日から施行する。

２　「天理大学パーソナルコンピューター講習規程」は、平成 15 年５月 27 日をもって廃止する。

３　改正規則は、平成 17 年４月１日から施行する。

４　改正規則は、平成 24 年４月１日から施行する。

５　改正規則は、平成 26 年４月１日から施行する。

学生の確保の見通し等を記載した書類
（国際学部英米語学科）

目 次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・ 2

ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析・・ 2

イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等・・・・・・・・・・・・ 3

エ．学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・・・・・・・・・ 11

（２）人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（要約）・・・・・・ 14

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである
ことの客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

学生の確保の見通し等を記載した書類

（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア．設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学の英語教育は、昭和２（1927）年に設立された天理外国語学校英語部にその源流がある。今回設置する国際学部英米語学科の直接的な母体は、平成 22（2010）年に設置された国際学部外国語学科（英米語専攻）である。

本学は、建学の精神にも謳われているように、「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材育成を使命とし、100 年に及ぶ伝統の中で独自の英語教育プログラムを発展させ、高度で実践的な英語運用能力を身に付けた人材を養成してきた。

奈良県を中心とする近隣府県の中学校、高等学校で英語教員として勤務する卒業生も多く、英語教員の養成機関として一定の評価を受けている。近年は、グローバル化及び情報化が急激に進むなかで、高度な英語運用能力をもって、一般企業、公務員や団体職員、観光業（旅行、航空、宿泊）等の分野で活躍する人材、さらには国際協力、異文化交流、そして国内外の多文化共生社会の実現に資する人材を養成してきた。

ところが、このような伝統と実績を有するにもかかわらず、本学が高度な英語を専門的に学べる大学であるという印象が年々薄まっているとの指摘がある。その理由として、多くの大学が学科レベル（英米学科や英米語学科など）で英語教育を行っているのに対し、本学では外国語学科のなかの一つの専攻において英語教育を行ってきたことが考えられる。

高校の進路指導担当者や民間の入試業者からも、「英語が学べる大学をインターネットで検索しても本学がヒットしない」「高校生に分かりにくい」などの指摘を受けている。

そこで今回の改組では、外国語学科のなかの一つの専攻から英米語学科として独立させることで、本学の英語教育を対外的に可視化するとともに、教育の質のさらなる向上を図る。

昨今の社会全般における ICT 化の進展、多方面での AI 導入の拡大等によって、人々のコミュニケーションにおける外国語という壁は以前よりも一見低くなったように見える。しかし、多様な外国語コミュニケーションにおける ICT 化や AI の開発や普及には、異文化・他文化に対する確かな理解に根ざした高度な外国語運用能力が求められており、外国語、とりわけ英語のプロフェッショナルに対する需要はこれまで以上に高まっている。

英米語学科は、英語圏の社会や文化に対する知識と理解を有し、英語の実践的かつ高度な運用能力を備えた人材養成を通じて、国内外社会に貢献していくことになる。

イ．地域・社会的動向等の現状把握・分析

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な感染拡大は様々な方面に甚大な影響をもたらしたが、パンデミックは確実に収束に向かいつつある。令和５（2023）年１月 27 日、日本政府は COVID-19 の感染法上の位置づけを「２類相当」から「５類」に変更（５月８日以降）することを決定した。令和４（2022）年２月に１万 6700 人だった訪日外国人数は令和５（2023）年２月の推計で 147 万 5300 人にまで回復している。【資料１】

今後、国境を越えた人々の移動の急増、海外留学の復活、旅行業、航空業、宿泊観光業

等、インバウンド需要の大幅な回復、拡大が予想される。

本学が位置する奈良県は、世界文化遺産３件（国内最多）、数多くの国宝及び重要文化財に加えて、数え切れない観光資源を有する。奈良県に隣接する大阪府、京都府を含めた近畿圏は、国内外からの観光客に極めて高い人気を有している。

〈表１〉全国の国宝・重要文化財件数

都道府県	国宝	（%）	重要文化財	（%）
東京	288	25%	2,834	21%
京都	237	21%	2,201	16%
奈良	206	18%	1,331	10%
大阪	62	5%	682	5%
滋賀	56	5%	829	6%
和歌山	36	3%	396	3%
兵庫	21	2%	473	4%
神奈川	19	2%	352	3%
全国合計	1,132	100%	13,377	100%

出典：文化庁公式ホームページ【資料２】

このような国内外社会の動向、地域の現状に鑑みて、英語の実践的な運用能力を有し、英語圏の社会や文化について専門的に学んだ人材に対する需要はますます高まっている。外国語学科の一つの専攻であった英米語専攻が、英米語学科として独立することは、時代の要請に沿う組織改編と考える。

ウ．新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

１）趣旨と目的

前述したように、英米語学科は、現在の天理大学国際学部外国語学科（英米語専攻）を学科として独立させるものである。1927（昭和２）年に設立された天理外国語学校英語部以来、100 年近くにわたって継承されてきた英語及び英語圏の社会や文化に対する教育研究の伝統と実績を、独立した一つの学科のもとで可視化するとともに、さらなる発展を目指す。

グローバル化が進む世界において英語圏社会のプレゼンスは拡大を続けており、グローバル化・「多文化」化が進展する日本社会においては、英語圏を含めた多くの外国出身者の存在が非常に大きなものとなっている。こうした人々との共生、平和な多文化社会の実現に資することのできる人材の重要性は急速に高まっている。外国語学科の一つの専攻であった英米語専攻を英米語学科として独立させる今回の改組は、そうした需要に応えるという目的に立つものである。

２）教育内容：英米語学科の貢献性

本学は、100 年近くにわたって「英語が使える」卒業生を一般企業、公務員や団体職員、観光業（旅行、航空、宿泊）等に数多く送り出してきた。英米語学科ではその伝統と実績

を継承しながら、グローバル社会で活躍できる人材を養成するために、これまで以上に「使える英語」力を身に付けることができるカリキュラムを整えている。

また本学は、長年にわたって奈良県を中心に多くの英語教員を輩出し、地域の英語リテラシー向上に貢献してきた。英米語学科においてもこれまで以上に、地域社会に貢献できる人材の育成に注力する。

英米語学科の英語教育では、オーラルコミュニケーションに重点を置き、１年次から従来のリスニング、スピーキング科目の他に、プレゼンテーション、Integrated English（英語の４スキルを統合したオーラルコミュニケーション重視科目）を必修とする。

また、２年次から英語でコンテンツを学ぶ Content Based English 科目を履修可能にする。この授業は ESL（第２言語としての英語教育）等で行われている英語スキルアップの一環として行われる授業ではなく、英語圏の大学１～２年次生向けに提供されている Introduction to ○○に相当するものであり、履修学生にとっては留学前の事前準備にもなる。本学の外国人留学生にも開放し、講義のノートテーキングやペーパー（レポート）課題をこなすことで、留学の疑似体験を提供するものである。

英米語学科の研究入門の科目（英米語概論１～５）も２年次から履修させ、３年次から始まる英米語演習（ゼミ）でさらに研究を掘り下げ、卒業論文や課題研究作成につなげる。さらに、卒業後のキャリアパスを具体化した５つの履修モデル（国際ビジネス、観光業界、外交官・在外公館派遣員、英語教員、日本語教師）を用意し、それぞれのキャリアに必要とされる ESP（特定の目的のための英語）科目を選択科目として用意した。たとえば、国際ビジネスモデルでは、Business English, Business Communication, 時事英語、通訳、翻訳等、観光業界モデルでは、観光英語、ガイド英語などを推奨科目に指定することで、学生が卒業後のキャリアをより意識するようにした。

３）定員

英米語学科の定員は 60 名とする。その理由は次の２点である。

第一は教育カリキュラム運営上の理由である。英米語学科では、高度で実践的な英語運用能力を養成するために、教科目ごとに教授内容に適した受講生数を設定し、カリキュラム運営を行う。オーラルコミュニケーションをはじめとする多角的な運用能力を身に付けさせる科目については１クラスの人数を 20 名程度、講読や文法、CALL 教室使用科目については 30 名程度に設定している。各専攻科目を２クラスあるいは３クラスで運営するために学科の定員は 60 名とすることが望ましい。

第二は、昨今の少子化を見据えた定員の適正化である。本学のみならず、学生募集において COVID-19 の感染拡大の影響を最も受けているのは、国際・外国語系の学部・学科である。COVID-19 のパンデミック収束とともに志願者数の回復は期待できるが、18 歳人口の減少は今後も続くことから、定員確保を確実にするため、英米語専攻の定員 70 名から 10 名減らし、60 名とする。

４）入学金、授業料

学生納付金は、既存の人間学部、文学部、国際学部と同額とし、つぎの通りとする。入学金 100,000 円、授業料 760,000 円、教育設備充実費 220,000 円（２年目以降 270,000 円）

となり、初年度学生納付金額合計は 1,080,000 円となる。また、４年間の学生納付金額合計は 4,170,000 円（実習費、委託徴収諸会費を除く）となる。

なお、学生納付金について、日本私立大学団体連合会による「入学初年度年間納付金平均額」の文科系（令和４年度）の金額及び「在学期間納付金平均額」の文科系（令和４年度）の金額と比較をした。初年度年間納付金平均額は 1,262,803 円、在学期間納付金平均額は 4,450,092 円で、本学の学生納付金は、概ね平均より低額となっており、近隣大学の類似学部、学科の学生納付金と比較をしても、もっとも低額に抑えられている。これにはまず前提として、大阪府や京都府など、人口数や経済状況において一般的に奈良県よりもその数値が高いという実情がある。また、奈良県下における類似の学部を有する競合校と比較しても、入学初年度年間納付金額の総額は４～10 万円ほど低額に抑えている。これは特に、学生の経済的負担の軽減、及び学生募集における競争力の確保を総合的に精査した結果である。さらに、本学は天理教を母体とする大学であるため、比較的低額の学生納付金でも、持続的かつ安定的な大学運営の担保がある程度は見込めるという利点を有している。【資料３】

エ．学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果

前述したように、今回設置する英米語学科は、現在の外国語学科から英米語専攻を学科として独立させるものである。

まず外国語学科について、過去５年間の入学試験における志願者数、合格者数、入学者数を示すと〈表２〉の通りである。

〈表２〉外国語学科志願者数・合格者数・入学者数の推移

	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
志願者数（人）	372	381	333	234	217
合格者数（人）	239	232	206	166	163
入学者数（人）	160	168	147	103	108
入学定員（人）	165	165	165	165	165
入学定員充足率（%）	0.97	1.02	0.89	0.62	0.65

出典：天理大学入学課

平成 29（2017）年度から令和２（2020）年度までの志願者数 330 名を超え、入学定員 165 名の２倍以上で推移していた。そして平成 29（2017）年度から令和元（2019）年度までの入学者数は定員とほぼ同数となっている。

しかし、令和２（2020）年度は定員以上の合格者を出しながら、入学者数が減少して定員を満たしていない。その背景には、COVID-19 の世界的な感染拡大があったと分析できる。ちょうど令和２（2020）年度入試の時期、令和２（2020）年１月 30 日に WHO が「国際的な緊急事態」を宣言し、３月 10 日には日本政府が初めての「歴史的緊急事態」に指定するなど、世界的に人の移動に対する制限が強化されるなかで、外国語の学習やそれに伴う海外留学が困難になることが予想された。そうした状況で、本学外国語学科の合格者の

うちの相当数が入学を控えた可能性がある。

その後も COVID-19 の感染は世界的に拡大を続け、3 月 11 日には WHO が「パンデミックと言える」と公表、4 月には日本政府が「緊急事態宣言」を発出した。本学のみならず全国の大学で全ての授業をオンラインで実施することになり、大学で外国語を学修する価値が相対的に低下したとの認識が広まった。海外への留学も不可能となり、海外の協定校から留学生を受入れることもできなかったため、国際交流が事実上停止した。外国語系学科の卒業生の主な進路先となってきた旅行業、航空業、宿泊観光業等に対する甚大な被害も向かい風となった。全国的に外国語系の学科への志願者数が激減するなか、本学においても令和 3（2021）年度以降は志願者数が大幅に減少し、それにともない合格者数、入学者数も減少した。COVID-19 のパンデミックが小康状態に入り、一部で対面授業が可能になってからも、マスクの着用が義務化され、有効な語学教育の足かせとなってきた。

ところで世界的なパンデミックはすでに収束に向かい始めている。わが国においても令和 5（2023）年 5 月 8 日以降、COVID-19 の感染法上の位置づけは「2 類相当」から「5 類」に変更された。今後、国境を越えた人々の移動の急増、海外留学の復活、旅行業、航空業、宿泊観光業等、インバウンド需要の大幅な回復、拡大が予測される。それにともない、外国語系学科への進学希望者も回復することが予想される。

次に直近 5 年間における外国語学科英米語専攻の学生数の推移を見ておく。

〈表 3〉外国語学科英米語専攻志願者数・合格者数・入学者数の推移

	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
志願者数	179	168	166	125	99
合格者数	126	100	102	90	71
入学者数	85	72	62	52	44
入学定員	70	70	70	70	70
入学定員充足率	121%	103%	89%	74%	63%

出典：天理大学入学課

〈表 3〉の通り、平成 30（2018）年度から令和 2（2020）年までの英米語専攻志願者数は 160 名を超え、入学定員 70 名の 2.3 倍以上で推移していた。そして平成 30（2018）年度から令和元（2019）年度までの入学者数は定員を超過している。しかし、令和 2（2020）年度以降は定員以上の合格者を出しながら、入学者数が減少して定員を満たしていない。その理由としては、前述したような COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な感染拡大を背景とした入学控え、外国語系学科に対する敬遠があったと考えられる。繰り返しになるが、COVID-19 のパンデミック収束とともに、英語の高度かつ実践的な運用能力を有し、英語圏の文化や社会について専門的に学んだ人材に対する需要は国内外においてますます高まっており、国際系・外国語系学科への志願者数は今後回復することが予想される。なお、英米語学科では、教育カリキュラム運営上の理由及び 18 歳人口の減少を見据えた定員の適正化という理由から、現在の英米語専攻の定員 70 名から 10 名減らした 60 名を定員として設定している。令和 6（2024）年度に開設される英米語学科において 60 名の定員を充足できるものと考える。

B．新設学部等の分野の動向

世界における英語及び英語圏のプレゼンスは日々高まっており、多方面における ICT 化や外国語コミュニケーションにおける AI の導入等が進展するなかにあっても、国際共通語である英語の高度な運用能力を有する人材に対する国内外の需要が低下することは考えにくい。わが国の文部科学省が、小学校における英語教育を積極的に推進していることはその証左に他ならない。

〈表４〉は直近３年間の近畿圏の大学入試における外国語分野の志願状況を整理したものである。

〈表４〉近畿圏の大学における外国語分野の入試状況

		私立（合算）			国公立（一般）		
		外国語	英語	中国語	外国語	英語	中国語
令和２年	募集人数	2,568	1,862	234	844	276	81
	志願者数	32,884	23,302	4,538	3,015	1,205	278
	受験者数	31,259	22,131	4,393	2,265	835	210
	合格者数	7,255	5,283	768	956	301	85
	不合格者数	24,004	16,848	3,625	1,309	534	125
令和３年	募集人数	2,580	1,963	242	844	276	81
	志願者数	24,972	18,344	3,661	2,683	1,100	274
	受験者数	23,685	17,347	3,494	2,175	777	222
	合格者数	8,392	6,241	890	942	302	83
	不合格者数	15,293	11,106	2,604	1,233	475	139
令和４年	募集人数	2,290	1,759	156	844	276	81
	志願者数	18,644	13,614	2,481	2,641	1,060	230
	受験者数	17,251	12,588	2,300	2,108	737	159
	合格者数	8,465	6,211	974	972	311	88
	不合格者数	8,786	6,377	1,326	1,136	426	71

出典：進研アド　統計資料

〈表４〉によると、COVID-19 感染拡大の影響が見えはじめた令和２（2020）年度の近畿圏の私立大学における外国語系学科の受験者数は 31,259 人であった。外国語系学科の志願状況に COVID-19 感染拡大の影響がより顕著に表れたのは、令和３（2021）年度以降である。令和３（2021）年度の外国語系学科の受験者数は 23,685 人（前年比 75.8%）、令和２（2020 年）は 18,644 人（同 78.7%）と大幅に減少した。令和４（2022）年度の受験者数を令和２（2020 年）度と比較すると 59.6%で、実に４割以上の大幅減である。同じ時期、私立大学に比べればその幅は小さいものの、国公立大学においても志願者の減少が見られた。

英語のみの受験者数を見た場合、令和２（2020）年度が 22,131 人、令和３（2021）年度が 17,347 人（前年比 78.4%）、令和４（2022）年度が 12,588 人（同 72.6%）となって

いて、ほぼ同様の減少傾向が見られた。国公立大の令和４（2022）年度一般入試において、3,015 名の志願者の内、実際に受験した者が 2,265 名にしかならなかった点は特記すべきである。これは令和４（2022）年度の国公立大学一般入試が実施されるまでの数ヶ月で、COVID-19 感染が全世界的に拡大していく中、外国語系学科を志願していた者のうち、ほぼ４分の１が受験そのものを止めたことを意味するものと分析できる。

そうしたなかでも、英語系学科を志願する学生は一定数存在する。令和４（2022）年度の外国語系学科の受験者（31,259 人）のうち、英語系学科の受験者（22,131 人）が占める割合は約 70.8%で、圧倒的なプレゼンスを占めていた。COVID-19 の影響がより高まった令和３（2021）年度は約 73.5%、令和４（2022）年度は約 73.0%で、その傾向はやや強まっている。

さらに、令和２（2020）年度の場合、英語系学科を受験した者のうち、私立大学で 16,848 人、国公立大学で 276 人（合計 17,124 人）の不合格者が出ている。令和３（2021）年度入試では私立大学 11,106 人、国公立大学 302 人（合計 11,408 人）、志願者・受験者がさらに激減した令和４（2022）年度入試では私立大学 6,377 人、国公立大学 71 人（合計 6,448 人）となる。このことは近畿圏に、大学で英語を学びたいと考える受験生が一定数存在することを意味する。その数は少なくとも数千人規模になるものと見られる。

COVID-19 のパンデミックの収束による国際系・外国語系学科に対する需要の回復とあわせて、上のような潜在的な需要を取り込むことによって、英米語専攻の定員から 10 名を減じた本学科定員 60 名を充足できるものと判断される。

Ｃ．中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

１）本学の設置圏域内の高等学校及び中学校の在籍者数

本学では、文部科学省令和４年度学校基本調査をもとに、本学の設置圏域内（奈良県、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、和歌山県）における高等学校及び中学校の在籍者数から、今後の学生確保の見通しを考えている。

令和４（2022）年度の文部科学省学校基本調査によると、英米語学科設置時初年度に受験対象となる令和４(2022)年度高等学校２年在籍者数は 157,471 名であり、令和４(2022)１年生は 165,005 人となっている。また、設置後３年目の受験対象者である中学３年生は 170,724 名、設置後４年目の受験対象者である中学２年生は 168,925 名となっている。令和４（2022）年度の調査によると、本学の設置圏域内の令和３（2021）年度卒業の中学生のうち、高等学校に進学する者の割合は約 98.8%となっており、設置初年度の受験対象者数より２年目、３年目と順次増加しており、本学の設置圏域内の大学受験対象者が大きく減少することは現状では想定できず、中長期的に学生確保の見通しがあるものと考えている。

２）本学の設置圏域内の大学進学率

令和４(2022)年度学校基本調査によると、本学の設置圏域内の高等学校卒業者（163,203 名）に占める大学等への進学者（107,385 名）の割合は 65.8%となっている。設置圏域内の大学等への進学率は、全国の平均 59.5%よりも高い。府県別の状況は〈表５〉の通りである。

また、令和元（2019）年の同調査によれば、〈表６〉の通りであった。

〈表５〉設置圏域内の大学進学率（令和４年度）

	高校卒業者数	大学等進学者数	大学等進学率
奈良県	10,939	6,935	63.40%
大阪府	68,085	45,305	66.54%
京都府	21,821	15,568	71.34%
兵庫県	42,454	28,004	65.96%
滋賀県	12,108	7,196	59.43%
和歌山県	7,816	4,377	56.00%
計	163,223	107,385	65.79%

出典：文部科学省学校基本調査

〈表６〉設置圏域内の大学進学率（令和元年度）

	高校卒業者数	大学等進学者数	大学等進学率
奈良県	11,455	6,805	59.41%
大阪府	73,826	44,029	59.64%
京都府	23,240	15,308	65.87%
兵庫県	45,882	27,943	60.90%
滋賀県	12,688	6,946	54.74%
和歌山県	8,715	4,232	48.56%
計	175,806	105,263	59.87%

出典：文部科学省学校基本調査

令和４（2022）年度の状況については、令和３（2021）年度と比較し、卒業生は 12,603 名（約 7.2%）減少しているものの、大学等への進学者は 2,122 名（約 2%）の増加になっている。今後大学等への進学率が大きく減じることはなく、むしろ微増するものと考えられる。また、大学等への進学率について、令和４（2022）年の全国平均(59.5%)は、令和元（2019）年の全国平均（54.7%）より、設置圏域内の大学等への進学率において上回っている。さらに、前述のように、設置２年度及び３年度の高等学校生及び中学校生は若干増加しており、この点を考慮しても、大学受験対象者が大きく減ずることはなく、微増傾向にあることが想定される。中長期的にも学生確保の見通しはあるものと考えられる。

本学の平成４（2022）年度入学者選抜において、本学志願者のうち約 30%は奈良県内の高等学校の出身者で、次いで大阪府内の高等学校出身者が約 17%、奈良県及び大阪府も含めた設置圏域内設置の高等学校からの志願者は約 66%である。他方、約 34%は設置圏域外からの志願者である。

奈良県をはじめとする本学への設置圏域内（大阪府、京都市、和歌山県、三重県、滋賀県）における高等学校・中学校在籍の生徒数、及び高等学校を卒業した生徒の大学への志願状況、さらに、本学特有の条件である、天理教信仰家庭の生徒の全国各地からの志願状

況や需要動向を総合的に勘案すると、入学定員 60 名は今後安定的に確保できるものと考えている。

D．競合校の状況

前述したとおり、奈良県内に英米語学科を設置する大学は本学以外にない。隣接する大阪府と京都府で英米語学科あるいは英語学科を設置している私立大学は､関西外国語大学、京都外国語大学、京都産業大学、大阪女学院大学、大阪樟蔭女子大学、京都ノートルダム女子大学、龍谷大学の７大学である。

このうち、英米語学科を有する外国語大学である関西外国語大学、京都外国語大学と、本学英米語専攻と類似した定員規模の京都ノートルダム女子大学英語英文学科の最近３年における志願者数及び合格者数の推移を整理したものが〈表７〉である。

〈表７〉英米語学科等を設置する大学における志願者数・合格者数の推移

		天理大学※1	関西外国語大学 ※2	京都外国語大学 ※3	京都ノートルダム女子大学 ※4
一般選抜＋大学入学共通テスト					
令和２年	志願者数	78	2,922	1,699	299
	受験者数	74	2,822	1,659	284
	合格者数	38	867	262	121
令和３年	志願者数	65	2,269	1,187	103
	受験者数	61	2,191	1,173	95
	合格者数	34	842	344	74
令和４年	志願者数	53	1,682	506	47
	受験者数	49	1,564	488	45
	合格者数	28	1,004	373	40
公募推薦					
令和２年	志願者数	53	4,289	1,448	114
	受験者数	53	4,254	1,436	113
	合格者数	33	1,216	351	80
令和３年	志願者数	28	3,766	1,293	60
	受験者数	27	3,742	1,286	54
	合格者数	24	1,426	273	51
令和４年	志願者数	20	2,983	834	32
	受験者数	20	2,954	821	32
	合格者数	16	1,431	623	28

※1 国際学部外国語学科英米語専攻
※2 外国語学部英米語学科
※3 外国語学部英米語学科
※4 国際言語文化学部英語英文学科

出典：廣告社　統計資料

〈表７〉において、いずれの大学にも共通するのは、令和２（2020）年から令和４（2022）年にかけて、志願者数が大幅に減少している点である。COVID-19 の影響が顕著に現れた 2021 年（一般選抜＋入学共通テスト+公募推薦）の志願者数は前年比で、本学は 71.0%、関西外国語大学は 83.7%、京都外大は 78.8%であり、本学とほぼ同規模の京都ノートルダム女子大学は 39.5%で、特に大きな減少幅を見せている。

COVID-19 の影響が継続した令和４（2022）年の志願者数はさらに減少した。本学（前年比 78.5%）と関西外国語大学（同 77.3%）でほぼ同水準の減少、京都外国語大学（同 54.0%）、京都ノートルダム女子大学（同 48.5%）では 50%ポイント以上の減少となった。本学や関西外国語大学の絶対的な減少幅は小さくないものの、相対的に見れば、本学が前年比で約８割の志願者数を維持した点は、本学が奈良県で英語を専門的に学べる唯一の大学として一定程度の評価を得ていたことを意味すると判断できる。

さらに〈表７〉から明らかなことは、どの大学においても、一定数の不合格者が出ていることである。令和４（2022）年度の不合格者（一般選抜＋入学共通テスト+公募推薦）は、本学で 25 名、関西外国語大学で 2,083 名、京都外国語大学で 313 名、京都ノートルダム女子大学で９名である。これは奈良・大阪・京都圏に、大学で英語を学びたいと考える受験生が一定数存在することを意味する。その規模は少なくとも数百名単位と見られる。

COVID-19 のパンデミックの収束による国際系・外国語系学科に対する需要の回復とあわせて、上のような潜在的な需要を取り込むことによって、英米語専攻の定員から 10 名を減じた本学科定員 60 名を充足できるものと考える。

Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

現在の外国語学科及び外国語学科英米語専攻の志願者数･合格者数･入学者数の推移は、前掲の〈表２〉〈表３〉の通りである。

外国語学科・英米語専攻ともに、平成 29（2017）年度から令和２（2020）年度までの志願者数は入学定員の２倍以上で推移していたが、COVID-19 の世界的な感染拡大の影響により、令和３（2021）年度以降は大幅に減少した。入学者数の減少は、それよりも１年早い令和２（2020）年度から続いた。しかし、COVID-19 のパンデミックはすでに収束に向かいつつあり、今後は志願者数の回復が予想される。英米語学科が現在の外国語学科から独立することで、本学の英語教育に対する認知度の向上も期待される。さらに英米語学科では、英米語専攻の定員 70 名から 10 名の減員を行う。令和６（2024）年度以降の学生確保において不安はない。

オ．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

令和７（2025）年に創立 100 周年を迎える本学は、その歴史のなかで、特に外国語教育や体育・スポーツの分野において顕著な功績を残してきた。令和５（2023）年に天理医療大学と合併し、本学に医療学部が誕生したことで、文理融合の大学として、さらにその魅力を発信することが可能となった。創立 100 周年以降も、本学の豊かな教育・研究内容によって、社会へのさらなる貢献を見据えることができよう。

１）天理教内への情報発信

天理教管内の天理高等学校や天理教語学院の在学生、天理教団の教会子弟及び関係者子弟・子女への勧誘を行う。

全国各地に点在する１万２千余の天理教教会へ、改組特集の本学広報誌を送付するとともに、天理教公式ホームページにおいて改組情報を記載した本学の入試情報サイトへのリンクを設置する。また、新型コロナウウイル感染症の「５類感染症」への移行に伴い、天理教教会本部への参拝者増加が見込まれるため、改組告知の大型タペストリーを天理本通りに掲示している。さらに同掲示のタイミングに合わせ、天理教の機関誌において天理大学改組の特集記事を掲載している。

２）教育活動の広報機会の拡充（天理大学公式ホームページの改訂、SNS の利用、広報誌の充実、同窓会との連携強化、各種メディアへの情報提供拡大）

改組（設置構想中）の告知を令和５（2023）年４月より、天理大学公式ホームページ・天理大学入試情報サイトにて実施する。実施にあたり、各ホームページのトップページデザイン変更を行い、改組情報の視認性を高くするとともに、QR コードを利用して様々な紙媒体と連携を図る。特に SNS の活用として、天理大学公式 Instagram の対象者をこれまでの在学生から、高校生へ拡大し、オープンキャンパス等の告知も行う。また改組に関連する教育研究活動を地域貢献として、積極的に地域社会に還元・公開する。この情報公開については、地元報道機関に対して過去３年間で、プレスリリースを計 52 本配信してきた実績があり、改組広報に特化した地域密着型の情報発信を行っていく。

３）印刷物による情報発信

従来、制作してきた大学案内、学部案内パンフレット、大学広報誌に加え、新たに学部・学科の教育内容や学びのポイント､取得できる資格等をまとめたリーフレットを制作する。いずれも改組特集として編集するが、学びのポイントから卒業後の進路までの一貫した構想を明確化し、高校生、保護者、高等学校等へ強くアピールする。各種印刷物は電子化されたものを同時に制作し、天理大学公式ホームページからも提供する。

４）電子媒体による情報発信

天理大学公式ホームページ・天理大学入試情報サイトの充実に加え、受験生向けの進学情報誌、進学情報サイト、高校生向けのメールマガジン、各種 SNS を活用して、定期的な情報発信を継続して行っている。志願者に対して継続した情報発信を行ってきた実績として、天理大学公式 LINE（受験生向け）があるが、そのアクセス数の増加、開封率の向上を目指している。さらに、過年度の分析レポートをもとに、効果の高かったコンテンツの配信を強化し、配信の方法・時期についても更なる改善を図っている。天理大学公式 LINE（受験生向け）のアクティブユーザー数と出願者数が近似値であることから、LINE 登録者数の増加は定員確保に大きく影響していると考えられる。したがって、以前から展開してきた Web 広告についても､改組広報を主としながらも､オープンキャンパス参加･LINE 登録に誘導する配信を実施している。特に配信時期については、例年より早めの展開を予定している。また、天理大学に入学実績のある高校（地域）を中心に GPS を使用したエリ

ア配信を行い、スマホ全盛の時代に応じた Web 広告を実施している。

５）オープンキャンパス

高校生とその保護者を対象としたオープンキャンパスを年６回開催する。開催時期に関しては、例年より早めに実施し、改組に関する情報を参加者にいち早く提供する予定である。内容としては、本学の在学生や教職員との個別相談、学部・学科の紹介、専任教員による模擬授業、キャンパスツアー、本学で学ぶ留学生との交流等を通じて、本学の雰囲気を感じてもらいながら、入試制度や教育内容、留学制度、奨学金制度、学生の生活全般に関する情報等について丁寧な説明を行う。特に、在学生が主体（T-can＝天理大学オープンキャンパス学生実行委員会）となって企画・運営するプログラムは、参加する高校生たちからも好評を得ている。本学の公式 SNS 以外に T-can が運営するサイトも設け、オープンキャンパスの動員にも力を入れている。また 11 月には、本学を志望する生徒に対して入試に関する情報提供の場を設け、個別相談を実施する。オープンキャンパスの参加者増加は定員確保に大きく影響することから、参加を促す LINE 登録へとつなげていきたい。なお、これまで実施していなかった交通広告、ダイレクトメールを今年度は実施し、より多くの参加者の確保を実現していく。

６）高等学校訪問

本学の指定校や入学実績のある高校を中心に、奈良県及び近隣府県の高校を本学教職員が訪問し、本学の近況や入試に関する情報を伝えるとともに、本学に在学する当該校の卒業生の近況等について報告をすることで、高校との連携を深めている。

過去の入学実績に基づいて近隣府県に指定校を設定するとともに、北陸・山陰・四国地方など、県外への進学率の高い地域にも、学問分野などのニーズを考慮し、指定校を拡充していく。

７）高等学校向け説明会

近畿圏の高校や予備校の教員向けの本学主催の説明会を、大阪や奈良で開催している。

説明会では、本学の近況や特色、教育内容、奨学金制度、入学者選抜に関する情報を提供し、個別相談を実施するなど、参加した教員にとって有益な情報を提供している。

説明会は、令和２（2020）年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止したが、ここ２年間は感染防止策を講じて開催した。特に改組を控えた今年度は、高校教員への理解・認知度を高めるため丁寧に詳細の情報を提供していきたい。

８）進路説明会・進学相談会

入試業者を通して、もしくは高校独自の依頼にもとづき、職業別・学問系統別の説明、模擬授業、本学紹介の企画に本学教職員が参加している。奈良県及び近隣府県の高校・会場が中心だが、近畿圏への志願者の流入が多く見込まれる地区への参加も強化する。教職員は、本学への興味・関心を持つ志願者や保護者などと直接接触できる機会として、積極的にこれに参加している。

９）高大連携

系列校である天理高等学校とは、年２回以上の定例協議会を実施している。その協議会の中で志願者や入学者の情報を共有し、連携強化の機会となっている。また、天理高校生のみを対象としたミニオープンキャンパスを毎年５月に実施し、各学部・学科の模擬授業や学科紹介などを通じて、いち早く情報を伝える機会としている。それ以外にも、天理高校生の保護者懇談会の際には入学部職員が大学紹介を行うとともに、高校生に対しては個別相談会も実施している。

系列校以外として、高大連携協定を結ぶ奈良育英高等学校、高取国際高等学校、明徳義塾高等学校がある。本学の魅力を伝えるために、模擬授業、施設、課外活動などを見学・体験する内容を企画した大学見学会を開催しているが、特に奈良育英高等学校からは、毎年、２年生 100 名以上の生徒がこれに参加している。

協定を結ぶ上記３校には、外交官養成セミナーの一環として、本学のネイティブ教員による語学レッスンをオンライン、または対面形式で年に数回実施している。また、高校から直接依頼される相談会等にも応じている。

これ以外にも、県内高校には、毎年特別講義や留学生との交流会などを実施する高校ある。それらの高校と高大連携協定を結ぶことでより連携を強化し、お互いにとって一層の発展へと繋がる交流を拡充していく予定である。

10）入試制度改革

学長を議長とする入学志願者募集戦略本部会議を設置し、入学後の成績や離籍率など入試ごとに提示し、翌年度の制度設計を検討している。

新たな入試としては、学科が掲げる教育目標に適した志願者を確保するため、高校時代の活動を多角的に評価する入試制度や、学科の学びへの学習意欲を見極め評価する入試制度を準備している。

それ以外にも、国際学部においては、天理外国語学校創設から約 100 年の語学教育の伝統を具現化するため、英語外部試験を利用した高度な英語運用能力を有した人材を求める入試制度も実施する。

入試の機会を増やし､多様なニーズを持つ学生の関心に応じた新たな入試を行うことで、幅広い志願者の確保に努める。

（２） 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

国際学部英米語学科の人材の養成に関する目的は、以下の通りである。

国際学部英米語学科は、今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて英米語圏の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学科では、

1）本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性）

2）英語圏のことば、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につけている（英語圏の見識）

3）英語力を礎に専門性の高い学問を語学、歴史、社会、教育などの領域について探究することができる（英語で学問探究）

4）異文化理解を踏まえた英語によるコミュニケーションができる（英語コミュニケーション力）

5）あらゆる分野で英語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力）

6）国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）

以上のような知識や能力を備えた学生に学士（英米語）の学位を授与する。

本学科（現英米語専攻）の卒業生を採用した企業・団体等からは、

「グローバルに活躍する学生に期待します。昨今、他校学生も含め、転勤や海外駐在を希望しない学生が多い。」

「海外販売を強化している弊社にとって、海外留学経験を含め、広い視野を持った貴校出身社員は貴重な戦力であり、満足しております。」

等の意見や評価があった。こうした回答からは、卒業生が就職先において、グローバルに活躍できる語学力とコミュニケーション力が評価されていることがうかがえる。【資料４】

以上のことから、本学科が育成する人材に対する社会的需要は大いにあると言えよう。

学生の確保の見通し等を記載した書類
（国際学部英米語学科）

資料目次

資料１．訪日外客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

資料２．国宝・重要文化財都道府県別指定件数一覧・・・・・・・・　3

資料３．納付金平均額、納付金比較表・・・・・・・・・・・・・・・　4

資料４．企業・団体等対象アンケート・・・・・・・・・・・・・・・　6

１．書類の題目
訪日外客数

２．出典
JNTO 日本政府観光局
訪日外客統計
月別推計値

３．引用範囲
https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/
https://www.jnto.go.jp/news/20220316_monthly.pdf
（１ページ）
https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/pdf/20230315_monthly.pdf
（１ページ、３ページ、５ページ）

１．書類の題目
国宝・重要文化財都道府県別指定件数一覧

２．出典
文化庁
文化財指定等の件数

３．引用範囲
登録
「国宝・重要文化財等都道府県別指定件数一覧」
「国宝・重要文化財」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/shitei.html

納付金平均額、納付金比較表

1. 学部　入学初年度年間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校527大学＞

A. 入学初年度年間納付金平均額

イ. 昼　間　部　　（単位：円）

区　分	合　計		入　学　金		授　業　料		施 設・設備費		そ　の　他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文　科　系	1,262,803	1,260,152	222,458	223,781	818,349	811,349	129,463	133,026	92,533	91,996
理 工 科 系	1,663,418	1,663,588	244,476	247,580	1,092,706	1,071,214	173,697	183,465	152,539	161,329
医 歯 科 系	5,854,833	6,094,395	953,112	961,412	2,824,927	2,838,672	711,658	809,843	1,365,135	1,484,467
薬　科　系	2,169,802	2,177,840	332,963	335,945	1,440,938	1,436,182	293,371	302,013	102,530	103,700
そ の 他 系	1,448,022	1,449,323	235,345	237,807	912,826	905,473	165,750	172,143	134,101	133,900
全　平　均	1,459,431	1,465,506	239,902	242,450	933,810	926,492	157,532	164,744	128,186	131,820

2. 学部　在学期間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校490大学＞

A. 在学期間納付金平均額

イ. 昼　間　部　　（単位：円）

区　分	合　計		入　学　金		授　業　料		施 設・設備費		そ　の　他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文　科　系	4,450,092	4,436,241	222,509	223,020	3,259,855	3,251,437	556,627	559,907	411,101	401,877
理 工 科 系	6,129,313	6,119,915	244,714	245,451	4,442,307	4,407,459	714,179	728,471	728,113	738,535
医 歯 科 系	28,907,186	29,232,077	989,605	992,274	17,877,509	17,721,048	4,005,619	4,390,593	6,034,452	6,128,162
薬　科　系	11,710,155	11,744,371	335,100	338,174	8,665,196	8,643,391	1,840,988	1,886,671	868,871	876,136
そ の 他 系	5,150,589	5,145,416	236,937	238,556	3,636,637	3,630,687	689,586	706,078	587,429	570,094
全　平　均	5,419,770	5,435,618	241,582	243,016	3,893,329	3,891,722	692,018	709,013	592,842	591,867

（出典：日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」＜令和4年＞）
※本学で必要箇所を抜粋して作成

1．学部（昼間部）初年度納付金額および在学期間納付金総額

（単位：円）

大学名	学部名	学科名	専攻・コース名	入学初年度年間納付金額							在学期間（4・6ヵ年間）納付金総額						
				総額	内訳						総額	内訳					
					入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他		入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他
天理大学	文学部	国文学国語学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	文学部	歴史文化学科	全専攻共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	宗教学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	臨床心理専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	社会福祉専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,263,000	100,000	3,040,000	0	93,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	韓国・朝鮮語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,439,000	100,000	3,040,000	0	269,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,535,000	100,000	3,040,000	0	365,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	英米語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,445,000	100,000	3,040,000	0	275,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	中国語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,392,000	100,000	3,040,000	0	222,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	地域文化学科	全コース共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
大谷大学	文学部	文学科	日本文学コース、現代文芸コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	歴史学科	日本史コース、世界史コース、歴史ミュージアムコース、京都探究コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	仏教学科	仏教思想コース、現代仏教コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	社会学部	現代社会学科	現代社会学コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	国際学部	国際文化学科	英語コミュニケーションコース、欧米文化コース、アジア文化コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
京都外国語大学	外国語学部	中国語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	日本語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都産業大学	外国語学部	英語学科	英語専攻、イングリッシュ・キャリア専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	アジア言語学科	中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、日本語・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	ヨーロッパ言語学科	ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻、メディア・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	文化学部	国際文化学科	*	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,236,000	200,000	874,000	0	0	162,000	0	4,938,000	200,000	3,505,000	0	0	1,233,000	0
京都文教大学	臨床心理学部	臨床心理学科	*	1,410,000	150,000	960,000	0	0	300,000	0	5,447,720	150,000	3,840,000	0	77,720	1,380,000	0
同志社大学	心理学部	心理学科	*	1,366,000	200,000	973,000	0	25,000	168,000	0	5,126,000	200,000	4,000,000	0	200,000	726,000	0
同志社大学	神学部	神学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
同志社大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
花園大学	文学部	日本文学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	日本史学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	仏教学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	臨床心理学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
立命館大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,467,600	200,000	1,267,600	0	0	0	0	5,255,200	200,000	5,055,200	0	0	0	0
龍谷大学	文学部	臨床心理学科	臨床心理学専攻	1,021,000	260,000	761,000	0	0	0	0	4,084,000	260,000	3,044,000	780,000	0	0	0
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	*	1,076,000	260,000	806,000	0	10,000	0	0	4,304,000	260,000	3,224,000	780,000	40,000	0	0
大阪経済法科大学	国際学部	国際学科	全コース共通	1,196,000	200,000	996,000	0	0	0	0	4,304,000	200,000	4,104,000	0	0	0	0
関西大学	文学部	総合人文学科	心理学専修	1,190,000	260,000	930,000	0	0	0	0	4,390,000	260,000	4,130,000	0	0	0	0
関西大学	外国語学部	外国語学科	*	1,516,000	260,000	1,256,000	0	0	0	0	5,677,000	260,000	5,417,000	0	0	0	0
関西外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語キャリア学部	英語キャリア学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語国際学部	英語国際学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西福祉科学大学	心理科学部	心理科学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
関西福祉科学大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
近畿大学	文芸学部	文学科	日本文学、英語英米文学専攻	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	文芸学部	文化・歴史学科	*	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	国際学部	国際学科	グローバル専攻、東アジア専攻	1,550,000	250,000	1,280,000	0	0	0	20,000	5,490,000	250,000	5,160,000	0	0	0	80,000
摂南大学	国際学部	国際学科	*	1,280,000	250,000	980,000	0	0	50,000	0	4,670,000	250,000	3,920,000	0	0	500,000	0
桃山学院大学	社会学部	社会学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	国際教養学部	英語・国際文化学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
関西福祉大学	社会福祉学部	社会福祉学科	全コース共通	1,210,000	200,000	780,000	0	0	230,000	0	4,040,000	0	3,120,000	0	0	920,000	0
関西学院大学	神学部	神学科	全コース共通	1,110,000	200,000	728,000	0	0	182,000	0	4,440,000	200,000	3,422,000	0	0	818,000	0
帝塚山大学	心理学部	心理学科	*	1,232,000	180,000	860,000	0	20,000	172,000	0	4,388,000	180,000	3,440,000	0	80,000	688,000	0
帝塚山大学	文学部	日本文化学科	*	1,182,000	180,000	860,000	0	0	142,000	0	4,188,000	180,000	3,440,000	0	0	568,000	0
奈良大学	文学部	国文学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0
奈良大学	文学部	史学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0

（出典：日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」＜令和4年＞）
※本学で必要箇所を抜粋して作成

2019年8月23日

人事・採用ご担当者　様

天理大学長　永尾　教昭

天理大学卒業生在職者対象 WEBアンケート回答のお願い

拝啓　酷暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。

そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にWEBアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。

つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。　敬具

記

1.　回　答　　下記QRコードをお手持ちの機器で読み込んでいただくか、
回答ページのURLにアクセスし、回答してください。
※アクセスはパソコン・携帯・スマートフォンいずれも可能です。

会議資料のダミーです。

(https://www.tenri-u.ac.jp/　　)【HPﾘﾝｸ　広報社会連携課と要相談】

2.　期　限　　2019年９月２７日（金）

■■ お問い合わせ先 ■■

この調査に関して、ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

天理大学 キャリア支援課　担当：牧山【ﾏｷﾔﾏ】（平日 朝10 時00 分～夕方5 時00 分）

電話：0743-63-4568　FAX：0743-63-8392　Email：b-shinro@sta.tenri-u.ac.jp

このアンケートに回答していただいた内容は、本学の教育改善・充実体制整備に活用し、それ以外の目的に使用することは禁じています。

2020 年 9 月 18 日

2020 年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は 2025 年に創立 100 周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。

つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

はい　　①-２.へ進んで下さい。

いいえ　　②へ進んでください。

① -２.「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

満足している

不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は 2025 年に創立 100 周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

2021 年 9 月 22 日

2021 年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は 2025 年に創立 100 周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業（修了）し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

はい　　①-２.へ進んで下さい。

いいえ　　②へ進んでください。

① -２.「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

満足している

不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は 2025 年に創立 100 周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

2022年9月2日

2022年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業（修了）し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

はい　　①-２.へ進んで下さい。

いいえ　　②へ進んでください。

① -２.「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

満足している

不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

企業・団体等対象キャリアアンケート調査

2019年度

採用した天理大学生に満足していますか。
活躍いただいています。
業務に真面目に積極的に取り組んでいただいています。自ら進んで部下の育成にも携わっておられます。
活躍してくれております
大変満足
概ね満足しています。大変柔和な方なので気をもむ場面もありますが、仕事に取り組む姿勢、態度が真面目で信頼できます。
礼儀正しく、責任感、コミュニケーション能力もあり、大変満足しております。
周囲からの評価も高いです。
2人採用しましたが、満足していますが、１人はご両親からの引継ぎのため天理教に戻らないといけないということで退職になりました。
採用して入社いただいた方には満足しています。
ただ、内定を出した方の辞退の仕方が、直前やメール1本など、他大学生と違って礼儀が悪いと感じます。
満足
しっかり頑張ってくれてるため、満足しております。
満足しています。
もうすぐマネージャーに昇格予定です。
はい、大変満足しています。
満足していました。
満足しています
はい、専攻語学を生かしてもらっているので
とても頑張ってくれております。
まずまず満足している（所属部門の評価を得られています）
新卒の方を当社で初めて採用した方です。現在も頑張って活躍して頂いております。
恐らく採用していますが、把握しきれておりません。申し訳ございません。
満足
満足している
満足。
目標を持って仕事に取り組んでいる。
非常に満足しております。
普通
大変満足しております。
退職しました
2年目で年収1,000万円を目指したいと退職。満足はできていない。
満足している
大変満足しております。２０代の中心として活躍をしていただいてます。
非常によく思っております。
満足しています。
ロシア語を話せるのでこれからの活躍を期待している。
本年より初めての部下も持ち、活躍されています。
満足しています。
大変活躍して頂いております。
今後とも宜しくお願い致します。
海外販売を強化している弊社にとって、海外留学経験を含め、広い視野を持った貴校出身社員は貴重な戦力であり、満足しております。
積極的に挑戦する姿勢もみられ、満足しています。
人物によるので一概には答えられない
採用部門で活躍し、語学力を活かし活躍中
大満足です。当社にマッチすふ方がおられれば、毎年採用させていただきたいです。
満足している
満足している
満足しております。
大変心優しく、相手の立場に立って仕事を進めてくれる姿勢が見てとれます。
戦力になっており、感謝しております。
満足しています。弊社はサービス業ですが、お客様の為に毎日笑顔を絶やさず一生懸命頑張ってくれています。
満足しています。
はい。大変満足しており、同期を引っ張る存在です。
満足しています。

ある程度、満足している。
大変満足しています。
大変満足しています。
相対的に真面目で真摯に勤務してくれています。大人しい人が多いのでもう少し積極的な面を期待します。
満足しています
非常に活動的かつ前向きな思考で同期のなかでも抜きん出た存在。非常に満足しております。
ある程度満足している
チームの中で、堅実に協働してくれています。
非常に満足している。
仕事においても要領よく優秀であり、
対人スキルも社会人として必要なものが
学生時代から備わっているようであった。
おおむね満足。当然、完璧な人間はいないので、課題は多いが。
満足している。
はい、チャレンジ精神のある方で職場で活躍していただいております。
満足している
所長として自店はもちろん、会社全体の新人育成にも尽力いただいております。
大変満足している。
これからです。
ほぼ満足しており、将来、第一線で活躍することを期待している。
勤勉な態度で、コミュニケーション力もあり、基礎がしっかりされているように感じます。
現在、貴校の出身者の方々はそれぞれで役職に就き日々の業務にも
中心的立場として活躍して頂いております。
満足している
所長として自店はもちろん、会社全体の新人育成にも尽力いただいております。
大変満足している。
これからです。
ほぼ満足しており、将来、第一線で活躍することを期待している。
勤勉な態度で、コミュニケーション力もあり、基礎がしっかりされているように感じます。
現在、貴校の出身者の方々はそれぞれで役職に就き日々の業務にも
中心的立場として活躍して頂いております。

社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。
コミニュケーションスキル
自己啓発スキル
挨拶やマナーなど、コミュニケーションの基本
粘り強く１つのことに取り組んだ経験、取り組む姿勢。
語学力、世界経済知識に関心を持ち、身に付けてほしい。
コミュニケーション力
人間力
自主性や積極性。間違っているかもしれないが、自らで考えて情報を発信してみる姿勢。
コミュニケーション能力
働くモチベーション、将来の夢、ハングリー精神のようなものを持っていただきたいと思います。
コミュニケーション力
コミュニケーション能力
アルバイト等を通じたコミュニケーション能力・社交性。
幅広い知識、教養。
困難な経験
挨拶などの礼儀作法
社会性、コミュニケーション能力
コミュニケーション能力、問題解決能力
一般的なマナー（挨拶、上司への話し方、相手の顔を見て話す）
時間管理、タイムスケジュール
報連相
イベント、プロジェクトの進め方
社会人生活における一般常識と礼儀は入社後に身に付けていただくことですが、ある程度の水準までは学生時代に身に付けておいていただけると助かります。

一般常識及び自分の将来像（仕事に対する目的意識）
対人のコミュケーション力と自分自身の意思を理解できる力
マナー、プレゼン能力
コミュニケーション能力
考える力
広い視野
ビジネスマナー
最大限の基礎知識
・一般常識
・課題発見力および解決力
・最低限のコミュニケーション能力（分からないことは分からないと言える、質問できる、自分の考えを発信できる）
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
挨拶
自己管理能力
コミュニケーション能力
報告・連絡・相談
ビジネスコミュニケーション力
何のために「働く」か
失敗してもやり続ける持続力、
挨拶、マナー、他人への感謝
メモを取る習慣
キャリアデザイン
コミュニケーション能力
別になし、学生時代を満喫してもらい健康でいてもらいたい。
基本的なマナーや、コミュニケーション能力等
朝、あいさつする。呼ばれたら「はい」と返事をする。靴を脱いだら揃え、席を立ったらイスを入れる。
問題解決能力
過度に失敗を恐れない心構え
礼儀
元気で明るく素直でいる事。
挨拶や受け答えが出来る事。
自分のやりたいことに対する熱意
素直さ、自分の意見を相手に伝える力
傾聴力
自立心
幅広い年齢層とコミュニケーションをとる力。
考える力
礼儀
挨拶
変化への柔軟性と、自立した考えで行動できる主体性
一般常識、基本動作、一般的な礼儀作法、コミュニケーション能力
学力
自主性および主体性、コミュニケーション能力など
一般常識、クラブ活動等による先輩や仲間との付き合い方やマナー、アルバイトでの社会経験
コミュニケーション能力やストレス耐性などはもちろんですが、失敗を恐れずチャレンジする熱意や失敗してもあきらめずにやりぬく耐性などは新卒の方に期待したいことです。
コミニュケーション能力
コミュニケーション力
コミュニケーション力（空気を読む力）
吸収力、柔軟性
弊社して入社時に身につけておくべきことは特にありません。入社いただいてから必要な内容を身につけていただきます。
自分事として考える、行動できる様な振る舞い。
コミュニケーション能力
パソコンスキル、運転免許、他人の為に頑張る力
協調性
忍耐力
素直と誠実

自主性、協調性、行動力、
コミニケーション
最低限のマナー（話し方や身だしなみ、あいさつ等）とコミュニケーション力
コミュニケーション能力。レジリエンス。キャリアプラン。賃金カーブの理解等
コミュニケーション能力
愛嬌
前向きな姿勢
物事を前向きにとらえ行動する積極性と、
将来に対しての計画性（１０年、２０年後の自分のイメージを持っている）
伝える力。アウトプットができる状態にあると社会人になってからも活躍できる社員になると考えます。
コミュニケーション能力とポジティブな思考が重要と考えます。
弊社として特に設定しておりません
・アルバイトやボランティアなどの社会経験
・主体的に行動する経験
・成功体験と挫折体験
自身の意見をハッキリ述べること。周りを巻き込みながらも協調して物事を進めることができる。
挨拶、思いやり、コミュニケーション力を基本とした人間力の基礎
語学力
論理的思考力、柔軟性、状況判断能力
協調性、忍耐力
年齢層にあったコミュニケーション力
社会人として一番重要なのは人とのコミュニケーションをとることなので、学生時代には様々なことにチャレンジして様々な人と交流してコミュニケーション能力を身に付けて下さい。
学ぼうとする姿勢
協調性・コミュニケーション能力
多くの挑戦をし、自分の得意を磨くこと
自主性、協調性、コミュニケーション力
・コミュニケーション力・セルフマネジメント・ストレス耐性 など
コミュニケーション能力
・初対面の人とも気持ちよく交流できるコミュニケーション能力
・物事に自ら踏み込める力
・求められていることに迅速に対応できるフットワークの軽さ
コミュニケーション能力
なにかに打ち込んだ経験
自立して生きていくための基礎として、コミュニケーション力は重要だと考えております。
責任を持って取り組む姿勢、前向きさ。
あいさつなど人として好感が持てるふるまいなど。
同年代以外とのコミュニケーション力や対人能力
社会人マナー
基礎学力
最低限のPC操作
コミュニケーション能力。向上心。
先輩・上司の指示に対して、素直に実行することも大事だと思いますが、自分で考えて実行する力。
社会人としてのマナー（学内説明会でズボンポケットに手を入れ企業訪問を行っている学生が他校より多い）
コミュニケーション力
コミュニケーション能力と責任感
きちんとした挨拶、礼儀を身につけておくこと。
コミュニケーション能力・ある程度の礼儀作法
（1）社会人になるにあたっての基礎マナー・考え方等、（2）敬語法、（3）社会人としてのキャリアプラン
自発的行動力
人間関係性
物怖じしない行動力
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
向上心
自分の意見を伝える力、受け身ではなく積極的に取り組む力。
自ら実現したいことへの追及
そのプロセスが大事だと考えています。

どんな能力を身に付けてほしいではなく、身に付けたい能力が自分発信であることが将来に結び付くのではないかと感じます。
様々な方と仕事をするので、コミュニケーション力をつけておくのは大事だと思います。あと、仕事にストレスはつきものなので、それをうまく発散できる趣味等見つけてほしいです。
コミュニケーションスキル
ストレス耐性
想像力
業界や会社によって学生に求めているものは異なりますが、
弊社ではコミュニケーション力、創造力、企画力、実行力、適応力などを求めています。
・挨拶など基本的なマナー
・なりたい自分を考え描く力
基本的な挨拶やマナーは最低限学生時代に身につけておくべきだと感じています。
協調性、行動力、反省力
常に考える事を習慣づける
挨拶、人とのコミュニケーション、
相手の感情をくみ取ることができる経験
※できれば失敗や成長をしてもらいたいです。（アルバイト、サークルなど）
様々な考えや価値観に触れること。色々な人とのコミュニケーション能力。
基礎学力、協調性
コミュニケーション能力・社会通念（ルールを守るための知識）を知っていてほしいです。
礼儀正しさ（挨拶等）、コミュニケーション力、社交性
コミュニケーション能力
実行力　課題設定・解決能力　創造力　対話力
想像力かと思っております。
与えられた仕事をこなすのではなく、自身で考えて行動する力を身につけてほしいと考えます。
何事にも前向きに取り組む意欲、姿勢
忍耐力と目標設定する力。
マナー・コミュニケーション能力
・最低限のモラル
・コミュニケーション能力
・協調性
積極性、自主的に動く力、常識
人としての基本である礼儀と相手を思いやる心。
分からないことに対する調べ方、勉強の仕方
幅広い年齢層との人間関係構築力
（運動、研究等）何かをやり遂げる力
常識力
多様性
挨拶や人との接し方等のコミュニケーション力。
・人への関心を高める
・自分で考え行動しようとする力
最低限のマナー
コミュニケーション能力
精神力、規則正しい生活リズムの構築、周囲とのコミュニケーション、数字力など。
目の前のことに真摯に向き合うこと
社会人基礎力
誠実・謙虚・ハングリー精神
コミュニケーション能力、協調性、粘り強さなど
最低限のマナー、コミュニケーション能力
マナーとモラル
コミュニケーション能力
柔軟な思考、適応力
コミュニケーション能力や、自ら考えて行動していく力
人の話を聞く姿勢。
人と関わる楽しさを知ること。
努力をする事。
自分に自信を持つこと。
コミュニケーション能力、考える癖をつける
コミュニケーション力

上下関係
基本的なビジネスマナー
さまざまな年齢の方とのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力
積極性
素直さ
最低限のマナー
社会適応能力
報連相やチームワークで取り組み、個々の意見を出し合うながら共感や疑問を持ち、深めていくことで課題達成をする力
挨拶や返事、礼儀など当たり前事を普通に出来ること。
挨拶、笑顔、親切といった基本的な生活態度。
コミュニケーション力、チャレンジ精神
①素直な姿勢
②協調性
③主体性
最低限の礼儀、一般常識、会社で働くことへの意識
色々な人と話すコミュニケーション能力
礼節やマナー、コミュニケーション能力
失敗を恐れず、挑戦する力
仕事の出来栄えなどの「評価」は自分がするのではなく他人が下すものであることをしっかり認識していること
知らない人への挨拶などの基本的なコミュニケーション能力
前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで行動する力（チームワーク）
マナー、時間や約束を守るなど。
多面的な物の見方と多様性を受け入れる柔軟性だと思います。
偏らず、色んな経験にチャレンジしてほしいです。
社会性、忍耐力
弊社では、協調性や、周りをサポートできる力を求めています。
部活やアルバイト以外にも、ボランティア活動など自主的にできている学生は良い経験になって、社会に出たときに役立っています。
コミュニケーション力
・コミュニケーション能力
・元気よく挨拶
・笑顔
コミュニケーション力、主体性
自ら動くということ（受け身にならない）
挨拶等の礼儀礼節を含めた話す、聞くのコミュニケーション力を学生間だけではなく世代を超えた地域社会のなかで育んでもらえれば、社会人として歩む準備ができるのではと考えます。
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
傾聴力
変革力
社会に出ても恥ずかしくない、マナー・身だしなみ・言葉遣いを身に付けておくべきだと思います。
面接時で、出来ている学生と出来ていない学生ではハッキリ違いを感じます。
コミュニケーションをとる
社会人としての一般常識、忍耐強さ
自ら出来ることを探して取り組む力だと思います。
人間力の向上。柔軟性、コミュニケーション能力、対人力、接客能力、自立心など
ビジネスマナー
チームで行動できる力
市役所の業務の体質上、市民と対話ができて、組織の中でも上司や仲間とコミュニケーションが取れる人物を求めてます。学生生活では先生や友人と対話して、しっかりその能力を磨いて欲しいです。学生時代にしかできない多くの経験を体験してほしいです。
・多様な人間関係でもまれる経験、失敗経験
・悩んだときに自分で打開する力
・自分自身のモチベーションを高める力

天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することはなんですか。
良い子強い子元気な子。

力強く逞しい学生を育ててください！
遠方の企業ではありますが、定期的にご応募等いただいております。
これからもよいご縁をいただければと考えておりますので
今後とも何卒よろしくお願いいたします。
ますますのご発展をご祈念いたしております。
企業と早期から接点を持ち、社会に興味を
持つ学生さんが増えればよいなと感じています。
外国語学部の学生は全員、1年の留学。
これまで通りで大丈夫です
期待しております
自主性・積極性を持つ学生が育ち、社会に貢献出来る人材を排出していただけたらと考えております。そして、当社へも一度就職先として検討頂けましたら幸いです。
他大学とは違った、独自の学生を育てて欲しい。
体育会系で、コミュニケーション能力も高く、天理大学の学生は即戦力として通用しています
人生100年時代ともいわれ、会社の寿命より人の寿命の方が長い時代になると言われています。おそらくこれまでより一層変化の激しい時代になると思いますが、その中で夢を持ち、リーダーシップをとれる人材を輩出していただければと思います。奈良の人々はどうも内向きと言われることが多いですが、それを跳ねのけて奈良を盛り上げ、世界で活躍できる人材を期待しています。
専門分野をしっかり勉強し、多くの教養や知識をつけること、資格取得などの勉強をし、将来の進路に向けて自身のスキルを向上させること
精神面が強い若者を育てていただきたい。
弊社も昨年100周年を迎えました。これまでのやり方を見つめ直し、より学生の幅広い可能性を導き出せる御大学を期待しております。
社会人としての資質を持つ学生を育成すること。
特に御座いません。
天理大学卒を誇りに思えるような学生生活を送れたらいいと思います。
弊社に在籍しております「---」様のような素晴らしい人材の育成を今後も期待しております。
また、そのような方がおられましたら、是非ご紹介いただけますようお願い申し上げます。
コミュニケーション能力、問題解決能力
自分が将来何をしたいのか、夢を持ち、しっかりとそれに向かっての準備ができることと部活、サークル、ボランティアなどを通じて人との関わり方、コミュニケーション力、精神力など学ぶ機会であってほしいと思います。
世の中の変化に対応することがとても難しくなってきていると思います。次世代に必要な技術を学ぶことはとても大切ですが、天理大学ならではの歴史や変わらない考え方を今後も踏襲していただきたいです。
地域に密着し、県内企業との連携により更なる奈良県ブランドの向上に加え、奈良県の中核となる教育機関として今まで以上の知名度ＵＰひいては受験希望者数をＵＰさせ、奈良の魅力発信を行って欲しい。
天理大学で学ばせて頂いた経験が私の糧になり社会人生活を支えてくれています。
今後優秀な人材を世に送り出してくれることを願ってます。
人材育成力
スポーツやクラブに力を入れられているので、積極的で活発な学生、また、協調性やチャレンジ精神のある学生の育成に期待しております。
「将来どのようになりたいか」というキャリアビジョンを描いている、もしくは描くことのできる人材の育成を期待いたします。
地元企業としては県内での就職を望みます。
多様性が求められる昨今、若い方には視野を広く持つことを期待します。
前向きに何事も積極的に取り組む学生・コミュニケーションを取ることが好きで、元気があって誰とでも話せる学生がもっと増えること。
就職活動に向けて積極的な学生。
自ら考える力を学生時代に身につけていただきたいと
切に願っております。
引き続き信念を持って考え行動できる文武両道の人材育成を期待します。
弊社採用活動において引き続きお力いただけますと幸いです。
より良い学生の人間育成に取り組んでいただきたいと思います。
天理大学の偏差値を上げてください。他大学と比較すると学内設備や環境面で劣っているよう見受けられるので経費は掛かりますが検討願います。
学生の間は勉学と遊びを両立して四年間充実した学生生活を実りあるものにしてもらいたいです。その生活の中でマナーや適応力などを身につけて行ってもらいたいと思います。
学力も大事だが、それ以上に、上記のことがふつうにできるよう教育をお願いしたい。
心身共に誠実に物事に取り組んでいけるように、関わってくださったらなと思います。また、社会とはどのようにお金が動いているのか、というのを学生時代に教えてあげると良いと思います。
今後ともよろしくお願い致します。
キャンパスが外国人だらけになってしまわないようにして欲しいと思います。
創立100周年おめでとうございます。

今後少子化が進む中リーダーシップを求められる機会も増えてくると思います。今後の日本や奈良県の発展・地域貢献が出来る様な方々が排出されればと思います。
引き続きグローバルで活躍できる人材を育ててほしい
利己主義が強くなりつつある社会の中で、天理スピリットとしての「他者への献身」が今後の社会でより重要になってくると思います。仕事を通してそれを実践できる人材を輩出し続けて頂けるとありがたいです。
引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。
ご入社いただいた方は、地道に努力を積み重ねることができる人財です。諦めずに取り組む人財育成を期待致します。
自分の意見をはっきり言えて、考える力のある人材を育てる学びの場であってほしいと思います。
成果主義社会に対応できる専門性の高い人材の教育
これからの日本を支えるような、殻にとらわれない広い視野と向上心、野心を持った学生を育て上げる教育を希望します。
学術研究の向上
天理ビジョン2025を拝読させていただきました。教育のさらなる充実や、社会の要請に応えるべく細やかな行動目標等を指針に掲げられていますので、これからの天理大学により一層の期待をしております。
上記の学生時代に身に付けるべきことを身に付けた人材の育成
フレキシブルに活躍される人間力を学生のみなさまに教育していただくことを願っております。
学生自身が見つめなおす機会として自己分析をしっかりさせてほしい。
働くことに対して前向きな学生の育成
文武両道で、活力、一般常識を備えた人材育成
多様性の時代に貴大学の発展をますます期待しております。
仕事をする上で一番必要になる事が幅広い年齢層とのコミュニケーションと考えてます。学校の中では同じぐらいの年齢層の方が多いので、人生100年時代に適用できる人材を教育いただければと考えております。
長い歴史を大切にされた上での人間教育。
天理大学は素晴らしい大学だと思います。良い環境で良い人財を育成していただきたいと思います。
良い人材の輩出
グローバルな視点で物事を考えられる人材育成
広い視野
明るく素直で誠実な学生
社会に貢献する人材を数多く輩出していただきたいです。
チャレンジする学生の輩出
我々の業界はアルバイトの延長、というようにとらわれがちです。しかしながら、大勢の部下を抱え、自分の意志を持つことや、時にはクリエティブな仕事内容も要求されます。ぜひ御校の学生様にはまず業界研究の為にも会社説明会に来ていただき、まずは知って頂ければ幸いでございます。
社会に貢献する人材、またAIに代替のきかない人材の輩出を期待したい。
体育会学生を積極的に採用したいです。特にラグビー部。
机の上で学んだことだけではなく、共同生活で同じ釜の飯を食べ、仲間と喜怒哀楽しながら学生生活を送ってきた人間の方が創造力、人間力、踏み出す力、協調性など遥かに一般学生より上回っていると考えています。
公務員への指導だけではなく、日本にはいくつもある中小企業に人材を送り出し、日本を元気にしいって欲しいです。
世の中に出る事や働く事に対するマイナスイメージを払拭する事にご協力して頂きたい。
歴史があり、活躍されているOBも多く、世間から見ると認知度・関心度が高い大学だと感じています。
日頃、学生と接点を持つことが難しいです。
出会える機会があればありがたいです。
100周年という歴史の継承をしていただきたいです。
これからの社会では、全科目標準的なレベルを目指すより、特定の分野で専門性が高い能力が重視されていくと考えます。
『一芸に秀でる』それが収入に直結する。また終身雇用から能力雇用や多様性（ダイバーシティ）に徐々に変化して行くと考えます。
建学の精神に則り、素敵な学生を今まで通り排出されることを期待しております。
国際的な視点を持ちつつ、日本国内で活躍する人材の育成
学業と学内外でのクラブ・サークル・社会活動を通じてしっかり自己研鑽し、色々な立場の方を認めることが出来る人物の育成を期待します。
お世話になっております。スポーツ振興、並びに地域の子供達にスポーツの楽しさをつたえていく機会づくりを期待します。
国際社会での活躍が期待できる人材を育てて欲しい。
様々な仕事、働き方がある時代ですので、これからの若い世代は1つの会社・1つの仕事にこだわることなく自分らしい働き方を追求していくことになると思います。
自分が将来どのように在りたいのか、キャリアビジョンを学生の間からしっかりと思い描く機会を作って頂けたらと思います。
協調性、忍耐力のある学生を育ててください
県下を代表する御校のリーダーシップ力
様々な教育を通じて社会に貢献できる学生を育てて頂きたいです。
奈良県の知名度の高い歴史ある大学ですので、
これからも誇りを持って社会で活躍する人を育てる大学であることを期待します。

陽気ぐらしの実現を期待します。
人に優しく社会に貢献する心
奈良の地に根付いた活動を引き続き宜しくお願い致します。
人と人との関係性を大切にして人間として仕事を通じて自己の力で成長する意欲を持つ人材。社会から頼られ愛される人材。
上記のような人材の育成を期待いたします。
2025年にて100周年記念おめでとうございます。
コミュニケーション能力が高く、相手の気持ちを思いやることが出来る人物が育成されることを望んでおります。今後とも宜しくお願い致します。
今後も社会に羽ばたく学生の学びの場を提供し続けて頂く思います。
部活、サークルなどなんでも学生の活動を支援する体制
グローバルなネットワークをお持ちだと思うので、学生の内向き思考が強まっていると言われる中で、学生が視野を広げる機会を与えて頂ける事を期待しております。
国際感覚を身につけた学生が多数在籍しているという印象をもっております。これからも、グローバルに活躍できる人材育成を期待したいです。
スポーツ・文化など様々な分野で多様な人物を輩出される御校におかれましては、今後も、個々人の特徴や得意な能力に加えて、社会で活躍できるコミュニケーション能力、積極性、創造力などを兼ね備えた人物を育成していただきたいと思っております。
どんな状況でも楽しんで積極的に取り組める姿勢を持つ学生を送り出してほしいです。
採用実績は多くはありませんが、働いている貴校の卒業生は皆さん現場で活躍する人材です。今後とも宜しくお願い致します。
働き方改革が進む中で、いかに効率よく勤務時間を有効に使えるように自分で考え実行する力。
グローバルに活躍ができるように目指して下さい。
コミュニケーション力と行動力のある学生に期待します。
4年間を通して、大学生でしか出来ない事を多く体験させて、「学生生活は、もう満足！」っといった状態で卒業をさせて欲しい
法人と地域の方々、またほかの企業・法人とを繋ぐ架け橋になってくれる人財の育成を期待しています。
より良い学生様の輩出。
2018年、2019年と幸運にも二年続けて貴学学生様をお迎えする事が出来ました。当社を選んでくれた貴学出身の２名は勿論のこと、ご紹介いただいたキャリア支援課様には大変感謝しております。当社に入社してくれた二人の活躍は目を見張るものがあり、今ではなくとはならない存在になりつつあります。社内での評価も高く、採用に至っては、貴学のお名前が他大学様を抑え真っ先にあがります。ひとえにこの結果は入社後の彼らの頑張りでもありますが、若い二人の胸の内には母校への感謝の気持ちがあるのではないかと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。
貴学に対し今あえて望む事はございませんが、採用という面でお願いできるなら、10割とはいいませんが、7～8割程度の学生がキャリア支援課様に顔を出すような仕組み作りをしていただければ幸いです。どこの大学様も同じお悩みをお持ちですがなかなか難しいとの事です。天理大学様には是非実現していただければと思っております。
創立100周年となると数多い大学という存在をリードする立場になられると思いますので、是非大学として大きな打ち出しや魅力ある歴史や取り組みをアピールし、学生にインパクトを与えられることを期待しております。
優秀な人材を育ててもらうこと
実践的な学生の育成
教祖が互いにたすけあう生き方を示されたように、学生にその精神、考え方を伝え続けていただきたいです。
創立100年、おめでとうございます。学内で開催されるイベントなどにもご招待いただけますと幸いです。
今後ともよろしくお願いいたします。
おみちの大学としてだけでなく、幅広い知識と教養、バイタリティーを持って、何事にも取り組んでいただきたいと思います
人間力を養い、高められるようなオリジナリティを活かした教育
主体性や情報分析、把握力など、社会に出てから苦労しないためにも学生のうちから必要なスキルを習得して頂ければと思います。
御校に限りませんが年々若者の、共有の精神が薄れてきているように感じます。個々の時代とはいえ、相互扶助を大切にする教育を行なって頂く事を期待します。
特にありません。今後ともよろしくお願い申し上げます。
社会人になった時に天理大学を卒業して良かった。と、卒業生が思える大学であって欲しい。
挑戦心
学生への支援として、感性豊かな人を育ててもらいたいです。
上記のような失敗や成長、そして自分の好きなことが学べる環境を作っていってもらいたいです。
上記の学生の輩出を期待しています。
これからも優秀な人材を育成して下さい。
優秀な学生を数多く輩出していただきありがとうございます。
天理教の教えに培われた「陽気ぐらしで人のために役に立つ」精神をもって、仕事を通じて、社会貢献に努めて欲しいと思います。
天理大学様の体育会出身学生は毎年大変優秀であると感じております。そういった文武両道の学生様に今後も当社で活躍いただけると幸甚です。
これからの社会に通用する学生の資質を高める教育の実践に期待しています。
優秀な学生が多いのが貴学の特徴だと思いますし、バイリンガルな学生や体育会の学生を弊社としてはこれからも採用させていただければと思います。

長い歴史が築かれているのは先輩のお陰でであり、今後もそのネットワークを生かしご活躍頂く事を祈念しております。
天理大学は、とても地域に密着している大学だと思います。若く優秀な人材をこれからも輩出して欲しいことはもちろんですが、地域の子ども、一般社会人が気軽に学べる場になってくれることを期待いたします。
就職活動について
自分は社会人になってどのように働きたいか、どんな社会人になりたいかを考え、大手企業にばかりに目を向けるのではなく、中小企業含め多くの企業研究をして欲しいと思います。
その為には就活サイトに目を通すだけでなく、その会社のホームページ、合同企業説明会や単独企業説明会などで情報を集める必要があります。
現在は売り手市場の為、積極的に活動せずとも大丈夫と思っているかもしれませんが、入社後に後悔しないよう、早期からしっかりと企業研究されることを望みます。
学生らしく、多くのことを学び社会に向けて希望を持ち、社会に出る準備を少しでも高めていただくことで、より良い社会人になれると思います。
歴史とともにグローバル化に適応した大学ではあると思いますが、これから益々発展の可能性が満載の地元奈良をプロモーションできる人材を育成ください。
社会に通用する国際人材の育成
ビジネススキルを持った体育会系学生の育成
将来的に社会に出て活躍できる人材の輩出と教育を期待しております。
思考力を備えた学生を卒業させて頂きたいと思います。
これまでの様にスポーツに力を入れ、文武両道の人材育成を目指してほしい。
今あるべき環境に感謝し、勉学や部活動など何事にも一生懸命に取り組む学生をより育成していただきたいです。
主体性をもって行動をしてほしい。
スポーツと勉学を両立されている貴校ですので、今後も社会人として忍耐力のある素晴らしい人材育成を継続していただければ幸いです。また、内定者にも貴校出身者がおります。この方も面接時から当社役員の評価が高いです。今後とも、よろしくお願い致します。
近畿地区の大学として、東海近畿へ展開する企業へと羽ばたいていただける学生さんを育成いただきたい。専門知識は先行している学科でしっかり勉学の上、コミュニケーション力、一般数値・読解力・文章力など、基礎学力的な力をハイブリットで身につけられる仕組みを求めます。
貴大学卒の学生は入社後も活躍してくれており、大変頼もしく感じております。現状望むことはございません。今後も素敵な学生様とご縁がありましたら幸いです。今後のご発展心より祈念致します。
キャリアセンターの開設
奈良県下の企業に固執しない就職支援
特にありません。在籍者の情報につきましては公表しておりませんので、お答えすることができません。
学生時代様々なことにチャレンジをし、その経験を社会でも活かしていただきたいと思います。
社会人として恥ずかしくない人材を育ててほしい
元気で明るい前向きな学生さんをたくさん育てて頂きたいです。
自分のことだけでなく他人を理解する力、そしてそれを受け入れる力
積極性のある学生を育てていってほしい。
これまでと同様に貴校から卒業生を弊社へ採用し、人財として組織の重要な役割を担っていただけることを期待してます。
これからも変わらず、良き学生様の教育を
期待しております。
大学在学中から視野を広げて考える力を養うような授業内容。
自身で考え行動できる力を備えた学生の育成
社会に貢献する人材をこれからも多く輩出されること。
上記の力を持った学生を多く輩出するしていただくことを期待し、貴校のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。
学び続ける姿勢。
自身が卒業をして後のことを考えてみる。その上で自身の将来を考え行動と挑戦をする自立心を養って欲しい。
さまざまな分野で活躍し、リーダーシップを発揮できる人材の育成を今後も期待し、弊社とのご縁があることを楽しみにしております。
私はホッケー部に所属しており、天理大学でホッケーの技術だけでなく、人間的にも大きく成長させさせて頂きました。
私を育ててくれた「天理」というブランドに大変感謝しております。
モノの流れがどんどん早くなっていく現代において、それらに対応する力であったり、順応する力が必要であると考えます。何事にも諦めない人間性の育成を望んでおります。
上記に加えて、マナーやルールなどの指導を尚一層期待する。
より一層、実社会で活躍される人財を輩出されることを期待いたします。
当社の社員として働いている方々は各部署におきまして、部下から信頼得て冷静な判断力と誠実な一面を持った社員が多数おります。そのような方が、貴校から社会に羽ばたいただけることを願っております。
グローバル化も進んでおりますので、よりグローバルな学生を輩出して頂きたい。より会社で働くことを意識した授業などを実施して頂きたい。
引き続き、相手に対して思いやりがありつつ、自分を律して仕事のできる人材を輩出してくださること。
併せて就職塾のような大学にならず、学びの場としてあり続けてほしいと思います。

県外へ就職する学生が増え、奈良県の経済全体が先細りしています。貴学におかれては、奈良県を代表する大学として、奈良県での就職支援に力を入れて欲しいと思います。
優秀な学生も多いと感じておりますので、今後とも変わらずよろしくお願い申し上げます。
ワールドワイドな視点が育まれることを期待しています。せっかくですから留学生や他地域、異年齢との学生との交流をしっかり行い、世の中は多様性に満ちていることの理解と、自分と異なる属性の方とも難なくコミュニケーションが取れる人材が育つ風土が天理にはあると思います。
前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで行動する力（チームワーク）を身につける場を学生に提供する機会が増えると学生が社会に出た時に良いと思います。
社会人基礎力の習得を期待したいと思います。
とても真面目でまっすぐな学生様が多い印象です。引き続き自分らしさを大切に出来る学生様とご縁を頂ければと思います。宜しくお願い致します。
体育・スポーツの分野が多岐にわたってきており、ニーズもある。
学校現場のみならず、地域・社会で体育・スポーツのスペシャリストとして活動する人材をこれからも輩出してほしい。
学生は、全国転勤がある総合職より安定を求める時代になってきましたが、チャレンジ精神のある学生を求めます。
自ら発信し、行動できる学生は社会人適応力が高いと思います。
これからも健全な精神力と強靭な身体を兼ね備えた生徒を輩出して頂きたい
体育会系の学生さんに当社へ就職していただけることを期待しております。
ぜひ今後も変わらず、主体性を持たれた優秀な方々をご輩出頂きたく存じます。
天理大学の特性の一つでもあると思いますが、これからもグローバルに活躍できる人材を社会に送り出していただけることを期待いたします。
これからの社会を担う次世代の皆さん、沢山のことに興味・関心をもって学び、学生時代にしかできない経験を通じて、是非、社会で活かせる人間力と行動力を養って頂きたいと思います。
働き方改革も必要とされている現在ですが、やはり仕事が中心ですので、前向きに本気で取る組む姿勢を持っていける方、またプライベートでも充実した生活を送ることができる方。そのような人材が育つような環境を作っていただければ幸いでございます。
貴校の卒業生から当社へ勤続して勤務して頂けている卒業生が多くいることが感じられます。しっかり勉強され、社会に送り出されていることが感じられ、今後も素敵な社会人へと導く学校であり続けて頂きたいと感じます。今後とも宜しくお願い致します。
体育学部があり、スポーツに力を入れておられるので、スポーツを通してコミュニケーション能力やチームワーク、目標に向かって取り組む姿勢など身につけた学生を期待しております。
特に天理大学特定で望むことはありません。
複数の企業が参加する合同説明会の回数を増やせば、さらに学生の視野が広がると思います。
幼児への体育指導ができる人材の育成。
専門知識を活かした社会貢献
地域の大学として、これからも素晴らしい学生を送り出していただきたいと思います。また、人とのかかわりが希薄になりつつある中で、すべての職種に言えることですが、コミュニケーションや人と人とのかかわりを大切にできる人物、またその能力を望んでいます。
スポーツを通して養われる忍耐力、人間関係また国際的な環境での多様な価値観を受け入れることのできる柔軟さを期待しています。

2020年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① メーカー：情報通信機械器具	② 輸送：陸上	③ 公務	④ サービス：その他（人材関連・情報サービス）	⑤ サービス：協同組合
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：OBの大半は管理職についています。また、数名海外駐在中。	満足している。理由：コミュニケーションが高い社員が多く、当社が求める乗務員（車掌・運転士）として活躍している社員も多いため。	満足している。理由：協調性及び適応能力が高く組織の中でも中心的な役割を担う人物が多いため。	満足している。理由：社会人としての基本的素地があり、入社時点だけでなく、2年後3年後と時間が経つにつれて、能力が伸びている。	満足している。理由：向上心が強く、努力を惜しまない勤務姿勢が共通している。
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：当社、在籍者から行動力がある方が多いように感じます。	はい。理由：採用させていただきたいと思います。上記の通り、コミュニケーション能力に長けている方が多く、向上心を持って仕事に打ち込める方が多い印象であるからです。	はい。理由：採用したい。礼儀正しく、協調性及びコミュニケーション能力に富んでいる学生が多いため。	はい。理由：社会人として優秀であるため。	未回答
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	協調性とストレス忍耐力	幅広い年代、性格の方と意思疎通を図ることができるコミュニケーション能力。	協調性、コミュニケーション能力、語学力、グローバルな視点で物事を考えられる力。	学校で学ぶ綺麗ごとだけでは、社会では通用しないということを、スポーツ活動などを通して経験しておいて欲しい。	対人関係を負担なく構築できる力。自分を大切にする心。相手を慮る心。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	グローバルに活躍する学生に期待します。昨今、他校学生も含め、転勤や海外駐在を希望しない学生が多い。	コミュニケーション能力、ルールを守ることができることができる誠実さに加えて、自ら考えて、周囲に働きかけることのできるバイタリティをもった方を期待いたします。	将来、社会に貢献できる人物の育成。	関西圏の体育系学部のある大学の中心的存在となり、スポーツの価値を高める取り組みを一緒にしたい。	今後も数少ない県内の4年制大学として、奈良県出身の若者が安心して学べる、天理大学であり続けてください。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	2020年は、多くの企業が採用縮小や企業自体の存続が厳しい環境です。昨年以前の社会、経済状況が直ぐには元に戻らないと思います。学生、企業とも優位な環境は少し先になると思います。説明会及び選考はWebでの実施が増える一方、対面選考も本年度より増えると思われる。学校の授業と同じように、最後は人と人とのコミュニケーションになってくると思います。	採用担当者と学生の皆様が直接お話できる機会が減少することにより、積極的に情報収集して企業研究等をしている学生とそうでない学生の差が今まで以上に顕著になるかと思います。WEB面談では、雰囲気等での判断が難しく、発言内容の質をより重視するようになるのではと思います。	イベント等の減少により、組織について学生に周知できる機会が減少しているものの、公務員が安定しているとの考えにより総合的には志願者は増加するものと思料。	採用人数そのものが減少するため、優秀層の取り合いになり二極化が益々加速する。	ライブシーンが減少することにより、大学・学生・企業間の臨場感は希薄化すると思います。時代の要請ではありますが、対人サービス業であることから、可能な限りリアルな場面を設けながら、採用活動を行います。

問No.	設問内容	⑥ サービス：娯楽・ｽﾎﾟｰﾂ施設・生活関連ｻｰﾋﾞｽ	⑦ 商社：機械器具（医療機器等）	⑧ 商社：機械器具（ベアリング等）	⑨ サービス：警備保障	⑩ メーカー：印刷・印刷関連サービス
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	いいえ。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：体操、スイミング等中心にスキル系コーチとして活躍してもらっている為。		満足している。理由：現場（配属部門）からの評判が、非常に高い事が理由です。	満足している。理由：長く活躍してくれいている方も多いです。	満足している人の方が多いのですが、不満足の方もいます。理由：内定後、入社までに採用条件を満たさずに来た方がいてた。
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：スキル系の業務(体操、スイミングコーチ中心)に、即戦力として活躍して頂ける見込みがある為。	はい。理由：バイタリティ＆チームプレイの精神が備わっている体育会系学生が多く、当社の社風とマッチするから。	はい。まじめで、素直、純粋な学生が多いところに魅力を感じます。	はい。理由：スポーツに強く、制限された環境の中で真剣に取り組んでいる印象。OBも長く働いて活躍してくれています。	はい。理由：地元の大学であること、また先輩も多く採用はしたい。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	コミュニケーション能力を養って頂くこと。	一言では言い表せませんが、「社会人基礎力」や「教養」でしょうか。社会人基礎力では特に、「実行力／主体性」「発信力」「規律性」「ストレスコントロール力」が備わっていると、尚良いかと思われます。	アンテナの高さ（情報収集力）、キャリアプランニング力（自身の将来を切り拓いていく力）、ワークルール（働くうえでの基本ルール（法律等））。	コミュニケーション力、忍耐力、継続力等	貴重な４年間なので、色々な人と交流を持ち、勉学以外のことも多く経験をしてもらいたい。高校時代に経験できないこと、大学生だからこそ出来る事を経験して欲しい。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	特になし。	どのような会社に入社をしても活躍できる、人材育成。	貴学は、奈良県においてナンバー１の大学様だと思っております。奈良県の情報発信源として、引き続き関西・西日本・日本・世界を牽引する学生を世間に送り出していただく事を期待しております。	今後も、良い学生を育成されることを期待しています。	歴史ある大学なので、いろんな分野での活躍が期待でき、「天理大学」の名前を全国に広めて頂きたい。卒業生の活躍が期待できるような教育。（天理大学の学生を採用して良かったと思ってもらえる）
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	オンラインでの選考は主流になるかと存じます。	採用凍結や縮小など、売り手市場から買い手市場への市場転換。また、採用活動の早期化と複雑化。	よりデジタル化が進むと考えておりますが、その反面、情報を十分に掴めない学生も多く出てくると予測しております。今後、今まで以上に大学キャリア・就職部門様の存在が重要となってくると考えております。	傾いている。また、採用を絞っている業界希望学生が視野を広げたりすることが考えられ、安定しているセキュリティ業界へ目を向ける学生も増えるのではないか、と期待しています。	大手企業、中小企業ともに選考に対し不安材料が多く、これから迎える決算によっては人材採用において支障が出ることが予想される。経済回復がどれだけ進むか不透明な部分があり、企業側もそれ相応の対応になると思われる。

2021年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① メーカー：ゴム製品	② 金融：信用金庫・信用協同組合	③ サービス：病院・医院・医療・保険サービス	④ 建設業：建築・建設	⑤ メーカー：印刷・印刷関連サービス
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：大学で専攻した知識を仕事に活かしていただいている。	満足している。理由：スポーツ経験者が多く、礼儀正しく、元気のある学生が多いように思う。	満足している。理由：何事にも一所懸命取り組む姿勢を持っている方が多い。	不満である。理由：個人レベルでは、仕事についての理解に、バラツキが大きい。	満足している。理由：研修および業務を、真面目に丁寧にこなしてもらっている。
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。理由： ①国際学部を有しているので、国際社会へグローバルに対応できる学生が多いこと。 ②現在、弊社において社長、専務、取締役他数名の天理大学卒が勤務しており、継続的に天理大学生を採用しているので続けていきたい。	はい。理由：是非採用したい。スポーツ経験者が多く、礼儀正しく、元気のある学生が多いように思うから。	はい。理由：採用したい。何事にも一所懸命取り組む姿勢を持っている方が多いことと、宗教のことを少しでも理解している人が多いため。	はい。理由：体力があり、真面目に物事に向かう気持ちが多い。	はい。理由：当社が奈良県内にあるということもあり、県内外出身を問わず、奈良県で働くことに意欲のある方と、出会いやすいと思うから。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	面接時に学生から必ず質問される問いですが、「在籍している専門をしっかり勉学してもらいながら、学生生活を謳歌し、たくさんの友人を形成してもらいたい。」と返答しております。	コミュニケーション能力。	コミュニケーション能力 社会人としてのマナー 笑顔と親切	自省心、向上心	人の話を聞き、学ぶという姿勢が大切だと思う。仕事を覚える際に、言われたことを鵜呑みにするだけでなく、何故そうするのかと考えることが成長につながると思う。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	現在は国際学部となっていますが、昔のように外国語学部を更に広げてもらい、世界に通じる国際人を養成していただきたいと思います。元々は、天理外国語学校が発祥でしたので、国際学部を極めていただきたい。ちなみに、弊社も2023年に創立100周年を迎えるので、只今100周年イベントを企画中です。	これからも、社会常識のある学生の育成を期待しています。	医療大学と合併後、更なる幅広い分野で活躍できる人材の育成。	良い処を継続してほしい。建学の精神を忘れずに。	数多くのOBGを輩出している貴学の学生を、可能であれば定期的に採用し、貴学を通じた人のつながりを、大きくしていきたいと考えている。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	コロナ対応における採用活動は、2年目を迎えます。リモートにおける企業説明会は慣れてきておりますが、対面ではないので学生のしぐさなどから志望度合いをはかるのが、リモートではわからない点が多いので、良い人材でも選考から省いてしまうことがあり、選考には苦慮しております。	リモートの活用に定着すると思いますが、採用決定には対面が必須と考えています。	オンライン採用試験が、一般的になるのではないか。しかし、オンラインでは見えなかった点が、採用後に見えてくることがある。	今の状態が普通になるので、採用そのものへの影響は少ない。但し、企業の状況は急変するかも知れない。	少なからず業績に影響が出ているため、今後数年間は新卒採用の動きが鈍くなると思う。

問No.	設問内容	⑥ サービス：学習塾・教育支援	⑦ 公務：	⑧ サービス：病院・医院・医療・保険サービス	⑨ メーカー：食品・食料	
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：当社に相応しい人物で、幼児体育の指導者として適任だと感じるため。	満足している。理由：昇任し幹部になっている職員が多数いる。誠実で思いやりがある方、コミュニケーション能力の高い方、クラブ活動等を通じ忍耐力を備えている方など、優秀な人材が多い。	満足している。理由：人間味があり、人の役に立つという宗教的教えなどもあり、社会人としての根本的なところが備わっていると考えるため。	不満である。理由：当社には現在卒業生が3名おり、1名は在籍20年を超えるベテラン社員として活躍しています今3年目の社員が1名おりますが、難しい顧客を担当した為、モチベーションが下がっています。今年の新卒で1名採用しましたが、度重なる業務中の怠慢な態度に、手を焼いています。	
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：充実した環境で学生の皆さんが学び、研鑽されているため、社会人としても即戦力として活躍いただいているため。	はい。理由：公務を通じ安全・安心な社会の実現等の社会貢献に意欲のある方、誠実で思いやりのある方を求めており、天理大学にはそのような学生が多いと認識しているため。	はい。理由：当グループには、多種多様な国籍の方や職種の方が働いていて異文化のことも学んでおられて、先々留学生や技能実習生の力にもなってもらえると考えるため。また、スポーツも非常に力を入れておられ、そこから学ぶ挨拶、忍耐力、自分との闘い、努力を継続する力、常に上を目指す事ができる、仲間との助け合い、思いやり士気が高いことなど、そういった能力が備わっていること。	地元の学生であり、私も天理市出身なので、いい出会いを大切にしたいと思っています。 適材適所で、採用したいと考えています。	
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	コミュニケーション能力を含め、対人力を強化すること。様々な状況や事態にも臆することなく対応できる力を、インターンシップや現場実習で習得すること。	①相手の立場になって、物事を考える人②人の痛みや苦しみを敏感に感じ取ることができる人③誠実で思いやりのある心を持ち合わせた人、を求め採用しているため、学生生活を通じてそれらを身に付けてほしい。	挨拶、笑顔、相手の思いを聞けることなど。	どんな仕事をするにもコミュニケーションは大事なので、数多くの方と触れ合い、コミュニケーション能力を高めていただきたいと思います。 また、社会に出ると何かしらストレスは溜まるので、発散する何かを見つけていただきたいです。	
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	歴史ある貴学では数多くの偉人も活躍されているので、更に各分野で力を発揮できる人材が育つ環境作りを継続していただき、特に子ども・幼児体育の指導者育成にも、力を入れていただきたく願います。	机上の勉学に留まらず、実習やボランティア活動等様々な経験を積み、社会の一員として社会貢献する意識の高い人材の育成。地域に根ざし、各公官庁、企業と共助し、地域社会の発展へ寄与すること。	奈良県内での就職促進。また天理市内での企業等との盛り上げ役として推進してほしい。	地元の大学として数多くの優秀な先輩を輩出されていますので、先輩に負けない気持ちで頑張っていただきたいと思います。	
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	昨年から、各企業での採用は減少していると聞きますが、来年、再来年と更に採用ができない企業も増えるように感じます。会社説明会や採用試験においては、対人・オンラインとの併用で実施されると考えます。	コロナ禍においては、採用試験の日程、形式、試験科目等に変更があったが、今後感染症の終息に伴い、元通りの試験内容に戻るものと考える。	コロナ禍の影響は、学生の可能性を狭める。様々な企業を知っていただく機会が、制限される。実習やインターンシップなどの機会が減少する。	当社も外食産業様がお客様なので、緊急事態宣言下に間接的に影響を受けました。ただ、お持ち帰りも増えた関係で、今後は持ち帰り商品に力を入れていきたいと思っています。 コロナ禍でも大手回転寿司店は好調なので、当社も忙しくています。 将来の会社を担う若手は今後も必要ですので、積極的な採用活動を今後も続けていく所存です。	

2022年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① サービス：警備保障	② メーカー：一般機械・産業機械	③ サービス：物品レンタル・リース	④ 商社：機械器具・OA製品	⑤ サービス：福祉・福祉施設
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：当社が求める人材につきましては、積極性・誠実さ・コミュニケーション力がある「自立型人材」であり、貴大学出身者については、まさに適した人材であります。	満足している。理由：前向きに真摯に業務に取り組む姿勢が、周りにも良い影響を与えているため。	満足している。理由：1名は第二新卒で採用しましたが、柔道をされていて礼儀・礼節を重んじ、しっかりとした方なので。もう1名は新卒で採用しましたが、真面目でどのグループとも接点を持てる、周りを感じることができる方なので。	満足している。理由：積極性、主体性があり、礼儀正しく活発で誠実な方々のため。	満足している。理由：人間学部２名、文学部１名の卒業生が在職しており、学生の時からアルバイトとしても関わってくれておりました。採用後も明るく活発に業務に従事しており、現在は、役職に就いています。
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：上記の理由ならびに、現在では管理職等、その他の役職にてもリーダーシップを発揮しながら活躍されており、先輩後輩が切磋琢磨しながら成長できる環境を作るために是非採用したいと考えております。	はい。理由：チームにいてほしい人財が活躍しているため。	はい。是非採用したいと思っています。理由：①スポーツで鍛えられた、強い精神力をお持ちなので。②縦の関係を重んじる方が多いので。③同じ奈良県内にあるので。	はい。理由：過去採用した方のような人を求める為。（御校の学生様と弊社との相性が良いと感じております）	はい。採用したいです。理由：人間学部で社会福祉を専攻している学生だけでなく、他の学部の学生であっても「人の為に動く」ことができる学生が多いと感じております。部活動等を通じた中で、組織の中での連携やコミュニケーション能力を培っておられると思います。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	弊社が求める「自立型人材」の通り、目標に向かい取り組む積極性、真面目さや、常に相手を思いやる誠実さ、周囲の人との信頼関係を築けるコミュニケーション力を、身につけて頂ければと考えます。	目の前の壁を成長と捉え、諦めずに取り組める方は、入社後も活躍されています。	当社としては、特にありません。当社は個性を大切にしておりますので、自分のキャラクターを理解していただいておれば結構です。	礼儀作法、積極性、主体性、やる気、向上心、明るさ、PCスキル（エクセル、ワード）、ある程度の社会人マナー。	福祉の職場では、「誰かの力になる」「人の為に動く」ことができるのが大切です。また、一人でできることは限界があるので、人の意見を聞くことができる、自分の考えを言えるなどチームとして活動していくためのコミュニケーション能力が必要だと考えております。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	多くの卒業生が社会でご活躍されておられる通り、リーダーシップを取られる人材の育成に期待します。	引き続き、主体的に物事に取り組むことができる人財の輩出。	同じ奈良県内で、更に創立100周年を超える立場として、共に奈良県を支えていける関係を築けたら、と思っています。	ますます社会で活躍される人材の育成を、なさっていただきたいと思います。	近年では、ラクビーにプロ野球、柔道などスポーツ分野でも華々しい活躍を目にします。様々な分野においても、大学の「建学の精神」「教育目標」に沿って、「誰かの力になる」「人の為に動く」ことを養っていただけることを期待しております。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	Webでの採用方法の利点としては、遠方の学生や多くの学生へのPRが可能であり、経費の負担軽減にはつながります。しかしながら、今後ミスマッチによる早期退職が増えるものと考えられ、その対策が必要となります。あくまでも、弊社が考えます「学生との対面式」が基本であり、互いに理解しあえる場を持ちたいと考えております。	採用イベントのオンライン化により、対面で会う機会は減少していると思います。一方で、気軽に採用イベントに参加していただける点は、オンラインのメリットと捉えています。今のやり方にあった採用活動をして、良いご縁につながるよう尽力して参ります。	対面での採用活動が、難しくなるのかと思います。また、効率的に就活をされる方が、増えるのかとも思います。ただ学生の一部は、Webより対面を重視されている方がおられるので、そういった方を大切にしていきたいです。	Webが主となってきており、企業側と学生の意思の疎通がしにくく、また、画面上と実際に対面した際の印象のギャップが発生するため、採用活動の効率が悪くなると思います。	就職説明会や一次面接はWeb形式で実施されることが増えて来ると思います。感染が減少している時は、出来るだけ来所していただいたり、対面での面接が望ましいと考えておりますが、感染拡大時や遠方の方ともWebで面接しやすいというメリットもあります。状況に応じた活動が増えるのではと思います。

問No.	設問内容	⑥ 輸送：陸上運送	⑦ 金融：生命保険	⑧ 商社：機械器具・OA製品	⑨ 輸送：倉庫・運輸附帯サービス	⑩ 建設業：電気設備工事
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	いいえ。	はい。	はい。	いいえ。	いいえ。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。		満足している。	満足している。理由：人物面が、しっかりとされておられます。芯を持っておられる感じを受けると共に、マナーも兼ね備えておられると思います。仕事に対する向き合い方も、しっかりされています。		
②	天理大学生を採用したいと思いますか？また、その理由は何ですか。	はい。採用したいです。理由：貴学が特に、スポーツに力を入れており、体育会系学生を弊社では高く評価しているため。	はい。理由：貴学の卒業生が様々なキャリアルートに進み、活躍されているため。	はい。採用できれば嬉しい。理由：入社後のロードマップが、他の学生様よりハッキリと想像できるから。	はい。理由：外国語教育に力を入れている点から、グローバルに活躍できる人財を採用したいため。	はい。採用したい。理由：体育系の学生を希望しているため。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。	素直さ。わからない事をすぐに聞くコミュニケーション力。物事に取り組むスピード。	弊社では、コミュニケーション能力、組織対応力、行動力、課題解決力、ホスピタリティの5つを求める人材としています。これらの力を学生時代に少しでも身につけている学生と働きたいと思っています。	学生時代にしか経験できない事を、数多く経験すること、そして新しい事に不安を感じながらも、その事に押し潰される事無く、いろいろな矛盾を感じながら、チャレンジしていく事ができるマインド。	様々な人とのコミュニケーションを取る、前向きな心構え・姿勢。	自分が経験した事を、話せるネタを多く持つ事。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。	若者の育成。	今後も貴校と関係を築き、卒業生やセミナー等を通して、卒業生のような人材と出会いたいと思っております。	関西のみならず、日本を牽引していく大学を目指してほしいです。	多種多様な物事にチャレンジする、気概のある学生を期待しています。	奈良県の魅力発信。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	一時はコロナの影響で、オンライン面接やリモートワークが始まりましたが、今は対面の流れが戻りつつあり、オンラインの良いところを取り入れた対面活動が主流になると思います。（デジタルコンテンツの拡充等）	オンライン授業など、オンラインでのやり取りが増え、志望する業界や業種も変化していくように考えます。	学生が待ちの姿勢になっています。当社も柔軟に対応しようと模索していますが、ただ今も昔も将来も変わらないのは、当社は大学キャリアセンター様との関係を第一に考えております。	リモートと対面を両立した採用活動のスタイルが、今後も定着していくと思料します。	今は（コロナ以前の）スタンダードになった（戻った）と感じる。

別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ナガオ ヒナオ 永尾　比奈夫 ＜令和５年４月＞		Master of Arts in Religious Studies （米国）		天理大学 学長 （令和５．４～令和７．３）

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（国際学部英米語学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	シマダ タクジ 島田 拓司 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		異文化コミュニケーション１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	５日
							異文化コミュニケーション２		1･2･3･4後	2	1		
							Business Communication		1･2･3･4前	1	1		
							英語Ａ (Grammar)		1前	1	1		
							英語Ａ (Oral Communication１)		1前	1	1		
							英語Ｂ (Grammar)		1後	1	1		
							英語Ｂ (Oral Communication １)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Presentation)		2前	1	1		
							英語Ｅ (Writing)		3前	1	1		
							観光英語		1･2･3･4前	1	1		
							英米語概論５		2･3･4後	2	1		
							Content Based English ３		3･4前	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
2	専	教授 (学科主任)	モリシタ サブロウ 森下 三郎 ＜令和6年4月＞		博士 (伝道学) (イタリア)		Japanese Religions		1･2･3･4後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成12年4月)	５日
							英語Ｃ (Oral Communication ２)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Oral Communication ２)		2後	2	2		
							英語Ｅ (Presentation)		3前	2	2		
							英語Ｆ (Writing)		3後	1	1		
							英語Ｆ (Presentation)		3後	1	1		
							伝道英語１		2･3･4前	1	1		
							伝道英語２		2･3･4後	1	1		
							Content Based English ５		3･4前	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
							卒業課題研究		4休	2	1		
							卒業論文		4休	4	1		
3	専	教授	コバヤシ チホ 小林 千穂 ＜令和6年4月＞		Ｐｈ．Ｄ (教育学) (米国)		基礎ゼミナール２		1後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	５日
							英語Ａ (Oral Communication１)		1前	1	1		
							英語Ａ (Integrated English)		1前	1	1		
							英語Ｂ (Oral Communication １)		1後	1	1		
							英語Ｂ (Integrated English)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Oral Communication １)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Oral Communication １)		2後	1	1		
							英米語概論３		2･3･4前	2	1		
							英語科指導法１		2後	2	1		
							英語科指導法２		3前	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
							英米語演習３		4前	2	1		
							英米語演習４		4後	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
4	専	准教授	マノ ジョージ Mano George ＜令和6年4月＞		M.A. (米国)		英語Ａ (Oral Communication２)		1前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	５日
							英語Ｂ (Oral Communication ２)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Integrated English)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Integrated English)		2後	1	1		
							英語Ｅ (Writing)		3前	1	1		
							英語Ｅ (Integrated English)		3前	2	2		
							英語Ｆ (Writing)		3後	1	1		
							英語Ｆ (Integrated English)		3後	1	2		
							英米語概論４		2･3･4前	2	1		
							Content Based English ２		2･3･4後	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
	兼任	講師	マノ ジョージ Mano George ＜令和9年4月＞				英語Ａ (Oral Communication２)		1前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (令和9年3月まで)	－
							英語Ｂ (Oral Communication ２)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Integrated English)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Integrated English)		2後	1	1		
							英語Ｅ (Writing)		3前	1	1		
							英語Ｅ (Integrated English)		3前	2	2		
							英語Ｆ (Writing)		3後	1	1		
							英語Ｆ (Integrated English)		3後	1	2		
							英米語概論４		2･3･4前	2	1		
							Content Based English ２		2･3･4後	2	1		
							英米語演習３		4前	2	1		
							英米語演習４		4後	2	1		
							英米語海外語学実習		2休	4	1		
5	専	准教授	ヤマモト タカシ 山本 享史 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		英語Ａ (Reading)		1前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (平成30年4月)	５日
							英語Ａ (Integrated English)		1前	1	1		
							英語Ｂ (Reading)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Reading)		2前	1	1		
							英語Ｃ (Writing)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Reading)		2後	1	1		
							英語Ｄ (Writing)		2後	1	1		
							英米語概論３		2･3･4後	2	1		
							英語科指導法３		3前	2	1		
							英語科指導法４		3後	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
6	専	准教授	コマツザキ トシアキ 小松崎 利明 ＜令和6年4月＞		修士 (行政学) MA (Conflict Resolution) (イギリス) Mphil (Peace Studies) (イギリス) ※		英語Ａ (Writing)		1前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (平成30年4月)	５日
							英語Ｂ (Writing)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Oral Communication １)		2前	1	1		
							英語Ｃ (Presentation)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Oral Communication １)		2後	1	1		
							英語Ｄ (Presentation)		2後	2	2		
							英語Ｄ (Integrated English)		2後	1	1		
							英米語概論１		2･3･4前	2	1		
							Content Based English １		2･3･4後	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
							英米語演習３		4前	2	1		
							英米語演習４		4後	2	1		
							英米語海外語学実習		2休	4	1		
7	専	准教授	ヤマモト コウジ 山本 晃司 ＜令和6年4月＞		修士 (英語学) ※		基礎ゼミナール１		1前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成28年4月)	５日
							世界の英語		1･2･3･4後	2	1		
							英語音声学１		2･3･4前	2	1		
							英語音声学２		2･3･4後	2	1		
							英語学概論		2･3･4後	2	1		
							英語Ａ (Writing)		1前	1	1		
							英語Ｂ (Writing)		1後	1	1		
							英語Ｃ (Presentation)		2前	1	1		
							英語Ｃ (Integrated English)		2前	1	1		
							英語Ｄ (Presentation)		2後	1	1		
							英米語概論２		2･3･4前	2	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
							英米語海外語学実習		2休	4	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
8	専	講師	ウッド ジェレミー ジョージ Wood Jeremy George ＜令和6年4月＞		博士 (文化交渉学)		基礎ゼミナール１		1前	2	1	天理大学 国際学部講師 (令和5年4月)	５日
							基礎ゼミナール２		1後	2	1		
							Business Communication		1･2･3･4前	1	1		
							英語Ａ（Oral Communication２）		1前	2	2		
							英語Ｂ（Oral Communication １）		1後	1	1		
							英語Ｂ（Oral Communication ２）		1後	2	2		
							英語Ｂ（Integrated English）		1後	1	1		
							英語Ｃ（Integrated English）		2前	1	1		
							英語Ｄ（Integrated English）		2後	1	1		
							英語Ｅ（Presentation）		3前	1	1		
							時事英語		3･4後	1	1		
							英米語演習１		3前	2	1		
							英米語演習２		3後	2	1		
							英米語演習３		4前	2	1		
							英米語演習４		4後	2	1		
							英米語海外語学実習		2休	4	1		
9	兼担	教授	ノ ゼウォン 魯 ゼウォン ＜令和6年4月＞		博士 (社会学)		カルチュラルスタディーズ		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	５日
							アジア地域文化論		2･3･4後	2	1		
10	兼担	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 ＜令和6年4月＞		M.A. (タイ)		多文化理解と言語（タイ語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	５日
							日本と国際社会		1･2･3･4後	2	1		
11	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		多文化理解と言語（インドネシア語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	５日
							キャリアデザイン２		2･3･4後	2	1		
12	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 ＜令和6年4月＞		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語（フランス語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	５日
							天理異文化伝道		2･3･4前	2	1		
13	兼担	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 ＜令和6年4月＞		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語（スペイン語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	５日
14	兼担	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 ＜令和6年4月＞		修士 (地域研究)		多文化理解と言語（ポルトガル語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	５日
15	兼担	教授	ハツタニ ジョウジ 初谷 譲次 ＜令和6年4月＞		修士 (国際学)		グローバル文化論		2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (昭和63年4月)	５日
							アメリカス地域文化論		2･3･4後	2	1		
							アメリカスの歴史と社会		3･4前	2	1		
							観光デザイン論		2･3･4前	2	1		
	兼任	講師	ハツタニ ジョウジ 初谷 譲次 ＜令和9年4月＞				グローバル文化論		2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (令和9年3月まで)	－
							アメリカス地域文化論		2･3･4後	2	1		
							アメリカスの歴史と社会		3･4前	2	1		
							観光デザイン論		2･3･4前	2	1		
16	兼担	教授	フジタ アキヨシ 藤田 明良 ＜令和6年4月＞		文学修士 ※		国際文化論		1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	５日
							世界の歴史と社会		3･4前	2	1		
							世界遺産論		2･3･4前	2	1		
17	兼担	教授	タニイ ヨウコ 谷井 陽子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		アジアの歴史と社会		3･4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	５日
18	兼担	教授	イガラシ ノリコ 五十嵐 徳子 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		スラヴ・ユーラシア地域文化論		2･3･4後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成10年4月)	５日
							スラヴ・ユーラシアの歴史と社会		3･4前	2	1		
19	兼担	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 ＜令和6年4月＞		教育学修士 ※		日本事情１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	５日
							日本事情２		1･2･3･4後	2	1		
20	兼担	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 ＜令和6年4月＞		修士 (言語学) ※		日本語学入門		1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	５日
							日本語文法論１		2前	2	1		
							日本語文法論２		2後	2	1		
							日本語音声学		2後	2	1		
							言語の対照研究		3前	2	1		
							日本語指導法		4前	2	1		
							日本語教育実習		4休	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
21	兼担	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語（日本語）	1･2･3･4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育研究センター 准教授 (令和3年4月)	5日
22	兼担	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 ＜令和6年4月＞		Ph.D (米国)		天理教概説１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							天理教概説２	1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
23	兼担	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 ＜令和6年4月＞		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説１	1･2･3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	－
							天理教概説２	1･2･3･4後	4	2		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
							Japanese History	1･2･3･4前	2	1		
24	兼担	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 ＜令和6年4月＞		文学修士 ※		博物館実習１	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	－
	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 ＜令和9年4月＞				博物館実習１	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	－
25	兼担	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		宗教と芸能	1･2･3･4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	－
26	兼担	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 ＜令和6年4月＞		文学修士		博物館実習１	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	－
27	兼担	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	－
28	兼担	教授	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		情報資源組織論	3･4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							情報資源組織演習１	3･4後	4	2		
							情報資源組織演習２	3･4後	4	2		
							図書館情報学特論	4前	2	1		
29	兼担	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	－
							ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休	1	1		
							国際協力入門	1･2･3･4休	2	1		
							国際協力実習	1･2･3･4前	2	1		
							国際協力演習１	1･2･3･4前	2	1		
							国際協力演習２	1･2･3･4後	2	1		
							国際ボランティア論	2･3･4後	2	1		
							キャリアプランニング	1･2･3前･後	8	4		
							基礎からわかるレポート作成	1･2･3･4前	2	1		
30	兼担	教授	ソヤマ ノリコ 曽山 典子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		データサイエンス・AI入門	1前･後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	－
							コンピュータ入門	1･2･3･4前･後	12	6		
							情報処理	2･3･4前･後	4	2		
31	兼担	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		天理大学特別講義１	1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	－
							天理大学特別講義２	1･2･3･4前	2	1		
							天理大学特別講義３	1･2･3･4前	2	1		
							天理大学特別講義４	1･2･3･4前	2	1		
							インターンシップ１	1･2･3休	1	1		
							インターンシップ２	1･2･3休	2	1		
							海外インターンシップ１	2･3･4休	1	1		
							海外インターンシップ２	2･3･4休	2	1		
							教職論	1前･後	10	5		
							教育課程論	3･4前･後	8	4		
							教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前･後	4	2		
							教職実践演習（中・高）	4後	2	1		
32	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる入門編	1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	－
							ローカリーアクト天理SDGs　森に生きる実践編	2･3･4休	1	1		
							生徒指導・進路指導の理論及び方法	2･3･4後	4	2		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）	4後	14	7		
							学校教育支援	2･3･4休	1	1		
							特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2･3･4前･後	8	4		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
33	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		学校教育心理学		2･3･4前･後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	－
							教育相談の理論及び方法		2･3･4前･後	8	4		
							教育実習講義		3後	1	1		
							介護等体験		3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）		4後	2	1		
							教育実習１		4休	2	1		
							教育実習２		4休	2	1		
							学校教育支援		2･3･4休	1	1		
34	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報システム論		2･3･4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	－
							情報サービス論		3･4前	4	2		
							情報サービス演習１		3･4後	4	2		
							情報サービス演習２		3･4後	4	2		
							図書館情報資源概論		2･3･4前	4	2		
							図書館情報資源特論		3･4前	2	1		
35	兼担	教授	ツカモト ジュンコ 塚本 順子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		国際スポーツ協力論		2･3･4休	1	1	天理大学 体育学部教授 (平成9年4月)	－
							国際スポーツ交流実習		2･3･4休	1	1		
36	兼担	教授	オクダ マキコ 奥田 眞紀子 ＜令和6年4月＞		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康づくり		1･2･3･4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	－
37	兼担	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化学		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	－
38	兼担	教授	イノウエ アキヒロ 井上 昭洋 ＜令和6年4月＞		Ph.D (Anthropology) (米国)		オセアニア地域文化論		2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成22年4月)	－
							オセアニアの歴史と社会		3･4後	2	1		
39	兼担	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり ＜令和6年4月＞		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	－
40	兼担	教授	カネコ アキラ 金子 昭 ＜令和6年4月＞		博士 (哲学)		哲学概論１		1･2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	－
							哲学概論２		1･2･3･4後	2	1		
							倫理学１		1･2･3･4前	6	3		
							倫理学２		1･2･3･4後	4	2		
41	兼担	准教授	ファン ホセ ロペス パソス Juan Jose Lopez Pazos ＜令和6年4月＞		博士 (哲学) (スペイン)		日本文化概論		1･2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成27年4月)	５日
42	兼担	准教授	ナカネ カツミ 中祢 勝美 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		ヨーロッパ地域文化論		2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成9年4月)	５日
							ヨーロッパの歴史と社会		3･4後	2	1		
43	兼担	准教授	ハットリ シホ 服部 （三浦）志帆 ＜令和6年4月＞		博士 (地域研究)		アフリカ地域文化論		2･3･4前	2	1	天理大学 国際学部准教授 (平成24年4月)	５日
							アフリカの歴史と社会		3･4後	2	1		
44 ①	兼担	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 ＜令和6年4月＞		修士 (言語教育情報学)		日本語教育入門		1前	2	1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	５日
							日本語語彙論		2後	2	1		
44 ②	兼担	准教授	キン シュ 金 珠 ＜令和8年4月＞		博士 (日本語・日本文化)		日本語教育入門		1前	2	1	大阪大学 日本語日本文化教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	５日
							日本語語彙論		2後	2	1		
							日本語教授法１		3前	2	1		
							日本語教授法２		3後	2	1		
							第二言語習得論		3前	2	1		
							日本語教育評価法		4後	2	1		
45	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 ＜令和6年4月＞		Ph.D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		多文化理解と言語（英語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	５日
							世界の文学１		1･2･3･4前	4	2		
							世界の文学２		1･2･3･4後	4	2		
							英米文学概論		2･3･4前	2	1		
							英米語概論４		2･3･4後	2	1		
46	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 ＜令和6年4月＞		博士 (英語学)		実践アカデミック英語１		1･2･3･4前･後	2	2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	５日
							実践アカデミック英語２		1･2･3･4後	1	1		
							アカデミック英語上級		1･2･3･4前･後	2	2		
							言語学概論１		3･4前	2	1		
							言語学概論２		3･4後	2	1		
							College English Grammar A		1･2･3･4前	1	1		
							College English Grammar B		1･2･3･4後	1	1		
							英語Ａ（Grammar）		1前	1	1		
							英語Ｂ（Grammar）		1後	1	1		
47	兼担	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
48	兼担	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		基礎からわかる近代史		1･2･3･4前･後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	―
49	兼担	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		キャリアプランニング		1･2･3前･後	4	2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	―
							基礎からわかる現代社会		1･2･3･4前･後	4	2		
							社会学		1･2･3･4前･後	4	2		
							哲学概論１		1･2･3･4前	4	2		
							哲学概論２		1･2･3･4後	4	2		
50	兼担	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる入門編		1･2･3･4休	1	1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	―
							ローカリーアクト天理 SDGs　森に生きる実践編		2･3･4休	1	1		
							データサイエンス・AI入門		1前･後	8	4		
							データサイエンス・AI応用		2･3･4前･後	4	2		
							データリテラシー		2･3･4前･後	4	2		
							数学と論理		1･2･3･4前･後	4	2		
							統計学１		1･2･3･4前	2	1		
							統計学２		1･2･3･4後	2	1		
51	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	―
							ニュースポーツ		2･3･4前	1	1		
52	兼担	准教授	ウメザキ サユリ 梅﨑 さゆり ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	―
							国際社会におけるスポーツの役割		1･2･3･4前	2	1		
							国際スポーツ協力論		2･3･4休	1	1		
							国際スポーツ交流実習		2･3･4休	1	1		
53	兼担	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	―
							国際社会におけるスポーツの役割		1･2･3･4後	2	1		
54	兼担	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	―
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	2	1		
							アウトドアスポーツ		1･2･3･4休	1	1		
55	兼担	准教授	オバタ オサム 小畑 治 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	―
							レクリエーショナルスポーツ		2･3･4前	1	1		
56	兼担	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 ＜令和6年4月＞		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	―
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		
							伝道実習１		1･2･3･4休	1	1		
							伝道実習２		1･2･3･4休	1	1		
							伝道実習３		2･3･4前	1	1		
							伝道実習４		2･3･4後	1	1		
57	兼担	講師	サワイ マコト 澤井 真 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	―
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		
							宗教と現代社会		1･2･3･4前･後	4	2		
58	兼担	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		教育原理		2･3･4前･後	8	4	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	―
							教育史		2･3･4前	2	1		
							学校教育社会学		2･3･4前･後	8	4		
							教育実習講義		3後	2	2		
							介護等体験		3休	1	1		
							教職実践演習（中・高）		4後	2	1		
							学校教育支援		2･3･4休	1	1		
							教育史特論		2･3･4後	2	1		
59	兼担	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		キャリアデザイン１		2･3･4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	―
							日本国憲法		1･2･3･4後	8	4		
							法学		1･2･3･4前	10	5		
							行政法１		1･2･3･4前	2	1		
							行政法２		1･2･3･4後	2	1		
60	兼担	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	6	3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	―
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	6	3		
61	兼担	講師	オノウエ タカユキ 尾上 貴行 ＜令和6年4月＞		Master of Arts (Communications) (オーストラリア)		英語Ａ（Oral Communication１）		1前	1	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	―
							英米語概論５		2･3･4前	2	1		
62	兼担	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	10	5	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	―
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	6	3		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
63	兼任	准教授	スティーブ ユゴビッチ Steve Jugovic ＜令和6年4月＞		Master of Applied Linguistics (オーストラリア)		英語Ａ（Oral Communication２） 英語Ａ（Integrated English）	1前 1前	1 1	1 1	天理大学 国際学部 特任准教授 （令和元年9月）	－
64	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		多文化理解と言語（中国語）	1･2･3･4前･後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 （平成23年8月）	－
65	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga ＜令和6年4月＞		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語（ロシア語）	1･2･3･4前･後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学部東洋学部 上級講師 （令和2年4月）	－
66	兼任	講師	モリタ ミノル 森田 実 ＜令和6年4月＞		学士 (法学)		観光地理学 観光業界論 ホスピタリティー観光研究１ ホスピタリティー観光研究２ 国内旅行実務 海外旅行実務	2･3･4前･後 2･3･4前･後 2･3･4前･後 2･3･4前･後 2･3･4前･後 2･3･4前･後	4 4 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2	天理大学 国際学部 特任准教授 （令和5年4月）	－
67	兼任	講師	イヌイ タクヤ 乾 拓也 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		社会言語学１ 社会言語学２ 英語Ａ（Grammar） 英語Ｂ（Grammar） 英語Ｃ（Writing） 英語Ｄ（Writing）	2･3･4前 2･3･4後 1前 1後 2前 2後	2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	－	－
68	兼任	講師	オオニシ ヨシノリ 大西 善徳 ＜令和6年4月＞		修士 (宗教学) (イギリス)		英語Ａ（Integrated English） 英語Ｂ（Integrated English） ガイド英語 通訳 翻訳	1前 1後 3･4前 3･4前 3･4後	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	天理教海外部 （昭和56年4月）	－
69	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴嶌 梓 ＜令和6年4月＞		博士 (英文学)		英語Ａ（Writing） 英語Ａ（Oral Communication１） 英語Ｂ（Writing） 英語Ｂ（Oral Communication １） 英語Ｃ（Reading） 英語Ｃ（Oral Communication １） 英語Ｄ（Reading） 英語Ｄ（Oral Communication １）	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	－	－
70	兼任	講師	タナカ ヨシノリ 田中 善紀 ＜令和6年4月＞		博士 (政策科学)		英語Ａ（Grammar） 英語Ｂ（Grammar） 英語Ｃ（Reading） 英語Ｄ（Reading）	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	－	－
71	兼任	講師	タバヤシ ヒロアキ 田林 宏章 ＜令和6年4月＞		宗教学修士		英語Ａ（Reading） 英語Ｂ（Reading）	1前 1後	1 1	1 1	－	－
72	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 ＜令和6年4月＞		博士 (宗教美術) (米国)		TOEFL Academic English 英語Ｃ（Oral Communication ２） 英語Ｄ（Oral Communication ２） 英語Ｅ（Writing）	1･2･3･4後 2前 2後 3前	1 1 1 1	1 1 1 1	－	－
73	兼任	講師	モリタ コウジ 森田 晃司 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		英語Ａ（Reading） 英語Ｂ（Reading） 英語Ｃ（Writing） 英語Ｄ（Writing）	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	－	－
74	兼任	講師	ヤスダ アキヒロ 安田 明洋 ＜令和8年4月＞		修士 (宗教学) (米国)		英語Ｅ（Integrated English）	3前	1	1	天理教海外部 （平成24年4月）	－
75	兼任	講師	ランディー ティモシー ムース Randy Timothy Muth ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		Japanese Culture and Society 英語Ｃ（Oral Communication ２） 英語Ｆ（Presentation） ビジネス英語 Content Based English ４	1･2･3･4前 2前 3後 2･3･4前 3･4後	2 1 1 1 2	1 1 1 1 1	畿央大学 教育学部教授 （平成22年4月）	－
76	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 ＜令和6年4月＞		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語１ 韓国・朝鮮語２	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 （令和４年3月まで）	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
77	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 ＜令和6年4月＞		文学修士		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）		1･2･3･4前･後	4	2	天理教教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	－
78	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		多文化理解と言語（ドイツ語）		1･2･3･4前･後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	－
79	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 ＜令和6年4月＞		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語１		1･2･3･4前･後	2	2	－	－
							教養アカデミック英語２		1･2･3･4前･後	2	2		
							実践アカデミック英語２		1･2･3･4前	1	1		
80	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 ＜令和6年4月＞		文学修士		中国語１		1･2･3･4前	1	1	－	－
							中国語２		1･2･3･4後	1	1		
81	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 ＜令和6年4月＞		文学士		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理教校 (平成18年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
82	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 ＜令和7年4月＞		文学士		天理教学１		2･3･4前	2	1	天理教校 (平成2年4月)	－
							天理教学２		2･3･4後	2	1		
83	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 ＜令和7年4月＞		教育学士		天理教学１		2･3･4前	2	1	－	－
							天理教学２		2･3･4後	2	1		
84	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 ＜令和7年4月＞		文学士		天理教学１		2･3･4前	2	1	－	－
							天理教学２		2･3･4後	2	1		
85	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理教海外部 (平成30年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
86	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理教校 (平成25年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
87	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 ＜令和6年4月＞		学士 (宗教学)		天理教概説１		1･2･3･4前	2	1	天理教校 (平成19年4月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	2	1		
88	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 ＜令和6年4月＞		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説１		1･2･3･4前	6	3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	－
							天理教概説２		1･2･3･4後	6	3		
89	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 ＜令和9年4月＞		修士 (文学)		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	－
90	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 ＜令和9年4月＞		文学士		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	－
91	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 ＜令和9年4月＞		学士 (教育学)		博物館実習２		4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	－
92	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 ＜令和6年4月＞		法務博士		民法１		1･2･3･4前	2	1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	－
							民法２		1･2･3･4後	2	1		
93	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 ＜令和6年4月＞		教育学修士 ※		地理学１		1･2･3･4前	4	2	－	－
							地理学２		1･2･3･4後	4	2		
94	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 ＜令和6年4月＞		修士 (商学) ※		経営学１		1･2･3･4前	4	2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	－
							経営学２		1･2･3･4後	4	2		
95	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		科学と現代		1･2･3･4前･後	8	4	－	－
96	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生活の中の科学		1･2･3･4前･後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
97	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 ＜令和6年4月＞		修士 (臨床心理学) ※		心理学１ 心理学２	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	－	－
98	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 ＜令和6年4月＞		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学	1･2･3･4後 1･2･3･4前	8 6	4 3	－	－
99	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 ＜令和6年4月＞		修士 (人間科学)		心理学１ 心理学２	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	－
100	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート作成 近現代の遺産と未来	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	8 8	4 4	－	－
101	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ科学)		障害学	1･2･3･4前	2	1	合同会社エクスビジョン代表 (令和3年3月)	－
102	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 ＜令和6年4月＞		博士 (グローバル社会研究)		基礎からわかるレポート作成 政治学	1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	－
103	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		日本手話Ａ 日本手話Ｂ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	6 2	3 1	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	－
104	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		基礎からわかるレポート作成	1･2･3･4後	2	1	－	－
105	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		基礎からわかる数学	1･2･3･4前･後	4	2	－	－
106	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		障害学	1･2･3･4後	2	1	奈良市子ども未来部児童相談所設置推進課 (令和3年4月)	－
107	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 ＜令和6年4月＞		学士 (文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1･2･3前 1･2･3･4前･後	2 6	1 3	－	－
108	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		地球環境論	1･2･3･4前･後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	－
109	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 ＜令和6年4月＞		博士 (経済学)		コンピュータ入門	1･2･3･4前･後	8	4	－	－
110	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 ＜令和6年4月＞		修士 (経済学)		経済学１ 経済学２	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	－	－
111	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 ＜令和7年4月＞		博士 (教育学)		臨床教育学特論	2･3･4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	－
112	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		人権と差別１ 人権と差別２ 人権教育論１ 人権教育論２	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2 2	1 1 1 1	－	－
113	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒の理解	1前･後	8	4	－	－
114	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		人権と差別１ 人権と差別２ 人権教育論１ 人権教育論２	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株) アジールフィリア 代表取締役 (平成27年9月)	－
115	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 ＜令和8年4月＞		教育学士		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前･後	18	9	－	－

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称		配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
116	兼任	講師	トミタ ミノル 冨田 稔 ＜令和6年4月＞		修士 (都市政策)		人権と差別１		1･2･3･4前	2	1	－	－
							人権と差別２		1･2･3･4後	2	1		
							教職実践演習（中・高）		4後	2	1		
							人権教育論１		2･3･4前	4	2		
							人権教育論２		2･3･4後	4	2		
117	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法		3･4前･後	8	4	(株) 山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	－
118	兼任	講師	イヌカイ マコト 犬飼 誠 ＜令和6年4月＞		文学士		矯正概論		1･2･3･4前	2	1	奈良少年院法務教官専門官 (令和3年4月)	－
							矯正保護教育（施設参観を含む）		3･4後	2	1		
119	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 髙橋 秀紀 ＜令和7年4月＞		文学士		矯正保護支援実践論	※	2･3･4後	0.8	1	－	－
120	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 ＜令和6年4月＞		学術修士 ※		更生保護概論		1･2･3･4前	2	1	－	－
121	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 ＜令和7年4月＞		学士 (法学)		犯罪被害者支援論		2･3･4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	－
122	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 ＜令和7年4月＞		体育学士		矯正保護支援実践論	※	2･3･4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学園副園長・児童養護施設長 (平成12年7月)	－
123	兼任	講師	サトウ　トシエ 佐藤 敏江 ＜令和7年4月＞		文学士		児童・YAサービス論		2･3･4前	4	2	－	－
124	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 ＜令和6年4月＞		体育学士		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	8	4	－	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	8	4		
125	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		健康スポーツ科学１		1･2･3･4前	4	2	－	－
							健康スポーツ科学２		1･2･3･4後	4	2		
							レクリエーショナルスポーツ		2･3･4前	1	1		
							ニュースポーツ		2･3･4前	1	1		

別記様式第３号（その３の１）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（国際学部英米語学科）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	－	－	－	1 人	1 人	1 人	－	3 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
准教授	博　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	修　士	－	－	1 人	1 人	1 人	－	－	3 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
講　師	博　士	－	－	1 人	－	－	－	－	1 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
助　教	博　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	修　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	学　士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	短期大学士	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
	その他	－	－	－	－	－	－	－	0 人	
合　計	博　士	0 人	0 人	1 人	1 人	1 人	1 人	0 人	4 人	
	修　士	0 人	0 人	1 人	1 人	1 人	0 人	0 人	3 人	
	学　士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	短期大学士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	その他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	